

# 教科書を作ろう

中等教育向け 初級日本語素材集

(改訂版)

せつめい編

 国際交流基金

The Japan Foundation

## はじめに

国際交流基金日本語国際センターでは、海外における日本語教育への支援の一つとして教材開発支援を行っています。その一環として、海外で日本語を勉強する中等教育段階の学習者向け教材を作成するときの参考となるように、1999年3月に『教科書を作ろう』を、2001年5月に『続 教科書を作ろう』を刊行しました。その後、多くの先生方にご使用いただきました。そして、ご使用いただいた先生方からの多くのご意見を受け、今回、『教科書を作ろう(改訂版)』の刊行に至りました。

わたしたちは『教科書を作ろう』を作るにあたって、世界中のさまざまな環境で日本語を教えている先生方が、今までの経験から得たアイデアをどんどん加えて、学習者に合った教材を作成するために利用していただきたいと考えていました。そして、教材を作るための素材集として『教科書を作ろう』を制作しました。その考えは、改訂にあたって変わっていません。

中等教育段階での日本語教育は、国・地域によって、その目的、学習時間、学習環境がさまざまです。みなさんの国の学習者に合った教科書や教材を作るには、翻訳が必要なところ、もっと詳しい説明が必要など、学習者が親しみやすいように語彙を替えた方がいいところなどがあるでしょう。『教科書を作ろう』を利用するみなさんとわたしたちの共同作業の結果として、生徒がページを開くのを楽しみにするような教科書や教材が多く、多くの国で開発されることを期待しています。

今回、大きく改訂した点は、『教科書を作ろう』『続 教科書を作ろう』の「せつめい編」をまとめて1冊にし、より使いやすくしたことです。「れんしゅう編」は今までと同様、2冊に分かれています。『教科書を作ろう』『れんしゅう編』を「れんしゅう編1」に、『続 教科書を作ろう』『れんしゅう編』を「れんしゅう編2」に改めました。また、「せつめい編」「れんしゅう編」とも使用漢字や学習項目の級別表示などを、平成14(2002)年度からの「日本語能力試験出題基準」の一部改訂に合わせてあります。

わたしたちは、今後も、みなさんが『教科書を作ろう(改訂版)』を利用して教材を作っていく過程で感じた疑問や問題は何か、また、どのような教材を作り、どのように利用したかなどを教えてくださいたいと考えています。みなさんからの報告をお待ちしています。

最後になりましたが、最初の『教科書を作ろう』の制作から、今回の改訂版に至るまで監修をひきうけていただきました聖心女子大学の佐久間勝彦教授には、さまざまな助言や励ましのことばをいただきました。ここに心からお礼申し上げます。

ねんはる  
2002年春

しつぷつしゃいちどう  
執筆者一同

# 目次

はじめに	iii
『教科書を作ろう』について	x
「せつめい編」について	xiv

## せつめい編 1

### 1 わたし

文-01	Nです	2
文-02	Nがすきです	4
助-01	と(並列)	5
助-02	に(時)	6
助-03	も	8
助-04	か(疑問)	10
語-01	時刻	12

### 2 教室

文-03	Vます	14
文-04	NはNにあります/います	16
文-05	NにNがあります/います	18
助-05	の	20
助-06	へ	22
助-07	に(場所)	23
語-02	これ/それ/あれ	24
語-03	この/その/あの	26
語-04	ここ/そこ/あそこ	28

### 3 外出

文-06	Aいです/ANです	30
文-07	Aい/ANなN	32
文-08	Nをください	34
文-09	Nがほしいです	36
助-08	を(対象)	38
助-09	で(基準/範囲)	40
助-10	よ/ね	42
語-05	数	44
語-06	助数詞	46

### 4 生活

文-10	あまり...否定	48
助-11	で(場所)	50

助-12	から / まで	52
助-13	や(並列)	54
語-07	時間	56
語-08	くらい / ごろ	58

## 5 休みの日

文-11	Vました	60
文-12	Aかったです / ANでした	62
文-13	Nでした	64
文-14	Vましょう	65
文-15	Vませんか	66
助-14	と(相手)	68
助-15	に(目的)	70
助-16	が(接続)	72

## 6 授業

文-16	Vてください	74
文-17	Vてもいいです	76
文-18	Aく / ANにVます	78
文-19	もう / まだ	80
活-01	Vて形	82
助-17	で(手段 / 材料)	84
助-18	に(基準)	86

## 7 旅行

文-20	Vたことがあります	88
文-21	VたりVたりします	90
文-22	疑問詞+か...肯定	92
文-23	疑問詞+も...否定	93
活-02	Vた形	94
助-19	を(起点)	96
助-20	を(経路)	97
助-21	に(帰着点)	98

## 8 高校生

文-24	Vています	100
文-25	Vこと	102
活-03	V辞書形	103
助-22	が(主語)	104
助-23	は	106
助-24	だけ	108

助-25	から(理由)	110
------	--------	-----

## 9 健康

文-26	Vこと / Nができます	112
文-27	NがA / ANです	114
文-28	NがA / AN + N	116
文-29	Vないてください	117
活-04	Vない形	118

## 10 友だち

文-30	Aくて / ANで / Nで	120
文-31	VてV	122
文-32	Vないで	124
文-33	Vてから	126
文-34	Vたいです	128
助-26	に(対象)	130

## 11 昔と今

文-35	まえに	132
文-36	あとで	134
文-37	V + N	136
文-38	とおもいます	138
文-39	Aく / ANに / Nになります	140
活-05	常体形	141

## 12 日本

文-40	とき	142
文-41	Vてあります	144
文-42	でしょう	146
文-43	しか...否定	148
文-44	Vながら	150
助-27	で(原因 / 理由)	152

13 ホームステイ

文-45	んです	154
文-46	Vたほうがいいです	156
文-47	Vてはいけません	158
文-48	Vてみます	160
文-49	Vかた	162
文-50	あげます	164
文-51	もらいます	166

14 学校生活

文-52	V(られ)ます(可能)	168
文-53	Vなければなりません	170
文-54	Vなくてもいいです	172
文-55	Vてしまいます	174
文-56	A / AN / Vすぎます	176
活-06	可能形	178
助-28	までに	180

15 わたしの町

文-57	たら	182
文-58	ても	186
文-59	Aく / ANに / Nにします	188
文-60	Vようにします	190
文-61	より...ほう	192
文-62	NとNとどちら	194

16 歴史と観光

文-63	NはNより	198
文-64	かどうか / 疑問詞...か	200
文-65	NというN	202
文-66	疑問詞 + でも...肯定	204
助-29	ので	206
助-30	と(引用)	208
語-09	こそあど	210

## 17 わたしの将来

文-67	V(よ)うとおもいます	212
文-68	かもしれません	214
文-69	の(名詞化)	216
文-70	ために	218
活-07	意向形	220

## 18 学校行事

文-71	そうです(様態)	222
文-72	Vておきます	224
文-73	Vこと/Nになります	226
文-74	Vこと/Nにします	228
助-31	と(条件)	230

## 19 コミュニケーション

文-75	V(ら)れます(受身)	232
文-76	Vてもらいます	234
文-77	Vてくれます	236
文-78	そうです(伝聞)	238
活-08	受身形	240
助-32	のに	242

## 20 現在と未来

文-79	Vようになります	244
文-80	みたいです/ようです	246
文-81	Vてきます/Vていきます	250
文-82	Vやすいです	252
文-83	Vにくいです	254

## 巻末

1.	人称	258
2.	指示詞	259
3.	動詞の活用	260
4.	形容詞の活用	266
5.	助数詞	268
6.	時の長さの数え方	269
7.	日付と曜日	270
8.	家族名称	271
9.	疑問詞のまとめ	272

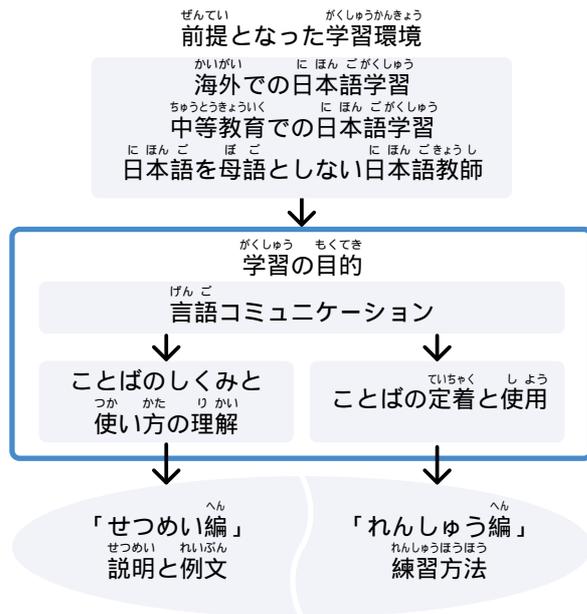
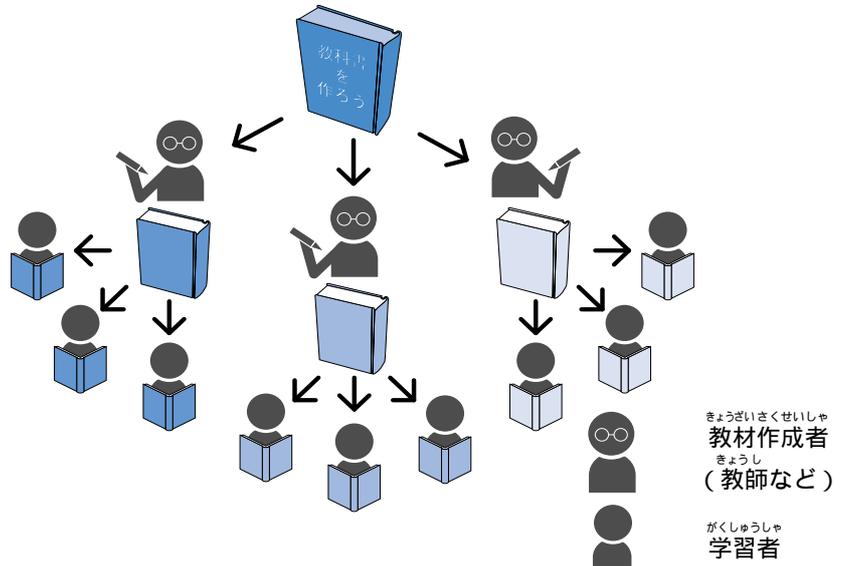
10. 助詞のまとめ	273
11. 授受表現	276
12. 意志動詞と無意志動詞	278
13. 自動詞と他動詞	280
14. ブロック別項目	282
15. 「れんしゅう編」との対応表	288
16. 参考文献	293

# 『教科書を作ろう』について

『教科書を作ろう』は、教科書や教材を作るための素材集で、このような素材集の制作は、新しい試みです。これを手にとったみなさんにこの『教科書を作ろう』を有効に活用していただくために「教科書・教材作成用の素材集とは何なのか」「どのように使うことができるのか」を説明しましょう。

## 1. 『教科書を作ろう』とは

『教科書を作ろう』は、教材作成者が海外で日本語を勉強する中等教育段階の学習者用の教科書・教材を作るときに参考となるように日本語の説明、例文、練習をまとめたものです。学習者用の教科書・教材にするには、教材作成者が、その目的、カリキュラム、教師および学習者の状況などに応じて加工することが必要です。



『教科書を作ろう』には、「せつめい編」と「れんしゅう編」があります。2編の制作にあたっては、日本語を勉強する学習者の学習環境と学習目的を左の図のように考えました。「せつめい編」には、ことばのしくみと使い方の理解のための説明と例文をまとめました。「れんしゅう編」には、ことばの定着と使用を目的とした練習方法をまとめました。

また、執筆にあたっては、以下のことに配慮しました。

- ・ 海外の学習者間での日本語によるコミュニケーションを意識する
- ・ 外国人の教材作成者や教材使用者を意識する
- ・ 日本語について知ることと日本語を使うことの両方に対応できるようにする
- ・ 段階的な学習を示す
- ・ 図やイラストなどの視覚的な素材の活用の可能性を示す

きょうかしょ つく かいていばん がいよう  
 < 『教科書を作ろう (改訂版)』 の概要 >

たいしやう しやうしや 対象とした使用者	にほん ごきやうざいさくせいしや ちゆうとうきやういくだんかい ちゆうがく こうこう にほん ごきやうし 日本語教材作成者、中等教育段階 ( 中学・高校 ) の日本語教師
たいしやう がくしゅうしや 対象とした学習者	ちゆうとうきやういくだんかい がくしゅうしや 中等教育段階の学習者
がくしゅうだんかい 学習段階	しよきやう にほん ごのうりよくしけん きやうそうとう 初級 ( 日本語能力試験 3 級相当 )
うちわけ 内訳	「せつめい編」 せつめい編 1 : 日本語能力試験 4 級及び 3 級の一部の文法・文型 84 項目の説明と例文 せつめい編 2 : 日本語能力試験 3 級相当の文法・文型 48 項目の説明と例文 「れんしゅう編」 れんしゅう編 1 : 「せつめい編 1」に対応する 100 の練習 ( 音声テープ付き ) れんしゅう編 2 : 「せつめい編 2」に対応する 61 の練習 ( 音声テープ付き )

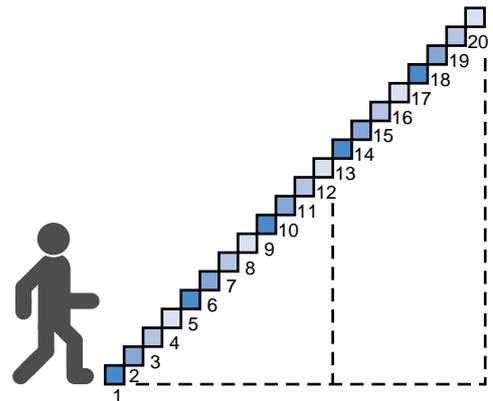
きやうざいこうせい  
 2. 教材構成のモデルとしての『教科書を作ろう』

『教科書を作ろう』は、素材集を提供すると同時に教材構成のモデルを示すことを目的としています。私たちは、教科書・教材を作るときには段階的な学習、学習の目標設定、また、学習者の達成感を考慮することが大切だと考えています。『教科書を作ろう』は、この考え方を具体的に示す教材モデルの一つとして、以下のような構成をとりました。この構成は、「せつめい編」「れんしゅう編」に共通しています。

(1) ブロックについて

ブロックは、学習内容のまとまりで、全体で、20 ブロックあります。

そして、ブロック番号は「1 2 3 ... 20」と学習を積み上げていく順番と段階を示しています。「せつめい編 1」「れんしゅう編 1」は 1 ~ 12 ブロック、「せつめい編 2」「れんしゅう編 2」は 13 ~ 20 ブロックで構成されています。



「せつめい編 1」「れんしゅう編 1」



「せつめい編 2」「れんしゅう編 2」

(2) 「話題」について

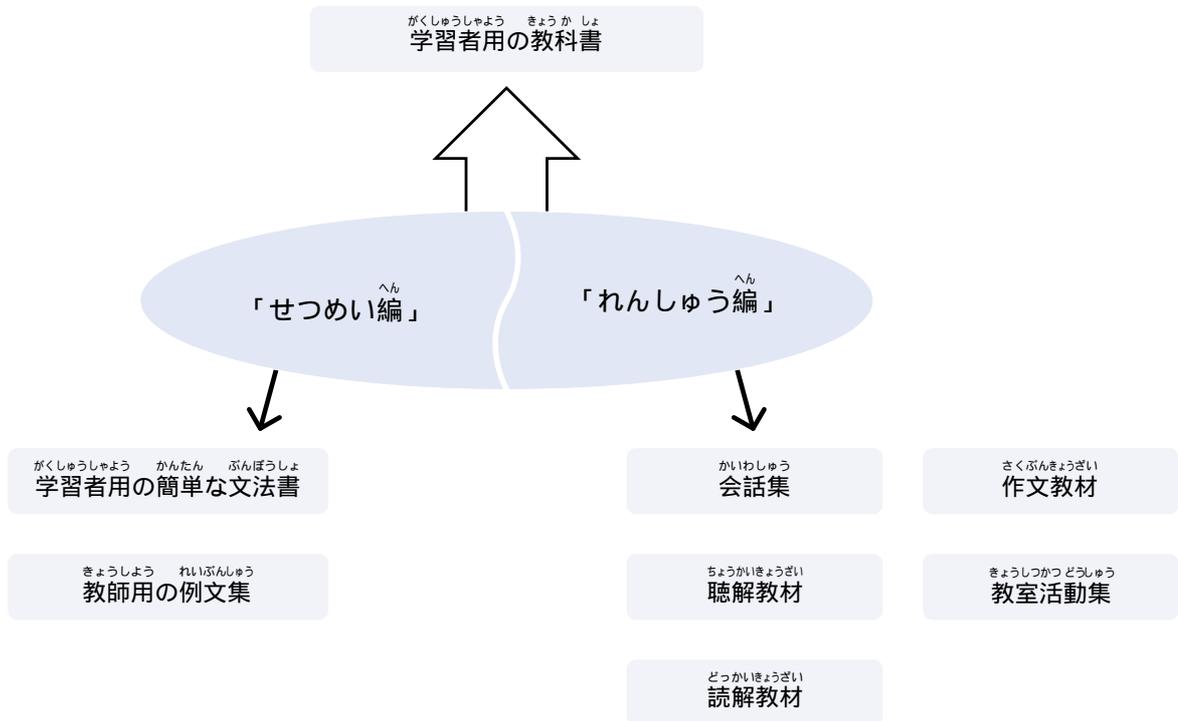
海外の学習者の生活を考えた、学習者に身近な「話題」が各ブロックに当てはめられています。「話題」は、「うち 学校 まち 私の国と日本」という学習者に身近なものから少しずつ遠くへ向かう空間的な広がりによって、各ブロックに当てはめられています。この「うち 学校 まち 私の国と日本」は、1～12ブロックで3回、13～20ブロックで2回、全部で5回繰り返されています。また、四つのブロックごとに一まとまりとなり、全部で五つの学習段階を示しています。

(3) 学習項目の配列

「せつめい編」の132項目は、その難易度と、「話題」に関連した言語活動に配慮して、20のブロックに分けられています。

3. 『教科書を作ろう』の利用について

『教科書を作ろう』からは、学習者用の教科書以外にもいろいろな教材を作ることができます。『教科書を作ろう』を使ってできる教材例を紹介しましょう。また、そのほかにも日本語教師研修用教材の作成にも利用できます。



ほかに、日本語教師研修用教材の作成にも利用できます。さまざまな教材開発に利用してください。

さいご 最後さいごに、みなさんが『教科書きょうかしょを作ろうつく』を使つかって教科書きょうかしょ、教材きょうざいを作成さくせいする場合ばあい、著作権ちよさくけんの許諾きょだくを国際交流基金こくさいこうりゅうききん日本語国際センターにほんごこくさいから得える必要ひつようはありませんが、作成さくせいした場合は、以下いかにのことをお願いねがします。

- ① 完成かんせいしたものを3部ぶ、国際交流基金日本語国際センター制作事業課こくさいこうりゅうききん にほんごこくさい せいさくじぎょうかまで送おくってください。

国際交流基金日本語国際センター制作事業課  
住所：〒336-0002 埼玉県さいたま市北浦和5-6-36  
電話：048-834-1183  
FAX：048-831-7846  
ホームページ：<http://www.jpjf.go.jp/j/urawa/index.html>

- ② 完成かんせいしたものには、この『教科書きょうかしょを作ろうつく』を使つかったことかを書いてください。
- 例1) この本ほんは、国際交流基金日本語国際センターこくさいこうりゅうききん にほんごこくさいが作つくった『教科書きょうかしょを作ろうつく』を一部いちぶ翻訳ほんやくして作つくりました。
- 例2) この本ほんは、国際交流基金日本語国際センターこくさいこうりゅうききん にほんごこくさいが作つくった『教科書きょうかしょを作ろうつく』から一部いちぶを転載てんさいして作つくりました。

# 「<sup>へん</sup>せつめい編」について

## 1. 「<sup>へん</sup>せつめい編」とは

「<sup>へん</sup>せつめい編」は、『<sup>きょうかしょ</sup>教科書を作ろう』で扱われている132の項目を理解するのに必要な情報として、<sup>ぶんぼうてきせつめい</sup>ぶんぼうてきせつめい、<sup>つか</sup>つか、<sup>かた</sup>かた、<sup>せつめい</sup>せつめい、<sup>れいぶん</sup>れいぶん、<sup>ていきょう</sup>ていきょう、<sup>きょうか</sup>きょうか、<sup>しよ</sup>しよ、<sup>きょうざい</sup>きょうざい、<sup>つく</sup>つく、<sup>そざい</sup>そざい、<sup>つか</sup>つか、<sup>かんが</sup>かんが、<sup>い</sup>い、<sup>か</sup>か、<sup>くふう</sup>くふうがされています。

### みつ せつめい 三つの説明

<sup>こうもく</sup>こうもく、<sup>せつめい</sup>せつめい、<sup>きほん</sup>きほん、<sup>はってん</sup>はってん、<sup>せんせい</sup>せんせい、<sup>だんがい</sup>だんがい、<sup>わ</sup>わ  
項目の説明は、「基本」、「発展」と「先生へ」の3段階に分かれています。

「基本」と「発展」に書かれていることは、<sup>がくしゅうしゃ</sup>学習者が知識として知り、理解する必要がある内容で、<sup>かしょ</sup>教科書や教材に載ることを前提としています。「発展」は「基本」より後の段階で学習することが望ましい内容です。学習の段階を「基本」と「発展」に分ける必要がないと考える学習項目には「発展」はありません。

「先生へ」にある説明は、「基本」「発展」より更に詳しい説明です。必ずしも教科書や教材に載せる必要はないと考えるものですが、<sup>がくしゅうしゃ</sup>学習者や学習目的、<sup>とうたつもくひょう</sup>到達目標などに応じて教材作成者が学習内容とするかどうか判断してほしいと思います。

### がくしゅうしゃ ふ たん へ 学習者の負担を減らす

<sup>と</sup>と、<sup>あ</sup>あ、<sup>こうもく</sup>こうもく、<sup>こうぞう</sup>こうぞう、<sup>つか</sup>つか、<sup>かた</sup>かた、<sup>せつめい</sup>せつめい、<sup>れいぶん</sup>れいぶん、<sup>かいがい</sup>かいがい、<sup>べんきょう</sup>べんきょう、<sup>しよきゅう</sup>しよきゅう、<sup>だんがい</sup>だんがい、<sup>がくしゅうしゃ</sup>がくしゅうしゃ、<sup>ふ たん</sup>ふ たん  
取り上げた項目の構造や使い方の説明と例文は、海外で勉強する初級段階の学習者の負担にならないように配慮しました。説明の内容は、初級の学習段階で「せつめい編」の項目を使ってコミュニケーションをするのに最低限必要だと考えるものだけに絞りました。さらに、文章による説明だけでなく、<sup>ず</sup>ず、<sup>ひょう</sup>ひょう、<sup>かつよう</sup>かつよう、<sup>れいぶん</sup>れいぶん、<sup>かく</sup>かく、<sup>わだい</sup>わだい、<sup>ちゅうとうきょういくだんがい</sup>ちゅうとうきょういくだんがい、<sup>がくしゅうしゃ</sup>がくしゅうしゃ  
図やイラスト、表も活用しています。また、例文は、各ブロックの話題にそった、中等教育段階の学習者に身近な語彙で作られています。人の名前、地名、固有名詞などを、国・地域に合わせて差し替えると更に学習者の理解の助けになるでしょう。

### よつ 四つのグループ

<sup>こうもく</sup>こうもく、<sup>ぶんけい</sup>ぶんけい、<sup>かつようけい</sup>かつようけい、<sup>じよし</sup>じよし、<sup>ごい</sup>ごい、<sup>よつ</sup>よつ、<sup>わ</sup>わ、<sup>こうもく</sup>こうもく、<sup>あつか</sup>あつか  
項目は、文型、活用形、助詞、語彙の四つのグループに分けられ、どの項目がどのグループとして扱われているかがわかるようになっています。そして、グループ別に番号をつけ、必要な項目が探しやすいように工夫されています。

### じゅうなん ていしゅつじゅんじょ 柔軟な提出順序

<sup>ない</sup>ない、<sup>こうもく</sup>こうもく、<sup>がくしゅう</sup>がくしゅう、<sup>さい</sup>さい、<sup>とくてい</sup>とくてい、<sup>じゅんじょ</sup>じゅんじょ、<sup>そうてい</sup>そうてい、<sup>こうもく</sup>こうもく、<sup>かいせつ</sup>かいせつ、<sup>じゅんじょ</sup>じゅんじょ  
ブロック内の項目は学習する際の特定の順序を想定していません。また、項目の解説は、どの順序で学習してもいいように書かれています。

「せつめい編」は、『教科書を作ろう』のブロック構成にそって書かれています。教材作成者のみなさんが、別の構成で教材を作成するときには、その構成、項目の提出順、話題に応じて説明や例文などに必要な書き換えをしてお使いください。

## 2. 「せつめい編」の見方

### (1) 全体

項目番号、分類と分類ごとの提出順を示す。分類は以下の通り。

- 文：文型
- 活：活用形
- 助：助詞
- 語：語彙

項目の名前。同形の助詞を区別するために、「(場所)」のように「( )」の中に補足説明を示す。使われている記号については「(3)使われている記号」p.xviiを参照。

#### 助-07 に(場所)

N1	は	N2 [場所]	に	あります
----	---	------------	---	------

N2: N1の存在する場所

#### 文-11 Vました

N	は	Vました
		Vませんでした

	肯定形	否定形
非過去	Vます	Vません
過去	Vました	Vませんでした

#### 基本

##### 例文

- ①きのうわたしは映画を見ました。
- ②A: 目録頁に荷をしましたか。  
B: 部屋の掃除をしました。
- ③A: きのうの夜、日本語の勉強をしましたが。  
B: いいえ、しませんでした。
- ④A: 試験は終わりましたか。  
B: はい、終わりました。
- ⑤A: ドアを開めましたか。  
B: はい、開めました。

##### 解説

- A. 「Vました」は文末に来る。(例文①②③④⑤)
- B. 過去の行為を表わす。(例文①②③)
- C. 動作の完了を表わす。(例文④⑤)
- D. Nが何であるかわかっている場合は、「N」は省略することがある。(例文②③④⑤)

#### 発展

##### 例文

- ⑥ 夏休みに田中さんは長野へ行きましたが、本村さんは沖縄へ行きました。
- ⑦ 寝れましたから、きょうは早く寝ます。
- ⑧ 昔、学校の門のそばに大きい木がありました。
- ⑨ 子供のとき、うちに犬がいました。
- ⑩ ここにおじいさんとおばあさんが住んでいます。

##### 解説

- E. 「Vました」は、補文では文中に来ることがある。(例文⑥⑦)
- F. 過去の状態を表わす。(例文⑧⑨⑩)

##### 先生へ

「ました」は丁寧さを表わす。「もう」といっしょに使って動作の完了を示すことが多いので、「もう/まだ」を教える前に教えた方がよい。  
例 A: もう寝ごはんを食べてましたか。  
B: いいえ、まだです。

【関連項目】	【「れんしゅう編」の練習】
文-03 Vます	5-2 テレビを見ましたか
文-13 Nでした	5-4 おいしかったですよ
文-12 Aかったです/ANでした	5-5 休みのこと
	5-6 手紙

項目の構造。「例文」と「解説」の理解の助けとなるように構造を示す。活用を表で示す場合もある。構造図の見方は「(2)構造図」p.xviを参照。

項目の構造、概念、使い方についての説明。説明に相当する例文を「(例文①②)」のように例文の番号で示す。

項目についての先生向けの補足説明と指導上のアドバイス。

は補足説明  
は指導上のアドバイス

形や概念、使い方が関連している「せつめい編」のほかの項目。関連性の高い順に配列。グレー字は、「せつめい編1」なら同編2の項目で、「せつめい編2」なら同編1の項目であることを示す。

項目を使った例文。「解説」で説明されている内容に相当する例文を示す。「A」「B」は会話の話し手。( )内に場面についての説明を示す場合がある。文中の「」「××」などは固有名詞の代わり。

項目が扱われている「れんしゅう編」の練習。は「せつめい編」の項目に焦点が当てられた練習、または重要な練習を示す。

こうぞうず  
(2) 構造図

ぶんけい きほんけい しめ ぶん しゅご もくてきご なん ばあい  
文型の基本形を示しています。文の主語、目的語などで、それが何であるかわかっている場合は、  
いちぶ しょうりやく しょうりゃくれい れいぶん しめ  
一部が省略されることがあります。その省略例は、例文で示してあります。

「**[ ]**」は複数の文節をひとまとめにして扱うもの。点線  
わくない くぎ おな てんせん つか  
枠内の区切りには同じく点線を使う。

おな かこ なか たて なら ご  
同じ囲みの中の縦に並んでいる語は、そのうちのどれ  
ひと はい はい あらわ  
か一つが入ることを表す。

「**---**」の区切りは語と語の結びつ  
くぎ ご ご むす  
き強いもので、ほかの語を間にはさ  
つよ ご あいだ  
むことができないもの。ただし、一部  
いちぶ  
に項目の構造上のわかりやすさを優先  
こうもく こうぞうじょう ゆうせん  
させて、点線を省いたところもある。  
てんせん はぶ



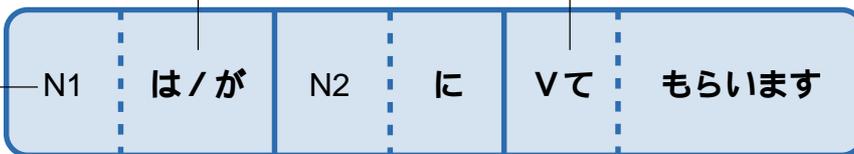
N2 / A / AN / V + たら : 常体形過去 + ら

「**—**」の区切りは、語と語の結びつ  
くぎ ご ご むす  
き弱いもので、間にほかの語をはさ  
よわ あいだ  
むことができるもの。

「**/**」は、前後どちらかの語が入る可能性があることを示す。

「**て形**」「**た形**」は「**Vて**」「**Vた**」のように示す。

かつようけい きごう  
活用形など、記号についてのより  
くわ せつめい  
詳しい説明。



N1 : Vの行為の受け手

N2 : Vの動作主

おな きごう ふくすう ばあい ばんごう くべつ  
同じ記号が複数ある場合は、「N1」のように番号をつけて区別する。

数 + 助数詞

「**+**」は複数の語でも1語のように扱うことを示す。

(3) <sup>つか</sup>使われている<sup>きごう</sup>記号

N : <sup>めいし</sup>名詞

A : <sup>けいようし</sup>イ形容詞

AN : <sup>けいようし</sup>ナ形容詞

V : <sup>どうし</sup>動詞

S : 「N1 が (は) N2 / A / AN / V」

# せつめい編 1

# 文-01

# Nです

N1	は	N2	です
			ではありません

	こうていけい 肯定形	ひていけい 否定形
ひかこ 非過去	Nです	Nではありません

## 基 本

### 例 文

- ① わたしは<sup>こうこうせい</sup>高校生です。
- ② わたしは<sup>だいがくせい</sup>大学生ではありません。
- ③ わたしは<sup>なかやま</sup>中山です。
- ④ <sup>なかやま</sup>中山さんは<sup>にほんじん</sup>日本人です。
- ⑤ まりさんは<sup>さい</sup>18歳です。
- ⑥ A: <sup>きむら</sup>木村さんは<sup>こうこうせい</sup>高校生ですか。  
B: はい、<sup>こうこうせい</sup>高校生です。
- ⑦ A: <sup>こうこう</sup>高校<sup>ねんせい</sup>2年生ですか。  
B: はい、そうです。
- ⑧ A: <sup>きむら</sup>木村さんですか。  
B: いいえ、<sup>きむら</sup>木村ではありません。
- ⑨ A: <sup>きむら</sup>木村さんですか。  
B: いいえ、ちがいます。
- ⑩ A: <sup>きむら</sup>木村さんですか。  
B: いいえ、<sup>たなか</sup>田中です。

### 解 説

- A. 「Nです」は<sup>こうていけい</sup>肯定形、「Nではありません」は<sup>ひていけい</sup>否定形、「Nですか」は<sup>ぎもんけい</sup>疑問形。(例文①②⑥)
- B. 「N1はN2です」で<sup>なまえ</sup>N1の名前や<sup>がくねん</sup>学年、<sup>こくせき</sup>国籍、<sup>ねんれい</sup>年齢について述べることができる。(例文③④⑤)
- C. 「N1はN2ですか」の<sup>しつもん</sup>質問に対する<sup>たい</sup>答えは、<sup>こと</sup>一通りではない。(例文⑥⑦⑧⑨⑩)
- D. N1が<sup>なん</sup>何であるかわかっている場合は、「N1は」を<sup>しょうりやく</sup>省略することがある。(例文⑥⑦⑧⑨⑩)
- E. 「N1は」と「ではありません」の「は」は<sup>はつおん</sup>「ワ」と発音する。

例 文

⑪ A: 木村きむらです。

B: 木村きむらさんですか。

A: はい、そうです。

⑫ A: 食堂しょくどうはどこにありますか。

B: あそこです。

⑬ A: けさ何なにを食たべましたか。

B: パンとくだものです。

⑭ A: 何時なんじまでアルバイトをしますか。

B: 午後4時ごごまでです。

解 説

F. 「Nですか」で相手の言ったことを一部繰り返して聞き、確認することができる。(例文⑪)

G. 質問に対する答えが「NをVます」「NにVます」「NへVます」「NでVます」などになり、Nが求められる答えのとき、「Nです」のように答えることができる。(例文⑫⑬⑭)

先生へ

「は」は助詞じょし。

N1は主題しゅだい、「N2です」はN1についての説明せつめい。

話しことばでは、「Nではありません」が「Nじゃありません」になることが多い。

「Nです」「Nではありません」は丁寧な表現ていねい ひょうげん。

【関連項目】

文-13 Nでした

文-06 Aいです / ANです

文-03 Vます

【「れんしゅう編」の練習】

1-4 1時ですか

1-5 すきなものクイズ

1-6 自己紹介

N1	は	N2	が	好き	です
					ではありません

N2: すき・きれいなもの

## 基 本

### 例 文

- ① わたしは音楽おんがくが好きです。
- ② わたしはスポーツが好きではありません。
- ③ A: 田中たなかさんはテニスたennisが好きですか。  
B: はい、好きです。
- ④ A: 水泳すいえいが好きですか。  
B: いいえ、好きではありません。
- ⑤ A: 何なにが好きですか。  
B: りんごりんごが好きです。
- ⑥ A: どの科目か もくが好きですか。  
B: 数学すうがくが好きです。

### 解 説

- A. N1が感じる好ききれいについて述べるときに使う。(例文①～⑥)
- B. N1、N2が何であるかわかっている場合は、「N1は」「N2が」を省略することがある。  
(例文③④⑤⑥)

### 先生へ

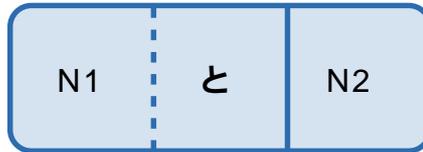
「好き」はナ形容詞。  
話しことばの中では、「好きではありません」が「好きじゃありません」になることが多い。  
「何が好きですか」のほかに「好きなNは何ですか」という好ききれいのたずね方もある。

#### 【関連項目】

文-27 NがA / ANです  
助-23 は  
文-06 Aいです / ANです

#### 【「れんしゅう編」の練習】

1-3 すきな数字  
1-5 すきなもののクイズ  
1-6 自己紹介



## 基 本

## 例 文

- ① まりさんとけんじさんはこうこう ねんせい高校2年生です。
- ② わたしはえい が おんがく映画と音楽がすきです。
- ③ 机の上につくえ うえ ほん本とノートがあります。
- ④ 月曜日と水曜日と金曜日にげつようび すいようび きんようび れんしゅうサッカーの練習があります。

## 解 説

A. 複数の名詞をつなぐ。(例文①②③④)

B. 「と」でつながれた名詞は、文の中で一つの名詞のように使える。(例文①②③④)

## 先生へ

「と」はじょし助詞。

文と文をつなぐときは、「そして」または「Vて形」などを使う。

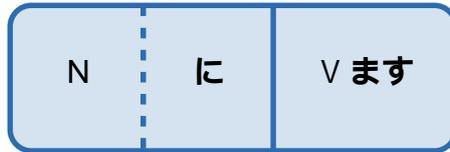
## 【関連項目】

- 助-13 や(並列)  
助-14 と(相手)

## 【「れんしゅう編」の練習】

- 1-3 すきな数字  
1-5 すきなもののクイズ  
1-6 自己紹介

# 助 - 02 に(時)



N: じこく時刻、とき時

## 基 本

### 例 文

- ① わたしは じはん7時半おに起きます。
- ② じ11時ねに寝ます。
- ③ A: なんじ何時おに起きますか。  
B: じ7時おに起きます。
- ④ にちようび日曜日おにテニスをします。

### 解 説

- A. 「に」は、Nが動作どうさが起きる時おであることを示す。(例文①②③④)
- B. 時ときを表すNには、時刻じこく、曜日ようび、日付ひづけなどがある。(例文①②③④)

## 発 展

### 例 文

- ⑤ がつ6月にち15日にサッカーしあいの試合がありました。
- ⑥ A: いつテニスをしますか。  
B: あしたテニスをします。
- ⑦ A: どようび土曜日なに、何をしましたか。  
B: えいが映画みを見ました。
- ⑧ わたしは なつやす夏休みりょこうに旅行しました。
- ⑨ たんじようびけんじさんの誕生日おにパーティーをします。

- C. 「に」は、Nができごとが起きる時であることを示す。(例文⑤)
- D. 「に」をつけて時を表すことばには、夏休み、誕生日などもある。(例文⑧⑨)
- E. 「今」「きのう」「きょう」「あした」などと疑問詞「いつ」の後には、「に」をつけられない。  
(例文⑥)
- F. 曜日の後には、「に」をつけないこともある。(例文⑦)

### 先生へ

「に」は助詞。

#### 【関連項目】

- 助-07 に(場所)
- 助-15 に(目的)
- 助-18 に(基準)
- 助-21 に(帰着点)
- 助-26 に(対象)

#### 【「れんしゅう編」の練習】

- 1-7 何時に起きますか

# 助 - 03 も

N1	も	N2 です A いです AN です V ます
----	---	---------------------------------

## 基 本

### 例 文

- ① わたしは<sup>ねんせい</sup>3年生です。田中<sup>た なか</sup>さんも<sup>ねんせい</sup>3年生です。
- ② わたしはパンがすきです。ごはんもすきです。

### 解 説

- A. 「も」は、N1のほかに<sup>どうよう</sup>同様のものがあることを示す。(例文①②)
- B. 「Nは」「Nが」は、「Nも」に置き換わる。(例文①②)

## 発 展

### 例 文

- ③ <sup>にちようび</sup>日曜日にせんたくをします。そうじも  
します。
- ④ <sup>しんぶん</sup>新聞は<sup>としょかん</sup>ロビーにあります。図書館にも  
あります。
- ⑤ <sup>じ とけい</sup>6時に時計のベルがなります。6時5分  
にもベルがなります。
- ⑥ <sup>なつやす</sup>夏休みに<sup>ほっかいどう</sup>北海道へ行きました。<sup>おきなわ</sup>沖縄へも  
行きました。
- ⑦ <sup>まいしゅう</sup>毎週<sup>た なか</sup>田中さんとテニスをします。ときど  
<sup>きむら</sup>き木村さんともします。
- ⑧ <sup>なかやま</sup>中山さんから<sup>てがみ</sup>手紙が<sup>き</sup>来ました。<sup>た なか</sup>田中さん  
からも<sup>き</sup>来ました。

C. 「Nを」は、「Nも」に置き換わる。(例文③)

D. 「も」は、「に」「へ」「で」「と」「から」「まで」の後に付けることができる。(例文④⑤⑥⑦⑧)

### 先生へ

「も」は助詞。

「も」の前提になる情報がその前に示されることもあれば、常識や文化で共有されていて示されないこともある。

例 コンピュータゲームは大人にも人気があります。

#### 【関連項目】

助-23 は

#### 【「れんしゅう編」の練習】

1-6 自己紹介

# 助 - 04 か(疑問)

N です	か
A いです	
AN です	
V ます	

## 基 本

### 例 文

① A: 中山<sup>なかやま</sup>さんは大学生<sup>だいがくせい</sup>ですか。

B: はい、大学生<sup>だいがくせい</sup>です。

② A: くだものが好き<sup>すき</sup>ですか。

B: いいえ、好き<sup>すき</sup>ではありません。

③ A: 勉強<sup>べんきょう</sup>はおもしろい<sup>おもしろい</sup>ですか。

B: はい、おもしろい<sup>おもしろい</sup>です。

④ A: 何時<sup>なんじ</sup>に起き<sup>お</sup>ますか。

B: 8時<sup>じ</sup>に起き<sup>お</sup>ます。

### 解 説

A. 文<sup>ぶん</sup>の終わり<sup>お</sup>につき、疑問文<sup>ぎもんぶん</sup>をつく。(例文①②③④)

### 先生へ

「か」は助詞<sup>じょし</sup>。

疑問文<sup>ぎもんぶん</sup>のイントネーション<sup>じょうしやうちやう</sup>は上昇調<sup>じやうしやうちやう</sup>になる。

#### 【関連項目】

助-10 よ / ね

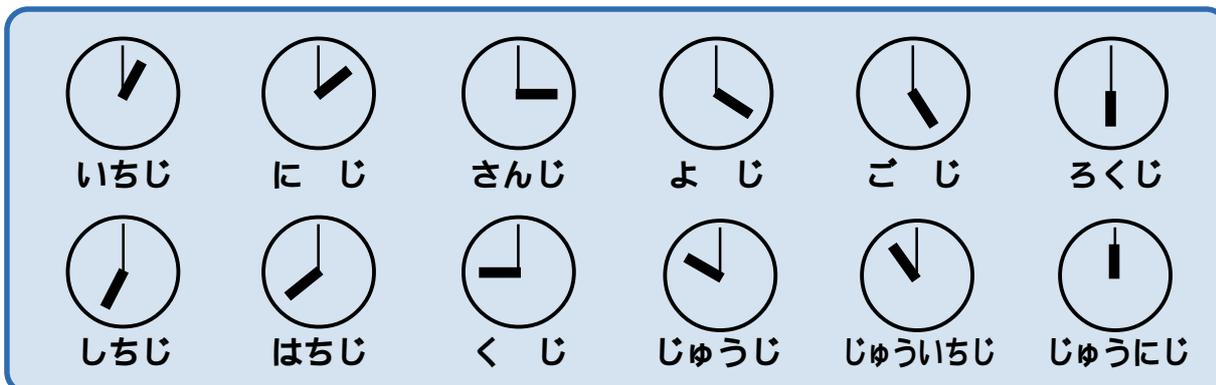
#### 【「れんしゅう編」の練習】

1-4 1時<sup>じ</sup>ですか

1-5 すきなものクイズ

1-7 何時<sup>なんじ</sup>に起き<sup>お</sup>ますか





## 基 本

### 例 文

- ① <sup>いま</sup>今、<sup>じ</sup>5時です。
- ② A: <sup>いま</sup>今、<sup>なんじ</sup>何時ですか。  
B: <sup>じ</sup>4時 <sup>さんじゅうぶん</sup>30分です。
- ③ A: <sup>なんじ</sup>何時に <sup>お</sup>起きますか。  
B: <sup>じ</sup>7時に <sup>お</sup>起きます。
- ④ A: <sup>なんじ</sup>何時に <sup>ね</sup>寝ますか。  
B: <sup>じはん</sup>10時半に <sup>ね</sup>寝ます。

### 解 説

- A. 「<sup>すうじ</sup>数字 + <sup>じ</sup>時」で時刻を表す。(例文①③)
- B. 「<sup>い</sup>:30」の言い方は、「<sup>さんじ</sup>さんじ <sup>じゅうぶん</sup>じゅうぶん」と「<sup>じはん</sup>じはん」がある。(例文②④)
- C. 時刻をたずねるときは、「<sup>なんじ</sup>何時」を使う。(例文②③④)

解 説

D. 「<sup>ぶん</sup>分」の<sup>い かた</sup>言い方。

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
いっぶん	にぶん	さんぶん	よんぶん	ごぶん	ろっぶん	ななぶん	はっぶん	きゅうぶん	じゅうぶん
11	12	20	30	40	50				
じゅういっぶん	じゅうにぶん	にじゅうぶん	さんじゅうぶん	よんじゅうぶん	ごじゅうぶん				

E. 時刻を言うときには、「<sup>じ</sup>時」の<sup>あと</sup>後に「<sup>ぶん</sup>分」をつ<sup>い</sup>けて言う。

例 <sup>じ</sup> 10時 <sup>ぶん</sup> 15分  
<sup>じ</sup> 7時 <sup>ぶん</sup> 31分

先生へ

「4:00」「7:00」「9:00」の<sup>い かた</sup>言い方に<sup>ちゅうい</sup>注意すること。

【関連項目】

- 語-05 数
- 語-07 時間

【「れんしゅう編」の練習】

- 1-2 数字
- 1-4 1時ですか
- 1-7 何時に起きますか

N	は	Vます Vません
---	---	-------------

	こうていけい 肯定形	ひていけい 否定形
ひかこ 非過去	Vます	Vません

## 基 本

### 例 文

- ① 毎朝、わたしは7時に起きます。  
まいあさ わたし は しち じ お
- ② 毎日、学校へ行きます。  
まいにち がっこう い
- ③ テレビはピアノのそばにあります。  
テレビ は ピアノ の そば に あり ます。
- ④ A: 田中さんは教室にいますか。  
たなか さん は きょうしつ に いま す か。  
 B: いいえ、いません。

### 解 説

- A. 「Vます」は肯定形、「Vません」は否定形、「Vますか」は疑問形。(例文①④)  
こうていけい ひていけい ぎもんけい
- B. 現在の習慣的な行為を表す。(例文①②)  
げんざい しゅうかんでき こう い あらわ
- C. 現在の状態を表す。(例文③④)  
げんざい じょうたい あらわ
- D. Nが何であるかわかっている場合は、「Nは」を省略することがある。(例文②)  
なん ば あい しょうりゃく

例 文

⑤ わたしはあした<sup>とも</sup>友だちのうちへ  
いきません。

⑥ A: 来週<sup>らいしゅう</sup>の月曜日<sup>げつようび</sup>、プールへ<sup>い</sup>行きますか。  
B: いいえ、<sup>い</sup>行きません。

⑦ A: 何を<sup>なに</sup>食べ<sup>た</sup>ますか。

B: サンドイッチを<sup>た</sup>食べ<sup>た</sup>ます。

解 説

E. 未来<sup>みらい</sup>の予定<sup>よてい</sup>、意向<sup>いこう</sup>を表<sup>あらわ</sup>す。(例文⑤⑥⑦)

先生へ

「Vます」は、丁寧<sup>ていねい</sup>な表現<sup>ひょうげん</sup>。

【関連項目】

- 文-11 Vました
- 文-01 Nです
- 文-06 Aいです / ANです

【「れんしゅう編」の練習】

- 2-2 ペンがありますか
- 2-4 わたしのとなり
- 2-7 どこにありますか
- 2-8 本は机の上にありますか
- 2-9 机の上にかばんがあります
- 2-10 わたしの学校
- 2-11 行く・来る・帰る

# 文-04

# NはNにあります/います

N1	は	N2	に	あります
[もの]				

N2: 場所  
ばしょ

N1	は	N2	に	います
[生きもの]				

## 基 本

### 例 文

① 1年生の教室は2階にあります。  
ねんせい きょうしつ かい

② 先生は図書館にいます。  
せんせい としょかん

③ わたしの犬は車の中にいます。  
いぬ くるま なか

④ A: テープは机の上にありますか。  
つくえ うえ

B: はい、あります。

⑤ A: 田中さんは教室にいますか。  
たなか きょうしつ

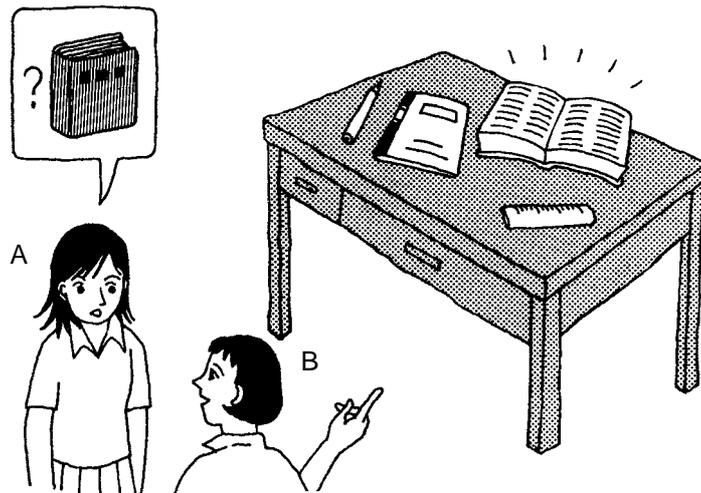
B: いいえ、いません。

⑥ A: 辞書はどこにありますか。  
じしょ

B: 机の上にあります。  
つくえ うえ

⑦ A: まりさんの猫はどこにいますか。  
ねこ

B: 箱の中にいます。  
はこ なか



例文⑥

- A. 「あります」はもの（そんざい あらわ）の存在を表す。(例文①④⑥)
- B. 「います」は生きもの（い そんざい あらわ）の存在を表す。(例文②③⑤⑦)
- C. もの（い）や生きもの（そんざいばしょ き）の存在場所を聞いたり説明（せつめい）したりするとき（つか）に使う。(例文④⑤⑥⑦)
- D. 存在する場所（そんざい ばしょ）について質問（しつもん）するときは「どこ」（つか）を使う。(例文⑥⑦)
- E. N1（なん）が何であるかわかっている場合は、「N1は」（ば あい）を省略（しょうりゃく）することがある。(例文④⑤⑥⑦)

【関連項目】	【「れんしゅう編」の練習】
文-05 NにNがあります/います	2-7 どこにありますか
文-03 Vます	2-8 本は机の上にありますか
助-07 に(場所)	2-10 わたしの学校
助-23 は	

# 文-05

## NにNがあります/います

N1 に N2 が あります

[もの]

N1 に N2 が います

[生きもの]

N1: 場所  
ばしょ

### 基 本

#### 例 文

① ドアのそばに電話があります。  
でんわ

② 公園に大きい木があります。  
こうえん おお き

③ となりのうちに犬がいます。  
いぬ

④ あそこに田中さんがいます。  
た なか

⑤ A: 小林さんの学校にプールがありますか。  
こばやし がっこう

B: はい、あります。

⑥ A: 先生のうちに犬がいますか。  
せんせい いぬ

B: いいえ、いません。

⑦ A: 屋上に何がありますか。  
おくじょう なに

B: バスケットコートがあります。

⑧ A: 今、理科室にだれがいますか。  
いま りかじつ

B: 山田先生と2年生の生徒がいます。  
やまだ せんせい ねんせい せいと

⑨ (ものを借りたいとき)  
か

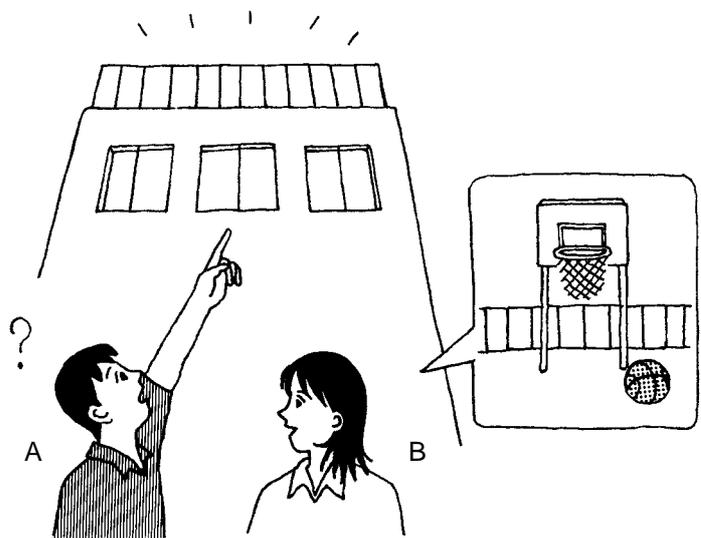
A: ペンがありますか。

B: はい、どうぞ。

⑩ (店で商品を見たいとき、買いたいとき)  
みせ しょうひん み か

A: クラシックのCDがありますか。  
シーディー

B: はい、あります。



例文 ⑦

## 解説

- A. 「あります」はものの存在を表す。(例文①②⑤⑦)
- B. 「います」は生きものの存在を表す。(例文③④⑥⑧)
- C. ある場所(N1)に何があるかたずねたり、説明したりするときに使う。(例文⑤⑥⑦⑧)
- D. 存在するものや動物について質問するときは、「何」を、人について質問するときは「だれ」を使う。(例文⑦⑧)
- E. 「Nがありますか」の形で、要望を表すことができる。(例文⑨⑩)
- F. N1がどこかわかっている場合は、「N1に」を省略することがある。(例文⑤⑥⑦⑧)

## 発 展

### 例 文

- ⑪ A: みなさん、質問がありますか。  
B: ありません。
- ⑫ お金がありませんから、買い物できません。
- ⑬ 時間がありませんから、急いでください。
- ⑭ A: 先生、来週漢字の試験がありますか。  
B: はい、あります。水曜日ですよ。
- ⑮ きのう、公園でロックコンサートがありました。
- ⑯ 東京で大きい地震がありました。

## 解説

- G. 「Nがあります」の形で、所有の意味を表す。(例文⑪⑫⑬)
- H. 「Nがあります」の形で、できごとや行事があることを表す。この場合、できごとや行事の場所を示すのに、「に」ではなく「で」が使われる。(例文⑭⑮⑯)

### 先生へ

要望を表わすときの「Nがありますか」は、「N、ありますか」と「が」を省略して言うことが多い。

#### 【関連項目】

- 文-04 NはNにあります/います  
文-03 Vます  
助-07 に(場所)  
助-22 が(主語)

#### 【「れんしゅう編」の練習】

- 2-2 ペンがありますか  
2-4 わたしのとなり  
2-9 机の上にかばんがあります

N1

の

N2

## 基 本

## 例 文

- ① わたしのペンはこれです。
- ② 体育館たいいくかんのとなりとなりににプールプールがあります。
- ③ はさみはさみは机つくえの上うえにあります。
- ④ 田中たなかさんのとなりとなりにに木村きむらさんがいます。
- ⑤ あれは数学すうがくの教科書きょうかしょです。
- ⑥ A: 日本語にほんごの教室きょうしつはどこですか。  
B: 2階かいです。
- ⑦ あしたのテストじはんは9時半じはんからです。
- ⑧ A: これはだれのかばんかばんですか。  
B: わたしのです。
- ⑨ A: それはいつの新聞しんぶんですか。  
B: きこのうのです。
- ⑩ 100円えんのを三つみつください。

## 解 説

- A. 名詞めいしと名詞めいしをつなぐ。(例文①～⑨)
- B. 「N1の」は、N2を修飾しゅうしやくする。(例文①～⑨)
- C. 「の」は、N1がN2の所有者しよゆうしゃであることを表す。(例文①⑧)
- D. 「N1のN2」で位置いちを表す。(例文②③④)
- E. 「の」は、N1がN2の種類しゅるいであることを表す。(例文⑤⑥⑦⑨)
- F. C、Eの場合、状況ばあいからN2が何なんであるかわかっているとき、N2は省略しょうりやくできる。(例文⑧⑨⑩)

例 文

① わたしは東京高校の木村です。

⑬ この人は友だちの田中さんです。

⑫ 日本には、春と夏と秋と冬の四つの季節  
があります。

解 説

G. 「の」は、N1がN2の所属先であることを表す。(例文①)

H. N1とN2が同格の関係であることを表す。(例文⑫⑬)

先生へ

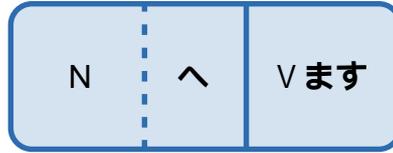
「の」は助詞。

【関連項目】

- 文-07 Aい / ANなN
- 文-28 NがA / AN + N
- 文-37 V + N

【「れんしゅう編」の練習】

- 2-4 わたしのとなり
- 2-6 だれのですか
- 2-7 どこにありますか
- 2-8 本は机の上にありますか
- 2-9 机の上にかばんがあります
- 2-10 わたしの学校



N: いどうさき移動先の場所、ばしょ移動の方向

## 基 本

### 例 文

- ① わたしは じはん8時半に がっこう学校へ き来ます。
- ② たなか田中さんは じ5時に うちうちへ かえ帰ります。
- ③ A: こうえんあした公園へ い行きますか。  
B: いいいえ、い行きません。
- ④ A: なんじあした何時に がっこう学校へ い行きますか。  
B: じ8時に い行きます。

### 解 説

- A. 「へ」は、Nが いどうさき移動先、あるいは いどう移動の方向であることを示す。(例文①②③④)
- B. 「へ」は「エ」と はつおん発音する。

### 先生へ

「へ」は助詞。

「へ」の代わりに「に(帰着点)」を使うことができる。

「へ」といっしょに使える日本語能力試験4級相当の動詞は以下の通り。

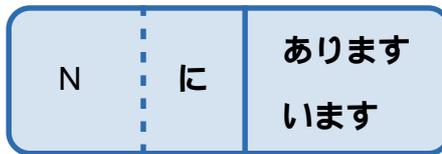
い行く、く来る、かえ帰る、で出かける、で出る、はい入る、ま曲がる

#### 【関連項目】

助-21 に(帰着点)

#### 【「れんしゅう編」の練習】

2-11 行く・来る・帰る



N: 場所を示すことば

## 基本

### 例文

- ① <sup>おんがくしつ</sup>音楽室は<sup>りかしつ</sup>理科室のとなりにあります。
- ② <sup>せんせい</sup>先生は<sup>しょくどう</sup>食堂にいます。
- ③ A: <sup>でんわ</sup>電話はどこにありますか。  
B: あそこにあります。
- ④ <sup>やまだ</sup>山田さんのうちにピアノがあります。

### 解説

A. 「に」は、動詞「あります」「います」といっしょに使い、N2が存在場所であることを示す。  
(例文①②③④)

B. 「N1にN2があります/います」で使われている「に」も「に(場所)」。(例文④)

### 先生へ

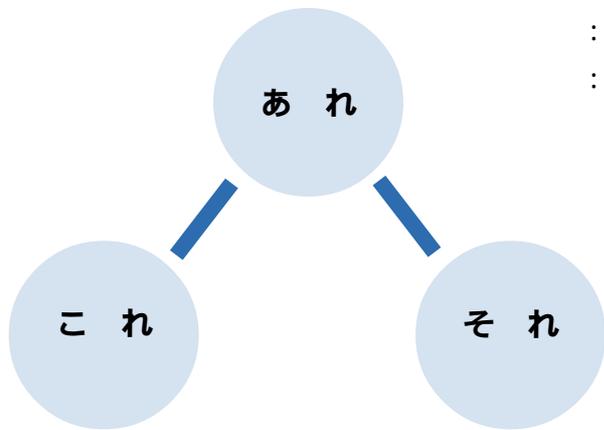
「に」は助詞。

N1ができごとである場合は、そのできごとが起こった場所を示すのに「で(場所)」が使われる。  
(p.19参照)

例1 わたしの<sup>こうこう</sup>高校で<sup>しあい</sup>サッカーの試合があります。

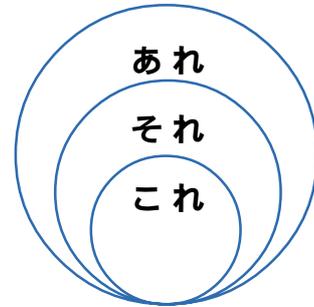
2 <sup>にほん</sup>日本で<sup>おお</sup>大きい<sup>じしん</sup>地震がありました。

<p><b>【関連項目】</b></p> <p>助-02 に(時)</p> <p>助-15 に(目的)</p> <p>助-18 に(基準)</p> <p>助-21 に(帰着点)</p> <p>助-26 に(対象)</p> <p>助-11 で(場所)</p>	<p><b>【「れんしゅう編」の練習】</b></p> <p>2-4 わたしのとなり</p> <p>2-7 どこにありますか</p> <p>2-8 本は机の上にありますか</p> <p>2-9 机の上にかばんがあります</p> <p>2-10 わたしの学校</p> <p>4-5 どこで・どこに</p>
--	---



[図1]

はな て  
: 話し手  
き て  
: 聞き手



[図2]

基 本

例 文

① <sup>にほんご きょうかしょ</sup>これは日本語の教科書です。

② <sup>にほんご じしょ</sup>日本語の辞書はそれです。

③ <sup>たいいくかん</sup>あれは体育館です。

④ A: <sup>にほんご なん</sup>(日本語で何というかわからないとき)

それは何ですか。

B: はしです。

⑤ A: <sup>せんせい ものし</sup>(先生が持ち主のわからない辞書を生徒に  
<sup>み</sup>見せながら)

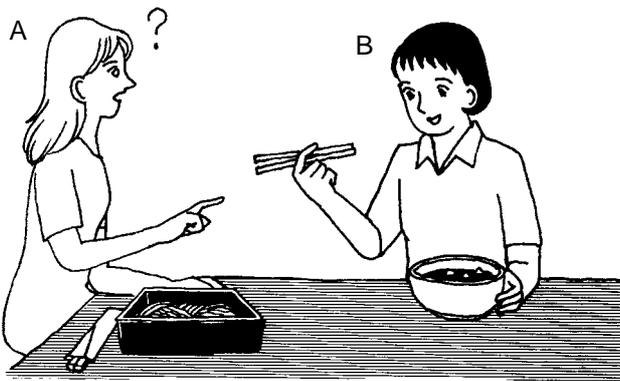
これはだれの辞書ですか。

B: <sup>なかやま</sup>それは中山さんの辞書です。

⑥ A: <sup>て も</sup>(かばんを手にとって)

<sup>きむら</sup>木村さんのかばんはこれですか。

B: いいえ、あれです。



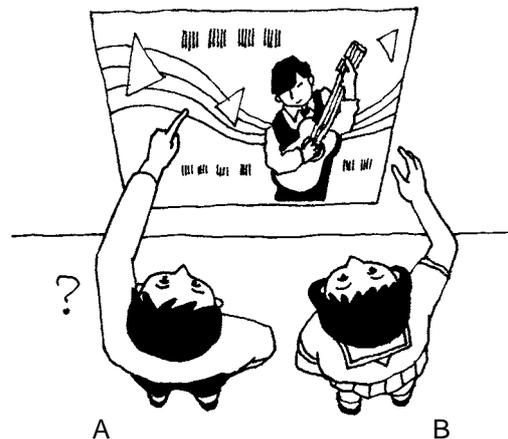
例文④

⑦ A: 田中さんの消しゴムはどれですか。

B: それです。

⑧ A: これは何のポスターですか。

B: これですか。これはコンサートのポスターです。



例文⑧

解説

A. 「これ/それ/あれ」は特定されたものを指す。(例文①～⑧)

B. どれかわからないものについて聞くときは、「どれ」を使う。(例文⑦)

C. 話し手と聞き手が相対する状況で、「これ/それ/あれ」は[図1]のような関係になる。

(例文④⑤⑥⑦)

D. 話し手と聞き手が同じ領域にいる状況で「これ/それ/あれ」は[図2]のような関係になる。

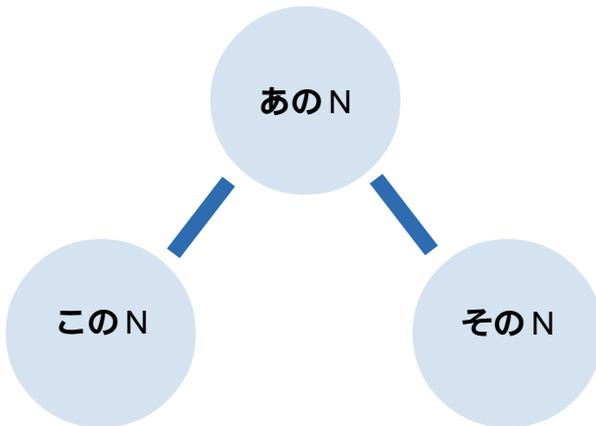
(例文⑧)

先生へ

「これ/それ/あれ」は指示詞。

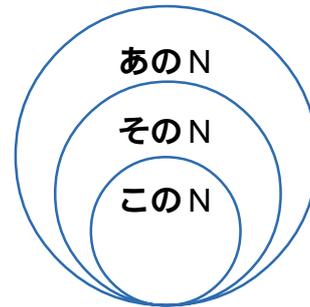
指示詞のまとめは、巻末「2. 指示詞」(p.259)を参照。

<p><b>【関連項目】</b></p> <p>語-03 この/その/あの</p> <p>語-04 ここ/そこ/あそこ</p> <p>語-09 こそあど</p>	<p><b>【「れんしゅう編」の練習】</b></p> <p>2-5 それは何ですか</p>
--	--



[図1]

はな  
て  
: 話し手  
き  
て  
: 聞き手



[図2]

基 本

例 文

① この部屋は2年生の教室です。

② その本はわたしのです。

③ 山田先生はあの人です。

④ (教室で授業中に)

A: 先生、その漢字は「ご」ですか。

B: これですか。はい、そうです。

⑤ A: あのかばんはだれのですか。

B: どのかばんですか。

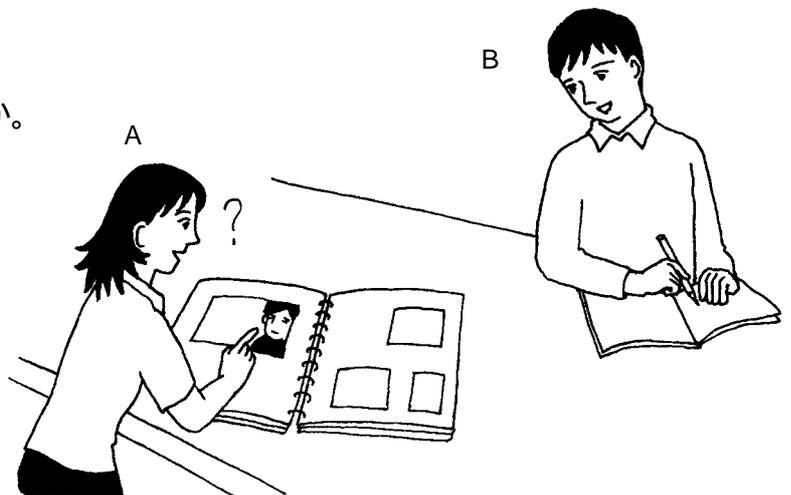
A: あのかばんは黒いのかばんです。

B: あれは田中さんのです。

⑥ (写真を見ながら)

A: この人はだれですか。

B: その人は中山さんです。

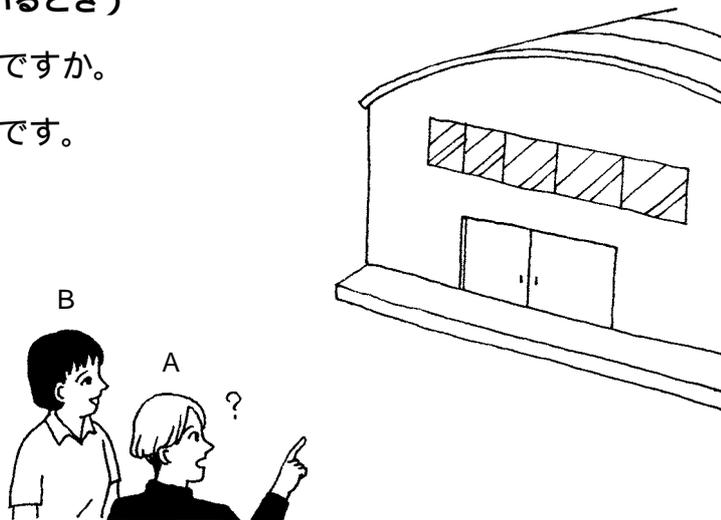


例文⑥

⑦(学校を案内しているとき)

A: あの建物は何ですか。

B: あれは体育館です。



例文 ⑦

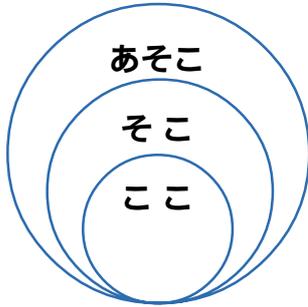
解説

- A. 「この / その / あの」は特定されたNがどれかを指し示す。(例文①～⑦)
- B. 特定されたNがどれか聞くときは、「どのN」を使う。(例文⑤)
- C. 話し手と聞き手が相対する状況で、「この / その / あの」は[図1]のような関係になる。  
(例文④⑥)
- D. 話し手と聞き手が同じ領域にいる状況で、「この / その / あの」は[図2]のような関係になる。(例文⑦)

先生へ

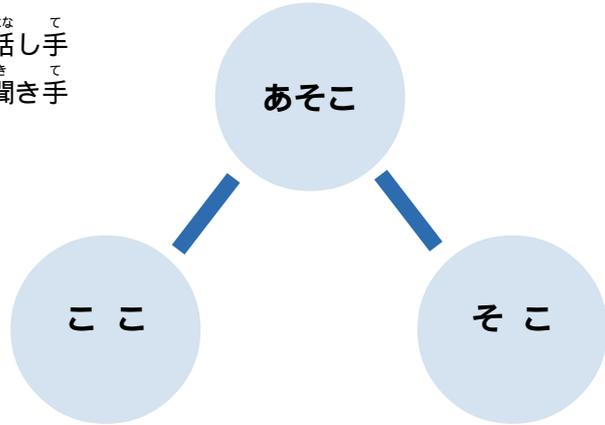
「この / その / あの」は指示詞。  
 指示詞のまとめは、巻末「2. 指示詞」(p.259)を参照。  
 Nを修飾することばがある場合の語順に注意すること。  
 例1 あのきれいな女の人は山本さんです。  
 2 その大きいかばんはわたしのです。

<p>【関連項目】</p> <p>語-02 これ / それ / あれ</p> <p>語-04 ここ / そこ / あそこ</p> <p>語-09 こそあど</p>	<p>【「れんしゅう編」の練習】</p> <p>2-6 だれのですか</p>
---	--



[図1]

はな  
て  
: 話し手  
き  
: 聞き手



[図2]

基 本

例 文

① (学校を案内しながら)  
ここは1年生の教室です。

② (学校を案内しながら)  
そこは図書室です。

③ (学校を案内しながら)  
あそこは事務室です。

④ まりさんのかばんはそこにあります。

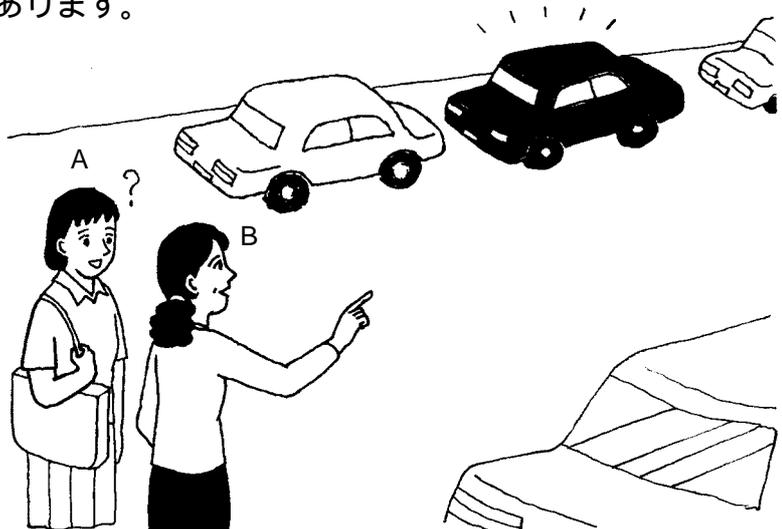
⑤ あそこに先生がいます。

⑥ A: すみません、トイレはどこですか。  
B: あそこです。

A: ありがとうございます。

⑦ A: 先生の車はどこにありますか。

B: あそこです。



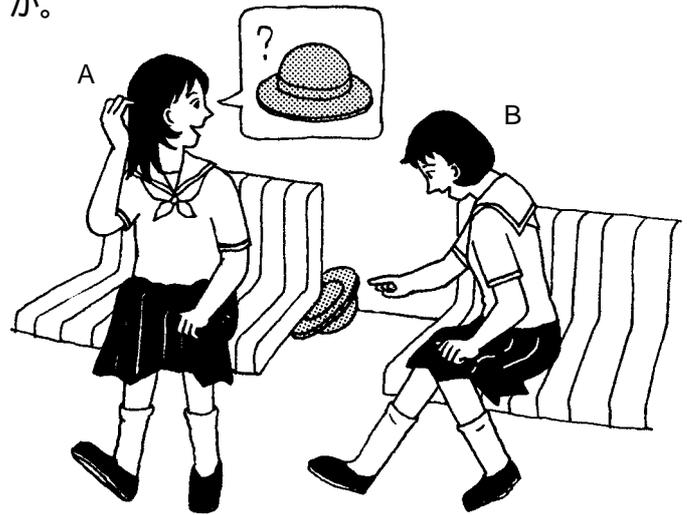
例文⑦

⑧ A: わたしのぼうしはどこにありますか。

B: そこにあります。

A: どこですか。

B: あなたのうしろです。



例文 ⑧

解説

- A. 「ここ / そこ / あそこ」は特定された場所を指す。(例文①～⑧)
- B. どこかわからない場所についてたずねるときは、「どこ」を使う。(例文⑥⑦⑧)
- C. 話し手と聞き手が同じ領域にいる状況で、「ここ / そこ / あそこ」の領域は [ 図1 ] のようになる。(例文①②③⑥⑦)
- D. 話し手と聞き手が相対する状況で、「ここ / そこ / あそこ」の領域は、[ 図2 ] のようになる。(例文⑧)

先生へ

「ここ / そこ / あそこ」は指示詞。  
 指示詞のまとめは、巻末「2. 指示詞」(p.259)を参照。

<p><b>【関連項目】</b></p> <p>語-02 これ / それ / あれ</p> <p>語-03 この / その / あの</p> <p>語-09 こそあど</p>	<p><b>【「れんしゅう編」の練習】</b></p> <p>2-10 わたしの学校</p>
---	--

# 文-06

## Aいです / ANです

N	は	Aい	です
		Aくない	

N	は	AN	です
			ではありません

	こうていけい 肯定形	ひていけい 否定形
A (イ形容詞) <small>けいようし</small>	Aいです	Aくないです
AN (ナ形容詞) <small>けいようし</small>	ANです	ANではありません

### 基 本

#### 例 文

- ① A: そのアイスクリームはおいしいですか。  
B: はい、おいしいです。
- ② A: 日本の料理は辛いですか。  
B: いいえ、辛くないです。
- ③ A: × スーパーは大きいですか。  
B: はい、大きいです。
- ④ A: その傘は丈夫ですか。  
B: いいえ、丈夫ではありません。
- ⑤ A: あなたの部屋はきれいですか。  
B: いいえ、きれいではありません。
- ⑥ A: 日本の料理はどうですか。  
B: おいしいです。

#### 解 説

- A. Nの性質や特徴(色、形、大きさなど)状態について述べることができる。(例文③④⑤)
- B. Nについての話し手の意見や感想を述べることができる。(例文①②⑥)
- C. 何かに対する意見や感想を求めるときには、「Nはどうですか」の形で質問する。(例文⑥)
- D. Nが何であるかわかっている場合は、「Nは」を省略することがある。(例文①～⑥)
- E. イ形容詞「いい」は、活用が例外である。

	こうていけい 肯定形	ひていけい 否定形
いい	いいです	よくないです

## 先生へ

日本語の形容詞は2種類に分けられる。名詞を修飾するとき「い」で終わるものがイ形容詞(A)、「な」で終わるものがナ形容詞(AN)である。

否定の言い方には、「Aくありません」「ANではありません」もある。

話しことばでは、「ANではありません」が「ANじゃありません」になることが多い。

日本語能力試験4級相当のナ形容詞「きれい」「ゆうめい」「きれい」は、イ形容詞と混同しないように注意すること。

ものの形や色などの形状を質問するときには、「どんなNですか」を使い、「Nはどうですか」を使うことはない。「A:かばんはどうですか。B:赤いです。」のような練習をしないように注意すること。

### 【関連項目】

- 文-12 A かったです / AN でした
- 文-07 A い / AN な N
- 文-01 N です
- 文-03 V ます

### 【「れんしゅう編」の練習】

- 3-5 形容詞のビンゴ
- 3-7 新しいですか
- 3-8 どんな店ですか

Aい

ANな

N

基 本

例 文

- ① <sup>みせ あたら</sup>あの店に新しいコンピュータが  
あります。
- ② <sup>しんせつ てんいん</sup>あのデパートに親切な店員さんが  
います。
- ③ <sup>あま か し か</sup>甘いお菓子を買います。
- ④ <sup>えい が み</sup>おもしろい映画を見ます。
- ⑤ A: <sup>あま</sup>どんなかばんですか。  
B: <sup>じょうぶ</sup>丈夫なかばんです。
- ⑥ A: × <sup>た もの</sup>はどんな食べ物ですか。  
B: <sup>あま か し</sup>甘いお菓子です。
- ⑦ A: <sup>えい が</sup>どんな映画ですか。  
B: <sup>にほん ふる えい が</sup>日本の古い映画です。
- ⑧ A: <sup>シーディー か</sup>どんなCDを買いますか。  
B: <sup>しず おんがく シーディー か</sup>静かな音楽のCDを買います。
- ⑨ A: <sup>くつ か</sup>どの靴を買いますか。  
B: <sup>くろ か</sup>黒いのを買います。
- ⑩ A: <sup>おんがく</sup>どんな音楽が好きですか。  
B: <sup>しず</sup>静かなのが好きです。

解 説

- A. 「Aい / ANな」は、Nを修飾する。(例文①～⑧)
- B. 「Aい / ANな」は、Nの性質や特徴(色、形、大きさなど)などを示すことで、Nを限定する。(例文①～⑧)
- C. Nの性質や特徴などを質問するときは、「どんなN」でたずねる。(例文⑤⑥⑦⑧⑩)
- D. 「Aい / ANな」が修飾するNが何であるかわかっている場合は、Nの代わりに「の」を使うことができる。(例文⑨⑩)

## 先生へ

日本語の形容詞は2種類に分けられる。名詞を修飾するとき「い」で終わるものがイ形容詞(A)、「な」で終わるものがナ形容詞(AN)である。

二つ以上のことが名詞を修飾する場合は、その修飾関係に注意すること。

例えば、例文⑦の「日本の古い映画」は、「古い」が「映画」を、「日本の」が「古い映画」を修飾している。例文⑧の「静かな音楽のCD」は、「静かな」が「音楽」を、「静かな音楽」が「CD」を修飾している。

### 【関連項目】

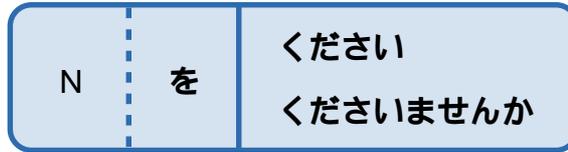
文-06 Aいです / ANです  
助-05 の  
文-28 NがA / AN + N  
文-37 V + N

### 【「れんしゅう編」の練習】

3-5 形容詞のビンゴ  
3-6 どんなかばんですか  
3-9 今、何がほしいですか

# 文-08

## Nをください



N: はな て もと話し手が求めている対象 たいしやう

### 基 本

#### 例 文

① A: これをください。

B: はい。

② A: すみません、赤いばらを8本  
ください。

B: はい。1200円です。

③ A: ハンバーガーとサラダをください。

B: はい。

④ A: すみません、コーラを二つください。

B: コーラを二つですね。

⑤ A: (友だちのうちで食事のとき)

すみません、水をくださいませんか。

B: はい。

⑥ A: (観光案内所で)

あのう、この町の地図をください  
ませんか。

B: はい、どうぞ。

#### 解 説

A. 「Nをください」は、店みせで商品しょうひんを求めるときもとに使う。(例文①②)

B. 「Nをください」は、レストランなどで注文ちゆうもんするときつかに使う。(例文③④)

C. 「Nをくださいませんか」は、話し手はなにとって利益りえきになるものきを聞き手きに丁寧ていねいに求めるときもとに  
使う。(例文⑤⑥)

例 文

- ⑦ 先生、宿題のプリントをください。
- ⑧ 先生、会話のテープをください。

解 説

D. 「Nをください」は、自分が当然もらうべきものを受け取りたいときに使う。(例文⑦⑧)

先生へ

買い物やレストランなどでの注文のとき、「を」を省略して「N、ください」と言うこともある。

「を」は、「を(対象)」(p.38参照)

「Nをください」は、ものを求めることが当然である人間関係、場面で使われるので、練習のときの場面設定に注意すること。

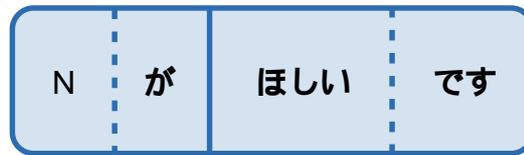
教室での学習者と教師の会話では、「Nをください」だけを使った方が混乱しない。

【関連項目】

文 -16 Vてください  
 助 -08 を(対象)

【「れんしゅう編」の練習】

3-2 何本・いくつ  
 3-4 ハンバーガーの店



N: はな て話し手が「おもほしい」と思っている対象たいしょう

基 本

例 文

- ① わたしはいま今コンピュータがほしいです。
- ② A: たんじょうび誕生日になに何がほしいですか。  
B: あたそうですね、あた新しいじてんしゃ自転車がほしいほしい  
です。
- ③ (カタログを見ながら)  
A: どれどれがほしいですか。  
B: これとそれこれとそれがほしいです。
- ④ A: くるま車がほしいですか。  
B: いいえいいえ、ほしくないです。

解 説

- A. 「ほしい」は、けいようしイ形容詞。かつよう活用はそのほかのけいようしイ形容詞と同じ。おな
- B. なに何かおもものがおもほしいと思はな てう話し手がんぼうの願望あらわを表す。(例文①②③④)
- C. 「Nがほしいですか」「何がほしいですか」「どれがほしいですか」で、き て聞き手がんぼうの願望をたずねをたずねる。(例文②③④)
- D. Nがなん何であるかわかっている場合は、ばあい「Nが」をしょうりやく省略することがある。(例文④)

## 先生へ

聞き手や第三者の願望を表現することはできない。

「Nがほしいですか」と目上の人に向かって聞くと失礼になる。

「Nがほしいんですが」の形で、必要なものを相手に伝え、提供を求めることができる。この場合、求められるのは特別ではないもの、求める相手は当然提供可能と予想される人。

例 1 A: すみません、白い紙がほしいんですが。

B: はい。

2 A: あのう、赤いボールペンがほしいんですが。

B: はい。

願望の対象がものときは「Nがほしいです」を使うが、願望の対象が行為のときは、「Vたいです」を使う。

### 【関連項目】

文-06 Aいです / ANです

文-34 Vたいです

### 【「れんしゅう編」の練習】

3-9 今、何がほしいですか

# 助-08

# を(対象)



N : Vの動作の対象

## 基 本

### 例 文

① わたしはハンバーガー<sup>た</sup>を食べます。

② 田中<sup>たなか</sup>さんはコーラ<sup>の</sup>を飲みます。

③ CD<sup>シーディー</sup>を買<sup>か</sup>います。

④ 切手<sup>きって</sup>を3枚<sup>まい</sup>買<sup>か</sup>います。

⑤ A: 何<sup>なに</sup>を<sup>た</sup>食べますか。

B: サンドイッチ<sup>た</sup>を食べます。

⑥ A: あした映画<sup>えいが</sup>を見<sup>み</sup>ますか。

B: いいえ、見<sup>み</sup>ません。

### 解 説

A. 「を」は、「買<sup>か</sup>います」「飲<sup>の</sup>みます」「食<sup>た</sup>べます」「見<sup>み</sup>ます」などの動作を表す動詞と一っしょに  
使<sup>つか</sup>い、Nが動作の対象<sup>どうさ たいしょう</sup>であることを示<sup>しめ</sup>す。(例文①～⑥)

B. 「を」は「オ<sup>はつおん</sup>」と発音する。

## 先生へ

「を」は助詞。

「Nする」(する動詞)の場合は、「を」を伴う名詞が同じ文の中にないとき、「Nをする」とすることもできる。日本語能力試験4級相当の「する動詞」は以下の通り。

散歩する、勉強する、洗濯する、掃除する、練習する、結婚する、旅行する

ただ つか かた 正しい使い方 ( )	まちが つか かた 間違った使い方 ( × )
せんたく シャツを洗濯する シャツの洗濯をする	せんたく シャツを洗濯をする
にほんご べんきょう 日本語を勉強する 日本語の勉強をする	にほんご べんきょう 日本語を勉強をする
こうえん さんぽ 公園を散歩する 公園で散歩をする	こうえん さんぽ 公園を散歩をする

「Nをください」の「を」は「を(対象)」(p.34参照)。

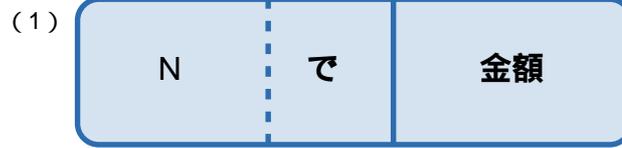
例 このケーキを三つください。

### 【関連項目】

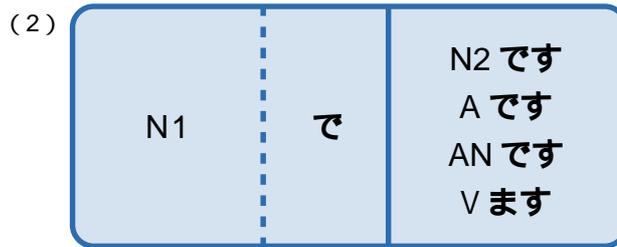
- 助-19 を(起点)
- 助-20 を(経路)

### 【「れんしゅう編」の練習】

- 3-2 何本・いくつ
- 3-3 ハンバーガーを食べます
- 3-4 ハンバーガーの店



かず りょう あらわ  
N : 数や量を表すことば



はんい あらわ  
N1 : 範囲を表すことば

## 基 本

### 例 文

①(買い物の場面で)

A: チョコレートケーキを三つとチーズ  
ケーキを五つお願いします。  
B: はい。全部で2800円です。

②(買い物の場面で)

A: いくらですか。  
B: 三つで500円です。

### 解 説

A. 構造図(1)の「で」は、Nがある金額を出すための基準となる数や量であることを示す。

(例文①②)

例 文

- ③ <sup>さんにん</sup>三人で<sup>い</sup>プールへ行きました。
- ④ <sup>しけん</sup>試験は<sup>お</sup>あしたで終わります。
- ⑤ <sup>ふじさん</sup>富士山は<sup>にほん</sup>日本で<sup>たか</sup>いちばん高いです。

解 説

B. 構造図(2)の「で」は、N1が<sup>げんていてき</sup>限定的な<sup>じょうきょう</sup>状況、<sup>はんい</sup>範囲であることを示す。(例文③④⑤)

先生へ

「<sup>じょし</sup>で」は助詞。  
 「<sup>ひと</sup>一つ<sup>えん</sup>100円です」のように、<sup>きじゆん</sup>基準となる<sup>すうじ</sup>数字が「1」の場合は「<sup>ばあい</sup>で」<sup>つか</sup>を使わない。

<p><b>【関連項目】</b></p> <p>助-11 で(場所)</p> <p>助-17 で(手段/材料)</p> <p>助-27 で(原因/理由)</p> <p>語-06 助数詞</p>	<p><b>【「れんしゅう編」の練習】</b></p> <p>3-4 ハンバーガーの店</p>
--	---

Nです	よ
Aです	
ANです	ね
Vます	

## 基 本

## 例 文

- ① A: × レストランの料理はおいしい  
ですか。  
B: はい、おいしいですよ。
- ② A: 新しいコンピュータを使いましたか。  
B: いいえ。  
A: 便利ですよ。
- ③ A: もうすぐ、バスが出ますよ。早く乗り  
ましょう。  
B: はい。
- ④ (レストランで)  
A: サンドイッチとジュースをお願い  
します。  
B: サンドイッチとジュースですね。
- ⑤ A: これは田中さんのさいふですね。  
B: いいえ、違いますよ。
- ⑥ A: これは日本の新聞ですね。  
B: いいえ、中国の新聞ですよ。

## 解 説

- A. 文の終わりにつく。(例文①～⑥)
- B. 「よ」は、聞き手が知らない情報を提供するときに使う。(例文①②③⑤⑥)
- C. 「ね」は、話し手の情報や認識が聞き手のと同じかどうか確認するときに使う。  
(例文④⑤⑥)

## 例 文

⑦ A: あの店のドーナツはおいしいですね。

B: そうですね。

⑧ A: おもしろい映画でしたね。

B: ほんとうにおもしろい映画でしたね。

## 解 説

D. 「ね」は、話し手が聞き手に同意したり、聞き手の同意を求めたりするときに使う。(例文⑦⑧)

## 先生へ

「よ」「ね」は助詞。

### 【関連項目】

助-04 か(疑問)

### 【「れんしゅう編」の練習】

- 3-3 ハンバーガーを食べます
- 3-4 ハンバーガーの店
- 3-8 どんな店ですか
- 5-4 おいしかったですよ

0 れい/ゼロ	
1 いち	11 じゅういち
2 に	12 じゅうに
3 さん	13 じゅうさん
4 よん/し	14 じゅうよん/じゅうし
5 ご	15 じゅうご
6 ろく	16 じゅうろく
7 なな/しち	17 じゅうなな/じゅうしち
8 はち	18 じゅうはち
9 きゅう/く	19 じゅうきゅう/じゅうく
10 じゅう	20 にじゅう

10 じゅう	100 ひゃく	1000 せん
20 にじゅう	200 にひゃく	2000 にせん
30 さんじゅう	300 さんびゃく	3000 さんぜん
40 よんじゅう	400 よんひゃく	4000 よんせん
50 ごじゅう	500 ごひゃく	5000 ごせん
60 ろくじゅう	600 ろっぴゃく	6000 ろくせん
70 ななじゅう	700 ななひゃく	7000 ななせん
80 はちじゅう	800 はっぴゃく	8000 はっせん
90 きゅうじゅう	900 きゅうひゃく	9000 きゅうせん
100 ひゃく	1000 せん	10000 いちまん

## 先生へ

10,000 以上の単位は、次のようになる。

100,000 じゅうまん

1,000,000 ひゃくまん

10,000,000 せんまん

100,000,000 おく

「10,000」「10,000,000」「100,000,000」はそれぞれ「いちまん」「いっせんまん」「いちおく」と言う。

また、「1,000」は「いっせん」とも言う。

「4」「7」「9」には二通りの読み方があるが、数えるものによってどちらか一方が選ばれることが多い。「語-01 時刻」(p.12)「語-06 助数詞」(p.46)および巻末「5. 助数詞」(p.268)を参照のこと。

数によって音が変化するもの(表の青字のところ)があるので、注意すること。

「10」「100」は「いちじゅう」「いちひゃく」とは言わないので、練習のとき注意すること。

### 【関連項目】

- 語-01 時刻
- 語-06 助数詞
- 語-07 時間

### 【「れんしゅう編」の練習】

- 3-1 いくらですか
- 3-2 何本・いくつ
- 3-3 ハンバーガーを食べます
- 3-4 ハンバーガーの店

## 数 + 助数詞

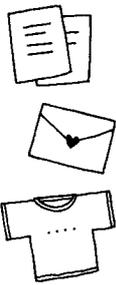
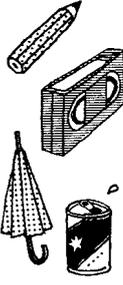
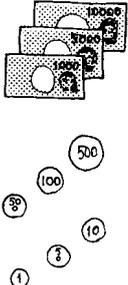
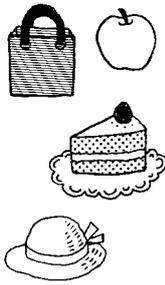
## 基 本

### 例 文

- ① あそこかさ ほんに傘が5本あります。
- ② ケーキいつ かを五つ買います。
- ③ (注文ちゅうもんするとき)  
ハンバーガーみつを三つください。
- ④ (注文ちゅうもんするとき)  
スパゲッティふた ねがを二つお願いします。
- ⑤ 切手きって まいを10枚とはがきまいかを3枚買います。
- ⑥ 先生せんせいの机つくえの上に辞書うえが2冊じしょ さつと雑誌ざっし さつが1冊  
あります。
- ⑦ 駅えきの前まえに銀行ぎんこうが二つふたあります。
- ⑧ A:そこぎんこうにハンカチぎんこうが何枚なんまいありますか。  
B:3枚まいあります。
- ⑨ A:このボールペンえんはいくらですか。  
B:100円えんです。
- ⑩ A:コーラなんぼん かを何本なんぼん買いましたか。  
B:6本ほん か買いました。
- ⑪ A:ボールほん かがいくつありますか。  
B:15ほん かあります。

### 解 説

- A. 「数 + 助数詞」で、数量を表す。
- B. 助数詞は数えるものの形や性質によって決まる。

~枚(まい)	~本(ほん、ぼん、ぼん)	~冊(さつ)	~円(えん)	~つ
				

C. 数えるものとその数は以下の語順で示される。(例文①～⑩)

N [数えるもの]	を / が	数 + 助数詞
--------------	-------	---------

N1 [数えるもの]	を / が	数 + 助数詞	と	N2 [数えるもの]	を / が	数 + 助数詞
---------------	-------	---------	---	---------------	-------	---------

D. 「～つ」の数え方は、ほかの助数詞と違う。11以上は、「じゅういち、じゅうに、じゅうさん、」のように数える。(例文③④⑪)

### 先生へ

数量をたずねるとき、「何枚」「何本」などの疑問詞の代わりに「どのくらい/どのぐらい」を使うことができる。

助数詞の後には助詞をつけないように指導すること。

数えるものとその数を言う場合の語順に注意すること。例えば、「みつつみかん」「3みかん」にならないようにする。

数と助数詞によって音が変わるものがあるので、注意すること。巻末「5. 助数詞」(p.268)を参照。

必要な助数詞だけ選んで教えた方がよい。

<p><b>【関連項目】</b></p> <p>語-05 数</p> <p>語-07 時間</p>	<p><b>【「れんしゅう編」の練習】</b></p> <p>3-2 何本・いくつ</p> <p>3-3 ハンバーガーを食べます</p> <p>3-4 ハンバーガーの店</p>
---	--

# 文-10

## あまり...否定

あまり

Vません

A くないです

AN ではありません

### 基 本

#### 例 文

① わたしはあまり図書館へ行きません。

③ わたしの部屋はあまり広くありません。

② A: 毎朝テレビのニュースを見ますか。

④ わたしはケーキがあまり好きでは

B: いいえ、あまり見ません。

ありません。

#### 解 説

A. 「あまりVません」で、頻度が高くないことを示す。(例文①②)

B. 「あまりA くないです」「あまりAN ではありません」で、程度が高くないことを示す。

(例文③④)

例 文

- ⑤ A:きのう、<sup>つか</sup>疲れ<sup>ましたか</sup>。  
 B:いいえ、あまり<sup>つか</sup>疲れ<sup>ません</sup>でした。
- ⑥ A:<sup>でんしゃ</sup>電車は<sup>こ</sup>混<sup>んで</sup>いましたか。  
 B:いいえ、あまり<sup>こ</sup>混<sup>んで</sup>い<sup>ませ</sup>ん  
 でした。
- ⑦ A:<sup>じゅぎょう</sup>授業はよくわかり<sup>ましたか</sup>。  
 B:いいえ、あまり<sup>わかり</sup>ませ<sup>ん</sup>でした。
- ⑧ わたしの<sup>す</sup>住<sup>んで</sup>いる<sup>まち</sup>町には<sup>たか</sup>高<sup>い</sup>建<sup>た</sup>物<sup>た</sup>が  
 あまり<sup>あ</sup>り<sup>ませ</sup>ん。

解 説

C. 「あまりVません」で、<sup>ていど</sup>程<sup>たか</sup>度<sup>しめ</sup>が高<sup>く</sup>ない<sup>こと</sup>を示<sup>す</sup>。(例文⑤⑥⑦⑧)

先生へ

<sup>はな</sup>話し<sup>ことば</sup>では「あんまり」になることもある。  
 「Aくないです」の<sup>けいようし</sup>形<sup>かたち</sup>容<sup>ちゅうい</sup>詞<sup>し</sup>の形<sup>かたち</sup>に注意<sup>し</sup>すること。

【関連項目】

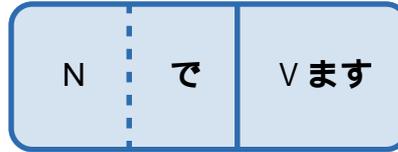
- 文-43    しか...否定  
 文-23    疑問詞 + も...否定

【「れんしゅう編」の練習】

- 4-4    いつも・ときどき・あまり  
 4-9    クロスワードパズル

# 助 - 11

## で(場所)



N : Vの動作が行われる場所

### 基 本

#### 例 文

- ① わたしはレストランで昼ごはんを  
食べます。
- ② A: どこで靴を買いますか。  
B: デパートで買います。
- ③ A: いつもどこでテニスをしますか。  
B: 学校のテニスコートでします。
- ④ 9時から3時まで学校で授業があります。
- ⑤ 大阪で地震がありました。

#### 解 説

- A. 「で」は、「食べます」「飲みます」「買います」などの動作を表す動詞といっしょに使い、Nが動作が行われる場所であることを示す。(例文①②③)
- B. 「で」は、「あります」などの動詞といっしょに使い、Nができごとが起こる場所であることを示す。(例文④⑤)

例 文

- ⑥ <sup>し あい か</sup>きのうの試合で勝ちました。
- ⑦ <sup>かんじ しけん てん と</sup>漢字の試験で100点を取りました。

解 説

C. 「で」は、<sup>どう さ おこな</sup>動作が行われるときを<sup>しめ</sup>示す。(例文⑥⑦)

先生へ

「で」は<sup>じょし</sup>助詞。

【関連項目】

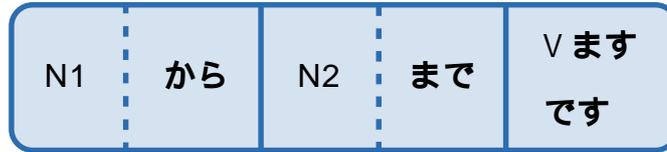
- 文-06 Aいです / ANです  
 助-05 の  
 文-37 V + N  
 文-28 NがA / AN + N

【「れんしゅう編」の練習】

- 4-5 どこで・どこに  
 4-6 田中さんの一日  
 4-7 いとうさんの一週間  
 4-9 クロスワードパズル  
 7-5 どこで・どこを・どこから

# 助-12

# から / まで



N1: 始まりの時または位置  
N2: 終わりの時または位置

## 基 本

### 例 文

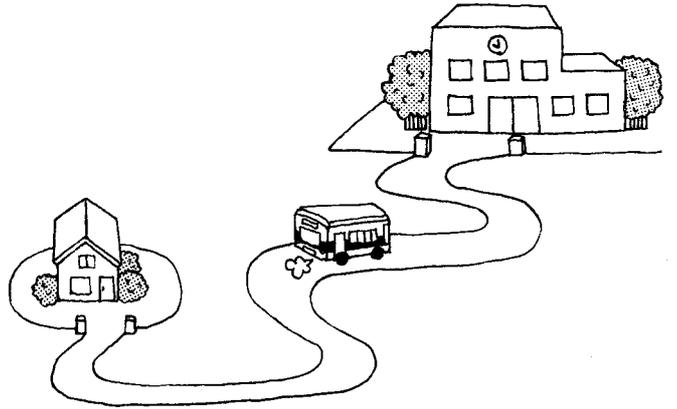
- ① 月曜日げつようびから金曜日きんようびまで学校がっこうへ行いきます。
- ② 6時半じはんから8時半じはんまでアルバイトをし  
ます。
- ③ A: 野球やきゅうの試合しあいは何時なんじからですか。  
B: 10時じからです。
- ④ A: テストはいついつからいついつまでですか。  
B: 10日とおかから15日にちまでです。
- ⑤ A: 日本語にほんごの授業じゅぎょうは何時なんじから何時なんじまで  
ですか。  
B: 10時半じはんから11時半じはんまでです。

### 解 説

- A. 「から」は、N1が時ときを表あらわすことばの場合ばあい、N1が始まりの時はじであることを示しめす。(例文①②③④⑤)
- B. 「まで」は、N2が時ときを表あらわすことばの場合ばあい、N2が終わりの時おであることを示しめす。(例文①②④⑤)
- C. 「Nから」または「Nまで」のどちらか一方いっぽうだけを使うつかこともできる。(例文③)

例 文

- ⑥ うちから<sup>がっこう</sup>学校まで<sup>い</sup>バスで行きます。
- ⑦ A: ここから<sup>とうきょうえき</sup>東京駅までいくらですか。  
B: 210<sup>えん</sup>円です。
- ⑧ きょうは5ページから10ページまで<sup>べんきょう</sup>勉強しました。



例文⑥

解 説

- D. 「から」は、N1が<sup>いち</sup>位置を表すことばの場合、N1が<sup>ばあい</sup>区間、<sup>くかん</sup>範囲の<sup>はじ</sup>始まりであることを示す。  
(例文⑥⑦⑧)
- E. 「まで」は、N2が<sup>いち</sup>位置を表すことばの場合、N2が<sup>ばあい</sup>区間、<sup>くかん</sup>範囲の<sup>お</sup>終わりであることを示す。  
(例文⑥⑦⑧)

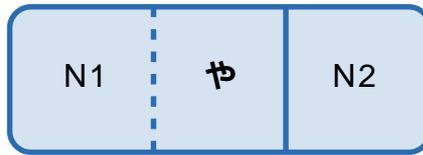
先生へ

「から」「まで」は助詞。

<p><b>【関連項目】</b></p> <p>助-25 から(理由)</p> <p>助-28 までに</p>	<p><b>【「れんしゅう編」の練習】</b></p> <p>4-7 いたうさんの一週間</p> <p>7-5 どこで・どこを・どこから</p> <p>7-6 うちから学校まで</p> <p>7-8 どのコースがいいですか</p>
---	---

# 助-13

# や(並列)



## 基 本

### 例 文

① わたしは日曜日にちようびに漫画まんがや雑誌ざっしを讀み  
ます。

② パンたまたごや卵たまごなどを食べます。

③ わたしの部屋へに机ややベッドつくえやテレビなどが  
あります。

④ デパートかやスーパーもので買物かをします。

⑤ 郵便局ゆうびんきょくの前まえや駅えきのそばそばにポストポストがあり  
ます。

### 解 説

A. 複数の名詞をつなぐ。(例文①②③④⑤)

B. 「や」は、N1、N2のように、該当する項目のいくつかを例として示すときに使う。ほかにも  
該当する項目があることを暗示する。(例文①②③④⑤)

C. 「や」でつながれた名詞は、文の中で一つの名詞のように使える。(例文①②③④⑤)

D. 「N1 や N2 など」の形で使うこともできる。(例文②③)

### 先生へ

「や」は助詞。

「と」との違いは、該当する項目をすべて示すか示さないかである。

「など」は人には使わないので、練習のとき注意すること。人のときは「たち」を使う。

#### 【関連項目】

助-01 と(並列)

#### 【「れんしゅう編」の練習】

4-6 田中さんの一日



	時 間	分
1	いちじかん	いっぶん
2	にじかん	にぶん
3	さんじかん	さんぶん
4	よじかん	よんぶん
5	ごじかん	ごぶん
6	ろくじかん	ろっぶん
7	ななじかん / しちじかん	ななぶん
8	はちじかん	はっぶん
9	くじかん	きゅうぶん
10	じゅうじかん	じゅうぶん
?	なんじかん どのくらい	なんぶん どのくらい

基 本

例 文

① 毎日2時間ピアノを練習します。

② A: 毎日何時間寝ますか。

B: わたしは8時間ぐらい寝ます。

③ 毎日7時ごろ晩ごはんを食べます。そして、1時間半ぐらいテレビを見ます。

④ うちから学校まで20分かかります。

⑤ A: 10分休みましょう。

B: はい。

⑥ A: 毎日どのくらい勉強しますか。

B: 1時間ぐらいです。

⑦ A: どのくらいかかりますか。

B: 5分ぐらいです。

## 解説

- A. 「時間」「分」は、時間の長さを表す。(例文①～⑦)
- B. 時間の長さをたずねるとき、「何時間」「何分」の代わりに「どのくらい/どのくらい」を使うこともできる。(例文⑥⑦)
- C. 「時間 30 分」は「時間半」と言うことが多い。(例文③)

### 先生へ

「時間」「分」は助数詞。

「分」は、「分間」ということがある。

例 10分間休めます。( = 10分休みます )

「分間」は、「時間」といっしょに使えない。

例 1時間15分練習します。

数によって音が変化するもの(表の青字のところ)があるので、注意すること。

#### 【関連項目】

語-05 数  
語-01 時刻  
語-08 くらい/ごろ

#### 【「れんしゅう編」の練習】

4-3 7時間くらいねます  
4-6 田中さんの一日  
4-7 いとうさんの一週間



基 本

例 文

- ① A: 毎日何時間まいにちなん じ かんぐらいね寝ますか。  
 B: 8時間じ かんぐらいね寝ます。
- ② A: さいふなかの中なかにいくらいくらぐらいぐらいありますか。  
 B: 3000円えんぐらいぐらいあります。
- ③ A: 何枚なんまいぐらいシ-ディー もCDもを持もっていますか。  
 B: 30枚まい もぐらいも持もっています。
- ④ A: いつも何時なん じごろかえうちへ帰かえりますか。  
 B: 6時じごろかえに帰かえります。
- ⑤ 7時じごろお起おきます。

解 説

- A. 時間じ かん、金額きんがく、数量すうりょうに「ぐらい」がついて、大体だいたいの時間じ かん、金額きんがく、量りょうを表あらわす。(例文①②③)
- B. 時刻じこくに「ごろ」がついて、だいたいだいたいの時刻じこくを表あらわす。(例文④⑤)
- C. 時刻じこくの後あとには「に」がつくが、「時刻 + ごろ」の場合ばあいは、「に」を省略しょうりゃくすることができる。  
 (例文⑤)
- D. 時間じ かん、金額きんがく、数量すうりょうをたずねる疑問詞ぎもんしのあとに「ぐらい」を、「時刻」をたずねる疑問詞ぎもんしのあとあとに「ごろ」をつけることができる。(例文①②③④)

例 文

⑥ 3<sup>がつ</sup>月<sup>さくら</sup>ごろ、桜<sup>さ</sup>が咲きます。

⑦ 1980<sup>ねん</sup>年<sup>くるま</sup>ごろから車<sup>おお</sup>が多くなりました。

解 説

E. 「ごろ」は「<sup>ねん</sup>年」「<sup>がつ</sup>月」「<sup>にち</sup>日」の<sup>あと</sup>後にもつけることができる。(例文⑥⑦)

先生へ

「<sup>こんにちう</sup>きょう」「<sup>こんげつ</sup>今週」「<sup>ことし</sup>今月」「<sup>とし</sup>今年」などの時を表すことばにはつけられない。

「<sup>まへ</sup>ぐらい」「<sup>く</sup>ごろ」の前に来る数字は区切りのよい数字(3<sup>すうじ</sup>時間、1000<sup>えん</sup>円、9<sup>じ</sup>時など)が使われることが<sup>おほ</sup>多い。

【関連項目】

語 -01 時刻  
語 -06 助数詞  
語 -07 時間

【「れんしゅう編」の練習】

4-2 わたしの一<sup>にち</sup>日  
4-3 7時間ぐ<sup>ら</sup>い寝ます  
4-6 田中さんの一<sup>にち</sup>日  
4-7 いとうさんの一<sup>しゅう</sup>週間

# 文-11

## Vました

N	は	Vました Vませんでした
---	---	-----------------

	こうていけい 肯定形	ひていけい 否定形
ひかこ 非過去	Vます	Vません
かこ 過去	Vました	Vませんでした

### 基 本

#### 例 文

① きのうわたしは映画を見ました。

② A: 日曜日に何をしましたか。

B: 部屋の掃除をしました。

③ A: きのうの夜、日本語の勉強を  
しましたか。

B: いいえ、しませんでした。

④ A: 試験は終わりましたか。

B: はい、終わりました。

⑤ A: ドアを閉めましたか。

B: はい、閉めました。

#### 解 説

A. 過去の行為を表す。(例文①②③)

B. 動作の完了を表す。(例文④⑤)

C. Nが何であるかわかっている場合は、「Nは」を省略することがある。(例文②③④⑤)

例 文

- ⑥ 昔、学校の門のそばに大きい木がありました。
- ⑦ 子供のとき、うちに犬がいました。

解 説

D. 過去の状態を表す。(例文⑥⑦)

先生へ

「ました」は丁寧さを表す。

「もう」といっしょに使って動作の完了を示すことが多いので、「もう/まだ」を教える前に教えた方がよい。

例 A: もう昼ごはんを食べましたか。

B: いいえ、まだです。

【関連項目】

- 文-03 Vます  
文-12 Aかったです / ANでした  
文-13 Nでした

【「れんしゅう編」の練習】

- 5-2 テレビを見ましたか  
5-4 おいしかったですよ  
5-5 休みのこと  
5-6 手紙

# 文-12

## A かったです / AN でした

N	は	A かった A くなかった	です
---	---	------------------	----

N	は	AN	でした ではありませんでした
---	---	----	-------------------

### けいようし [イ形容詞]

	こうていけい 肯定形	ひていけい 否定形
ひ か こ 非過去	A いです	A くないです
か こ 過去	A かったです	A くなかったです

### けいようし [ナ形容詞]

	こうていけい 肯定形	ひていけい 否定形
ひ か こ 非過去	AN です	AN ではありません
か こ 過去	AN でした	AN ではありませんでした

## 基 本

### 例 文

- ① このかばんは高<sup>たか</sup>かったです。
- ② 公園<sup>こうえん</sup>はとても静<sup>しず</sup>かでした。
- ③ おととい、田中<sup>たなか</sup>さん<sup>あ</sup>に会いました。  
あまり元<sup>げん</sup>気<sup>き</sup>ではありませんでした。
- ④ パーティー<sup>りょうり</sup>の料理<sup>りょうり</sup>はおいしくな<sup>な</sup>か<sup>か</sup>った  
です。
- ⑤ A: 旅行<sup>りょこう</sup>は楽<sup>たの</sup>しかったですか。  
B: はい、とても楽<sup>たの</sup>しかったです。
- ⑥ A: 北海道<sup>ほっかいどう</sup>はどうでしたか。  
B: とても寒<sup>さむ</sup>かったです。
- ⑦ A: き<sup>えい</sup>のう<sup>が</sup>の映画<sup>えいが</sup>はどうでしたか。  
B: あまりおもしろくな<sup>な</sup>か<sup>か</sup>ったです。

- A. Nの性質や特徴について述べることができる。(例文①)
- B. 過去の時点での様子や状態を表す。(例文②③⑥)
- C. 過去のことについての話し手の意見、感想を述べるができる。(例文④⑤⑦)
- D. 「Nはどうでしたか」で、過去の時点での様子、状態をたずねることができる。(例文⑥)
- E. 「Nはどうでしたか」で、過去のことについての意見や感想を求めることができる。(例文⑦)
- F. イ形容詞「いい」は、活用が例外。

	肯定形	否定形
非過去	いいです	よくないです
過去	よかったです	よくなかったです

### 先生へ

日本語の形容詞は、2種類に分けられる。名詞を修飾するとき「い」で終わるものがイ形容詞(A)、「な」で終わるものがナ形容詞(AN)である。

話しことばでは、「ANではありませんでした」は、「ANじゃありませんでした」になることが多い。

否定の言い方には、「Aくありませんでした」「ANではなかったです」もある。

日本語能力試験4級相当のナ形容詞「きれい」「ゆうめい」「きらい」は、イ形容詞と混同しないように注意すること。

#### 【関連項目】

- 文-06 Aいです / ANです
- 文-11 Vました
- 文-13 Nでした

#### 【「れんしゅう編」の練習】

- 5-3 楽しかったですか
- 5-4 おいしかったですよ
- 5-5 休みのこと
- 5-6 手紙

# 文-13

## Nでした

N1	は	N2	でした ではありませんでした
----	---	----	-------------------

	こうていけい 肯定形	ひていけい 否定形
ひかこ 非過去	Nです	Nではありません
かこ 過去	Nでした	Nではありませんでした

### 基 本

#### 例 文

- ① きのうの天気は晴れでした。  
 ② 昔、ここは公園でした。  
 ③ 1970年まで父は中学の先生でした。  
 ④ きのうのお弁当はおにぎりではありませんでした。  
 ⑤ A: おとといは休みでしたか。  
 B: いいえ、休みではありませんでした。

#### 解 説

- A. 「N2でした」は、N1の過去についての説明。(例文①②③④⑤)  
 B. N1が何であるかわかっている場合は、「N1は」を省略することができる。(例文⑤)

#### 先生へ

話しことばでは、「Nではありませんでした」が「Nじゃありませんでした」になることが多い。  
 「Nでした」「Nではありませんでした」は丁寧な表現。

#### 【関連項目】

文-01 Nです  
 文-11 Vました  
 文-12 Aかったです / ANでした

#### 【「れんしゅう編」の練習】

5-4 おいしかったですよ  
 5-6 手紙

# 文-14

# Vましょう

V ましょう

## 基 本

### 例 文

- ① A: いっしょに帰<sup>かえ</sup>りましょう。  
B: はい。
- ② さあ、歌<sup>うた</sup>いましょう。
- ③ A: いっしょに昼<sup>ひる</sup>ごはんを食<sup>た</sup>べませんか。  
B: はい、食<sup>た</sup>べましょう。
- ④ A: プールへ行<sup>い</sup>きませんか。  
B: いいですね。行<sup>い</sup>きましょう。

### 解 説

- A. Vは、「行<sup>い</sup>きます 行<sup>い</sup>き」のように「Vます」から「ます」をとった形。  
B. 何かをしよう<sup>なに</sup>と誘<sup>さそ</sup>うときに使う。(例文①②)  
C. 誘<sup>さそ</sup>いを受け入れる返<sup>う</sup>事<sup>い</sup>をするときに使う。(例文③④)

### 先生へ

話し手の意志を表すときに使う。  
話し手の気持ちを表し、聞き手の気持ちをたずねていないので、やや強引な誘いの表現である。よつて、聞き手が誘いを受け入れる可能性が高いときに使った方がよい。  
誘いの表現の「Vませんか」と比較すると、質問の形で聞き手の気持ちをたずねている「Vませんか」の方が丁寧な表現。  
指示をするときに使うこともある。  
例(授業を始めるとき)始めましょう。  
誘いの返事の「Vましょう」は、「Vませんか」といっしょに教えるとよい。

#### 【関連項目】

文-03 Vます  
文-15 Vませんか

#### 【「れんしゅう編」の練習】

5-7 映画を見に行きませんか  
5-8 さそいましょう

# 文-15

## Vませんか

V      ませんか

V:Vます

### 基 本

#### 例 文

- ① A: いっしょに帰<sup>かえ</sup>りませんか。  
B: ええ、帰<sup>かえ</sup>りましょう。
- ② A: スケートに行<sup>い</sup>きませんか。  
B: いいですね。行<sup>い</sup>きましょう。
- ③ A: 土曜<sup>どようび</sup>日の午<sup>ご</sup>後、テニスをし<sup>し</sup>ませんか。  
B: 土曜<sup>どようび</sup>日ですか。土曜<sup>どようび</sup>日はちよつと。
- ④ A: あした、うちへ遊<sup>あそ</sup>びに<sup>き</sup>来ませんか。  
B: ありがとうございます。  
でも、あしたはちよつと。
- ⑤ A: 映<sup>えい</sup>画<sup>が</sup>を見<sup>み</sup>に行<sup>い</sup>きませんか。  
B: すみません。アル<sup>あ</sup>バ<sup>い</sup>イトがあります。

#### 解 説

- A. Vは、「行<sup>い</sup>きます 行<sup>い</sup>き」のように「Vます」から「ます」をとった形。<sup>かたち</sup>
- B. 誘<sup>さそ</sup>うとき<sup>つか</sup>に使う。(例文①②③④⑤)
- C. 誘<sup>さそ</sup>いを受けるとき、下<sup>した</sup>のよう<sup>い</sup>に言う。(例文①②)
- 「はい、Vましよう。」  
「ええ、Vましよう。」  
「いいですね。Vましよう。」
- D. 誘<sup>さそ</sup>いを断<sup>ことわ</sup>るとき、下<sup>した</sup>のよう<sup>い</sup>に言う。(例文③④⑤)
- 「はちよつと。」  
「すみません。<sup>りゆう</sup> (理由<sup>い</sup>を言う)。」

## 先生へ

しつもん かたち き て こうどう き も はな て き も あらわ  
質問の形で聞き手がある行動をする気持ちがあるかどうかをたずねる。話し手の気持ちを表すことで

さそ ひょうげん ていねい ひょうげん  
誘いの表現となっている「Vましょう」より丁寧な表現。

さそ う ひょうげん ことわ ひょうげん ひとお れんしゅう くふう  
誘いを受ける表現、断る表現は、一通りではないので、練習のとき工夫すること。

### 【関連項目】

文-14 Vましょう

文-03 Vます

### 【「れんしゅう編」の練習】

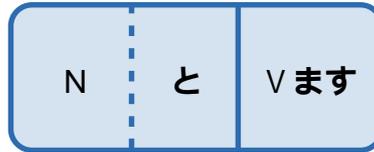
5-7 映画を見に行きませんか

5-8 さそいましょう

5-9 ポスター

# 助-14

## と(相手)



N : Vの行動をいっしょにする人

### 基 本

#### 例 文

- ① わたしは田中さんとデパートへ  
行きました。
- ② 夏休みに家族と旅行をしました。
- ③ 先週、佐藤さんといっしょに映画を  
見ました。
- ④ 電話で友だちと話しました。
- ⑤ A: だれとテニスをしましたか。  
B: 田中さんとしました。

#### 解 説

- A. 「と」は、Nが、Vの行動をいっしょにする相手であることを示す。(例文①②③④⑤)
- B. 相手がだれかたずねるときは、「だれと」を使う。(例文⑤)

#### 先生へ

「と」は助詞。

「と」は、「といっしょに」に言い換えることができる。しかし、「会う」「結婚する」など一人ではできない、必ず相手が必要な行動をするときの相手は、「といっしょに」に言い換えることができない。

例1 中山さんは、山本さんと結婚しました。

2 友だちといっしょに中学生とけんかをしました。(=友だちとわたしは中学生とけんかをしました。)

#### 【関連項目】

助-01 と(並列)

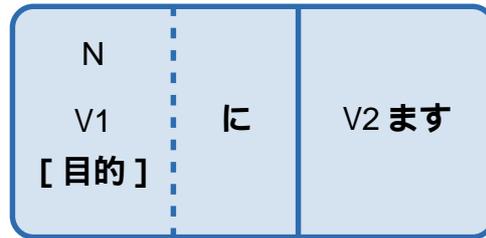
#### 【「れんしゅう編」の練習】

- 5-5 休みのこと  
5-6 手紙  
5-7 映画を見に行きませんか  
5-9 ポスター



# 助-15

## に(目的)



N : 移動の目的  
いどう もくてき

V1 : 移動の目的となる行動、Vます  
いどう もくてき こうどう

### 基 本

#### 例 文

① あした父はデパートへ買い物に行きます。  
ちち が もの い

ます。

② 田中さんはわたしの国へ勉強に来ました。  
たなか くに べんきょう き

た。

③ 来週、バスケットボールの試合を見に行きます。  
らいしゅう し あい み

いきます。

④ うちへ忘れ物を取りに帰ります。  
わすれもの と かい

⑤ A: どこへ行きますか。  
い

B: 公園へ行きます。  
こうえん い

A: 何をしに行きますか。  
なに い

B: バスケットボールをしに行きます。  
い

#### 解 説

A. V1は、「行きます 行き」のように「Vます」から「ます」をとった形。  
い い

B. 「に」は、N、V1が移動の目的であることを示す。(例文①②③④⑤)  
いどう もくてき しめ

C. NまたはV1で示される行動が行われる場所、つまり移動の目的地を示すときは、助詞「へ」を使う。(例文①②④)  
しめ こうどう おこな ばしょ いどう もくてき ち しめ じよし

D. 「何をしにVますか」で目的をたずねることができる。(例文⑤)  
なに もくてき

## 先生へ

「に」は助詞。

Nは、目的となる行動と結びつく名詞。

日本語能力試験4級相当の名詞: 朝ごはん、昼ごはん、晩ごはん、買い物、授業、パーティー、勉強、旅行、散歩、練習、仕事、スポーツ名など

V2は、移動を表す動詞。

日本語能力試験4級相当の動詞: 行く、来る、帰る、出かける

移動の目的地は行動が行われる場所でもあるが、助詞「で」を使わないように注意すること。

### 【関連項目】

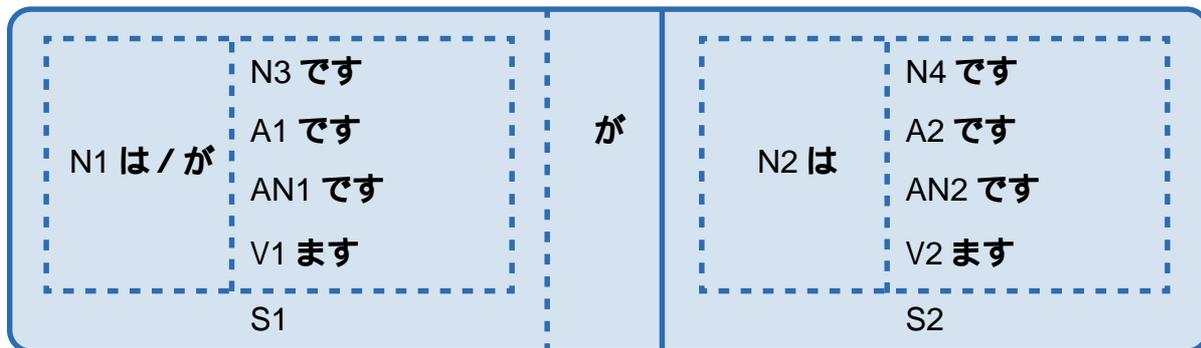
- 助-02 に(時)
- 助-07 に(場所)
- 助-18 に(基準)
- 助-21 に(帰着点)
- 助-26 に(対象)

### 【「れんしゅう編」の練習】

- 5-5 休みのこと
- 5-6 手紙
- 5-7 映画を見に行きませんか
- 5-8 さそいましょう
- 5-9 ポスター

# 助-16

# が（接続）



## 基 本

### 例 文

- ① A: <sup>にほんご</sup>日本語はどうですか。  
B: むずかしいですが、おもしろいです。
- ② <sup>はやし</sup>林さんは<sup>とも</sup>友だちと<sup>でんわ</sup>電話でよく<sup>はな</sup>話しますが、<sup>かぞく</sup>家族とあまり<sup>はな</sup>話しません。
- ③ <sup>たなか</sup>田中さんは<sup>きむら</sup>テニスをしますが、<sup>きむら</sup>木村さんはしません。
- ④ わたしは<sup>の</sup>コーラを<sup>たなか</sup>飲みますが、<sup>たなか</sup>田中さんは<sup>の</sup>ジュースを<sup>の</sup>飲みます。
- ⑤ <sup>つか</sup>たくさんテストがありました<sup>が</sup>、<sup>つか</sup>疲れませんでした。

### 解 説

- A. 「が」は、S1 と S2 をつなく。
- B. 「S1 が、S2」で、「が」は S1 と S2 の<sup>かんけい</sup>関係が、<sup>たいりつ</sup>対立する<sup>ないよう</sup>内容であることを<sup>しめ</sup>示す。  
(例文①②③④⑤)

例 文

⑥ A: 先生、来週の土曜日体育館を  
使いた  
いんですが、いいですか。

B: いいですよ。

⑦ きのう、新しい映画を見ましたが、おも  
しろかったです。

⑧ 趣味がいろいろありますが、今はコン  
ピュータゲームがいちばん好きです。

⑨(電話で)

A: 東京高校の小林ですが、けんじさん  
をおねがいします。

B: はい。

⑩(電話で)

A: けんじさんはいますか。

B: けんじは今いませんが。

A: そうですか。じゃ、またあとで電話  
します。

解 説

C. S1 は S2 の補充的説明で、前置きになる。(例文⑥⑦⑧⑨)

D. S2 を省略して相手に話す順番(ターン)を渡すことができる。(例文⑩)

先生へ

「が」は助詞。

N1 と N2 が同じ場合は、「N1 は/が」は省略される。また N1 と N2 が何であるかわかっている場合は、

「N1 は」「N2 は」を省略することがある。

話しことばでは、「が」の代わりに「けれども」「けど」でつなぐことがある。

【関連項目】

- 助-22 が(主語)
- 助-25 から(理由)

【「れんしゅう編」の練習】

- 5-6 手紙
- 8-6 ももし
- 11-3 インタビュー

# 文-16

# Vてください

Vて ください  
          くださいませんか

## 基 本

### 例 文

- ① 15 ページ<sup>み</sup>を見て<sup>み</sup>ください。  
② テープ<sup>かいわ</sup>の会話<sup>き</sup>を聞いて<sup>き</sup>ください。  
③ 答え<sup>こた</sup>を書<sup>か</sup>いて<sup>か</sup>ください。  
④ もう一度<sup>いちど</sup>説明<sup>せつめい</sup>して<sup>せつめい</sup>くださいませんか。  
⑤ A: すみません<sup>まど</sup>。窓<sup>あ</sup>を開<sup>あ</sup>けて<sup>あ</sup>ください  
          ませんか。  
          B: ええ、いいですよ。

### 解 説

- A. 「Vてください」は、丁寧<sup>ていねい</sup>に指示<sup>しじ</sup>したり命令<sup>めいれい</sup>したりするとき<sup>つか</sup>に使う。(例文①②③)  
B. 「Vてくださいませんか」は、話し手<sup>はな</sup>にとって利益<sup>りえき</sup>になるような行為<sup>こうい</sup>を聞き手<sup>き</sup>に丁寧<sup>ていねい</sup>に依頼<sup>いらい</sup>する  
とき<sup>つか</sup>に使う。(例文④⑤)

### 先生へ

動作主<sup>どうさしゅ</sup>を限定<sup>げんてい</sup>する場合は、「～は」<sup>は</sup>をつけて示<sup>しめ</sup>す。

例1 女<sup>おんな</sup>の生徒<sup>せいと</sup>は、立<sup>た</sup>ってください。

2 2年生<sup>ねんせい</sup>は、あした8時<sup>じ</sup>に学校<sup>がっこう</sup>へ来<sup>き</sup>てください。

「Vてくださいませんか」は、依頼<sup>いらい</sup>を受けるかどうか<sup>う</sup>を聞き手<sup>き</sup>にたずねる形<sup>かたち</sup>になっている。

#### 【関連項目】

- 活-01 Vて形  
文-29 Vないでください  
文-08 Nをください

#### 【「れんしゅう編」の練習】

- 6-2 わたしは先生です  
6-3 おねがいします  
6-4 名前を書いてください  
9-2 ペンを使わないでください  
9-5 お大事に



# 文-17

## Vてもいいです

Vて も いいです

### 基 本

#### 例 文

- ① A: 教室<sup>きょうしつ</sup>でお弁当<sup>べんとう</sup>を<sup>た</sup>食べてもいいですか。  
B: はい。
- ② A: もうランドへ<sup>い</sup>行ってもいいですか。  
B: はい、いいです。
- ③ A: これを<sup>か</sup>借りてもいいですか。  
B: はい、どうぞ。
- ④ A: ワープロを<sup>か</sup>借りてもいいですか。  
B: いいえ、ちょっと……。
- ⑤ A: 外<sup>そと</sup>に出<sup>で</sup>てもいいですか。  
B: いいえ。

#### 解 説

A. 「Vてもいいですか」で、聞き手に許可<sup>きょか</sup>を求めるときに使う。(例文①②③④⑤)

B. 許可<sup>きょか</sup>を求められて、許可<sup>きょか</sup>を与<sup>あた</sup>えるとき、下<sup>した</sup>のように言う。(例文①②③)

「はい。」

「はい、いいです。」

「はい、どうぞ。」

C. 許可<sup>きょか</sup>を求められて、許可<sup>きょか</sup>を与<sup>あた</sup>えないとき、下<sup>した</sup>のように言う。(例文④⑤)

「いいえ。」

「いいえ、ちょっと……。」

## 先生へ

「いいえ、だめです」「いいえ、Vないでください」「いいえ、いけません」は、強い断りの表現である。  
規則、法律にもとづいて許可を与えない場合に使用されることが多い。

例 A: 辞書を見てもいいですか。

B: いいえ、見ないでください。

「Vてもいいですか」は、日本語能力試験3級相当の項目。

「Vてもいいです」は、許可を与えるときの表現。

例 もう答えを見てもいいですよ。

ここでは許可を求める表現にしぼって練習した方がよい。

### 【関連項目】

活-01 Vて形

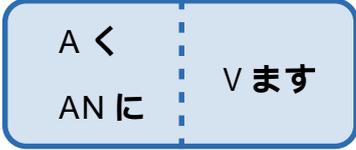
文-54 Vなくてもいいです

### 【「れんしゅう編」の練習】

6-5 どこですか

# 文-18

## A < / AN に V ます



### 基 本

#### 例 文

- ① た なか 田中さんは な まえ 名前を てい ない に か 書きました。
- ② しず 静かに べんきょう 勉強しましょう。
- ③ せんせい 先生は すこ 少し はや 速く はな 話しました。
- ④ きれい きれいに そうじ 掃除してください。
- ⑤ もっと もっと おお 大きく か 書いてください。
- ⑥ 早く 早く あつ 集まってください。

#### 解 説

A. 「A <」「AN に」は、しゅうしょく V を修飾している。(例文①～⑥)

		<small>めいし</small> <small>しゅうしょく</small> 名詞を修飾するとき	<small>どうし</small> <small>しゅうしょく</small> 動詞を修飾するとき
<small>けいようし</small> イ形容詞 (A)	おおきい	おおきいN	おおきくV
<small>けいようし</small> ナ形容詞 (AN)	べんり	べんりなN	べんりにV

B. ある動作をしているときの様態を表す。(例文①②③)

C. ある動作をした結果としての様態を表す。(例文④⑤⑥)

#### 先生へ

「A < / AN に V ます」の「A < / AN に」は、けいようし ふくしてきようほう 形容詞の副詞的用法。

「A < V ます」の形容詞の形に注意すること。

#### 【関連項目】

- 文-39 A < / AN に / N になります
- 文-06 A い です / AN です
- 文-07 A い / AN な N

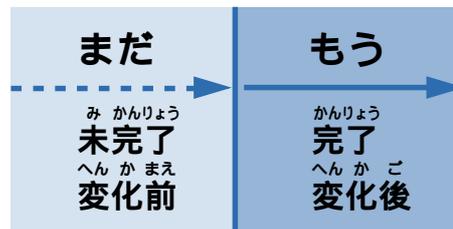
#### 【「れんしゅう編」の練習】

- 6-2 わたしは先生です
- 6-4 名前を書いてください



# 文-19 もう/まだ

もう	V A
まだ	AN N



## 基 本

### 例 文

- ① A: もう漢字<sup>かんじ</sup>を覚え<sup>おぼ</sup>ましたか。  
 B: はい、もう覚え<sup>おぼ</sup>ました。
- ② A: もう答<sup>こた</sup>えを書<sup>か</sup>きましたか。  
 B: いいえ、まだです。

### 解 説

- A. 「もう」は、ある行動<sup>こうどう</sup>や動作<sup>どうさ</sup>が完了<sup>かんりょう</sup>していることを表す。(例文①②)
- B. 「まだ」は、ある行動<sup>こうどう</sup>や動作<sup>どうさ</sup>が完了<sup>かんりょう</sup>していないことを表す。(例文②)

例 文

③ A: まだありますか。

B: いいえ、もうありません。

④ A: 先生はまだ教室にいますか。

B: はい、います。

⑤ A: まだ暑いですか。

B: いいえ、もう涼しくなりました。

⑥ A: 中山さんのお兄さんはもう大学生  
ですか。

B: いいえ、まだ高校生です。

解 説

C. 「まだ」は、予想される変化が起こらないで、それまでと同じ状態が続いていることを表す。

(例文③④⑤⑥)

D. 「もう」は、変化が起こって、それまでとは状態が変わったことを表す。(例文③⑤⑥)

先生へ

「まだです」は、動作が完了していない場合の答えとして使う。「まだVていません」と答えることもできる。(例文②)

当然ある行動や動作をするだろうという前提があって、それをすでに経験しているか否かを述べるときに使うことがある。行動、動作の完了と混乱しないように例文を提示するとき注意すること。

例 A: もう新しいコンピュータゲームをしましたか。

B: はい、しました。

完了/未完了を表す「もう/まだ」を練習するときには、例文②のように、「もうVました」「まだです」を使うとよい。

【関連項目】

文-11 Vました

【「れんしゅう編」の練習】

6-2 わたしは先生です

# 活-01

## Vて形

### Vます形 けい Vて形 けい

#### <グループ1>

います		かいます	かって
ちます	って	まちます	まって
ります		かえります	かえって
にます		しにます	しんで
びます	んで	あそびます	あそんで
みます		よみます	よんで
きます	いて	かきます	かいて
ぎます	いで	およぎます	およいで
します	して	はなします	はなして

いきます いった

#### <グループ2>

ます	て	おきます	おきて
		たべます	たべて

#### <グループ3>

します	して
きます	きて

### V辞書形 じしょけい Vて形 けい

#### <グループ1>

う		かう	かって
つ	って	まつ	まって
る		かえる	かえって
ぬ		しぬ	しんで
ぶ	んで	あそぶ	あそんで
む		よむ	よんで
く	いて	かく	かいて
ぐ	いで	およぐ	およいで
す	して	はなす	はなして

いく いった

#### <グループ2>

る	て	おきる	おきて
		たべる	たべて

#### <グループ3>

する	して
くる	きて

## 先生へ

「Vて形」は動詞の活用形の一つ。

「Vて形」は次のように使われる。

- 例1 立ってください。
- 2 もう一度言ってくださいますか。
- 3 あした、休んでもいいですか。
- 4 小林さんは青いシャツを着ています。
- 5 6時に起きて、ジョギングをしました。
- 6 ごはんを食べてから、歯をみがきます。
- 7 手紙に書いてありました。

「にます / んで」となる動詞は「死にます / 死ぬ」だけ。

グループ1の動詞とグループ2の"-imasu/-iru"動詞は、形から区別しにくい。グループ2の動詞は限られているので、グループ2の動詞を覚えさせると活用で混乱しない。

日本語能力試験4級相当のグループ2動詞: いる、見る、着る、起きる、降りる、借りる、浴びる

### 【関連項目】

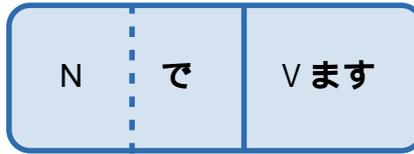
活-02 Vた形

### 【「れんしゅう編」の練習】

- 6-1 「て形」のビンゴ
- 6-2 わたしは先生です
- 6-3 おねがいします
- 6-4 名前を書いてください
- 6-5 どこですか

# 助-17

## で(手段 / 材料)



しゅだん ざいりょう  
N: 手段、材料

### 基 本

#### 例 文

- ① 先生は赤いチョークで答えを  
か  
書きました。
- ② A: まりさんは何で学校へ来ますか。  
でんしゃ き  
B: 電車で来ます。
- ③ A: 先生、このことばの意味は何ですか。  
じしょ しら  
B: 辞書で調べてください。
- ④ コンピュータで絵をかくことが  
できます。
- ⑤ A: おにぎりははしで食べますか。  
て た  
B: いいえ。手で食べます。
- ⑥ A: その荷物は何で送りますか。  
にもつ なに おく  
B: 航空便で送ります。

#### 解 説

- A. 「で」は、NがVの行為をするときの手段であることを示す。(例文①～⑥)
- B. どんな手段かをたずねるときは「何で」を使う。(例文②⑥)

## 例 文

- ⑦ 卵たまごと野菜やさいでサンドイッチつくを作しましょう。
- ⑧ くだものでジュースつくを作ることができます。
- ⑨ A:それは何なにでつく作った人形にんぎょうですか。  
 B:紙かみでつく作った人形にんぎょうです。

## 解 説

- C. 「で」は、Nが何なにかを作つくるときの材料ざいりょうであることを示しめす。(例文⑦⑧⑨)
- D. どんな材料ざいりょうかをたずねるときは「何なにで」つかを使う。(例文⑨)

## 先生へ

- 「で」じょしは助詞。
- 「何なにで」は、「なんで」ということもある。

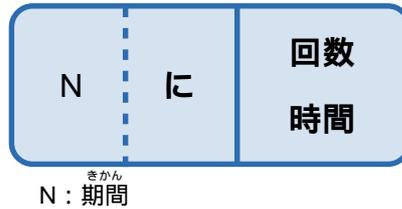
### 【関連項目】

- 助-09 で(基準/範囲)
- 助-11 で(場所)
- 助-27 で(原因/理由)

### 【「れんしゅう編」の練習】

- 6-2 わたしは先生です
- 6-3 おねがいします
- 6-4 名前を書いてください
- 7-5 どこで・どこを・どこから
- 7-6 うちから学校まで
- 7-8 どのコースがいいですか
- 9-8 料理を作しましょう

# 助-18 に(基準)



## 基 本

### 例 文

- |   |  |
|---|--|
| <p>① 1週間に3回掃除します。</p> <p>② 1年に1回健康診断があります。</p> <p>③ 2週間に1回日本語の試験があります。</p> <p>④ 1学期に3回テストがあります。</p> | <p>⑤ 1日に1時間プールで泳ぎます。</p> <p>⑥ 1日に2時間ピアノを練習します。</p> |
|---|--|

### 解 説

- A. 「に」は、Nが基準になる期間であることを示す。(例文①～⑥)
- B. 「Nに回数」のとき、ある期間内の頻度を表す。(例文①②③④)
- C. 「Nに時間」のとき、ある期間内に行われる行動やできごとの時間的長さを表す。  
(例文⑤⑥)

### 先生へ

「に」は助詞。

#### 【関連項目】

- 助-02 に(時)
- 助-07 に(場所)
- 助-15 に(目的)
- 助-21 に(帰着点)
- 助-26 に(対象)

#### 【「れんしゅう編」の練習】

6-7 時間割



V た こと が あります

基 本

例 文

- ① わたしは日本へ行ったことがあります。  
 ② てんぷらを食べたことがあります。  
 ③ A: ディズニーランドへ行ったことがありますか。  
 B: いいえ、ありません。
- ④ A: すもうを見たことがありますか。  
 B: はい、あります。  
 ⑤ A: 富士山に登ったことはありません。  
 B: じゃ、今度いっしょに登りましょう。

解 説

- A. Vの行動をした経験があるかどうか述べる。(例文①②③④⑤)  
 B. 「Vたこと」が何であるかわかっている場合は、「Vたことが」を省略することができる。(例文③④)

## 先生へ

「Vました」と「Vたことがあります」の<sup>ちが</sup>違い。

	Vました	Vたことがあります
か こ どう さ きゃっかんてきじょじゆつ 過去の動作の客観的叙述		×
けいけん か こ どう さ 経験としての過去の動作	×	
どう さ ひ にちじょうせい 動作の非日常性	と 問わない	
どう さ とくしゆせい 動作の特殊性	と 問わない	

例 <sup>にほん</sup> <sup>ちゃ</sup> <sup>の</sup> 日本のお茶を飲んだことがあります。( )

<sup>ちゃ</sup> <sup>の</sup> お茶を飲んだことがあります。(×)

「Vたことがあります」文では、以下のことばは使えない。

<sup>ちか</sup> <sup>か</sup> <sup>こ</sup> <sup>あらわ</sup> 近い過去を表すときのことば:きのう、おとといなど

<sup>じかん</sup> <sup>はば</sup> 時間の幅のないことば: <sup>じ</sup> 時、19 <sup>ねん</sup> 年など

「Vたことがあります」は、<sup>にほん</sup> <sup>ごのりよくしけん</sup> <sup>きゅうそうどう</sup> <sup>こうもく</sup> 日本語能力試験3級相当の項目。

<sup>し</sup> <sup>しょうじょう</sup> <sup>せいやく</sup> <sup>ちゅうい</sup> <sup>れんしゅう</sup> <sup>ひつよう</sup> 使用上の制約に注意して練習させる必要がある。

### 【関連項目】

文-11 Vました

活-02 Vた形

### 【「れんしゅう編」の練習】

7-2 めずらしい経験

7-4 旅行に行きましょう

# 文-21

## VたりVたりします

V1 たり V2 たり します

Vたり : Vた + り

### 基 本

#### 例 文

① わたしは夏なつ休みにテニスをしたり  
泳およいだりしました。

② 日曜日にちようびに弟おとうとは本ほんを読よんだりテレビを  
見みたりしています。

③ 友だちともとよく映画えいがを見みたりプールに行いっ  
たりします。

#### 解 説

A. 「Vたり」の形は、「泳およいだ + り 泳およいだり」のように「Vた形」に「り」をつけて作る。

B. 動作どうさのいくつかを例として並べるときに使う。ほかにも該当する動作どうさがあることを暗示する。

(例文①②③)

## 例 文

- ④ 飛行機ひこうきで東京とうきょうと大阪おおさかを行いったり来きたりします。
- ⑤ 雨あめが降ふったりやんだりしています。

## 解 説

C. 対照たいしょうてき的なことばを並ならべ、ある状態じょうたいまたは行為こういを交互こうごに繰くり返かえすことを表あらわす。(例文④⑤)

<p><b>【関連項目】</b></p> <p>活-02 V た形</p> <p>文-03 V ます</p>	<p><b>【「れんしゅう編」の練習】</b></p> <p>7-3 旅行の思い出</p> <p>7-4 旅行に行きましょう</p>
--	--

疑問詞 + か

Vます

## 基 本

### 例 文

① A: 冬休みふゆやすにどこかいへ行きましたか。

B: はい。北海道ほっかいどうへ行きました。

② A: 何かなに食べたませんか。

B: ええ、食べたましょう。

③ A: あそこあそこにだれだれかいます。

B: (人ひとががいるいるのにに気きがついて)

あ、田中たなかさんです。

④ A: あそこあそこに何かなにあります。

B: え、どこどこですか。

### 解 説

A. 「疑問詞 + か」は、不特定ふとくていの対象たいしょうや時とき、場所ばしょを表す。(例文①②③④)

B. 助詞じょしは、「疑問詞 + か」の後あとにつく。(例文①)

C. 「疑問詞 + か」が「がが(主語しゅご)」(p.104 参照)や「をを(対象さんしょう)」(p.38 参照)を伴うことともなととして使つかわれるとき、「がが(主語しゅご)」と「をを(対象さんしょう)」は省略しょうりゃくされる。(例文②③④)

### 先生へ

「疑問詞 + か」の後あとに、「N」「A + N」「AN + N」をつけて、「疑問詞 + か」の対象たいしょうとなるものを限定げんていすることができる。

例 1 何かなに冷つめたいもののが飲のみたいたいです。

2 いつか暇ひまなときえいに映画えいがに行いきましょう。

「あの人ひとがだれだれかわかりようほうますか」の「だれだれか」とは用法ちがが違ちがう。

「が」と「をを」が省略しょうりゃくされない場合ばあいもあるが、学習者がくしゅうしゃが混乱こんらんするのでこここゝでは教おしえない方ほうがよい。

#### 【関連項目】

文-23 疑問詞 + も...否定

#### 【「れんしゅう編」の練習】

7-3 旅行の思い出

# 文-23

## 疑問詞 + も...否定

疑問詞 + も

Vません

### 基 本

#### 例 文

① A:そこにだれかいますか。

B:いいえ、だれもいません。

② お金かねがありませんでしたから、何もなに買かいませんでした。

③ A:休みやすにどこかいへ行きましたか。

B:いいえ、どこへもい行きませんでした。

④ A:だれかあに会いましたか。

B:いいえ、だれにもあ会いませんでした。

#### 解 説

A. 対象たいしやうや時とき、場所ばしよなどを完全かんぜんに否定ひていするときつかに使う。(例文①②③④)

B. 助詞じょしは、「疑問詞ぎもんし」と「も」の間あいだに入る。(例文③④)

C. 「疑問詞 + も」が「がしゅご(主語)」(p.104 参照)や「をさんしやう(対象)」(p.38 参照)を伴ともなうことつかとして使しゅごわれるとき、「がしゅご(主語)」と「をたいしやう(対象)」は省略しょうりやくされる。(例文①②)

#### 先生へ

「いつも」は、頻度ひんどの副詞ふくしとして扱あつかうので、ここでは取り上げない。

#### 【関連項目】

- 文-22 疑問詞 + か...肯定
- 文-10 あまり...否定
- 文-43 しか...否定

#### 【「れんしゅう編」の練習】

- 7-3 旅行の思い出

# 活-02

## V た形

### V ます形 けい V た形 けい

#### <グループ1>

います		かいます	かった
ちます	った	まちます	まった
ります		かえります	かえった
にます		しにます	しんだ
びます	んだ	あそびます	あそんだ
みます		よみます	よんだ
きます	いた	かきます	かいた
ぎます	いだ	およぎます	およいだ
します	した	はなします	はなした

いきます いった

#### <グループ2>

ます	た	おきます	おきた
		たべます	たべた

#### <グループ3>

します	した
きます	きた

### V 辞書形 じしょけい V た形 けい

#### <グループ1>

う		かう	かった
つ	った	まつ	まった
る		かえる	かえった
ぬ		しぬ	しんだ
ぶ	んだ	あそぶ	あそんだ
む		よむ	よんだ
く	いた	かく	かいた
ぐ	いだ	およぐ	およいだ
す	した	はなす	はなした

いく いった

#### <グループ2>

る	た	おきる	おきた
		たべる	たべた

#### <グループ3>

する	した
くる	きた

<グループ1>

って	った	かって	かった
		まって	まった
		かえって	かえった
んで	んだ	しんで	しんだ
		あそんで	あそんだ
		よんで	よんだ
いて	いた	かいて	かいた
いで	いだ	およいで	およいだ
して	した	はなして	はなした
		いって	いった

<グループ2>

て	た	おきて	おきた
		たべて	たべた

<グループ3>

して	した
きて	きた

先生へ

「Vた形」は動詞の活用形の一つ。

「Vた形」は次のように使われる。

- わたしは京都へ行ったことがあります。
- 朝ごはんを食べたあとで、宿題をします。
- きのう見た映画はあまりおもしろくありませんでした。
- 木村さんは、病気ですから、旅行に行けなかったと思います。
- 田中さんは、たぶんうちに帰ったでしょう。

文末に置かれ、常体として使われる。

グループ1の動詞とグループ2の"-imasu / -iru"動詞は、形から区別しにくい。グループ2の動詞は限られているので、グループ2の動詞を覚えさせると活用で混乱しない。

日本語能力試験4級相当の動詞: いる、見る、着る、起きる、降りる、借りる、浴びる

【関連項目】

- 活-01 Vて形
- 活-05 常体形

【「れんしゅう編」の練習】

- 7-1 言えたらあげる
- 7-2 めずらしい経験
- 7-3 旅行の思い出
- 7-4 旅行に行きましょう

# 助-19 を(起点)



N: 場所、地点を表すことば

## 基本

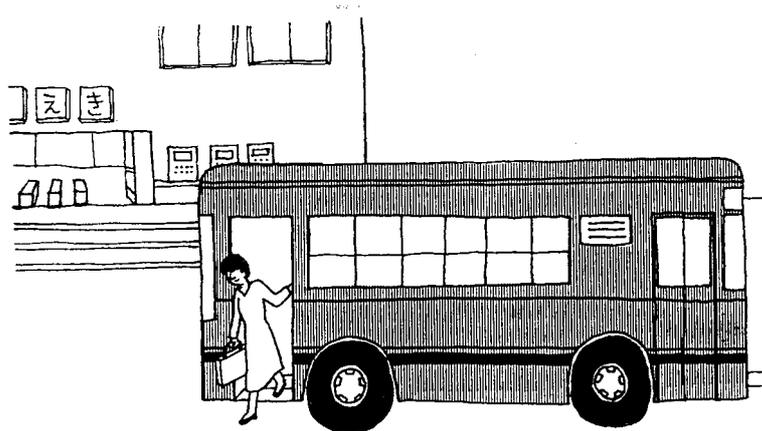
### 例文

① わたしは毎朝7時にうちを出ます。

③ 成田空港で飛行機を降りて、ホテルまで

② 駅の前でバスを降ります。

タクシーで行きました。



例文②

### 解説

A. 「を」は、Nが動作の起点や出発点であることを示す。(例文①②③)

### 先生へ

「を」は助詞。

「を」といっしょに使える移動を表す日本語能力試験4級相当の動詞は以下の通り。  
降りる、出る

#### 【関連項目】

- 助-08 を(対象)
- 助-20 を(経路)

#### 【「れんしゅう編」の練習】

- 7-5 どこで・どこを・どこから
- 7-6 うちから学校まで



N: ばしょ ちてん あらわ 場所、地点を表すことば

## 基 本

### 例 文

- ① このバスはとうきょうだいがくまえ とお 東京大学前とうきょうえき を通とって、東京駅とうきょうえき まで行いきます。
- ② A: なが はし わた 長い橋を渡わたりましたか。  
B: ええ。橋はしを渡わたって、島しまへ行いきました。
- ③ みち みぎがわ ある 道の右側を歩あるいてください。
- ④ みつ め かど ひだり ま 三つ目の角を左に曲まがってください。

### 解 説

- A. 「を」は、Nが移動いどうのときの通過点つうかてんであることを示しめす。(例文①)
- B. 「を」は、Nが移動いどうの経路けいろであることを示しめす。(例文②③④)

### 先生へ

「を」は助詞じょし。

「を」といっしょに使える移動つかを表す日本語能力試験4級相当の動詞いどうは以下の通り。あらわ にほんごのうりよくしけん きゅうそうどう どうし い か とお

とお ある はし と のぼ わた ま はい お い く かえ さん ぽ  
通る、歩く、走る、飛ぶ、登る、渡る、曲がる、入る、降りる、行く、来る、帰る、散歩する

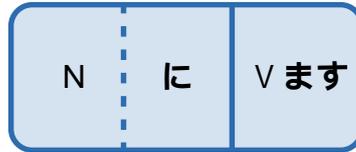
#### 【関連項目】

- 助-08 を(対象)  
助-19 を(起点)

#### 【「れんしゅう」編の練習】

- 7-5 どこで・どこを・どこから  
7-6 うちから学校まで  
7-7 駅はどこですか  
7-8 どのコースがいいですか

# 助-21 に(帰着点)

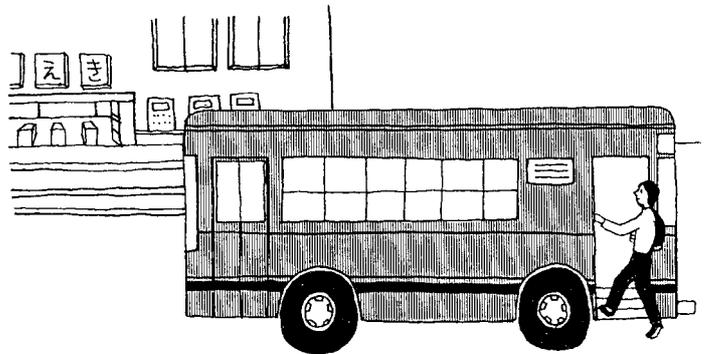


ばしょ ちてん あらわ  
N: 場所、地点を表すことば

## 基 本

### 例 文

- ① わたしは駅えきの前まえでバスのに乘ります。
- ② そこに荷物にもつを置おいてください。
- ③ A: 温泉おんせんに入はいったことがありますか。  
B: いいえ、ありません。
- ④ A: JAL001 便びんは、何時なんじに空港くうこうに着つきますか。  
B: 午後8時ごご じに空港くうこうに着つきます。
- ⑤ わたしはきのう8時じにうちかえに帰りました。
- ⑥ 中山なかやまさんは山やまに登のぼりました。



例文①

### 解 説

A. 「に」は、Nが動作の行き着く場所であることを示す。(例文①～⑥)

## 先生へ

「に」は助詞。

「へ」の代わりに「に」を使うことがある。

例 学校へ行きます。

学校に行きます。

「に」といっしょに使える日本語能力試験4級相当の動詞は以下の通り。

行く、来る、帰る、入る、出る、乗る、着く、止まる、並ぶ、登る、降りる、置く、つける、  
並べる、入れる、貼る

### 【関連項目】

- 助-02 に（時）
- 助-07 に（場所）
- 助-15 に（目的）
- 助-18 に（基準）
- 助-26 に（対象）
- 助-06 へ

### 【「れんしゅう編」の練習】

- 7-2 めずらしい経験
- 7-5 どこで・どこを・どこから
- 7-6 うちから学校まで
- 7-8 どのコースがいいですか

Vて います

## 基 本

### 例 文

① いま こばやし としょかん ほん よ  
今、小林さんは図書館で本を読んでいます。

② た なか ある  
A: あ、田中さんが歩いています。

B: (た なか き よ 田中さんに気がついて呼びかける)

た なか  
田中さん。

③ た なか いまなに  
A: 田中さんは今何をしていますか。

B: た ごはんを食べています。

④ まいあさ  
わたしは毎朝ジョギングをしています。

⑤ に ほん ご べんきょう  
A: いつから日本語を勉強していますか。

B: きょねん べんきょう  
去年から勉強しています。

⑥ やまもと とうきょう す  
山本さんは東京に住んでいます。

⑦ た なか  
田中さんはめがねをかけています。

⑧ たいいくかん まえ こばやし た  
体育館の前に小林さんが立っています。

⑨ やま だ せんせい し  
A: 山田先生を知っていますか。

B: し いいえ、知りません。

### 解 説

A. どう さ けいぞく あらわ  
動作が継続していることを表す。(例文①②③)

B. げんざい しゅうかん あらわ  
現在の習慣を表す。(例文④⑤)

C. どう さ けつ か けいぞく あらわ  
動作の結果の継続を表す。(例文⑥⑦⑧⑨)

例 文

- ⑩ A: 日本語の辞書はありますか。  
 B: すみません、今使っています。  
 ⑪ A: 木村さんをお願いします。  
 B: 木村さんは今電話をかけています。

解 説

D. 「今、Vています」の形で断るときに使うことができる。例えば、例文⑩では、「辞書はあるが、使用中なので貸せない」、例文⑪では「電話に出ることができない」ということを伝えている。(例文⑩⑪)

先生へ

「行く」「来る」「帰る」「出かける」は、「Vている」で、移動の結果、移動先にいるという意味になる。

例 A: もしもし、まりさんはいますか。

B: いいえ。まりは今買い物に行っています。

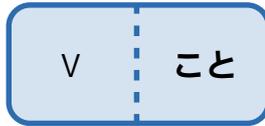
「知っています」の否定形は「知りません」になるので、注意すること。(例文⑨)

【関連項目】

- 活-01 Vて形
- 文-41 Vてあります
- 文-03 Vます
- 文-11 Vました

【「れんしゅう編」の練習】

- 8-4 友だちはどの人ですか
- 8-5 アルバイト



V: 辞書形  
じしょけい

基 本

例 文

- ① わたしの<sup>しゅみ</sup>趣味は、<sup>きって</sup>切手を<sup>あつ</sup>集めることと  
<sup>ほん</sup>本を<sup>よ</sup>読むことです。
- ② わたしは<sup>とも</sup>友だちとテレビゲームをする  
 ことが好きです。
- ③ <sup>がいこくご</sup>外国語を<sup>べんきょう</sup>勉強することは<sup>たの</sup>楽しいです。

解 説

- A. 「こと」は、<sup>どうし</sup>動詞の<sup>じしょけい</sup>辞書形について、<sup>どうし</sup>動詞を<sup>めいし</sup>名詞化する。
- B. 「Vこと」は、<sup>めいし</sup>名詞と同じように、<sup>ぶん</sup>文の<sup>こうせいよう</sup>構成要素になることができる。(例文①②③)
- C. 「Vこと」のVは、「Nを」「Nで」「Nに」などを伴うことができる。(例文①②③)
- <sup>かし</sup>お菓子<sup>つく</sup>を作ること      <sup>かし</sup>お菓子<sup>つく</sup>を作ります
- <sup>うみ</sup>海で<sup>およ</sup>泳ぐこと      <sup>うみ</sup>海で<sup>およ</sup>泳ぎます
- <sup>とも</sup>友だちに<sup>てがみ</sup>手紙<sup>か</sup>を書くこと      <sup>とも</sup>友だちに<sup>てがみ</sup>手紙<sup>か</sup>を書きます

先生へ

「Vこと」は、<sup>にほんごのうりよくしけん</sup>日本語能力試験3級相当の項目。

【関連項目】

- 活-03 V辞書形  
 文-26 Vこと/Nができます  
 文-69 の(名詞化)

【「れんしゅう編」の練習】

- 8-2 趣味は何ですか  
 8-3 友だちと何をしますか

### <グループ1>

います	う	かいます	かう
きます	く	かきます	かく
ぎます	ぐ	およぎます	およぐ
します	す	はなします	はなす
ちます	つ	まちます	まつ
にます	ぬ	しにます	しぬ
びます	ぶ	あそびます	あそぶ
みます	む	よみます	よむ
ります	る	かえります	かえる

### <グループ2>

ます	る	おきます	おきる
		たべます	たべる

### <グループ3>

します	する
きます	くる

## 先生へ

「V辞書形」は動詞の活用形の一つ。

「V辞書形」は次のように使われる。

- 例1 わたしの趣味は写真を撮ることです。
- 2 漢字を書くことができます。
- 3 学校へ行く前に、朝ごはんを食べます。
- 4 これはきょう昼ごはんに食べるサンドイッチです。
- 5 ヤンさんは日本語がわかると思います。
- 6 学校へ行くとき、電車に乗ります。
- 7 あしたはたぶん晴れるでしょう。

辞書の見出しに使われる活用形であることから「辞書形」と呼ばれる。

文末に置かれ、常体として使われる。

グループ1の動詞とグループ2の"-imasu/-iru"動詞は、形から区別しにくい。グループ2の動詞は限られているので、グループ2の動詞を覚えさせると活用で混乱しない。

日本語能力試験4級相当の動詞:いる、見る、着る、起きる、降りる、借りる、浴びる

### 【関連項目】

活-05 常体形

### 【「れんしゅう編」の練習】

- 8-1 辞書形の練習
- 8-2 趣味は何ですか
- 8-3 友だちと何をしますか

# 助 - 22

# が (主語)

N1	が	N2 です A です AN です V ます
----	---	--------------------------------

## 基 本

### 例 文

- ① 4月に桜の花が咲きます。  
がつ さくら はな さ
- ② 冬に雪がたくさん降ります。  
ふゆ ゆき ふ
- ③ わたしの部屋に電話があります。  
へや でんわ
- ④ グラウンドで生徒がサッカーの練習をしています。  
せいと れんしゅう
- ⑤ あしたヤンさんが日本語でスピーチをします。  
にほんご
- ⑥ A: パーティーにだれが来ますか。  
き  
 B: 小林さんと小林さんの友だちが来ます。  
こばやし こばやし とも き
- ⑦ A: どの科目がおもしろいですか。  
か もく  
 B: 社会と数学がおもしろいです。  
しゃかい すうがく
- ⑧ A: どの人が田中さんですか。  
ひと たなか  
 B: 木村さんのとなりの人です。  
きむら ひと

### 解 説

- A. 「が」は、N1 が文の主語であることを示す。(例文①～⑧)  
ぶん しゅご しめ
- B. 動作や存在、状態などの主体を示す。(例文①～⑧)  
どうさ そんざい じょうたい しゅたい しめ
- C. 現象や、できごと、状態を述べるときに使う。(例文①②③④⑤)  
げんしょう じょうたい の つか
- D. 主語の部分が疑問詞になったとき、その答えに使う。(例文⑥⑦⑧)  
しゅご ぶぶん ぎもんし こた つか

## 先生へ

「が」は助詞。

主語に当たる部分が対比される場合と主題になる場合は「が」ではなく、「は」を使う。

聞き手がまだ知らないと話し手が思っている情報を述べるときに使う。

例 A: あした田中さんが来ます。

B: そうですか。

### 【関連項目】

助-16 が（接続）

### 【「れんしゅう編」の練習】

8-5 アルバイト

8-6 もしもし

8-7 日本の学校制度

# 助 - 23

# は

N1	は	N2 です A です AN です V ます
----	---	--------------------------------

## 基 本

### 例 文

- ① わたしのうちは東京にあります。
- ② 桜の花はきれいです。
- ③ A: 田中さんはどんな人ですか。  
B: きれいな人です。
- ④ A: 机の上に辞書がありますか。  
B: いいえ、辞書はありません。
- ⑤ A: この本を読みましたか。  
B: はい、その本はもう読みました。
- ⑥ A: お仕事は。  
B: 高校で日本語を教えています。
- ⑦ わたしは両親と住んでいますが、兄は一人で住んでいます。
- ⑧ 犬はすきですが、猫はきらいです。
- ⑨ 吉田さんとはテニスをしますが、田中さんとはしません。
- ⑩ 田中さんにはもう手紙を書きました。
- ⑪ 駅からは歩いて10分ぐらいです。
- ⑫ わたしの部屋にはテレビがあります。

### 解 説

- A. 「は」は、N1 が文の主題であることを示す。(例文①～⑥⑩⑪⑫)
- B. 「は」は、N1 をほかと対比的に述べるときに使う。(例文⑦⑧⑨)
- C. 「は」は、疑問詞につけることはできない。
- D. ほかの助詞といっしょに使うことができる。(例文⑨⑩⑪⑫)

N に / へ / で / と / から / まで

N には / へは / では / とは / からは / までは

N が / を

N は

- E. 「は」は「ワ」と発音する。

## 先生へ

「は」は助詞。

「は」は、1文の中に複数現れることがある。

例 わたしはきのうはうちにいました。

主題を表す「は」は、従属節（「...とき」「...まえに」など）連体修飾節（「A / AN + N」  
「V + N」）の中では使えない。

主題を表す「は」は、すでに話し手と聞き手が共有している情報となっているものにつく。

例 A: きのう山本さんに会いました。

B: そうですか。

A: 山本さんは田中さんといっしょでした。

### 【関連項目】

助-03 も

### 【「れんしゅう編」の練習】

8-5 アルバイト

8-7 日本の学校制度

# 助 - 24 だけ

N

だけ

## 基 本

### 例 文

- ① すみませんが、100円<sup>えん</sup>だけ<sup>か</sup>貸<sup>か</sup>してくだ  
さい。
- ② 10分<sup>ぶん</sup>だけ<sup>やす</sup>休<sup>やす</sup>みましょ
- ③ 林<sup>はやし</sup>さん<sup>き</sup>だけ<sup>き</sup>来<sup>き</sup>ませんでした。
- ④ ジュース<sup>か</sup>だけ<sup>か</sup>買<sup>か</sup>いました。
- ⑤ 3年<sup>ねんせい</sup>生<sup>せい</sup>だけ<sup>し</sup>が<sup>あい</sup>試<sup>し</sup>合<sup>あ</sup>い<sup>で</sup>に出<sup>で</sup>ました。
- ⑥ ひら<sup>べんきょう</sup>が<sup>べんきょう</sup>な<sup>べんきょう</sup>だけ<sup>べんきょう</sup>を<sup>べんきょう</sup>勉<sup>べんきょう</sup>強<sup>べんきょう</sup>しま
- ⑦ 辞<sup>じ</sup>書<sup>しょ</sup>だけ<sup>つか</sup>は<sup>つか</sup>使<sup>つか</sup>わ<sup>つか</sup>ない<sup>つか</sup>で<sup>つか</sup>くだ<sup>つか</sup>さい。

### 解 説

- A. 「だけ」は、対象、程度、範囲、数量などを示すNの後について、これらを限定し、強調する。  
(例文①～⑦)
- B. 文末は否定も肯定もある。(例文③④)
- C. 助詞「が」「を」「は」といっしょに使うときはこれらの前につく。「が」「を」は省略すること  
ができる。(例文⑤⑥⑦)

### 先生へ

「だけ」は助詞。

「だけ」を助詞「に」「で」「と」「へ」といっしょに使うとき助詞の前に置いても後に置いても  
よい。

- 例 1 先生<sup>せんせい</sup>は<sup>に</sup>日本<sup>ほんご</sup>語<sup>ご</sup>で<sup>はな</sup>だけ<sup>はな</sup>話<sup>はな</sup>しま
- 先生<sup>せんせい</sup>は<sup>に</sup>日本<sup>ほんご</sup>語<sup>ご</sup>だけ<sup>はな</sup>で<sup>はな</sup>話<sup>はな</sup>しま
- 2 これは<sup>みせ</sup>あの<sup>みせ</sup>店<sup>みせ</sup>に<sup>みせ</sup>だけ<sup>みせ</sup>あり<sup>みせ</sup>ま
- これは<sup>みせ</sup>あの<sup>みせ</sup>店<sup>みせ</sup>だけ<sup>みせ</sup>に<sup>みせ</sup>あり<sup>みせ</sup>ま

#### 【関連項目】

文-43 しか...否定

#### 【「れんしゅう編」の練習】

8-5 アルバイト



# 助 - 25 から(理由)

<p>N1 は / が</p> <p>N3 です A1 です AN1 です V1 ます</p> <p>S1</p>	から	<p>N2 は</p> <p>N4 です A2 です AN2 です V2 ます</p> <p>S2</p>
---	----	---

## 基 本

### 例 文

- ① あしたは日曜日にちようびですから、学校がっこうへ行きません。
- ② きのは祭日さいじつでしたから、学校がっこうは休みやすでした。
- ③ わたしは、風邪かぜですから、泳ぎおよません。
- ④ もう大丈夫だいじょうぶですから、心配しんぱいしないでください。
- ⑤ 薬くすりを飲のみましたから、もう大丈夫だいじょうぶです。
- ⑥ 医者いしやは夜よるも仕事しごとがありますから、大変たいへんです。
- ⑦ A: 雨あめがやみでましたから、出でかけましよう。  
B: はい。
- ⑧ A: どうしてわたしでんわばんごうの電話番号でんわばんごうがわかりましたか。  
B: 小林こばやしさんきに聞ききましたから。

### 解 説

- A. 「から」は、「です/ます」の活用形かつようけいで終わるS1とS2をつなぐ。(例文①～⑦)
- B. 「から」は、S1がS2で表あらわされていることりゆうの理由しめであることを示す。(例文①～⑦)
- C. 理由りゆうをたずねるときは、「どうしてS2か」をつかつかう。(例文⑧)
- D. S2で表あらわされることが何なにかわかっている場合は、S2は省略しょうりやくされることがある。(例文⑧)
- E. 「N2は」は文頭ぶんとうに来くることができる。(例文③)

<p>N2 は</p>	<p>N1が</p> <p>N3 です A1 です AN1 です V1 ます</p>	から	<p>N4 です A2 です AN2 です V2 ます</p>
-------------	--	----	---

## 先生へ

「から」は助詞。

理由をたずねる質問に答えるとき、「常体形 + からです」と言うこともできる。

例 A: 田中さんもあした来ますか。

B: いいえ、来ません。

A: どうしてですか。

B: 病気だからです。

S1の文末に常体形をとることもできる。

N1とN2が同じ場合は、「N1は/が」は省略される。また、N1とN2が何であるかわかっている場合は、「N1は」「N2は」を省略することがある。

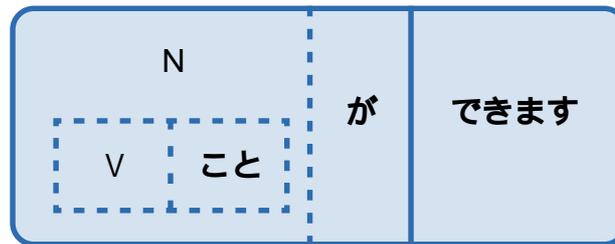
同じように理由を述べるときに使われる「ので」と比べ、「から」は話者の主観的判断にもとづいた理由を示す場合が多い。丁寧にまたは婉曲に理由を述べたいときには、「ので」が使われる。ただし、「ので」は日本語能力試験3級相当の項目。

### 【関連項目】

- 助-12 から/まで
- 助-27 で(原因/理由)
- 助-29 ので
- 文-30 Aくて/ANで/Nで
- 文-31 Vて

### 【「れんしゅう編」の練習】

- 8-5 アルバイト



じしょけい  
V: 辞書形

基 本

例 文

① <sup>ねんせい</sup>2年生は<sup>じ</sup>5時から<sup>たいいくかん</sup>体育館を<sup>つか</sup>使うことが  
できます。

② きょう、<sup>れんしゅう</sup>バスケットボールの練習をする  
ことができません。

③ A: <sup>でんわ</sup>あの電話で<sup>がいこく</sup>外国に<sup>でんわ</sup>電話ができますか。  
B: はい、できます。

④ <sup>なかやま</sup>中山さんは<sup>およ</sup>200メートル泳ぐことが  
できます。

⑤ わたしは<sup>かんじ</sup>漢字を<sup>か</sup>50書くことができます。

⑥ A: <sup>なかやま</sup>中山さんは<sup>くるま</sup>車の<sup>うんてん</sup>運転ができますか。  
B: いいえ、できません。

解 説

A. 「Vこと」は、<sup>おこな</sup>N1が行うことができる<sup>どうさ</sup>動作。(例文①②④⑤)

B. Nは「Nする」(<sup>どうし</sup>する動詞)のNにあたる<sup>めいし</sup>名詞。(例文③⑥)

C. Nあるいは「Vこと」をするのが<sup>かのう</sup>可能であることを<sup>あらわ</sup>を表す。(例文①②③)

D. Nあるいは「Vこと」をする<sup>のうりよく</sup>能力があることを<sup>あらわ</sup>を表す。(例文④⑤⑥)

E. N、「Vこと」が<sup>なん</sup>何であるかわかっている場合は、「Nが」「Vことが」を<sup>しょうりやく</sup>省略することができる。  
(例文③⑥)

## 先生へ

「できます」は「します」の可能形。

つか どうし いし どうし かぎ い か にほん ごのうりよくし けん きゅうそうとう む いし どうし つか  
使える動詞は意志動詞に限られる。以下の日本語能力試験4級相当の無意志動詞は使えない。

わかる、要る、疲れる、生まれる、曇る、咲く、降る、始まる、閉まる、晴れる、かかる

「する動詞」以外にも「Nができます」とすることができる場合がある。日本語能力試験4級では次のようなものがある。

テニスをします                      テニスができます

にほんご はな                      にほんご  
日本語を話します                      日本語ができます

「Vことができます」は、日本語能力試験3級相当の項目。

とも                      ようほう      ちが                      ちゅうい  
「友だちができます」「ビルができます」とは用法が違うので注意すること。

つか どうし せいげん                      れんしゅう                      ちゅうい  
使える動詞に制限があるので、練習のとき注意すること。

### 【関連項目】

- 活-03    V辞書形
- 文-25    Vこと
- 文-52    V(られ)ます(可能)

### 【「れんしゅう編」の練習】

- 9-6    スポーツテスト
- 9-7    健康チェック

# 文-27

## NがA / ANです



### 基 本

#### 例 文

- ① た なか 田中さんは かみ 髪が なが 長いです。
- ② た なか 田中さんは せ 背が たか 高いです。
- ③ なか やま 中山さんは ちから 力が つよ 強いです。
- ④ うち うちの ねこ 猫は め 目が きれい きれいです。
- ⑤ わたしは きのう きのう から から のど のどが いた 痛いです。
- ⑥ A: あたま 頭が いた 痛いですか。  
B: いいえ、いた 痛くないです。
- ⑦ A: た なか 田中さん、だいじょうぶ 大丈夫ですか。  
B: ちょっと きぶん 気分が わる 悪いです。

#### 解 説

- A. 「N2がA / ANです」は、N1についての説明。
- B. ひと 人や い 生きものの せいしつ 性質や とくちょう 特徴を述べるときに使う。(例文①②③④)
- C. ひと 人や い 生きものの しょうじょう 症状や けんこうじょうたい 健康状態を述べるときに使う。(例文⑤⑥⑦)
- D. N1が何であるかわかっている場合は、「N1は」を省略することがある。(例文⑥⑦)

例 文

- ⑧ この町は道が狭いです。
- ⑨ この絵は色がきれいです。
- ⑩ このカメラは使い方が簡単です。
- ⑪ あの店はCDが安いです。
- ⑫ 田中さんはバスケットボールがじょうずです。
- ⑬ わたしは歌がへたです。
- ⑭ わたしはピアノが得意です。

解 説

- E. もの、場所などの性質や状態、特徴を述べる時に使う。(例文⑧⑨⑩⑪)
- F. じょうず、へた、得意を表現する時に使う。ただし、「じょうず」は話し手自身のことに関して使えない。「じょうず」の代わりに「得意」を使う。(例文⑫⑬⑭)

先生へ

性質や特徴、症状や健康状態を述べる場合、N2は、N1の一部分または一要素。例えば、体の一部分、特徴的な要素など。

「N1はN2がA / ANです」と「N1のN2はA / ANです」の違い。

	「N1はN2がA / ANです」	「N1のN2はA / ANです」
主題	N1	N1のN2
用法	N1について詳しく述べる	N2の特徴を述べる

例 田中さんは髪が長いです。

田中さんの髪は長いです。

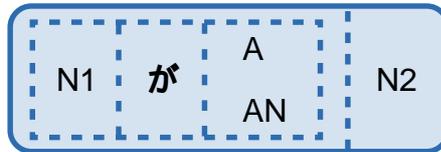
N1が人の場合は「きたない」「暗い」などマイナスの意味を持つ形容詞の使い方に気をつける。また各国の文化の中で形容詞がどういう意味を持つかにも注意すること。

【関連項目】

- 文-02 Nがすきです
- 文-06 Aいです / ANです

【「れんしゅう編」の練習】

- 9-4 宇宙人
- 9-5 お大事に
- 10-2 この人はだれですか



基 本

例 文

- ① 田中<sup>たなか</sup>さんは髪<sup>かみ</sup>が長い<sup>なが</sup>女<sup>おんな</sup>の人<sup>ひと</sup>です。
- ② クロ<sup>さかな</sup>は魚<sup>いぬ</sup>が好きな<sup>いぬ</sup>犬<sup>いぬ</sup>です。
- ③ あの背<sup>せ</sup>が高い<sup>たか</sup>人<sup>ひと</sup>がわたしの先生<sup>せんせい</sup>です。
- ④ スキー<sup>ひと</sup>がじょうずな<sup>ひと</sup>人<sup>ひと</sup>とスキー<sup>い</sup>に行きた<sup>い</sup>いです。
- ⑤ 誕生日<sup>たんじょうび</sup>に写真<sup>しゃしん</sup>がきれいな<sup>ほん</sup>本<sup>ほん</sup>をもらいました。

解 説

- A. 「N1がA / AN」は、N2を修飾<sup>しゅうしよく</sup>する。(例文①②③④⑤)
- B. 名詞<sup>めいし</sup>として文<sup>ぶん</sup>の構成要素<sup>こうせいようそ</sup>になる。(例文①②③④⑤)

先生へ

「N1が」の「が」の代わり<sup>か</sup>に、「の」が使われ<sup>つか</sup>ることがある。

例 田中<sup>たなか</sup>さんは髪<sup>かみ</sup>の長い<sup>なが</sup>女<sup>おんな</sup>の人<sup>ひと</sup>です。

「A / AN + N」では、A、ANが否定<sup>ひてい</sup>や過去<sup>かこ</sup>の常体形<sup>じょうたいけい</sup>になることがある。ただしここではいっしょに練習<sup>れんしゅう</sup>しないほうがよい。

例 1 あまり辛<sup>から</sup>くない食<sup>た</sup>べ物<sup>もの</sup>がありますか。

2 日本<sup>にほん</sup>でいちばんおもしろ<sup>なん</sup>かったことは何<sup>なん</sup>ですか。

【関連項目】

- 助-05 の
- 文-06 Aいです / ANです
- 文-07 Aい / ANなN
- 文-27 NがA / ANです
- 文-37 V + N

【「れんしゅう編」の練習】

- 9-7 健康チェック
- 10-2 この人はだれですか

Vないで ください

Vないで : Vない形+で

基 本

例 文

- ① コーヒーを飲まないでください。
- ② きょうはお風呂に入らないでください。
- ③ 試験のとき辞書を見ないでください。
- ④ A: 宿題を忘れないでください。

B: はい、わかりました。

解 説

- A. 「Vないで」は、「飲まない + で 飲まないで」のように「Vない形」に「で」をつけた形。
- B. 何かをしないように指示するときを使う。(例文①②③④)

先生へ

指示の場合は、聞き手が話し手の指示に従うのが当然の人間関係において使われる。例えば「医者と患者」「教室での教師と生徒」「受付と客」。

相手への強い要求を表す。この場合には、上のような人間関係の制限はない。

例 コンピュータを使っていますから、スイッチを消さないでください。

ロールプレイなどの練習のときには、人間関係に注意すること。

【関連項目】

- 活-04 Vない形
- 文-06 Aいです / ANです

【「れんしゅう編」の練習】

- 9-2 ペンを使わないでください
- 9-5 お大事に

# 活-04

## Vない形

### Vます形 けい Vない形 けい

#### <グループ1>

います	わない	かいます	かわない
きます	かない	かきます	かかない
ぎます	がない	およぎます	およがない
します	さない	はなします	はなさない
ちます	たない	まちます	またない
にます	なない	しにます	しなない
びます	ばない	あそびます	あそばない
みます	まない	よみます	よまない
ります	らない	かえります	かえらない

#### <グループ2>

ます	ない	おきます	おきない
		たべます	たべない

#### <グループ3>

します	しない
きます	こない

### V辞書形 じしょけい Vない形 けい

#### <グループ1>

う	わない	かう	かわない
く	かない	かく	かかない
ぐ	がない	およぐ	およがない
す	さない	はなす	はなさない
つ	たない	まつ	またない
ぬ	なない	しぬ	しなない
ぶ	ばない	あそぶ	あそばない
む	まない	よむ	よまない
る	らない	かえる	かえらない

#### <グループ2>

る	ない	おきる	おきない
		たべる	たべない

#### <グループ3>

する	しない
くる	こない

## 先生へ

「Vない形」は動詞の活用形の一つ。

「Vない形」は次のように使われる。

- 1 辛い食べ物を食べないでください。
- 2 わからない人は先生に聞いてください。
- 3 山田さんはきょう来ないと思います。
- 4 教室を使わないとき、電気を消してください。
- 5 あしたは雨が降らないでしょう。

文末に置かれ、常体として使われる。

1グループの「ます形」が「います」、V辞書形が「う」となる動詞の活用は、注意すること。

例 買います / 買う 買わない（「かあない」とならないようにする）

グループ1動詞とグループ2動詞の“-imasu / iru”動詞は、形から区別しにくい。グループ2の動詞を覚えさせると活用で混乱しない。

日本語能力試験4級相当の動詞: いる、見る、着る、起きる、降りる、借りる、浴びる

### 【関連項目】

活-05 常体形

### 【「れんしゅう編」の練習】

9-1 「ない形」クイズ

9-5 お大事に

(1)

A1 くて	A2 い	N3
AN1 で	AN2 な	
N1 で	N2 の	

(2)

A1 くて	A2 い	です
AN1 で	AN2	
N3 で	N4	

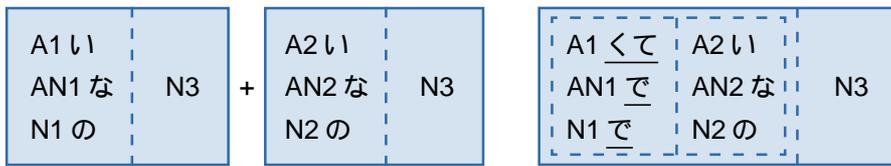
基 本

例 文

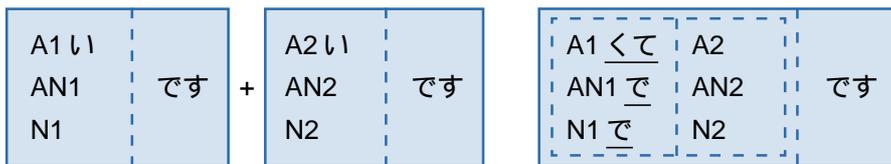
- (1) ① <sup>おお</sup>大きくて<sup>くろ</sup>黒いかばんはわたしのです。 (2) ⑦ <sup>はな</sup>この花は<sup>ちい</sup>小さくて<sup>あか</sup>赤いです。
- ② <sup>ちい</sup>きのう、<sup>べんり</sup>小さくて<sup>か</sup>便利なカメラを買いました。 ⑧ A: <sup>いい</sup>いいめがねですね。  
B: <sup>かる</sup>ええ、<sup>じょうぶ</sup>軽くて丈夫ですよ。
- ③ <sup>しんせつ</sup>わたしは親切で<sup>ひと</sup>やさしい人と<sup>けっこん</sup>結婚したいです。 ⑨ <sup>きむら</sup>木村さんは<sup>たい</sup>スポーツが<sup>だい</sup>大きめで、<sup>たい</sup>テニスが<sup>じょうず</sup>じょうずです。
- ④ <sup>げんき</sup>にぎやかで<sup>せんせい</sup>元気な先生は<sup>やま</sup>山田<sup>せんせい</sup>先生です。 ⑩ <sup>かわかみ</sup>川上さんのお父さんは<sup>とう</sup>医者で、<sup>いしや</sup>大学の<sup>だいがく</sup>教授<sup>きょうじゆ</sup>です。
- ⑤ <sup>いしや</sup>こちらは<sup>とうきやうだいがく</sup>医者で<sup>きやうじゆ</sup>東京大学の<sup>かわかみ</sup>教授の川上さんです。 ⑪ <sup>たなか</sup>田中さんは<sup>せ</sup>背が<sup>たか</sup>高く、<sup>こばやし</sup>小林さんは<sup>せ</sup>背が<sup>ひく</sup>低いです。
- ⑥ A: <sup>たてもの</sup>さくらマンションはどの<sup>たてもの</sup>建物ですか。 ⑫ <sup>きむら</sup>木村さんは<sup>たい</sup>テニスが<sup>じょうず</sup>じょうずで、<sup>こばやし</sup>小林さんは<sup>たい</sup>サッカーが<sup>じょうず</sup>じょうずです。
- B: <sup>かいだ</sup>その<sup>ちやいろ</sup>5階<sup>たてもの</sup>建てで<sup>ちやいろ</sup>茶色い<sup>たてもの</sup>建物です。 ⑬ <sup>たなか</sup>田中さんのお父さんは<sup>とう</sup>弁護士で、<sup>べんごし</sup>川上さんのお父さんは<sup>だいがく</sup>大学の<sup>きやうじゆ</sup>教授です。

# 解説

A. 二つ以上の名詞、形容詞をつないで、Nを修飾することができる。(例文①～⑥)



B. 「Aくて / ANで / Nで」で、二つ以上の文をつなぐことができる。(例文⑦～⑬)



## 先生へ

マイナス評価のことばとプラス評価のことばはつなげられない。つなげるときは「が(接続)」を使う。

例 この靴下は、丈夫で安いです。

この靴下は、丈夫ですが、高いです。

つぎ  
次のようなつながりもある。



例 田中さんは、目が大きくてめがねをかけています。

「Aくて / ANで / Nで」が、後に続く「Aい / AN / N / V」で表されることの原因または理由をあらわす場合もある。

例1 この本は漢字が多くて難しいです。

2 熱が高くて、学校へ行くことができませんでした。

### 【関連項目】

文-31 VてV

### 【「れんしゅう編」の練習】

- 10-1 赤くて丸いものは？
- 10-2 この人はだれですか
- 10-5 手紙をください

V1て

V2ます

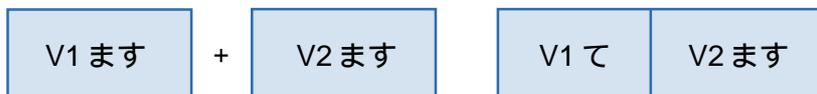
## 基 本

### 例 文

- ① あしたわたしは<sup>えき</sup> 駅で<sup>とも</sup> 友だちに<sup>あ</sup> 会って、  
いっしょにコンサート<sup>い</sup> に行きます。
- ② A: あしたの<sup>よてい</sup> 予定を<sup>おし</sup> 教えてください。  
B: 朝<sup>あさ</sup> 7時に<sup>じ</sup> 起きて、<sup>あさ</sup> 食堂で<sup>あさ</sup> 朝ごはんを  
食<sup>た</sup> べて、<sup>じ</sup> 8時から<sup>れんしゅう</sup> 練習します。
- ③ わたしは<sup>にほん</sup> 日本へ<sup>い</sup> 行って、<sup>み</sup> すもうを見たい  
です。
- ④ (折り紙<sup>お</sup> の<sup>がみ</sup> 折り方<sup>お</sup> を<sup>かた</sup> 教えて<sup>おし</sup> いる)  
二つに<sup>ふた</sup> 折<sup>お</sup> って、<sup>き</sup> はさみで<sup>き</sup> 切<sup>き</sup> ってください。
- ⑤ あそこ<sup>すわ</sup> に<sup>べんとう</sup> 座<sup>た</sup> って、<sup>た</sup> お弁当<sup>た</sup> を<sup>た</sup> 食べ<sup>た</sup> ましょう。
- ⑥ わたしは<sup>まいにち</sup> 毎日<sup>あちる</sup> 歩<sup>あちる</sup> いて<sup>がっこう</sup> 学校<sup>い</sup> へ行<sup>い</sup> きます。
- ⑦ テープ<sup>き</sup> を<sup>き</sup> 聞<sup>き</sup> いて、<sup>にほんご</sup> 日本語<sup>べんきょう</sup> を<sup>べんきょう</sup> 勉<sup>べんきょう</sup> 強<sup>べんきょう</sup> します。

### 解 説

A. 「Vて」で二つ以上の文をつなぐことができる。(例文①～⑦)



B. Vの形(「ます」「ました」「ています」「ましょう」「たいです」「てください」など)に関係なく、「Vて形」にすることができる。(例文①～⑦)

C. 順に行われる動作を述べるときに使う。このとき、2つの動作をする人は同一。(例文①②③④)

D. 動作が行われる状態を述べるときに使う。このとき、2つの動作をする人は同一。(例文⑤)

E. 動作が行われるときの方法や手段を表す。このとき、2つの動作をする人は同一。(例文⑥⑦)

例 文

⑨ 夏休みに中山さんは海でダイビングをして、山本さんは山に登りました。

⑩ 田中さんは東京に住んでいて、山本さんは大阪に住んでいます。

⑪ 雨が降って、野球ができませんでした。

⑫ 大きい台風が来て、学校が休みになりました。

解 説

F. 二人以上の人の動作、状態、二つ以上のできごとを並列して述べるときに使う。(例文⑨⑩)

G. 「V1て、V2ます」で、「V1て」が原因、「V2ます」が結果であることを表すことができる。

(例文⑪⑫)

先生へ

「Vて」と「Vてから」の違い。

	Vて	Vてから
順次動作 動作の並列		×
連続できる文の数	複数	2文まで
前後関係の明確さ		

例 田中さんが来て、木村さんが帰りました。

田中さんが来てから、木村さんが帰りました。

原因と結果の関係を表す「Vて」と「から(理由)」の違い。

	Vて	Vから
因果関係の明確さ		
客観性		

例 バスが混んでいて、乗ることができません。

バスが混んでいるから、乗りたくないです。

文と文をつなぐときに「と」を使わないように注意すること。

【関連項目】

- 活-01 Vて形
- 文-30 Aくて/ANで/Nで
- 文-33 Vてから
- 文-32 Vないで

【「れんしゅう編」の練習】

- 10-4 日曜日の計画
- 10-7 どうやってしますか

V1 ないで

V2 ます

V1 ないで : V ない形 + で

## 基 本

### 例 文

- ① 田中さんは学校へ行かないで、うちにい  
ました。
- ② きょうは電車に乗らないで、バスで行き  
ましょう。
- ③ お弁当を持たないで学校へ行きました。
- ④ 本を見ないで教えてください。

### 解 説

- A. 「Vないで」は、「行かない + で 行かないで」のように動詞の「Vない形」に「で」をつけ  
た形。
- B. 「V1ないで」は、動作 V1 が行われずに、代わりに V2 が行われることを表す。(例文①②)
- C. 「V1ないで」は、V2の動作が行われるときの状態を表す。(例文③④)

### 先生へ

「Vないで」は、「Vない形」の「て形」。

「動作が行われる状態」を示しているか否かは、V1とV2の相互の意味の関係による。

「田中さんが行かないで、わたしが行きます」のようにV1とV2の主体の違う形はここでは扱わない。

#### 【関連項目】

活-04 Vない形  
文-31 VてV

#### 【「れんしゅう編」の練習】

10-7 どうやってしますか



# 文-33

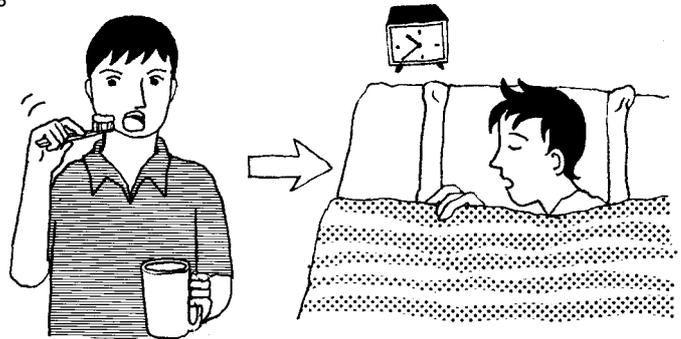
## Vてから

N1が	V1て	から	N2	は/が	V2ます
-----	-----	----	----	-----	------

### 基 本

#### 例 文

- ① <sup>がっこう</sup>学校<sup>お</sup>が終わって<sup>さとう</sup>から、佐藤<sup>さん</sup>はアルバイトをしています。
- ② わたしたちは、<sup>あめ</sup>雨がやんで<sup>しあい</sup>から、試合<sup>を</sup>しました。
- ③ <sup>こばやし</sup>小林<sup>き</sup>さんが来て<sup>しょくじ</sup>から、食事<sup>はじ</sup>を始めましょう。
- ④ <sup>たなか</sup>田中<sup>なかやま</sup>さんがスピーチ<sup>を</sup>してから、中山<sup>さん</sup>がスピーチ<sup>を</sup>しました。
- ⑤ <sup>たなか</sup>田中<sup>は</sup>さんは、歯<sup>を</sup>をみがいて<sup>ね</sup>から、寝<sup>ます</sup>ます。



例文⑤

#### 解 説

- A. V1がV2より先の動作あるいはできごと。(例文①～⑥)
- B. 二つの動作やできごとの前後関係をはっきりと言うときに使う。(例文①～⑥)
- C. 「N2は」は、文頭に来ることができる。(例文②⑤⑥)

N2	は	N1が	Vて	から	V2ます
----	---	-----	----	----	------

## 先生へ

「Vてから」節内の主語 N1 は、常に「が」をとる。

「Vてから」と「Vて」の違い。

	Vてから	Vて
順次動作 連続できる文の数 前後関係の明確さ	2文まで	複数

例 田中さんが歌を歌ってから、山本さんがピアノを弾きました。

田中さんが歌を歌って、山本さんがピアノを弾きました。

N1とN2が同じ場合は、「NはV1てからV2ます」となり、その方がやさしいので、先に提示して練習するとよい。

### 【関連項目】

活-01 Vて形  
文-31 VてV  
文-36 あとで  
文-57 たら

### 【「れんしゅう編」の練習】

10-3 どっちが先  
10-4 日曜日の計画  
10-5 手紙をください  
10-6 わたしの友だち



## 先生へ

直接的、生理的欲求などの場合、対象を示す「を」は「が」に代わることがある。

例1 (暑い日に、走ったあとで)

水が飲みたいです。

2 A: 何が食べたいですか。

B: そうですね。サンドイッチが食べたいです。

「Vたいんですが」を使って、婉曲的に要望を表したり、許可を求めたりすることができる。

例1 A: すみません、山田先生と話したいんですが。

B: はい、ちょっと待ってください。

2 A: 先生、お手洗いにいきたいんですが。

B: はい、いいですよ。

あまり親しくない相手や敬意を表すべき相手に対して、要望を聞くと、「～たいですか」は使えない。

願望の対象がものときは、「Nがほしいです」を使う。

「Vたいです」は、2人称や3人称の人の願望を表現することはできない、また、直接的な欲求表現で、相手や状況によっては使えないので、練習のとき注意すること。

### 【関連項目】

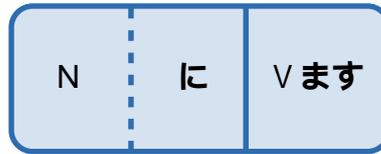
文-09 Nがほしいです

### 【「れんしゅう編」の練習】

10-5 手紙をください

10-8 わたしの将来

# 助 - 26 に(対象)



N : V で表す動作の向けられる人

## 基 本

### 例 文

- ① 山田先生は田中さんに本を貸しました。  
 ② 木村さんは友だちに家族の写真を見せました。

- ③ A: 先生にこれを渡してください。  
 B: はい。  
 ④ A: だれが田中さんに電話をかけますか。  
 B: わたしがかけます。

### 解 説

A. 「に」は、Nが動作・行為の向けられる対象であることを示す。(例文①②③④)

### 先生へ

「に」は助詞。

「に(対象)」といっしょに使う日本語能力試験4級相当の動詞は以下の通り。

売る、電話をかける、電話をする、会う、教える、返す、渡す、話す、見せる、貸す、頼む、手紙を出す、手紙を書く、言う

「会う」は、相手を示すとき「に」と「と」どちらも使える。

例 駅で友だちに会いました。「会う」相手がだれかを示す。

駅で友だちと会いました。「会う」という行為をいっしょにする相手を示す。

#### 【関連項目】

- 助-02 に(時)
- 助-07 に(場所)
- 助-15 に(目的)
- 助-18 に(基準)
- 助-21 に(帰着点)

#### 【「れんしゅう編」の練習】

- 10-5 手紙をください



# 文-35 まえに

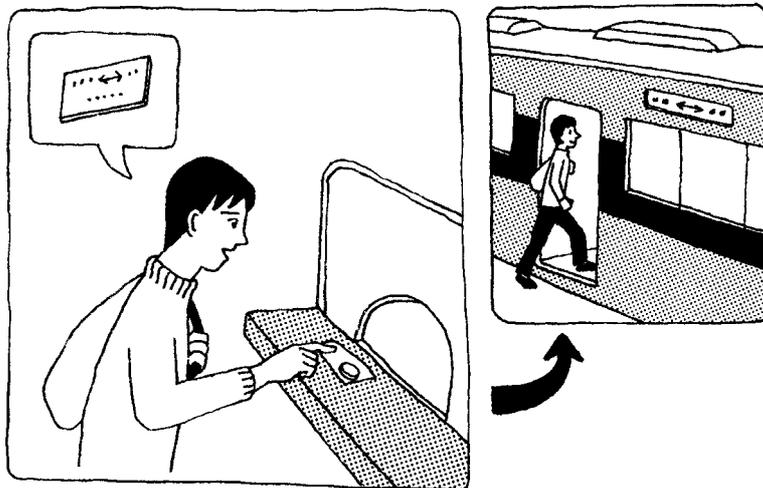
N1が	V1 (辞書形)	まえに	N2	は/が	V2ます
N3	の				

N3: 動作と結びつく名詞やできごとを表す名詞

## 基 本

### 例 文

- ① <sup>たなか</sup>田中さんは<sup>まいにちね</sup>毎日<sup>にっき</sup>寝る<sup>か</sup>まえに、日記を書きます。
- ② <sup>せんせい</sup>先生の<sup>へや</sup>部屋に<sup>はい</sup>入る<sup>がくせい</sup>まえに、学生は<sup>がくせい</sup>ノックをします。
- ③ <sup>でんしゃ</sup>電車に<sup>の</sup>乗る<sup>おとこ</sup>まえに、男の<sup>ひと</sup>人は<sup>きっぷ</sup>切符を<sup>か</sup>買いました。



例文③

- ④ わたしは<sup>い</sup>プールへ<sup>ひる</sup>行く<sup>た</sup>まえに、<sup>た</sup>昼ごはんを<sup>た</sup>食べました。
- ⑤ わたしは<sup>あめ</sup>雨が<sup>ふ</sup>降る<sup>かえ</sup>まえに、<sup>かえ</sup>うちへ<sup>かえ</sup>帰りました。
- ⑥ <sup>やまもと</sup>山本さんが<sup>りゅうがく</sup>アメリカへ<sup>なかやま</sup>留学する<sup>りゅうがく</sup>まえに、<sup>なかやま</sup>中山さんは<sup>りゅうがく</sup>ドイツへ<sup>りゅうがく</sup>留学しました。
- ⑦ <sup>りょこう</sup>旅行の<sup>か</sup>まえに、<sup>か</sup>スーツケースを<sup>か</sup>買いました。
- ⑧ <sup>あさ</sup>いつも朝<sup>あさ</sup>ごはんの<sup>あさ</sup>まえに、<sup>あさ</sup>ジョギングを<sup>あさ</sup>します。
- ⑨ <sup>じゅぎょう</sup>授業の<sup>しゅくだい</sup>まえに、<sup>だ</sup>宿題を<sup>だ</sup>出しました。

# 解説

- A. 「まえに」は、V1、N3あらわで表されることよりV2あらわで表されることの方が先ほう さきであることを示す。(例文①～⑨)
- B. 「まえに」節の主語N1せつ しゅごは、「が」をとる。(例文⑤⑥)
- C. V2の時制じせいに関係なく、V1は辞書形じしょけい。
- D. 「N2」は文頭ぶんとうに来ることができる。(例文①④⑤)

N2	は	N1が V1(辞書形)	まえに	V2ます
		N3 の		

## 先生へ

「まえに」節の主語は、「の」をとることもある。

例 雨あめののふるまえにうちに着つきました。

N3にあたる日本語能力試験4級相当の名詞は以下の通り。

朝あさごはん、昼ひるごはん、晩ばんごはん、スポーツ名、買めいい物、勉べん強、旅りょ行、散さん歩、練れん習、電でん話、料りょう理、洗せん濯、  
掃そう除、仕し事、授じゅ業、パぱーティー、試し験、試し合、誕たん生じょう日

「Vないまえに」は使えない。「Vないうちに」となる。

N1とN2が同じ場合は、「N1が」は省略しょうりゃくされる。また、N1、N2が何であるかわかっている場合は、「N1が」「N2は」を省略しょうりゃくすることがある。

### 【関連項目】

文-36 あとで  
文-40 とき  
活-03 V辞書形

### 【「れんしゅう編」の練習】

11-1 どんな順番？

# 文-36 あとで

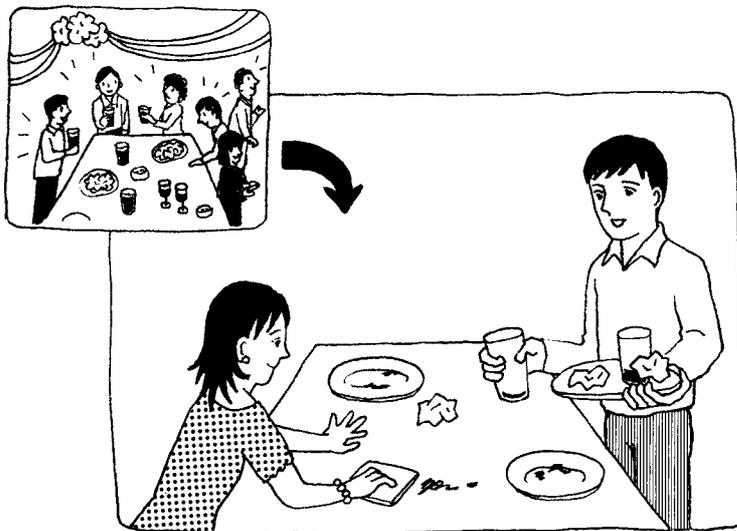
N1が	V1た	あとで	N2	は/が	V2ます
N3	の				

N3: 動作と結びつく名詞やできごとを表す名詞

## 基本

### 例文

- ① わたしはアルバイトが<sup>お</sup>終わったあとで、映画を見<sup>えいが み い</sup>に行きます。
- ② パーティーが<sup>お</sup>終わったあとで、わたしたちは部屋<sup>へや</sup>をかたづけました。



例文②

- ③ 教科書<sup>きょうかしょ</sup>を読<sup>よ</sup>んだあとで、生徒<sup>せいと</sup>は答<sup>こた</sup>えを書<sup>か</sup>きました。
- ④ 中山<sup>なかやま</sup>さんが質<sup>しつもん</sup>問したあとで、田中<sup>たなか</sup>さんが同<sup>おな</sup>じ質<sup>しつもん</sup>問をしました。
- ⑤ A: いつ昼<sup>ひる</sup>ごはんを食<sup>た</sup>べますか。  
B: 博物<sup>はくぶつかん</sup>館<sup>み</sup>を見たあとで、食<sup>た</sup>べましょう。
- ⑥ A: チェック<sup>ち</sup>インしたあとで、出<sup>で</sup>かけてもいいですか。  
B: いいですよ。
- ⑦ 授業<sup>じゅぎょう</sup>のあとで、掃<sup>そう</sup>除<sup>じ</sup>をします。

- A. 「あとで」は、V1、N3あらわで表されることよりV2あらわで表されることの方が後ほうであることを示す。(例文①～⑦)
- B. 「あとで」節の主語N1せつ しゅごは、「が」をとる。(例文①②④)
- C. V2の時制じせいに関係なく、V1は「た形」かんけいなく、V1は「た形」。
- D. 「N2は」は文頭ぶんとうに来ることができる。(例文①)

N2	は	N1が	V1た	あとで	V2ます
		N3	の		

### 先生へ

N1は、「の」をとることもある。

例 パーティーの終わったあとで、部屋をかたづけました。

N3にあたる日本語能力試験4級相当の名詞は以下の通り。

朝ごはん、昼ごはん、晩ごはん、スポーツ名、買い物、勉強、旅行、散歩、練習、電話、料理、洗濯、掃除、仕事、授業、パーティー、試験、試合、誕生日

N1とN2が同じ場合は、「N1が」は省略される。また、N1、N2が何であるかわかっている場合は、「N1が」「N2は」を省略することがある。

「Vたあとで」と「Vてから」の違い。

	Vたあとで	Vてから
はっきりした時間の前後関係 手順の表示(どういう順にするか)	×	
時の表示(いつするか)		×

例1 スリッパをぬいしてから和室に入ります。( )

スリッパをぬいだあとで和室に入ります。(×)

2 先生に相談してから、来てください。( )

先生に相談をしたあとで、来てください。( )

#### 【関連項目】

- 文-33 Vてから
- 文-35 まえに
- 文-40 とき
- 活-02 Vた形

#### 【「れんしゅう編」の練習】

- 11-1 どんな順番？



- A. 「N1がV」は、N2を修飾する。(例文①～⑮)  
 B. N1は、「が」をとる。(例文③④⑥⑨⑪)  
 C. 「V + N」は、名詞として文の構成要素になる。(例文①～⑮)

これは、あしたの授業で使う本です。

この作文を書いた人は、田中さんです。

そこにある本を取ってください。

きのう行ったレストランで山本さんに会いました。

## 先生へ

「N1がV」は、連体修飾節。

N1は、「が」の代わりに「の」をとることがある。ただし、理解があいまいになるような場合には、「の」を使わない。

例1 きのうわたしが行った店

きのうわたしの行った店

2 お父さんが病院に勤めている山本さん(病院に勤めているのはお父さん)

お父さんの病院に勤めている山本さん(病院に勤めているのは山本さん)

連体修飾節では、対比の「は」は使うことができる。

例 コーヒーは飲んで、紅茶は飲まない人

連体修飾節のVは、文全体の時制に影響を受けない。

連体修飾節では、結果の継続の「Vている」と完了の「Vた」は、置き換えることができる。

例 赤いセーターを着ている先生

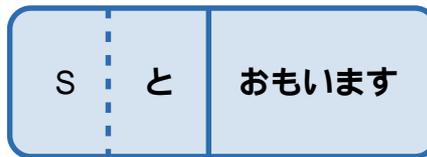
赤いセーターを着た先生

### 【関連項目】

- 活-05 常体形  
 助-05 の  
 文-07 Aい / ANなN  
 文-28 NがA / AN + N

### 【「れんしゅう編」の練習】

- 11-2 何ですか  
 11-3 インタビュー



はなし ないよう かんが  
S：話の内容や考え  
ぶんまつ じょうたいけい  
Sの文末：常体形

基 本

例 文

- ① わたしはあした<sup>あめ</sup>雨がふると<sup>おも</sup>思います。
- ② 先生<sup>せんせい</sup>はグランドに<sup>おも</sup>いると<sup>おも</sup>思います。
- ③ A: 田中<sup>たなか</sup>さんもきのうの<sup>い</sup>パーティーに<sup>おも</sup>行ったと<sup>おも</sup>思いますか。  
B: いいえ、行<sup>い</sup>かなか<sup>おも</sup>ったと<sup>おも</sup>思います。
- ④ 歌舞伎<sup>かぶき</sup>は<sup>おも</sup>おもしろいと<sup>おも</sup>思います。
- ⑤ 田中<sup>たなか</sup>さんの<sup>いぬ</sup>犬は<sup>おも</sup>とても<sup>おも</sup>かわいいと<sup>おも</sup>思います。
- ⑥ A: あした<sup>さむ</sup>も<sup>おも</sup>寒いと<sup>おも</sup>思いますか。  
B: ええ、た<sup>おも</sup>ぶん。
- ⑦ A: き<sup>い</sup>のう<sup>りょうり</sup>行<sup>おも</sup>った<sup>おも</sup>レストランの<sup>おも</sup>料理は<sup>おも</sup>おいしいと<sup>おも</sup>思いますか。  
B: いいえ、あ<sup>おも</sup>まり<sup>おも</sup>おいしく<sup>おも</sup>ない<sup>おも</sup>と<sup>おも</sup>思います。
- ⑧ ローマ<sup>じ べんり</sup>字<sup>おも</sup>は<sup>おも</sup>便利だと<sup>おも</sup>思います。
- ⑨ 昔<sup>むかし</sup>、こ<sup>おも</sup>こは<sup>おも</sup>にぎ<sup>おも</sup>やか<sup>おも</sup>だ<sup>おも</sup>ったと<sup>おも</sup>思います。
- ⑩ 田中<sup>たなか</sup>さんのお<sup>とう</sup>父<sup>さい</sup>さん<sup>おも</sup>は<sup>おも</sup>40<sup>おも</sup>歳<sup>おも</sup>ぐ<sup>おも</sup>ら<sup>おも</sup>いと<sup>おも</sup>思います。
- ⑪ A: こ<sup>おも</sup>れは<sup>おも</sup>だ<sup>おも</sup>れ<sup>おも</sup>のか<sup>おも</sup>ばん<sup>おも</sup>で<sup>おも</sup>すか。  
B: 田中<sup>たなか</sup>さん<sup>おも</sup>のか<sup>おも</sup>ばん<sup>おも</sup>だ<sup>おも</sup>と<sup>おも</sup>思います。
- ⑫ A: こ<sup>なん</sup>れは<sup>おも</sup>何<sup>おも</sup>だ<sup>おも</sup>と<sup>おも</sup>思いますか。  
B: さあ、わ<sup>おも</sup>か<sup>おも</sup>り<sup>おも</sup>ま<sup>おも</sup>せ<sup>おも</sup>ん。

## 解説

- A. 話し手の感想、意見を言うときに使う。(例文④⑤⑦⑧)
- B. 話し手の推量、判断を述べるときに使う。(例文①②③⑥⑨⑩⑪⑫)
- C. 「Sとおもいますか」で、聞き手の感想、意見、推量、判断をたずねる。(例文⑫)

### 先生へ

「と」は助詞。「と(引用)」(p.208)参照。

「とおもいます」は、日本語能力試験3級相当の項目。

「～とおもいます」の否定形は「～ないとおもいます」と「～とおもいません」の二つの形があるが、よく使う「～ないとおもいます」だけを練習した方がよい。

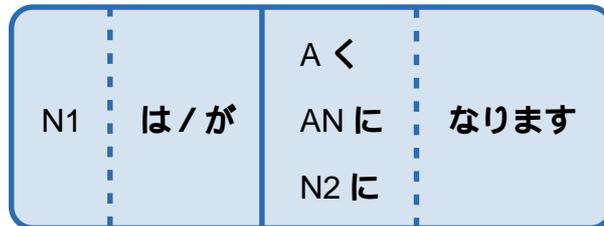
「とおもいます」は、二人称や三人称の人の感想や意見を表すことはできないので、練習のとき注意すること。

#### 【関連項目】

- 活-05 常体形  
 文-42 でしょう  
 文-67 V(よ)うとおもいます  
 助-30 と(引用)

#### 【「れんしゅう編」の練習】

- 11-4 どう思いますか  
 11-5 昔のまち・今のまち・将来のまち  
 11-6 どうなるとおもいますか



N1: 変化するもの

基 本

例 文

- ① 木村さんは、5センチ背が高くなりました。
- ② 去年植えた桜の木が大きくなりました。
- ③ 冬は、朝6時半ごろ明るくなります。
- ④ 中山さんはいつか有名になると思います。
- ⑤ 掃除をして、部屋がきれいになりました。
- ⑥ 田中さんは、来年の4月に3年生になります。
- ⑦ わたしは医者になりたいです。

解 説

- A. 「Aく / ANに / Nに」は、N1の変化した結果の状態を表す。(例文① ~ ⑦)
- B. 状態の変化を表すときに使う。(例文① ~ ⑦)

先生へ

「Aく / ANに / Nになります」では、変化が起こった結果が重視され、変化をもたらす行為が重視される。「Aく / ANに / Nにします」と区別される。

「なりました」は、変化が起こった結果、話している時点でもその状態が続いていることを暗示することがある。

例 うちの近くにコンビニができて、便利になりました。

【関連項目】

- 文-18 Aく / ANにVます
- 文-59 Aく / ANに / Nにします
- 文-73 Vこと / Nになります
- 文-79 Vようになります

【「れんしゅう編」の練習】

- 11-5 昔のまち・今のまち・将来のまち
- 11-7 わたしの国の一年

じょうたいけい  
常体形のまとめ

めいし 名詞	とうきょう 東京だ とうきょう 東京だった	とうきょう 東京ではない とうきょう 東京ではなかった
けいようし イ形容詞	あたら 新しい あたら 新しかった	あたら 新しくない あたら 新しくなかった
けいようし ナ形容詞	べんり 便利だ べんり 便利だった	べんり 便利ではない べんり 便利ではなかった
どうし 動詞	う 生まれる う 生まれた	う 生まれない う 生まれなかった

## 先生へ

じょうたいけい ぶんまつ じょうたい あらわ  
常体形が文末にくると常体を表す。

じょうたいけい つぎ つか  
常体形は、次のように使われる。

- 例 1 これはきのう買ったテープです。  
 2 あの人は日本語の先生だと思ひます。  
 3 道がわからないとき、電話で聞いてください。  
 4 あしたは雨が降るでしょう。

「です/ます」体のまとめ

名詞	東京です 東京でした	東京ではありません 東京ではありませんでした
イ形容詞	新しいです 新しかったです	新しくないです 新しくなかったです
ナ形容詞	便利です 便利でした	便利ではありません 便利ではありませんでした
動詞	生まれます 生まれました	生まれません 生まれませんでした

### 【関連項目】

- 活-02 V 形
- 活-03 V 辞書形
- 活-04 V ない形

### 【「れんしゅう編」の練習】

- 11-4 どう思いますか
- 11-5 昔のまち・今のまち・将来のまち
- 11-6 どうなるとおもいますか

# 文-40

# とき

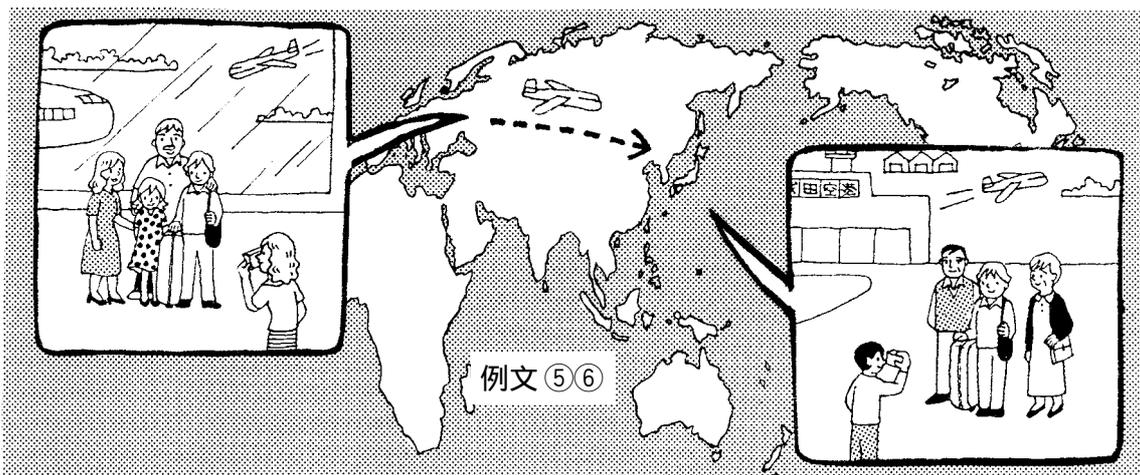
N1 が	V1(常体形)	とき	N2	V2 ます
	A1 い			A2 です
	AN1 な			AN2 です
	N3 の			N4 です
S1			S2	

N1:「とき」節の主語

## 基本

### 例文

- ① 漢字がわからないとき、わたしは辞書で調べます。
- ② わたしが晩ごはんを食べているとき、友だちがうちへ来ました。
- ③ わたしがうちへ帰ったとき、うちにだれもいませんでした。
- ④ 外国へ行くとき、パスポートを持って行きます。
- ⑤ 日本へ来るとき、空港で写真を撮りました。
- ⑥ 日本へ来たとき、空港で写真を撮りました。



- ⑦ 寝るとき、めがねをはずします。
- ⑧ 起きたとき、めがねをかけます。
- ⑨ うれしいとき、わたしは歌を歌います。
- ⑩ お母さんは若いとき看護婦でした。
- ⑪ 暇なとき、よく本を読みます。
- ⑫ リーさんは桜の花がきれいなとき、日本へ来ました。
- ⑬ 小学生のとき、よくお父さんとつりに行きました。
- ⑭ 子供のとき、にんじんがきれいでした。

# 解説

- A. 「とき」節は、S2で表されることがいつのこともを示す。(例文①～⑭)
- B. 「とき」節の主語N1は、「が」をとる。(例文②③⑫)
- C. S2で時制を表す。(例文①～⑭)
- D. 「とき」節は、V1とV2が表す動作の時間的前後関係を示すことがある。(例文⑤⑥⑦⑧)

「V1(非過去形) + とき、V2」	V1の行動が完了する前に V2の動作をする	= V1前に、V2
「V1(過去形) + とき、V2」	V1の行動が完了した後で V2の動作をする	= V1後で、V2

- E. 「A1 / AN1 / N3の」は、S2の時制に影響されない。(例文⑩⑪⑫⑬⑭)
- F. 「N2は」は、文頭に来ることができる。(例文⑩⑫)

N2	は	N1が	V1(常体形) A1い AN1な N3の	とき	V2ます A2です AN2です N4です
----	---	-----	-------------------------------	----	-------------------------------

## 先生へ

「とき」節の後に、時を示す助詞「に」をつけることができる。

V1が状態動詞(いる、あるなど)で、V2が過去形のときは、V1は非過去形、過去形のどちらでもよい。

例 部屋にいるとき、電話しました。  
部屋にいたとき、電話しました。

V2が過去形のとき、「とき」節で「A / AN / N」の常体形過去を使うこともできる。「とき」節で表されている状態が現在とは違うことを強調したいとき、過去形にする。

例 若いとき、よく泳ぎました。  
若かったとき、よく泳ぎました。

N1がN2と同じ場合は、「N1が」は省略される。また、N1、N2が何であるかわかっている場合、「N1が」「N2は」を省略することができる。

### 【関連項目】

活-05 常体形  
文-35 まえに  
文-36 あとで

### 【「れんしゅう編」の練習】

12-2 それはいつですか  
12-3 何と言いますか  
12-4 便利なマーク  
12-6 クイズ「日本」  
12-9 有名人

# 文-41

## Vてあります

N が Vて あります

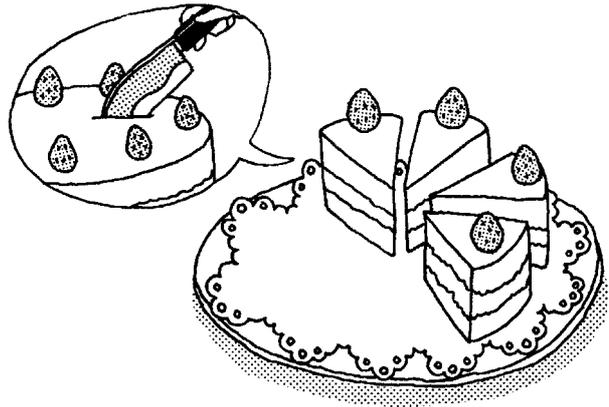
N : Vで表す行為の対象  
あらわ こうい たいしょう

### 基 本

#### 例 文

- ① まど し 窓が閉めてあります。  
② でん き け 電気が消してありました。  
③ えき あたら えいが 駅のホームに新しい映画のポスターが  
は 貼ってありました。  
④ もんだい か 問題は15ページに書いてあります。  
⑤ つくえ うえ じしょ お A: 机の上に辞書が置いてありますか。  
お B: はい、置いてあります。

- ⑥ A: あっ、ケーキが切きってありますよ。  
B: じゃあ、食たべましょう。



例文⑥

#### 解 説

- A. い とでき はたら けっか じょうたい あらわ つか 意図的な働きかけの結果のNの状態を表すときに使う。(例文①～⑥)  
B. Vは「を(対象)」をとる動詞。  
たいしょう どうし

## 先生へ

「Vてあります」は、働きかけをした人が、重要なのではなく、結果の状態のみに注目している。

Nは、「Vてあります」で表される状態の主体でもある。

「Vた」と「Vてある」の違い

	Vた	Vてある
行為の叙述		×
状態の叙述	×	
目的意識の暗示	×	

例 窓が開けてあります。

窓を開けました。

「Vてある」と「Vている」の違い

	Vてある	Vている
動詞の種類	他動詞 + ある	自動詞 + いる
現在の状態の叙述		
意図的な働きかけ		×

例 窓が開けてあります。(だれかが窓を開けた結果、今開いている)

窓が開いています。(現在の窓の状態を述べている)

「Vてあります」は、何か目的のために、あることがすでに完了していることを述べるときに使うことができる。この場合、目的語は「を」をとる。

例1 A: 小林さんに来週の予定を話してありますか。

B: いいえ、まだです。

2 A: 漢字を調べてありますか。

B: はい、調べました。

動詞によっては、「結果の状態を表す」ときと「完了していることを表す」ときがあるので、助詞の使い方に注意すること。

練習のときには、意味を考えて動詞を限定した方がよい。次のような日本語能力試験4級相当の動詞で練習するとよい。

かける、置く、消す、あける、並べる、切る、貼る、しめる、つける

### 【関連項目】

- 活-01 Vて形
- 文-24 Vています
- 文-72 Vておきます

### 【「れんしゅう編」の練習】

- 12-8 ごみの出し方・集め方

S でしょう

S: 常体形、ただし「Nだ N」「ANだ AN」

## 基 本

## 例 文

① A: 田中<sup>たなか</sup>さんはどこですか。B: たぶん<sup>たしいくかん</sup>体育館<sup>たいいくかん</sup>でしょう。② A: 田中<sup>たなか</sup>さんはまだ<sup>お</sup>起きています<sup>お</sup>でしょうか。B: たぶん<sup>ね</sup>もう寝<sup>ね</sup>た<sup>た</sup>でしょう。③ A: き<sup>ぶ</sup>のう<sup>しあい</sup>のサッカー<sup>ぶ</sup>部の<sup>しあい</sup>試合<sup>しあい</sup>を見<sup>み</sup>ましたか。B: いいえ。でも、一生<sup>いっしょうけんめい</sup>懸命<sup>けんめい</sup>練習<sup>れんしゅう</sup>していました<sup>か</sup>から、勝<sup>か</sup>った<sup>た</sup>でしょう。④ A: 田中<sup>たなか</sup>さんは何時<sup>なんじ</sup>に<sup>き</sup>来<sup>き</sup>ますか。B: 3時<sup>じ</sup>ごろ<sup>く</sup>来<sup>く</sup>る<sup>る</sup>でしょう。

## 解 説

A. 現在<sup>げんざい</sup>と過去<sup>かこ</sup>の<sup>の</sup>できごと<sup>すいそく</sup>を推測<sup>の</sup>して述<sup>つか</sup>べるときに<sup>つか</sup>使う。(例文①②③)B. 未来<sup>みらい</sup>の<sup>の</sup>できごと<sup>よそく</sup>を予測<sup>の</sup>して述<sup>つか</sup>べるときに<sup>つか</sup>使う。(例文④)

## 先生へ

「でしょう」の常体形は「だろう」。

「でしょう」で表される推測は主観的で、はっきりした根拠をもたない。

丁寧に質問するときに、「～でしょうか」を使うことがある。

例 A: これはいくらでしょうか。

B: それは1000円です。

### 【関連項目】

活-05 常体形  
文-38 とおもいます  
文-68 かもしれません

### 【「れんしゅう編」の練習】

12-1 あたいたいことがあるでしょう

# 文-43

## しか...否定

N しか Vません

### 基 本

#### 例 文

- ① この町まちにはホテルが一つひとしかありません。
- ② 東京とうきょうから大阪おおさかまで3時間じかんしかかかりませんでした。
- ③ さいふなかの中に500円えんしかありません。
- ④ きのう、サンドイッチたしか食べませんでした。
- ⑤ これは日本にほんでしかか買うことができません。
- ⑥ 田中たなかさんしかき来ませんでした。

#### 解 説

- A. 「しか」は、否定形ひていけいといっしょつかに使う。
- B. 「しか」は、数量すうりょう、程度ていど、範囲はんい、対象たいしょうなどを示すNの後しめについて、Nを限定げんていし、強調きょうちようする。

(例文①～⑥)

- C. ほかの助詞じょしといっしょつかに使うことができる。(例文④⑤⑥)

Nに/へ/で/と/から/まで    Nにしか/へしか/でしか/としか/からしか/までしか  
Nは/が/を(対象)たいしょう    Nしか

## 先生へ

「しか」は助詞。

ひとつのことがらをきわだたせて強調するときを使う。(例文①④⑤)

話し手の期待、想定に反して限定されることがらを述べる时候を使う。話し手の期待、想定がどう

であるかによって、話し手の気持ちを暗示することがある。(例文②③⑥)

例えば、例文②では、話し手はもっとかかると思っていた、例文③では、話し手はもっとお金が

入っていると思っていた、例文⑥では、話し手は田中さん以外の人も来ると思っていた。

「だけ...肯定」で言い換えた場合は、話し手の感情は表れにくい。

### 【関連項目】

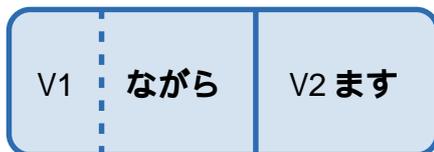
助-24 だけ

### 【「れんしゅう編」の練習】

12-10 かさじぞう

# 文-44

## Vながら



V1 : V ます

### 基 本

#### 例 文

- ① わたしは、<sup>うた うた</sup>歌を歌いながら、<sup>かえ</sup>帰りました。
- ② <sup>けしき み</sup>景色を見ながら、<sup>べんとう た</sup>お弁当を食べました。
- ③ わたしたちは、<sup>き</sup>テープを聞きながら、<sup>にほんご べんきょう</sup>日本語の勉強をします。
- ④ <sup>こども な</sup>子供が泣きながら<sup>ある</sup>歩いています。

#### 解 説

- A. Vは、「<sup>み</sup>見ます <sup>み</sup>見」のように「<sup>けい</sup>Vます形」から「<sup>かたち</sup>ます」をとった形。
- B. V1とV2の主体は同一。<sup>しゅたい どういつ</sup>
- C. 「ながら」は、V1がV2と同時に<sup>どうじ おこな</sup>行われる行為であることを示す。<sup>しめ</sup>（例文①②③④）

#### 先生へ

V1で示される状況と同一期間内にV2が起こることを示す場合もある。

- 例1 わたしはアルバイトをしながら、<sup>だいがく べんきょう</sup>大学で勉強しました。
- 2 <sup>やまもと かいしゃ つと</sup>山本さんは会社に勤めながら、<sup>しょうせつ か</sup>小説を書きました。

#### 【関連項目】

- 文-31 VてV  
文-32 Vないで

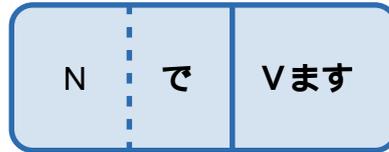
#### 【「れんしゅう編」の練習】

- 12-7 有名な所  
12-9 有名人



# 助 - 27

## で(原因 / 理由)



N: げんいん りゆう しめ 原因、理由を示すことば

### 基 本

#### 例 文

- ① こばやし かぜ 小林さんは風邪でテニスができません。
- ② たなか びょうき がっこう やす 田中さんは病気で学校を休みました。
- ③ でんしゃ ゆき と 電車が雪で止まりました。

#### 解 説

A. 「で」は、NがVで表す行動やできごとの原因、理由であることを示す。(例文①②③)

#### 先生へ

「で」は助詞。

Nにはマイナスの結果をもたらすものが来ることが多い。

例えば、たど びょうき かぜ 病気、風邪、しぜんげんしょう あめ ゆき かぜ いろいろな自然現象(雨、雪、風)など。

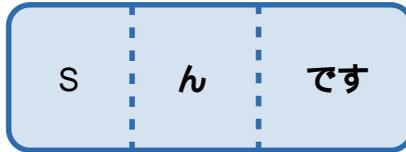
#### 【関連項目】

- 助-09 で(基準/範囲)
- 助-11 で(場所)
- 助-17 で(手段/材料)
- 助-25 から(理由)
- 助-29 ので
- 文-30 Aくて / ANで / Nで
- 文-31 Vて

#### 【「れんしゅう編」の練習】

- 12-6 クイズ「日本」

# せつめい編 2



じょうたいけい  
S: 常体形。ただし、「Nだ Nな」「ANだ ANな」

基 本

例 文

① (つらそうな顔をしたBを見て)

A: どうしたんですか。

B: 歯が痛いんです。

② (夜中に台所で)

A: 何をしているんですか。

B: おなかがすいたんです。

③ A: 日曜日にいっしょに釣りに  
行きますか。

B: どこへ行くんですか。

A: 富士山の近くの湖です。

④ A: もうすぐ帰国ですね。おみやげは、もう買いましたか。

B: ええ、買いました。

A: 何を買ったんですか。

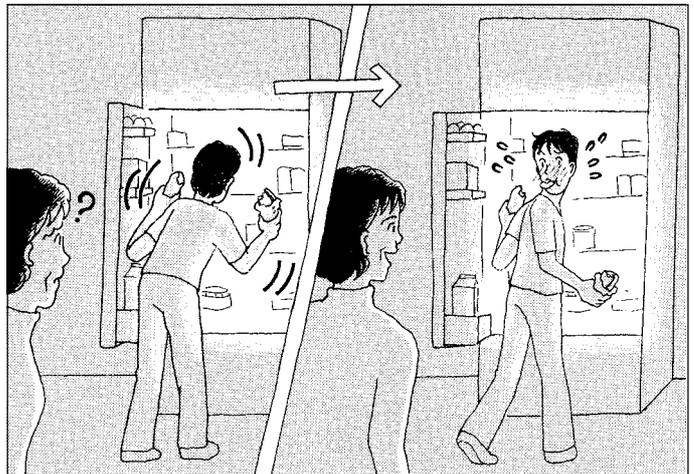
B: 浴衣です。

⑤ すみません、使い方がわからないんです。教えてくださいませんか。

⑥ 明日、友だちと買い物に行くんですが、いっしょに行きませんか。

⑦ 友だちにメールを送りたいんですが、パソコンを使ってもいいですか。

⑧ 切手を買いたいんですが、近くに郵便局がありますか。



例文②

- A. 事情<sup>じじょう</sup>をたずねたり、述べ<sup>の</sup>たりするとき<sup>つか</sup>に使う。(例文①②)
- B. さらに詳しく<sup>くわ</sup>たずねたり、述べ<sup>の</sup>たりするとき<sup>つか</sup>に使う。(例文③④)
- C. 依頼<sup>いらい</sup>や誘い<sup>さそ</sup>、許可<sup>きょか</sup>や情報<sup>じょうほう</sup>を求めるとき<sup>もと</sup>の前置き<sup>まえお</sup>に使う。(例文⑤～⑧)

### 先生へ

書きことばでは、「S<sup>か</sup>んです」ではなく「S<sup>つか</sup>のです」が使われることがある。

「んです<sup>ぶん</sup>」文と「です/ます<sup>ぶん</sup>」文の誤用が多いので、注意<sup>ちゅうい</sup>すること。

例1 日本<sup>にほん</sup>へ来<sup>き</sup>たのは初<sup>はじ</sup>めてです。事実<sup>じじつ</sup>を述<sup>の</sup>べる

日本<sup>にほん</sup>へ来<sup>き</sup>たのは初<sup>はじ</sup>めてなんです。(だから、少し<sup>すこ</sup>心配<sup>しんぱい</sup>です。)

理由<sup>りゆう</sup>やいいわけ<sup>げんがい</sup>など言外<sup>いみ</sup>の意味<sup>ふく</sup>を含む

2 これも食<sup>た</sup>べますか。

するかし<sup>たん</sup>ないか単<sup>しつもん</sup>に質問<sup>する</sup>

これも食<sup>た</sup>べるんですか。

話し手<sup>はな</sup>が得<sup>て</sup>た情報<sup>え</sup>や認識<sup>じょうほう</sup>と異なる<sup>にんしき</sup>ため確認<sup>こと</sup>する

#### 【関連項目】

- 活-05 常体形
- 文-01 Nです
- 文-03 Vます
- 文-06 Aいです / ANです
- 文-11 Vました
- 文-12 Aかったです / ANでした
- 文-13 Nでした

#### 【「れんしゅう編」の練習】

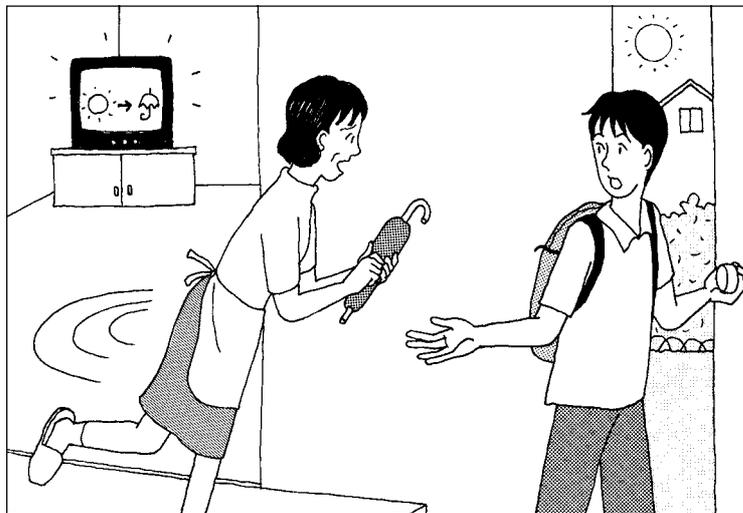
- 13-1 留学生の悩み相談
- 16-4 おまわりさんの交番日記
- 16-7 歌舞伎

Vた	ほう	が	いい	です
Vない				

基 本

例 文

- ① 今日<sup>きょう</sup>は、かさ<sup>も</sup>を持って行ったほう<sup>い</sup>がいいですよ。
- ② A: ちょっと頭<sup>あたま</sup>が痛い<sup>いた</sup>んですが...。  
 B: じゃ、今日<sup>きょう</sup>は早く<sup>はや</sup>うちへ帰<sup>かえ</sup>ったほう<sup>だいじ</sup>がいいですよ。お大事<sup>だいじ</sup>に。
- ③ A: プレゼントをもらったときは、すぐ開<sup>あ</sup>けたほう<sup>い</sup>がいいですか。  
 B: あとで開<sup>あ</sup>けてもいい<sup>おも</sup>と思いますが、わたしはいつもすぐ開<sup>あ</sup>けます。
- ④ A: うわあ、かわい<sup>いぬ</sup>い犬<sup>いぬ</sup>ですね。  
 B: 近づ<sup>ちか</sup>かないほう<sup>い</sup>がいいですよ。かみつ<sup>いぬ</sup>きますから。
- ⑤ もうすぐバーゲンセール<sup>いま</sup>がありますから、今買<sup>か</sup>わないほう<sup>おも</sup>がいいと思います。
- ⑥ A: プラスチックのごみ<sup>す</sup>は、ほかのごみ<sup>す</sup>といっしょに捨<sup>す</sup>てないほう<sup>い</sup>がいいですか。  
 B: いいえ、いっしょに捨<sup>す</sup>てても大<sup>だい</sup>丈<sup>じょう</sup>夫<sup>ぶ</sup>ですよ。



例文 ①

- A. 「Vたほうがいいです」は、Vで表す行為あらわ こういをするように助言じょげんするとき、または助言じょげんを求めるときもとに使う。(例文①～③)
- B. 「Vないほうがいいです」は、Vで表す行為あらわ こういをしないように助言じょげんするとき、または助言じょげんを求めるときもとに使う。(例文④～⑥)
- C. 文末ぶんまつに「よ」や「おもいます」などをつけて、言い方い かたをやわらかくすることが多い。おお(例文①②④⑤)

### 先生へ

「Vつかなかったほうがいいです」は使えない。

「Vじしょけい(辞書形)ほうがいいです」「Vた/ないほうがよかったです」は、用法ようほうが違うのでここでは扱あつかわない。

#### 【関連項目】

活-02 Vた形  
活-04 Vない形

#### 【「れんしゅう編」の練習】

13-1 留学生の悩み相談  
13-6 日本でホームステイ

# 文-47

## Vてはいけません

Vて は いけません

### 基 本

#### 例 文

- ① 子供は、お酒を飲んではいけません。
- ② この部屋に入っへてはいけません。
- ③ 病院の中なかで、携帯電話を使っつかてはいけません。
- ④ うそをついてはいけません。
- ⑤ ここで、たばこをすっすてはいけません。
- ⑥ A: どうして、湯船の中ゆふねで体なかを洗っあらてはいけないんですか。  
B: 湯船のお湯は、家族みんなが使うからです。



例文③

A. Vで表す行為を禁止する。(例文①～⑥)

B. 社会的なルールや家庭での約束で許されないことを述べるときに使う。(例文①～⑥)

先生へ

親、医者、教師などが、忠告の意味で使うことがある。この場合「よ」を付けることが多い。

例1 風邪ですね。注射しますから、今日は、お風呂に入ってはいけませんよ。

2 A: すみません。宿題を忘れてしまいました。明日でもいいですか。

B: 明日は、ぜったいに忘れてはいけませんよ。

「Vないてください」(p.117)との違い。

Vてはいけません	<ul style="list-style-type: none"> <li>強い禁止の表現。</li> <li>そのことを聞き手が拒否できない雰囲気がある。</li> </ul>
Vないてください	<ul style="list-style-type: none"> <li>それをしないように相手に協力を求める感じがある。</li> <li>禁止の表現としては、「Vてはいけません」ほど強くない。</li> </ul>

「Aくてはいけません」「AN/Nではいけません」の形もあるが、用法が違うので、ここでは扱わない。

意志動詞を使って練習させること。(p.278 参照)

【関連項目】

- 活-01 Vて形
- 文-29 Vないてください

【「れんしゅう編」の練習】

- 13-2 入ってはいけません
- 13-6 日本でホームステイ
- 14-5 ポートボール

V て みます

## 基 本

## 例 文

- ① はじ 初めておはしつかを使って、た 食べてみました。
- ② これは、わたしの国くにの料理りょうりです。た 食べてみてください。
- ③ のり巻まきの作り方つくを習かたったので一人ならで作ひとりってみましたが、失敗しっばいしました。
- ④ A: まだ着物きものを着きたことはありません。  
B: じゃ、わたしきものの着物きを着てみますか。
- ⑤ A: 母ははは、うちで毎週まいしゅうい生け花ばなを教おしえているんですよ。  
B: 生け花いですか。いいですね。わたしもやいってみたいです。
- ⑥ あた新しいゲームセンターきょうが今日きょうオープンするんですが、いっしょいに行いってみませんか。
- ⑦ A: これ、プレゼントです。  
B: ありがとう。今いま、開あけてみてもいいですか。

## 解 説

- A. Vで表す行為の結果を知るために、あた実際にその動作じっさい どうさを試こころみることを表す。(例文①～⑤)
- B. 「Vます」よりいい感じかんを与える表現あた ひょうげんとして使うことがある。(例文⑥⑦)
- C. 第三者だいさんしゃの行為こういを表すことはできない。

## 先生へ

Vは意志動詞。(p.278 参照)

否定の「Vてみません」は使わない。ただし、例文⑤のように「Vてみませんか」(誘いの表現)として使う。

「Vてみました」は、実際にVで表す行為をしなかった場合は使えない。

## 【関連項目】

活-01 Vて形

## 【「れんしゅう編」の練習】

- 13-1 留学生の悩み相談
- 13-6 日本でホームステイ
- 13-7 富士山に登ってみたいです

V かた

V : V ます

基 本

例 文

- ① ホームステイをしたとき、てんぷらの作り方を習いました。
- ② おはしの使い方がじょうずになりましたね。
- ③ この紙にごみの出し方が書いてありますから、わからないときは見てください。
- ④ A : 折り紙をしたことがありますか。  
 B : はい。でも、ツルの折り方しか知りません。  
 A : じゃ、いっしょにウサギを折ってみましょう。
- ⑤ バスの乗り方がわからなくて、困りました。
- ⑥ A : 若い人の話し方は、大人の話し方と違いますね。  
 B : そうですね。とくに友だちと話すときは違いますね。
- ⑦ 漢字の勉強のし方がわからないんです。教えてくださいませんか。

解 説

- A. 方法・手順を表す。(例文①～⑦)
- B. 「Vかた」は名詞として文の構成要素になる。(例文①～⑦)

## 先生へ

「NのVかた」のNとVのかんけい関係には、以下のようなものがある。

を		<small>かんじ</small> <small>か</small> 漢字 <u>を</u> 書く	<small>かんじ</small> <small>か</small> <small>かた</small> 漢字 <u>の</u> 書き方
NにV	NのVかた	<small>の</small> バス <u>に</u> 乗る	<small>の</small> <small>かた</small> バス <u>の</u> 乗り方
が		<small>わかもの</small> <small>はな</small> 若者 <u>が</u> 話す	<small>わかもの</small> <small>はな</small> <small>かた</small> 若者 <u>の</u> 話し方
NをNする	NのNのしかた	<small>に</small> <small>ほんご</small> <small>べんきょう</small> 日本語 <u>を</u> 勉強する	<small>に</small> <small>ほんご</small> <small>べんきょう</small> <small>かた</small> 日本語 <u>の</u> 勉強の仕方
へ	NへのVかた	<small>くうこう</small> <small>い</small> 空港 <u>へ</u> 行く	<small>くうこう</small> <small>い</small> <small>かた</small> 空港 <u>へ</u> の行き方
から	NからのVかた	<small>とうきょうえき</small> <small>い</small> 東京駅 <u>から</u> 行く	<small>とうきょうえき</small> <small>い</small> <small>かた</small> 東京駅 <u>から</u> の行き方
NまでV	NまでのVかた	<small>がっこう</small> <small>い</small> 学校 <u>まで</u> 行く	<small>がっこう</small> <small>い</small> <small>かた</small> 学校 <u>まで</u> の行き方
と	NとのVかた	<small>に</small> <small>ほんじん</small> 日本人 <u>と</u> つきあう	<small>に</small> <small>ほんじん</small> <small>かた</small> 日本人 <u>と</u> のつきあい方
で	NでのVかた	<small>れすとらん</small> <small>ちゅうもん</small> レストラン <u>で</u> 注文する	<small>れすとらん</small> <small>ちゅうもん</small> <small>かた</small> レストラン <u>で</u> の注文の仕方

## 【関連項目】

## 【「れんしゅう編」の練習】

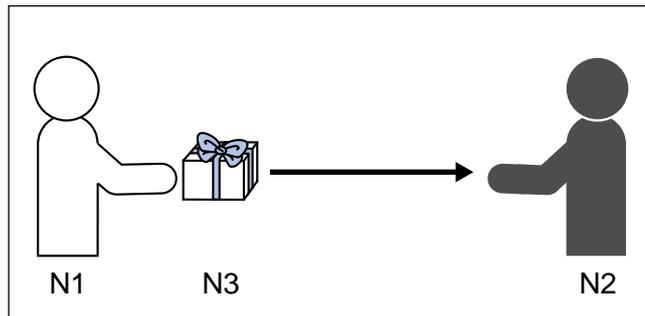
- 13-6 日本でホームステイ
- 13-7 富士山に登ってみたいです
- 16-3 日本の歴史
- 16-7 歌舞伎

N1 は/が N2 に N3 を あげます

N1 : ものを<sup>あた</sup>与<sup>ひと</sup>える人

N2 : ものを<sup>う</sup>受<sup>と</sup>け取<sup>ひと</sup>る人

N3 : もの



基 本

例 文

① 昨日は吉田さんの誕生日でした。田中さんは、吉田さんに子犬をあげました。

② A : 母の日に、お母さんに何をあげますか。

B : ひみつです。

③ A : マリさんにあげるおみやげは、何が<sup>なに</sup>いい<sup>おも</sup>と思いますか。

B : おはしはどうですか。

A : そうですね。そうします。



例文 ①

④ ( 掲 示 板 に )

「日本語会話のテープをあげます。ほしい人は連絡してください。」

⑤ A : そのキーホルダー、かわいいですね。どこで買ったんですか。

B : 東京ディズニーランドです。もう一つ持っていますから、これ、あげます。

A : えっ、いいんですか。ありがとうございます。

⑥ 父は、わたしたちがあげたネクタイを毎日しています。

解 説

A. N1がN2に物を与えることを表す。(例文①～⑥)

B. N2は話し手にならない。

C. N1が話し手、またはN1、N2がだれかわかっている場合は、「N1は / が」「N2に」は省略されることがある。(例文②～⑤)

先生へ

N2が動物や植物の場合は、「あげます」の代わりに「やります」を使う。

例1 毎日、花に水をやります。

2 犬にえさをやります。

N2が話し手、または話し手の家族の場合は「くれます」を使う。(p. 277 参照)

例1 田中さんは、ときどき、わたしに日本の切手をくれます。

2 田中さんはわたしの母に日本のお菓子をくれました。

授受表現は、最初に「あげます」を練習したほうがものの「やりとり」を表す表現を理解しやすい。

「あげます」を正確に使えるようにするためには、「ウチ・ソト」の関係の理解が必要である。

(p. 276 参照)

【関連項目】

文 -51 もらいます

【「れんしゅう編」の練習】

13-3 あげもらいパス

13-5 プレゼント

16-5 すずめのお宿

# 文 - 51

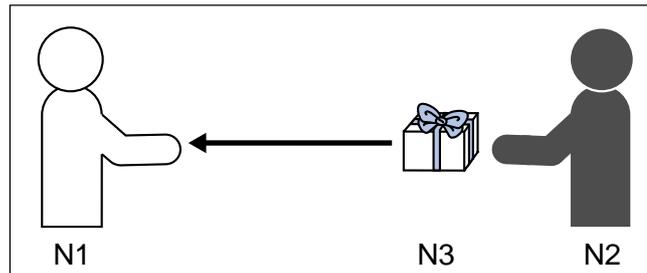
# もらいます

N1 は/が N2 に N3 を もらいます

N1 : 物を受け取る人

N2 : 物を与える人

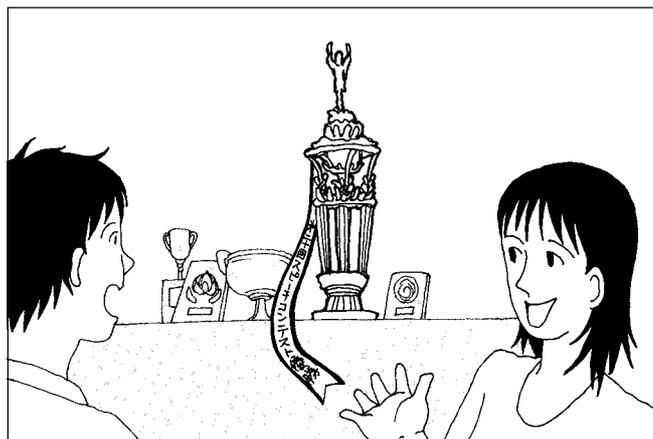
N3 : 物



## 基 本

### 例 文

- ① わたしは、<sup>こうこう にゅうがく</sup>高校に入学したとき、<sup>あに じしよ</sup>兄に辞書<sup>しあひ</sup>をもらいました。
- ② <sup>おとうと</sup>弟はおじさんにサッカーの試合<sup>しあひ</sup>のチケット<sup>しあひ</sup>をもらって、とても<sup>よろこ</sup>喜んでいました。
- ③ A : <sup>きよねん たんじょうび なに</sup>去年の誕生日に、何をもらいましたか。  
B : <sup>ほん</sup>本やC Dやゲームソフトなどをもらいました。
- ④ A : <sup>りっば</sup>立派なトロフィーですね。  
B : <sup>にほんご</sup>これですか。日本語のスピーチ大会<sup>たいかい ゆうしょう</sup>で優勝<sup>ゆうしょう</sup>してもらったトロフィーです。



例文④

- ⑤ A : 毎月おこづかいをもらっていますか。  
 B : はい。毎月5千円もらっていますが、ちょっとたりません。
- ⑥ 犬がえさをもらいたくて、ほえています。

## 解説

- A. N1がN2から物を受けることを表す。(例文①～⑥)
- B. N2は話し手にならない。
- C. N1が話し手、またはN1、N2がだれかわかっている場合は、「N1は/が」「N2に」は省略されることがある。(例文③～⑥)

## 先生へ

N2が組織や団体の場合には、「に」の代わりに「から」を使うことが多い。

例 山本さんは、学校から奨学金をもらいました。

N3は、普通話し手がN1にとってよいもの、うれしいものとするものである。

「もらいます」を正確に使えるようにするためには、「ウチ・ソト」の関係の理解が必要である。

(p.276 参照)

「もらいます」は、「あげます」を勉強してから、練習したほうが理解しやすい。

### 【関連項目】

- 文 -50 あげます  
 文 -76 Vてもらいます

### 【「れんしゅう編」の練習】

- 13-3 あげもらいパス  
 13-4 手袋をもらいました  
 13-5 プレゼント  
 16-5 すずめのお宿



N: Vの動作の対象  
どうき たいしやう  
 V(られ)ます: 可能形  
かのうけい

## 基 本

### 例 文

- ① A: 歌の伴奏をお願いしたいんですが、だれか楽器が弾けますか。  
うた ばんそう ねが がっき ひ  
 B: 山本さんはギターが弾けます。  
やまもと ひ
- ② A: 田中さん、今度いっしょにプールへ行きませんか。  
たなか こんど い  
 B: いいですね。でも、わたし、泳げないんです。  
およ
- ③ まだ、カタカナを習っていませんが、自分の名前はカタカナで書けます。  
なら じぶん なまえ か
- ④ A: 明日も手伝いに来られますか。  
あした てつだ こ  
 B: 明日はちょっと...。  
あした
- ⑤ A: わたしたちも図書館のコンピュータが使えますか。  
としやかん つか  
 B: はい、もちろん使えます。  
つか
- ⑥ 去年の制服が小さくて、着られません。  
きょねん せいふく ちい き
- ⑦ 知らない漢字が多くて、読めません。  
し かんじ おお よ



例文 ⑥

A. Vで表される行為をする能力、技術があることを述べるときに使う。(例文①～③)

B. ある状況でVで表される行為をすることが可能であることを述べるときに使う。(例文④～⑦)

### 先生へ

Vは意志動詞。(p.278 参照)

「Vことができます」(p.112)は、条件などが整って可能だという意味を表すときに使われる。「V(られ)ます」より使用範囲は狭い。

例 田中さんは泳げます。( )

田中さんは泳ぐことができます。(×)

田中さんは1000メートルを18分で泳ぐことができます。( )

Nが移動の経路や動作の場所の場合は、「NをV(られ)ます」となる。

例 鳥は空を飛べます。

「V(られ)ます」は、ものの性質、機能について述べるときに使うことがあるが、ここでは扱わない。

例 A: この水は飲めますか。

B: 大丈夫です。

#### 【関連項目】

文-26 Vこと/Nができます

活-06 可能形

#### 【「れんしゅう編」の練習】

14-2 泳げますか

14-3 学校クイズ

14-5 ポートボール

14-8 たいへんな一日

15-3 ここはどうですか

V なけれ	ば	なりません
-------	---	-------

V : V ない

## 基 本

## 例 文

- ① 学生は、学校の規則を守らなければなりません。
- ② もうすぐバスケットボールの試合がありますから、毎日練習をしなければなりません。
- ③ A : 日本の高校では、みんな制服を着なければなりませんか。  
B : いいえ、制服がない学校もあります。
- ④ A : あ、もう5時ですね。わたしはそろそろ帰らなければなりません。  
B : えっ？もう帰るんですか。
- ⑤ A : ゆみこさん、今度の土曜日、コンサートに行きませんか。  
B : ごめんなさい。土曜日は、歯医者に行かなければならないんです。

## 解 説

- A. Vをする必要、義務があることを述べるときに使う。(例文①～④)
- B. 「Vなければならないんです」で、何かをする必要があつて、誘いなどを断る場合に使うことがある。(例文⑤)

## 先生へ

話しことばでは「Vなければなりません」は「Vなきゃなりません/Vなきゃならない/Vなきゃ」となることがある。

- 例 A: あ、鐘かねが鳴ったから、教室きょうしつに戻もどらなきゃ。  
 B: 急いそぎましょう。

「Vなければなりません」と「Vなくてはなりません」「Vなければいけません」「Vなくてはいけません」には原則的に以下のような違いがある。

	内 容
V なければなりません	いっばんでき ・一般的なこと
V なくてはなりません	はな て じしん ・話し手自身のこと
V なければいけません	こべつでき ・個別的なこと
V なくてはいけません	き て ・聞き手のこと

- 例 1 外国がいこくへ行くときは、パスポートいを持ってもいかなければなりません。  
 2 学校がっこうへ行くときは、制服せいふくを着きていかななくてはなりません。  
 3 (名前なまえのないレポートうを受け取とった先生せんせいが生徒せいとに)  
 レポートには、必ずかなら名前なまえを書かかなければいけませんよ。  
 4 もっとよくかんで、食たべなくてはいけませんよ。

<p><b>【関連項目】</b></p> <p>活-04 V ない形</p> <p>文-54 V なくてもいいです</p>	<p><b>【「れんしゅう編」の練習】</b></p> <p>14-4 いろいろな学校</p> <p>14-5 ポートボール</p> <p>14-6 月曜日はちょっと</p> <p>18-6 クラブ紹介</p>
---	---

V なくて	も	いいです
-------	---	------

V: V ない

## 基 本

## 例 文

- ① <sup>いそ</sup>急がなくてもいいですよ。<sup>じかん</sup>まだ時間がありますから。
- ② <sup>うんどうぎ</sup>運動着は毎日<sup>まいにち</sup>持<sup>も</sup>って来<sup>き</sup>なくてもいいです。<sup>たいいく</sup>体育のある日<sup>ひ</sup>だけ、持<sup>も</sup>って来<sup>き</sup>てください。
- ③ A: <sup>せんせい</sup>先生、<sup>しゅくだい</sup>この宿題、<sup>むずかしい</sup>むずかしいです。  
B: <sup>わから</sup>わからない<sup>もんだい</sup>問題は<sup>やら</sup>なくてもいいです。<sup>わかる</sup>わかる<sup>もんだい</sup>問題<sup>だけ</sup>だけや<sup>って</sup>てください。
- ④ A: <sup>せんせい</sup>先生、<sup>ほん</sup>この本、<sup>か</sup>買<sup>った</sup>ほう<sup>が</sup>が<sup>いい</sup>いいですか。  
B: <sup>か</sup>買<sup>わ</sup>なくてもいいですよ。<sup>としょかん</sup>図書館<sup>に</sup>に<sup>あ</sup>りますから。
- ⑤ A: <sup>せんぱい</sup>先輩、<sup>ごご</sup>午<sup>ご</sup>後の<sup>れんしゅう</sup>練習<sup>で</sup>に出<sup>な</sup>くてもいいですか。<sup>かぜ</sup>風邪<sup>を</sup>を<sup>ひ</sup>いて、<sup>ねつ</sup>熱<sup>が</sup>がある<sup>ん</sup>んです。  
B: <sup>いい</sup>いいですよ。<sup>だいじ</sup>お大事<sup>に</sup>に。

## 解 説

- A. <sup>き</sup>聞き<sup>て</sup>手に、<sup>どうさ</sup>V の<sup>ひつよう</sup>動作<sup>を</sup>をする<sup>い</sup>必要<sup>つか</sup>がない<sup>い</sup>と言<sup>い</sup>う<sup>い</sup>とき<sup>に</sup>に<sup>つか</sup>使う<sup>い</sup>。(例文①～④)
- B. 「V なくてもいいですか」で、<sup>どうさ</sup>V の<sup>きよか</sup>動作<sup>を</sup>を<sup>し</sup>ない<sup>もと</sup>こと<sup>を</sup>の<sup>つか</sup>許可<sup>を</sup>を<sup>もと</sup>め<sup>る</sup>るとき<sup>に</sup>に<sup>つか</sup>使う<sup>い</sup>。(例文⑤)

## 先生へ

「Vなくてもかまいません」(『日本語能力試験出題基準』3級の項目)も「Vなくてもいいです」と同じように使われる。「Vなくてもかまいません」のほうがあらたまった言い方。

<b>【関連項目】</b> 活-04 Vない形 文-17 Vてもいいです 文-53 Vなければなりません	<b>【「れんしゅう編」の練習】</b> 14-4 いろいろな学校
---	--------------------------------------

V て しまいます

## 基 本

## 例 文

- ① やまもと 山本さんは一日で漢字を 100 おぼ 覚えてしまいました。
- ② A: しゅくだい 宿題、もうやってしまいましたか。  
B: まだです。  
A: じゃ、いっしょにやりませんか。
- ③ あした 明日は、午前中に運動会の準備を じゅんび してしまいますから、8時 じ にグラウンドへ き 来て  
ください。
- ④ じかん 時間がないから、早く はや 片づけて かた しまいましょう。
- ⑤ きのう 昨日の数学の試験で 0 点 しけん をとって てん しまいました。
- ⑥ かいだん 階段から お 落ちて、けが あ をしてしまいました。
- ⑦ A: ごめんなさい。借りた本 か を汚 ほん して よご しまったんです。  
B: だいじょうぶ 大丈夫です。気に き しないでください。
- ⑧ (B かお が こまった 顔を している している)  
A: どうしたんですか。  
B: きょうかしょ 教科書を わす 忘れて しまった しまったんです。  
A: じゃ、わたしの み をいっしょに見 ま みましょう。



例文 ⑤

A. Vで表される動作や状態が完了する、または、完了したことを特に強調して述べるときに使う。

(例文①～④)

B. 「Vてしまいました」で、動作や状態が不本意に行われることによって生じる後悔、残念な気持ちなどを述べるときに使う。(例文⑤～⑧)

## 先生へ

話しことばでは、「Vてしまいます」は「Vちゃいます/Vちゃう」「Vじゃいます/Vじゃう」となることがある。

例1 A: どうしたの?

B: 宿題を忘れちゃったんです。

2 A: ここにあったジュースは?

B: 飲んじゃいました。

「Vてしまいます」(非過去形)でも完了の意味があることを理解させること。

B. の場合には、無意志動詞(p.279参照)や、「(さいふを)落とす」「(皿を)割る」「(服を)汚す」などの意志的ではない動作を表す動詞で練習すること。

### 【関連項目】

活-01 Vて形  
文-11 Vました  
文-19 もう/まだ

### 【「れんしゅう編」の練習】

14-7 ごめんなさい  
14-8 たいへんな一日  
16-4 おまわりさんの交番日記

A	すぎます
AN	
V	

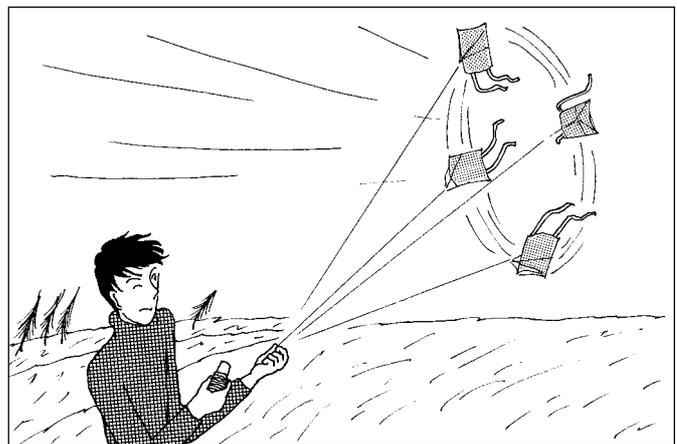
A: A 辞

V: V ます

基 本

例 文

- ① 宿題が多すぎます。減らしてください。
- ② 今日は、風が強すぎて、凧がうまくあがりません。
- ③ わたしの学校の規則は、ちょっときびしすぎるとおもいます。
- ④ このゲームは、ルールが複雑すぎて、おもしろくないです。
- ⑤ 昨日、サッカーの練習をしすぎました。足が痛いんです。
- ⑥ 食べすぎました。おなかが苦しいです。
- ⑦ (Bがあくびをしている)  
 A: どうしたんですか。寝不足ですか。  
 B: ええ、昨日、夜遅くまで遊びすぎました。



例文②

A. A / AN / Vで表されることが過度あらかであり、あまりよくないかどと思っていることを表す。おも（例文①～⑦）

先生へ

「A / AN / Vひてい かたち ふたとおすぎます」の否定の形は二通りあり、意味いみ ちがが異なるので注意ちゅういすること。

ひてい かたち 否定の形	かつようけい 活用形	いみ 意味
A / AN / V <u>すぎではありません</u>	A : A 辞 V : V ます	A / AN / Vが過度 <small>かど</small> ではないということを表す。 <small>あらか</small>
A / AN / V <u>なさすぎます</u>	A : A 小 AN : AN じゃ V : V ない	A / AN / Vではないことが過度 <small>かど</small> であることを表す。 <small>あらか</small>

例1 た 食べすぎないでください。いた おなかが痛くなりますよ。

例2 おとうと そうじ 弟は掃除かげつ かいしなすぎます。1ヶ月に1回しかしません。

「おもしろい、楽しい、おいしい、便利べんり」などプラス評価ひょうか けいようしの形容詞ばあいの場合は、意味いみ合いが異なるので練習ちがのとき使れんしゅうわないこと。つか

【関連項目】

【「れんしゅう編」の練習】

14-8 たいへんな一日

## <グループ1>

う	える	かう	かえる
く	ける	かく	かける
ぐ	げる	およぐ	およげる
す	せる	はなす	はなせる
つ	てる	まつ	まてる
ぬ	ねる	しぬ	しねる
ぶ	べる	あそぶ	あそべる
む	める	よむ	よめる
る	れる	かえる	かえれる

## <グループ2>

る	られる	おきる	おきられる
		たべる	たべられる

## <グループ3>

する	できる
くる	こられる

## 先生へ

可能形は動詞の活用形の一つ。

可能形の「ます形、ない形、て形、た形」などは、グループ2の動詞活用と同じ。

例 のめる のめます  
 のめない  
 のめて  
 のめた

話しことばでは、グループ2の動詞は、「れる」という短い言い方で使われることがある。

例 たべられる たべれる  
 みられる みれる  
 おきられる おきれる  
 でられる でれる

可能形を持たない動詞がある。

可能、自発の意味を持つ動詞：聞こえる、見える、できる など

無意志動詞：ある、要る、かかる など (p.279 参照)

その他：知る、わかる など

「<sup>き</sup>聞ける、<sup>み</sup>見られる」(「<sup>き</sup>聞く、<sup>み</sup>見る」の<sup>かのうけい</sup>可能形)と、「<sup>き</sup>聞こえる、<sup>み</sup>見える」(<sup>じどうし</sup>自動詞)の<sup>ちが</sup>違い。

	<sup>い</sup> <sup>してきこうどう</sup> 意志的行動かどうか	<sup>れい</sup> <sup>ぶん</sup> 例 文
<sup>き</sup> 聞ける		<sup>でん</sup> <sup>わ</sup> <sup>あした</sup> <sup>てん</sup> <sup>き</sup> <sup>よ</sup> <sup>ほう</sup> <sup>き</sup> 電話で明日の天気予報が聞けます。
<sup>き</sup> 聞こえる	x	<sup>なに</sup> <sup>き</sup> <sup>おと</sup> <sup>おお</sup> 何も聞こえません。音を大きくしてください。
<sup>み</sup> 見られる		<sup>いま</sup> <sup>とうきょう</sup> <sup>びじゅつかん</sup> <sup>え</sup> <sup>み</sup> 今、東京美術館でゴッホの絵が見られます。
<sup>み</sup> 見える	x	<sup>そら</sup> <sup>ほし</sup> <sup>み</sup> 空にたくさん星が見えます。

<sup>かのうけい</sup> <sup>つぎ</sup> <sup>つか</sup>  
可能形は次のように使われる。

- 例 1 わたしは、<sup>きょねん</sup>去年まで、<sup>およ</sup>ぜんぜん泳げませんでした。
- 2 <sup>まいにち</sup>毎日プールで<sup>れんしゅう</sup>練習して、1000メートル<sup>およ</sup>泳げるようになりました。

<b>【関連項目】</b>	<b>【「れんしゅう編」の練習】</b>
活 -03 V 辞書形	14-1 られるリレー
文 -52 V(られ)ます(可能)	14-2 泳げますか
文 -79 Vようになります	14-3 学校クイズ

# 助 - 28 までに



とき あらわ  
N : 時を表すことば

## 基 本

### 例 文

- ① 18歳の誕生日までに、バイクの免許をとりたいです。  
さい たんじょうび めんきょ
- ② A : 宿題は、いつまでに出さなければなりませんか。  
しゅくだい だ  
B : 月曜日です。月曜日の5時までに出してください。  
げつようび げつようび じ だ
- ③ 来週の試験までに、今週習った漢字の復習をしなければなりません。  
らいしゅう しけん こんしゅうなら かんじ ふくしゅう
- ④ 明日までに、ぜったい返事をください。  
あした へんじ
- ⑤ 来月の10日までに受験する大学を決めなければなりません。  
らいげつ か じゅけん だいがく き

### 解 説

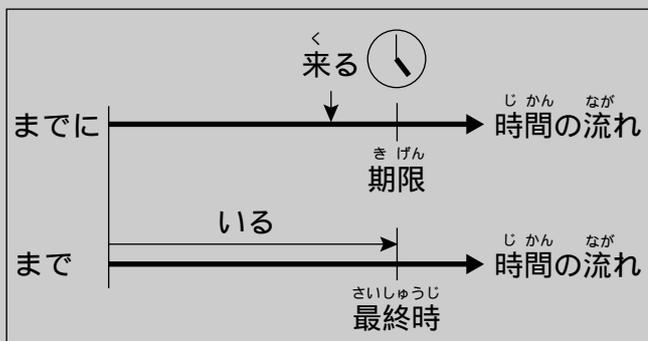
- A. 「までに」は、Vの動作の完了がNで示された時以前であることを示す。(例文①～⑤)  
どうさ かんりょう しめ とき ぜん
- B. 期限やしめきりの述べるときに使う。(例文①～⑤)  
きげん の つか

先生へ

「Nまでに」と「Nまで」の違い。

例 5時までに、ここに来ます。

5時まで、ここにいます。



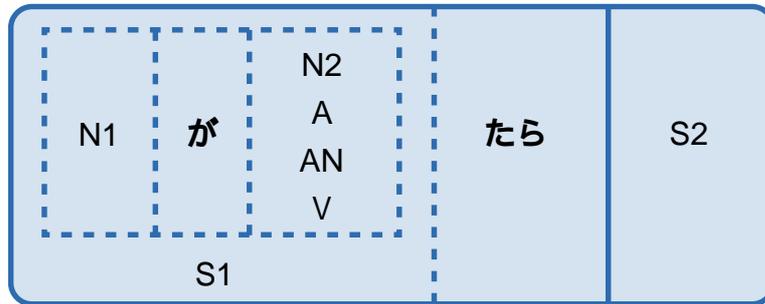
「までに」の前に動詞（辞書形）がくることがある。

例 8時のドラマが始まるまでに、宿題をやってしまいます。

「までに」は、助詞「まで」と「に」を組み合わせたもの。

Vに「終わる、やる、帰る、Vておく、Vてしまう」などを使って練習すると理解しやすい。

<p><b>【関連項目】</b></p> <p>助-12 から / まで</p>	<p><b>【「れんしゅう編」の練習】</b></p> <p>14-5 ポートボール</p> <p>14-6 月曜日はちょっと</p>
--	---

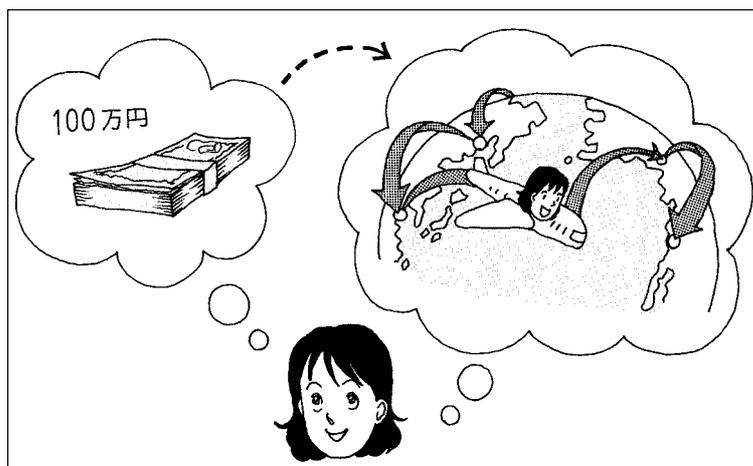


N2 / A / AN / V + たらじょうたいけい か こ : 常体形過去 + ら

基 本

例 文

- ① から辛いものがにがて苦手ですが、カレーただったら、食べられます。
- ② あした明日、ひま暇だったら、ボーリングいに行きませんか。
- ③ たかあまり高くなかったら、スニーカーかが買いたいです。
- ④ あめ雨がふ降ったら、お祭りまつは中止ちゅうしです。
- ⑤ みせいいお店しを知っていたら、おし教えてください。
- ⑥ A: ひゃくまんえんもし百万円なあったら、何がしたいですか。  
 B: せかいりょこう世界旅行がしたいです。



例文 ⑥

⑦ 5時になったら、帰ります。

⑧ 駅に着いたら、電話してください。

⑨ A：大人になったら、何になりたいですか。

B：コックになりたいです。

⑩ A：迷子になったときは、どうしたらいいですか。

B：近くの店の人に道を聞いてください。

⑪ A：あのう、× 銀行へは、どうやって行ったらいいんでしょうか。

B：ここをまっすぐ行って、次の角を左に曲がってください。

曲がったら、すぐ右側にありますよ。

⑫ A：中山さんにあげるプレゼントは、どこで買ったらいいと思いますか。

B：×通りへ行ってみたらどうですか。おしゃれな店がたくさんありますよ。

## 解説

A. 話し手が仮定した S1 が成立した場合に S2 が成立することを述べるときに使う。

S2 は非過去形。(例文①～⑥)

B. 必ず起こる S1 が成立したあとで、S2 が成立することを述べるときに使う。

S2 は非過去形。(例文⑦～⑨)

C. 「疑問詞 + V たらいいですか」の形で、助言を求めるときに使う。(例文⑩～⑫)

D. 「V たらどうですか」の形で、助言、提案をするときを使う。(例文⑫)

E. A. の場合、「もし」をいっしょに使うことができる。(例文⑥)

例 文

- ⑬ 図書館へ本を返しに行ったら、休みでした。
- ⑭ バスの中で寝てしまって、目がさめたら、となりの町にいました。
- ⑮ 日曜日に映画を見に行ったら、映画館の前でドラマの撮影をしていました。

解 説

F. ある出来事をきっかけとして、何かに気づいたり、予期しない出来事が起こったことを表す。  
S2は過去形。(例文⑬～⑮)

先生へ

「疑問詞 + Vたらいいですか」と同じ助言を求める表現に「Vたほうがいいですか」がある。「Vたほうがいいですか」は何について助言を求めるのかを具体的に示した言い方。

F. の用法では、「たら」を「と(条件)」に置き換えることができる。

例 デパートへ行ったら、休みでした。

デパートへ行くと、休みでした。

「と(条件)」(p.230) との用法の違いに注意すること。

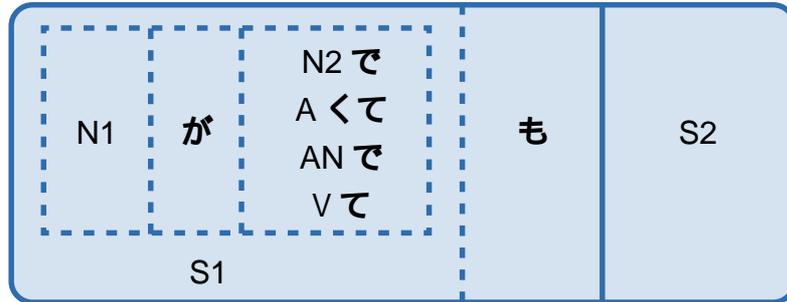
【関連項目】

- 活-05 常体形  
助-31 と(条件)  
文-33 てから  
文-58 ても

【「れんしゅう編」の練習】

- 15-1 ポスター  
15-2 歌「日本サバイバル」  
15-3 ここはどうですか  
15-4 わたしが市長になったら  
15-5 リサイクル





A : A 対

基 本

例 文

- ① こども 子供でも、おな りょうきん はら 同じ料金を払わなければなりません。
- ② よるおそ 夜遅くても、お 起きていますから、でんわ 電話してください。
- ③ やさい きら 野菜が嫌いでも、た 食べたほうがいいですよ。
- ④ あめ ふ たとえ雨が降っても、はな び たいかい ちゅうし 花火大会は中止しません。
- ⑤ A : に ほん じ しん おお 日本は地震が多いですね。  
B : ええ。でも、たてもの じ しん お この建物は地震が起ってもだいじょうぶ 大丈夫ですよ。
- ⑥ に ほん かえ 日本へ帰っても、まち わす この町のことを忘れないでください。
- ⑦ かいてん じ かん じ 開店時間の10時になっても、みせ あ 店が開きません。へん 変ですね。
- ⑧ やくそく じ かん 約束の時間になっても、いちろう き 一郎さんは来ませんでした。
- ⑨ A : きのう くすり の 昨日もらった薬を飲んでも、ねつ さ 熱が下がらなかったんですが・・・。  
B : それじゃ、びょういん い 病院へ行ったほうがいいですよ。

- A. S1で表される仮定的な条件に反することを述べるときに使う。(例文①～⑥)
- B. すでに成立しているS1から予想されないことが起こったことを述べるときに使う。  
(例文⑦～⑨)
- C. A.の場合、「たとえ」をいっしょに使うことができる。(例文④)

### 先生へ

ふた いじょう じょうけん の  
二つ以上の条件を述べることができる。

例 このお皿は、ぶつけても、落としても、割れません。

「ても」と「が(接続)」(p.72)の違い。

	S1てもS2	S1がS2
はな て かてい S1が話し手の仮定したこと		×
じっさい S1が実際にあったこと、したこと		

ぶん あらわ いみ かんけい ちゅうい  
「たら」文が表す意味との関係に注意すること。

例 町の半分以上の人が反対したら、工事を中止します。

町の半分以上の人が反対しても、工事を中止しません。

A. の用法から先に練習したほうが理解しやすい。

「のに」(p.242)との用法の違いに注意すること。

#### 【関連項目】

- 活-01 Vて形  
助-16 が(接続)  
助-32 のに  
文-57 たら

#### 【「れんしゅう編」の練習】

- 15-3 ここはどうですか

N1	を	A <	
		AN に	します
		N2 に	

A: A 社

基 本

例 文

① <sup>そうじ</sup>みんなで掃除<sup>こうえん</sup>をして、公園<sup>を</sup>きれい<sup>に</sup>にしました。

② <sup>すこ</sup>もう少し<sup>やす</sup>安く<sup>を</sup>してください。

③ ( <sup>としょかん</sup>図書館<sup>こども</sup>で子供<sup>たちが</sup>おしゃべり<sup>を</sup>している )

A: <sup>あなた</sup>たち、<sup>としょかん</sup>図書館<sup>では</sup> <sup>しず</sup>静かに<sup>に</sup>してくださいね。

B: はあい、ごめんなさい。

④ ( <sup>としょかん</sup>図書館<sup>ひと</sup>の人が <sup>そうだん</sup>相談<sup>を</sup>している )

A: <sup>ポスター</sup>の<sup>じ</sup>字<sup>を</sup> <sup>すこ</sup>もう少し<sup>おお</sup>大きく<sup>に</sup>しませんか。

B: そうですね。そうしましょう。



例文 ③ ④

⑤ <sup>しゃちょう</sup>社長<sup>は</sup>、<sup>つか</sup>使っていない<sup>そうご</sup>倉庫<sup>を</sup>コンサートホール<sup>に</sup>にしました。

⑥ <sup>かたち</sup>形の悪い<sup>りんご</sup>りんご<sup>は</sup>、<sup>う</sup>ジュースやジャム<sup>にして</sup>に売ります。

- A. 人が意志的にN1の状態を変え<sup>あらわ</sup>ることを表す。(例文①～⑥)
- B. 結果としてN1に起こる変化の内容は、A / AN / N2で表される。(例文①～⑥)

先生へ

「Aく / ANに / Nにします」と「Aく / ANに / Nになります」(p.140)の<sup>ちが</sup>違い。

	Aく / ANに / Nにします	Aく / ANに / Nになります
はな て じゅうし 話し手が重視していること	へん か こうい 変化をもたらす行為	へん か けっか 変化の結果
へん か 変化するもの	たいしょう 対象	しゅたい 主体

例 洪水で家の前の道がきたなくなりました。

おとうと そうじ いえ まえ みち  
弟とわたしが掃除して、家の前の道をきれいにしました。

「Nにします」には、「<sup>き</sup>決めたことを<sup>の</sup>述べる」(p.228)という用法もあるので、<sup>ちが</sup>違いに<sup>ちゅうい</sup>注意すること。

例 A: 何に<sup>なに</sup>しますか。

B: わたしはジュースに<sup>き</sup>します。(決めたこと)

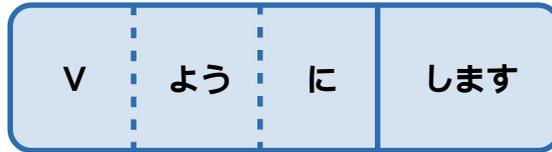
やさい の へんか  
野菜をジュースにして<sup>の</sup>飲みます。(変化)

【関連項目】

- 文-39 Aく / ANに / Nになります  
文-74 Vこと / Nにします

【「れんしゅう編」の練習】

- 15-4 わたしが市長になったら  
15-5 リサイクル

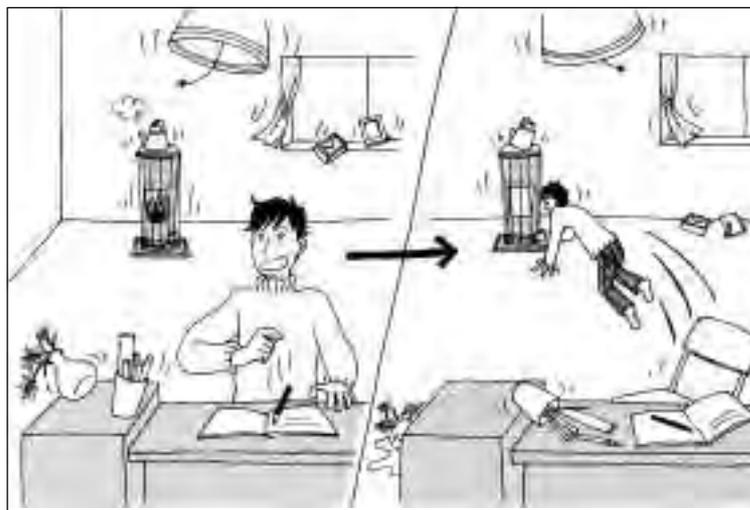


V: 辞書形またはVない形

基 本

例 文

- ① <sup>みち</sup>この道は<sup>くるま</sup>車が多くて<sup>あぶ</sup>危ないですから、<sup>みち</sup>道を<sup>わた</sup>渡るときは<sup>おうだん</sup>横断歩道を<sup>わた</sup>渡るようにしてください。
- ② <sup>でんしゃ</sup>電車の中では、<sup>なか</sup><sup>おお</sup>大きい声で<sup>こえ</sup>話さないようにしましょう。
- ③ (町内スピーチ大会の練習で)  
 A: <sup>せんせい</sup>先生、わたしのスピーチはどうですか。  
 B: <sup>とても</sup>とてもいいですよ。でも、<sup>たいかい</sup>スピーチ大会では、<sup>すこ</sup>もう少しゆっくり、はっきり<sup>はな</sup>話すようにしたほうがいいですね。
- ④ <sup>じしん</sup>地震が<sup>お</sup>起こったら、<sup>け</sup>すぐストーブを<sup>け</sup>消すようにしています。



例文④

- ⑤ <sup>きんじょ</sup>近所の人に<sup>ひと</sup>あったら、いつもあいさつするようにしています。
- ⑥ <sup>ち</sup>バスや地下鉄で行けるときは、<sup>かてつ</sup>車を使わないようにしています。

- A. あることをする、またはしないと心がけることを述べるときに使う。(例文①～③)
- B. 「Vようにしています」の形で、習慣的に心がけていることを述べるときに使う。(例文④～⑥)

先生へ

Vは意志動詞。(p.278 参照)

「Vようにします」で、「Vように」が目的を表す場合がある。この「Vように」は、『日本語能力試験出題基準』2級の項目なので、ここでは扱わない。練習のとき注意すること。

「Vことにします」(p.228)との違いに注意すること。

例 近所の人と相談して、次の日曜日みんなで公園の掃除をすることにしました。(決めたこと)  
あのお、犬のふんは、飼い主が片づけるようにしてください。(心がけ)

【関連項目】

- 活-03 V辞書形
- 活-04 Vない形
- 文-59 Aく/A Nに/Nにします
- 文-79 Vようになります
- 文-74 Vこと/Nにします

【「れんしゅう編」の練習】

15-4 わたしが市長になったら

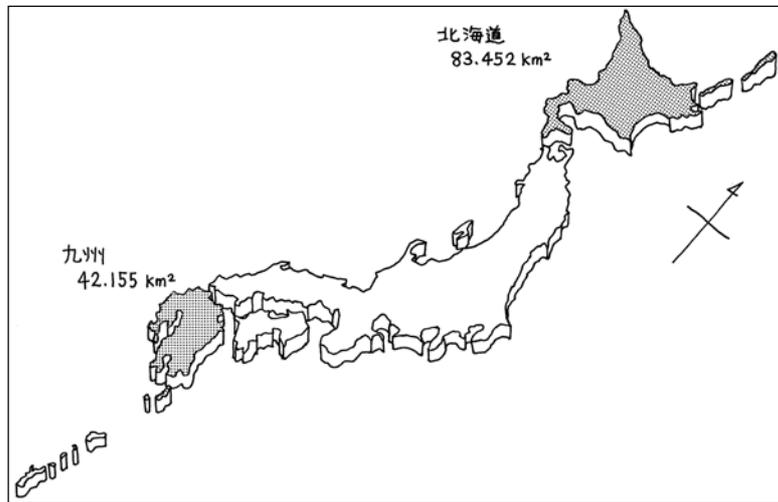
# 文-61

## より...ほう

N1	より	N2	の	ほう	が	A
						AN
						V

### 基 本

#### 例 文



例文 ①

- ① 九州きゅうしゅうより 北海道ほっかいどうのほうひろが広いです。
- ② 大阪おおさかより 東京とうきょうのほうじんこうが人口おほが多いです。
- ③ わたしは、ポケモンよりドラえもののほうすが好きです。
- ④ A: 日光にっこうへは、バスいで行きましょうか。電車でんしゃで行きましょうか。  
 B: 電車でんしゃのほうはやが速いいですが、バスやすのほうやすが安いいですよ。
- ⑤ A: ここから大阪おおさかまでは、新幹線しんかんせんと飛行機ひこうきとどちらはやが速いいですか。  
 B: 飛行機ひこうきのほうはやが速いいと思います。
- ⑥ 通勤電車つうきんでんしゃは、夕方ゆうがたより朝あさのほうこが混こんでいます。
- ⑦ ×デパートより ×デパートのほうしょうひんが商品しょうひんがたくさんあります。

- A. N1とN2を比較して述べるときに使う。(例文①～⑦)
- B. 「N1より」は省略されることがある。(例文④⑤)
- C. 「より」はN1が比較の基準であることを示す。(例文①②③⑥⑦)
- D. 文末のA / AN / Vには、以下のようなバリエーションがある。
- A / AN : NがA / AN (例文②)
- V : 状態性の動詞「Vている」(例文⑥)
- Aく / ANに / 副詞 + V (例文⑦)
- E. 二つのことがらの比較をたずねるときは、「N1とN2とどちらがA / AN / Vか」を使う。(例文⑤)

### 先生へ

「N2のほうがN1よりA / AN / V」のように語順を入れ替えることができる。

例 北海道のほうが九州より広いです。

三つ以上のことがらを比較するときは、「N1がN2でいちばんA / AN / V」(N2はN1の比較対象となる範囲)を使う。

例 東京が日本でいちばん人口が多いです。

「より」は助詞。

「ほう」は形式名詞。

二つのことがらを比較する表現には、ほかに「V1よりV2のほうがA / AN / V」「N1よりN2のほうがN3」(N3は程度性をもつ名詞)があるが、ここでは扱わない。

例 勉強するより遊ぶほうが楽しいです。

山本さんは中山さんより努力家です。

自分の国や町に関係のある身近なことからで練習するとわかりやすい。

#### 【関連項目】

- 文-62 NとNとどちら  
文-63 NはNより

#### 【「れんしゅう編」の練習】

- 15-6 地理のクイズ  
15-7 順番にならべましょう  
15-8 どちらのほうがいい店ですか

# 文-62

## NとNとどちら

(1)

N1	と	N2	と	どちら	の	ほう	が	A	か
								AN	
								V	

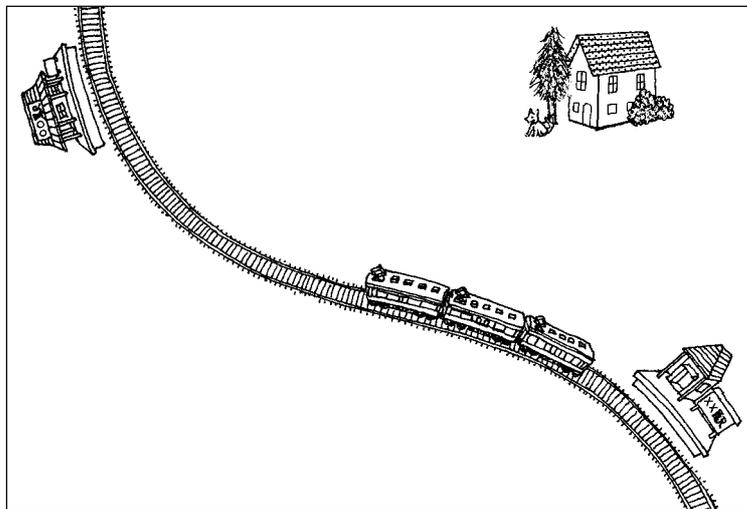
(2)

N1	と	N2	と	どちら	助詞	V	か
----	---	----	---	-----	----	---	---

### 基 本

#### 例 文

- ① あの店は、魚料理と肉料理と、どちらのほうがおいしいですか。
- ② A: ハンバーガーとフライドチキンと、どちらのほうが好きですか。  
B: どちらも好きです。
- ③ マンションと一戸建てと、どちらが地震に強いですか。
- ④ A: 駅と××駅と、どちらが近いですか。  
B: ××駅のほうが少し近いです。



例文 ④

- ⑤ デパートは、土曜日と日曜日と、どちらのほうが混んでいますか。
- ⑥ A : ××スーパーと スーパーでは、どちらのほうが安いですか。  
B : ××スーパーと スーパーでは、スーパーのほうが安いです。  
でも、スーパーは、もっと安いですよ。

## 解説

- A. 構造図(1)で、N1とN2の二つを比較するとどうであるかをたずねるときに使う。(例文①～⑤)
- B. 「と」は、N1、N2がお互いに比較の対象であることを表す。(例文①～⑥)
- C. 「N1とN2と」が、「N1とN2では」になることがある。(例文⑥)
- D. 「どちらのほうが」の「のほう」は省略されることがある。(例文③～④)
- E. 同じ程度だと答えるときは、「どちらもA / AN / V」「同じくらいA / AN / V」「両方A / AN / V」などを使う。(例文②)

## 発 展

## 例 文

- ⑦ A : 船便と航空便と、どちらで送りますか。  
B : 航空便でお願いします。
- ⑧ A : コーヒーと紅茶と、どちらにしますか。  
B : どちらでもいいです。
- ⑨ A : 現金とクレジットカードと、どちらで払いますか。  
B : 現金でお願いします。

## 解説

- F. 構造図(2)で、二つのうちどちらを選択するかたずねるときに使う。(例文⑦～⑨)
- G. 「と」は、N1とN2が選択の対象であることを示す。(例文⑦～⑨)
- H. 選択せずにどちらでも大丈夫だと答える場合は、「どちらでもいいです」を使う。(例文⑧)

## 先生へ

三つ以上のことがらの場合は、「どちら」を使わない。比較、選択される対象によって用いる疑問詞が  
ちが  
違う。

ひと 人		だれ / どなた / どのN
ばしょ 場所		どこ / どのN
とき 時		いつ / 何曜日 / 何時など
もの もの	めいかく せんたくし 明確な選択肢がない	なに 何
	めいかく せんたくし 明確な選択肢がある	どれ

例 1 A : 果物の中で、何がいちばん好きですか。

B : いちごがいちばん好きです。

2 A : りんごとみかんとぶどうでは、どれがいちばん好きですか。

B : ぶどうがいちばん好きです。

「と」は助詞。

動作、行為、状態を比較してたずねるときは「V1のとV2のと、どちらがA / AN / Vか」を使うが、  
ここでは扱わない。

例 A : スポーツをするのと見るのとどちらが好きですか。

B : 見るほうが好きです。

自分の国や町に関係のある身近なことから練習するとわかりやすい。

### 【関連項目】

文 -61 より... ほう

### 【「れんしゅう編」の練習】

15-6 地理のクイズ

15-8 どちらのほうがいい店ですか



N1	は	N2	より	A
				AN
				V

基 本

例 文

- ① <sup>ことし なつ</sup>今年の夏は、<sup>きょねん なつ</sup>去年の夏より<sup>あつ</sup>暑いですね。
- ② A: <sup>じんじゃ</sup>この神社は、<sup>ひと おお</sup>人が多くて、にぎやかですね。  
 B: ええ。でも、<sup>しょうがつ いま</sup>お正月は、<sup>ひと おお</sup>今よりもっと人が多いですよ。
- ③ A: <sup>からだ くあい</sup>体の具合はどうですか。  
 B: <sup>きょう</sup>今日は、<sup>きのう</sup>昨日よりいいです。
- ④ A: <sup>あたら</sup>新しいデジタルカメラはどうですか。  
 B: <sup>と</sup>撮った写真が<sup>しゃしん</sup>モニターで<sup>み</sup>すぐ見られるので、<sup>べんり</sup>ふつうのカメラよりずっと便利です。
- ⑤ A: <sup>てら</sup>このお寺は、<sup>み</sup>さっき見た<sup>てら</sup>お寺より<sup>ふる</sup>古いですか。  
 B: <sup>てら</sup>いいえ、さっきのお寺の<sup>ふる</sup>ほうが古いです。
- ⑥ <sup>きょう</sup>今日はいつもより<sup>みち</sup>道が<sup>はや</sup>すいていたので、<sup>つ</sup>早く着きました。
- ⑦ <sup>ぶっきょう</sup>仏教は、<sup>きょう</sup>キリスト教より<sup>はや</sup>早く<sup>にほん</sup>日本に<sup>つた</sup>伝わりました。

A. N1についてN2との比較で説明するときを使う。(例文①～⑦)

B. 「より」はN2が比較の基準であることを示す。(例文①～⑦)

C. 文末のA / AN / Vには、以下のようなバリエーションがある。

A / AN : NがA / AN (例文②)

V : 状態性の動詞「Vている」(例文⑥)

A < / AN に / 副詞 + V (例文⑦)

D. N1についてたずねるときは、「N1はどうですか」や「N1はA / AN / Vか」などを使う。

(例文③～⑤)

先生へ

三つ以上のことがらを比較して、その中でいちばん程度が著しいN1について述べるときは、「N1はN2でいちばんA / AN / V」(N2はN1の比較対象となる範囲)を使う。

例 冬至は、一年でいちばん昼間の時間が短いです。

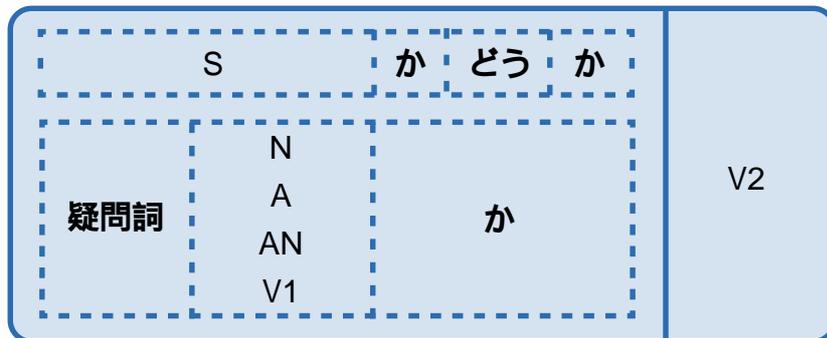
「N1はN2よりN3」(N3は程度性をもつ名詞)という文型もあるが、ここでは扱わない。

例 田中さんは山田さんより努力家です。

「より」は助詞。

「より...ほう」(p.192)との違いを明らかにするために、N1が主題であることがよくわかる状況の文で練習したほうがよい。

<p><b>【関連項目】</b></p> <p>文-61 より...ほう</p>	<p><b>【「れんしゅう編」の練習】</b></p> <p>16-1 日本とくらべる</p> <p>16-7 歌舞伎</p>
--	---



S / N / A / AN / V1 : 常体形。ただし、「Nだ N」「ANだ AN」

基 本

例 文

- ① ここがわたしたちの席かどうか確かめましょう。
- ② すみませんが、語で、日本料理が好きかどうか聞いてください。
- ③ このツアーに参加するかどうか、明日までに決めてください。
- ④ 今日は何がおいしいかウエイターに聞いてみましょう。
- ⑤ 昔の人がどんな生活をしていたか調べました。
- ⑥ この建物がいつできたか知っていますか。
- ⑦ だれがこの詩を書いたかわかりません。
- ⑧ A : あのう、手紙を出したいんですが、郵便局はどこですか。  
B : ええと、ここをまっすぐ行って…。ちょっと複雑なので、いっしょに行きましょう。
- ⑨ A : 大丈夫です。一人で行けますから、どこにあるか教えてください。
- ⑩ ホテルから博物館まで、どうやって行ったらいいか地図で調べましょう。
- ⑩ いくつかお弁当が必要か聞いてみます。

A. 「かどうか」は、疑問詞を含まない疑問文を名詞化する。(例文①～③)

わたしは、田中さんが旅行に行くかどうか知りません。

田中さんは旅行に行きますか。

B. 「疑問詞...か」は、「何、いつ、だれ、どこ、なぜ」などの疑問詞を含む疑問文を名詞化する。

(例文④～⑩)

どこで前売り券を売っているか電話で聞きました。

どこで前売り券を売っていますか。

C. 「Sかどうか」「疑問詞...か」は、文の構成要素になる。(例文①～⑩)

## 先生へ

「かどうか」「疑問詞...か」の後には助詞「が」「を」をつけることがある。

例1 2時までに明日のお城見学に参加するかどうかを連絡してください。

2 乗る電車が何番線に来るかがわからなくて、困りました。

3 ここに何泊するかを書いてください。

疑問文「Sんですか」「疑問詞...んですか」を名詞化する場合は、「Sのかどうか」「疑問詞...のか」となる。

例 なぜスケジュールが突然変わったのか説明してください。

なぜスケジュールが突然変わったんですか。

「SかどうかNです」「疑問詞...かNです」もあるが、ここでは扱わない。

例1 お金があるかどうか問題です。

2 どんな返事が来るか楽しみです。

V2に「わかる、知っている、覚えている、質問する、聞く、たずねる、教える、決める、調べる、Vてみる」などの動詞を使って練習するとよい。

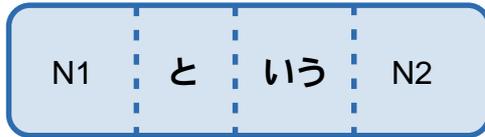
### 【関連項目】

活-05 常体形  
文-25 Vこと  
文-69 の(名詞化)

### 【「れんしゅう編」の練習】

16-2 有名人にインタビュー  
16-4 おまわりさんの交番日記  
17-2 人気がある仕事

(1)



N1 : N2の具体的な名称  
ぐたいてき めいしょう

N2 : N1の類(人、場所、物、ことなど)  
るい ひと ばしょ もの

(2)



N2 : N1(人、場所、物、ことなど)の具体的な名称  
ひと ばしょ もの ぐたいてき めいしょう

## 基 本

### 例 文

- ① 「ようかん」というお菓子をはじめて食べてみました。とても甘かったです。  
かし た あま
- ② A : すぐ近くに清水寺というお寺がありますよ。  
ちが きよみずでら てら  
 B : じゃ、昼ごはんを食べてから、そこへ行きましょう。  
ひる た い
- ③ A : これは、何ですか。  
なん  
 B : びわという楽器です。日本に昔からある楽器です。  
がっき にほん むかし がっき
- ④ A : 映画でこれを見たことがあります。  
えいが み  
 B : そうですね。これは明治時代に使っていた人力車という乗り物です。  
めいじ じだい つか じんりきしゃ の もの
- ⑤ わたしが生まれたところは、「新宮」という町です。  
う しんぐう まち
- ⑥ 昔、あるお寺に「一休さん」というお坊さんがいました。  
むかし てら いっきゅう ぼう

### 解 説

- A. 構造図(1)で、N2の名前、呼び名を示すときに使う。(例文①～⑥)  
こうぞうず なまえ よ な しめ つか
- B. 構造図(1)で、N1が何であるのかをN2で示して、聞き手にわかりやすく述べるときに使う。  
こうぞうず なん しめ き て の つか  
 (例文①～⑥)
- C. 書かれた文では、N1を際立たせるために、「か ぶん きわ だ」で囲むことがある。(例文①⑤⑥)  
かこ

例 文

- ⑦ わたしは、田中た なかといひます。どうぞ、よろしくお願ひします。ねが
- ⑧ このお寺は、清水寺てら きよみずでらといひます。
- ⑨ 山本やまもとさんの名前なまえは、あきらといひます。
- ⑩ A：日本式にほんしきのホテルを日本語にほんごで何なんといひますか。  
 B：旅館りょかんといひます。
- ⑪ 日本にほんの雨季うきは「梅雨つゆ」といひて、6月中旬がつちゅうじゅんから7月中旬がつちゅうじゅんごろです。

解 説

- D. 構造図(2)で、N1の名前なまえ、呼び名よ なを紹介しょうかいするときにつかつかう。(例文⑦～⑩)
- E. 書かれた文では、N2を際立たせるために、「か ぶん きわ だ か」で囲むことがある。(例文⑪)

先生へ

- A. の用法は、話し手はなが聞き手きが、N1についてよく知らないしときにつかつかわれる。  
 話しことばでは、「と」は「って」となることがある。  
 例 ちか すぐ近くに「清水寺きよみずでら」てらっていうお寺がありますよ。

<p>【関連項目】</p> <p>助-30 と(引用)</p>	<p>【「れんしゅう編」の練習】</p> <p>16-3 日本の歴史</p> <p>16-5 すずめのお宿</p> <p>16-6 ぜひ、わたしの町に来てください</p> <p>16-7 歌舞伎</p>
---------------------------------	---

疑問詞	でも	N
		A
		AN
		V

N / A / AN / V : 肯定形

基 本

例 文

- ① わからないことがあったら、いつでも聞いてください。
- ② A: 何か食べられないものがありますか。  
B: いいえ、何でも食べられます。
- ③ このダイビング体験コースは、泳げる人だったらだれでも参加できます。
- ④ (レストランで)  
A: すみません。あそこに「コーヒーおかわり自由」と書いてありますが、どういう意味ですか。  
B: コーヒーを何杯でも飲めるという意味ですよ。
- ⑤ 一日観光ツアーは、どのコースでも同じ料金です。
- ⑥ A: 週末の日帰り旅行ですが、箱根と日光とどちらがいいですか。  
B: どちらでもいいです。
- ⑦ (ホテルのフロントでもらったメッセージ)  
「何時でも大丈夫ですから、電話してください。番号は、090-xxxx-xxxx」
- ⑧ このレストランは、どの席からでも美しい夜景を見ることができます。

- A. もの、人、時、場所、数などを制限しないことを表す。(例文①～⑧)
- B. 疑問詞には、「何、だれ、いつ、どこ、どちら、どのN、どんなN、何+助数詞」などが使われる。(例文①～⑧)
- C. 疑問詞のあとに助詞「へ、に、で、から、まで、と」が必要なときは、「疑問詞+助詞+でも」となる。(例文⑧)

### 先生へ

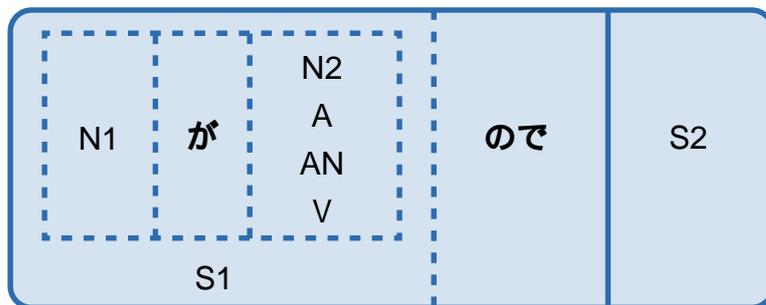
疑問詞のあとにつく助詞のうち、場所の「で」は省略されることがある。

例 そのカードは、どこ(で)でも使えます。

#### 【関連項目】

#### 【「れんしゅう編」の練習】

16-6 ぜひ、わたしの町に来てください



N2 / A / AN / V : 常体形。ただし、「Nだ Nな」「ANだ ANな」

## 基 本

### 例 文

- ① 今日<sup>きょう</sup>は月曜日<sup>げつようび</sup>なので、美術館<sup>びじゅつかん</sup>は開いていません。
- ② この町<sup>まち</sup>は観光地<sup>かんこうち</sup>ではないので、ホテル<sup>すく</sup>が少ないです。
- ③ (ガイド<sup>せつめい</sup>の説明<sup>き</sup>を聞いているとき)  
まわりがうるさいので、よく聞こえません。もう少し大きい声<sup>すこ おお こえ はな</sup>で話してください。
- ④ 日光<sup>にっこう</sup>では紅葉<sup>こうよう</sup>がとてもきれいだったので、たくさん<sup>しゃしん と</sup>写真を撮りました。
- ⑤ 道<sup>みち</sup>がわからなかったので、交番<sup>こうばん</sup>で聞きました。
- ⑥ A: ここ、「富士見<sup>ふじみ</sup>が丘<sup>おか</sup>」という

んですか。

- B: ええ、昔<sup>むかし</sup>はここから富士山<sup>ふじさん</sup>がよく見えたので、「富士見<sup>ふじみ</sup>が丘<sup>おか</sup>」  
という名前<sup>なまえ</sup>になったんですよ。  
今は、建物<sup>たてももの</sup>でほとんど  
見えませんが。



例文 ⑤

A. 「<sup>あらわ</sup>ので」は、S1がS2で表されていることの理由であること<sup>りゆう</sup>を示す<sup>しめ</sup>。(例文①～⑥)

先生へ

「<sup>あらわ</sup>ので」は、「<sup>たうろう</sup>だろう」「<sup>でしやう</sup>でしょう」のあとにはつかない。

「<sup>あらわ</sup>ので」とほかの理由<sup>りゆう</sup>を述べる表現<sup>ひやうげん</sup>との違い<sup>ちが</sup>

S1 <sup>あらわ</sup> ので S2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・S2は、現実<sup>げんじつ</sup>の行動<sup>こうどう</sup>や状況<sup>じやうきやう</sup>。</li> <li>・S2が意志<sup>いし</sup>的な表現<sup>ひやうげん</sup>の場合<sup>ばあい</sup>、話し手<sup>はな</sup>の考え<sup>て</sup>、意志<sup>かんが</sup>を和らげ<sup>いし</sup>、丁寧<sup>やわ</sup>な感じ<sup>ていねい</sup>を与える<sup>かん</sup>。</li> </ul>
S1 から S2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・S2は、話し手<sup>はな</sup>の意志<sup>て</sup>や考え<sup>いし</sup>。</li> </ul>
S1(A / AN / V)で S2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・S1は、S2より時間<sup>じかん</sup>的に前<sup>まえ</sup>に起こること<sup>お</sup>。</li> <li>・S2は、S1の当然<sup>とうぜん</sup>の結果<sup>けつ</sup>。話し手<sup>はな</sup>の意志<sup>て</sup>的な表現<sup>いし</sup>はこない<sup>ひやうげん</sup>。</li> </ul>
Nで S2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Nには、マイナス<sup>けつ</sup>の結果<sup>か</sup>をもたらす名詞<sup>めいし</sup>が多く<sup>おほ</sup>い。</li> <li>・S2は、Nの当然<sup>とうぜん</sup>の結果<sup>けつ</sup>。話し手<sup>はな</sup>の意志<sup>て</sup>的な表現<sup>いし</sup>はこない<sup>ひやうげん</sup>。</li> </ul>

\* 意志<sup>いし</sup>的な表現<sup>ひやうげん</sup>とは、依頼<sup>いらい</sup>（「<sup>V</sup>Vてください」など）、意志<sup>いし</sup>（「<sup>V</sup>Vようと思います」など）、願望<sup>がんぼう</sup>（「<sup>V</sup>Vたいです」など）、誘い<sup>さそ</sup>（「<sup>V</sup>Vましょう」など）、禁止<sup>きんし</sup>（「<sup>V</sup>Vてはいけません」など）

例1 混<sup>こ</sup>んでいた<sup>ので</sup>、ジェットコースターに<sup>の</sup>乗<sup>ま</sup>るまで1時間<sup>じかん</sup>待<sup>まち</sup>ちました。

2 もうすぐ<sup>しゅっぱつ</sup>出<sup>いそ</sup>発<sup>ぱつ</sup>しますから、急<sup>いそ</sup>いでください。

3 雨<sup>あめ</sup>が降<sup>ふ</sup>って、ピクニックが<sup>ちゅうし</sup>中<sup>し</sup>止<sup>し</sup>になりました。

4 事<sup>じ</sup>故<sup>こ</sup>で高<sup>こう</sup>速<sup>そく</sup>道<sup>どう</sup>路<sup>ろ</sup>が<sup>じゅうたい</sup>渋<sup>じゅう</sup>滞<sup>たい</sup>しました。

「敬<sup>けい</sup>体<sup>たい</sup>+<sup>ので</sup>」も使<sup>つか</sup>うことがあるが、使<sup>つか</sup>う場<sup>ば</sup>面<sup>めん</sup>が限<sup>かぎ</sup>られ、か<sup>ひやうげん</sup>なりていねいな表<sup>ひやうげん</sup>現<sup>げん</sup>になるので、こ<sup>こ</sup>こでは

「常<sup>じょう</sup>体<sup>たい</sup>形<sup>けい</sup>+<sup>ので</sup>」だけ<sup>れんしゅう</sup>を練<sup>れん</sup>習<sup>しゅう</sup>したほう<sup>ほう</sup>がよ<sup>よい</sup>い。

例（観<sup>かん</sup>光<sup>こう</sup>案<sup>あん</sup>内<sup>ない</sup>所<sup>じょ</sup>で）

A：すみません。市<sup>し</sup>内<sup>ない</sup>の地<sup>ち</sup>図<sup>ず</sup>がほ<sup>ほ</sup>しいん<sup>いん</sup>です<sup>す</sup>が。

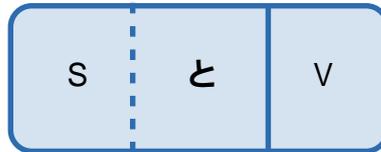
B：あ<sup>あ</sup>ち<sup>ち</sup>ら<sup>ら</sup>の机<sup>つくえ</sup>の上<sup>うえ</sup>に<sup>じゆう</sup>あ<sup>あ</sup>り<sup>り</sup>ます<sup>す</sup>ので、ご自<sup>じ</sup>由<sup>ゆう</sup>にお取<sup>と</sup>り<sup>り</sup>くだ<sup>くだ</sup>さい。

【関連項目】

- 活-05 常体形
- 文-31 Vて
- 助-25 から（理由）
- 助-27 で（原因/理由）

【「れんしゅう編」の練習】

- 16-5 すずめのお宿
- 16-6 ぜひ、わたしの町に来てください



つた                      ないよう  
S: 伝えられる内容

## 基 本

### 例 文

- ① ガイドが、「これは有名な祭りです。」と言いました。
- ② ガイドが、これは有名な祭りだと言いました。
- ③ 田中さんは、「バスの中は少し暑いです。」と言いました。
- ④ 田中さんは、バスの中が少し暑いと言いました。
- ⑤ A: 中田さんを見かけませんでしたか。  
B: さっき、「大変だ!」と言いながら、むこうへ走って行きましたよ。
- ⑥ 答えがわからなかったので、「わかりません。」と答えました。
- ⑦ バスは3時に出発すると聞きました。
- ⑧ あとで電話すると伝えてください。
- ⑨ A: ここに何と書いてあるんですか。  
B: 写真を撮ってはいけないと書いてあります。
- ⑩ A: おなかがいっぱい、もう食べられないとき、何と言ったらいいですか。  
B: 「もう、けっこうです。」と言うんですよ。

- A. 「と」は、Sがある人の言った内容であることを示す。(例文①～⑩)
- B. ある人が言ったことをそのまま伝える。(例文①③⑤⑥⑩)
- C. ある人が言ったことを言い直して伝える。Sは常体形。(例文②④⑦⑧⑨)
- D. Bの場合、書かれた文では、Sを「 」で囲む。(例文①③⑤⑥⑩)

### 先生へ

Vは「言う、歌う、書く、数える、聞く、答える、説明する、たずねる、伝える、鳴く、話す、読む、呼ぶ」などの動詞。

話しことばでは、「と」は「って」となることがある。

例 A：中山さん、遅いですね。

B：そうですね。1時に来るって言っていたんですけど。

言い直して伝える場合、人称や動詞が変わることがある。

例 山本さんは、「4時にあなたのうちに行きます。」と言いました。

山本さんは、4時にわたしのうちに来ると言いました。

Sの文末とVの時制を一致させる必要はない。

伝える内容が疑問文の場合は、「SかどうかV」「疑問詞...かV」となるので、疑問文の引用はここでは練習しないこと。

依頼内容を伝える場合は、「VようにV」となるので、依頼文(「Vてください」)の引用はここでは練習しないこと。

#### 【関連項目】

- 活-05 常体形  
文-38 とおもいます  
文-64 かどうか/疑問詞...か

#### 【「れんしゅう編」の練習】

- 16-4 おまわりさんの交番日記  
16-5 すずめのお宿  
19-6 山田さんへの手紙

		こ	そ	あ	ど
だいいいし 代名詞	もの	これ	それ	あれ	どれ
	ばしょ 場所	ここ	そこ	あそこ	どこ
+ N	しゅうしょく めいし げんてい 修飾する名詞を限定	このN	そのN	あのN	どのN
	しゅうしょく めいし ぞくせい じょうたい 修飾する名詞の属性(状態)	こんなN	そんなN	あんなN	どんなN
ほうこう 方向		こちら	そちら	あちら	どちら
		こっち	そっち	あっち	どっち
ほうほう 方法		こう	そう	ああ	どう

## 基 本

### 例 文

- ① 去年の12月7日に日本へ来ました。その日はとても寒い日でした。
- ② 先月、北海道の札幌へ行きました。そこで雪祭りを見ました。
- ③ A: 田中一郎さんという人から電話がありましたよ。  
B: えっ? そんな人知りません。
- ④ A: かさじぞうという昔話を知っていますか。  
B: いいえ、その昔話はどんな話ですか。
- ⑤ A: 先週見たあの映画、おもしろかったですね。  
B: ええ、もう一度見たいですね。
- ⑥ (歴史館で江戸時代の説明を聞きながら)  
A: あのう、この時代にはもう電気がありましたか。  
B: いいえ、電気はまだありませんでした。この時代にはランプやろうそくを使っていました。

- A. 「こそあ」は、会話や文章の中で、すでに話題として出たことを指す場合に使う。(例文①～⑥)
- B. 「こそあ」は、聞き手と話し手が会話で話題として出たことを知っているかどうかで使い方が違う。

	つか 使うとき
「そ」グループ	<ul style="list-style-type: none"> <li>話し手は話題に出ていることを知っているが、聞き手は知らないと思っていると き。(例文①②)</li> <li>話し手が会話の相手が話題として出したことを知らないとき。(例文③④)</li> </ul>
「あ」グループ	<ul style="list-style-type: none"> <li>話し手と聞き手の両方が話題に出ていることを知っているとき。(例文⑤)</li> </ul>
「こ」グループ	<ul style="list-style-type: none"> <li>話し手が話題に出ていることを知っているとき。(例文⑥)</li> </ul>

### 先生へ

発展形として、次のようなことばがある。

例 この : このような、このように

こんな : こんなに、こんなふうに

こう : こういう、こういうふうに、こうして

「こ」グループは、ある話題を最初に出した人だけが使える。

「こそあ」には、実際に話している場面で、そこにあるものなど目で見ることを指す用法もある。(p.24 29参照)

A. の用法は、初級レベルでも会話や読みものなどに出てくるが、「こそあ」の使い分けがむずかしいので、会話や読みものの内容理解を間違えないように指導する程度にしたほうがよい。

#### 【関連項目】

- 語-02 これ / それ / あれ  
 語-03 この / その / あの  
 語-04 ここ / そこ / あそこ

#### 【「れんしゅう編」の練習】

16-5 すずめのお宿

V(よ)う と おもいます

V(よ)う: 意向形

基 本

例 文

①(スピーチ大会で優勝した瞬間のインタビューで)

A: 優勝おめでとうございます。賞金の10万円は何に使いますか。

B: ええと・・・、貯金しようと思います。

②(うちへ帰る途中で)

A: おなかがすいたから、ちょっとマックに寄ろうと思うんですが、いっしょに行きませんか。

B: 行きます! 行きます!

③日本の大学を卒業した先輩の話聞いて、わたしも留学しようと思いました。

④16歳になったら、バイクの免許をとろうと思っています。

⑤大人になってお金持ちになったら、両親に大きな家をプレゼントしようと思っています。

⑥A: 将来、どんな仕事をしたいと思いますか。

B: わたしは子供のときからずっと医者になろうと思っています。



例文⑥

## 解説

- A. 発話の時点で、話し手が何かをする意志があることを述べるときに使う。(例文①～③)
- B. 「V(よ)うとおもっています」は、何かをする意志が継続的にあることを述べるときに使う。  
(例文④～⑥)

### 先生へ

Vは意志動詞。(p.278 参照)

「V(よ)うと(は)おもいません」は、強い意志の否定を表す。

第三者の意志を述べるときは、「V(よ)うとおもっている+推量/伝聞の表現」を使う。

- 例 1 山本さんは、宇宙飛行士になろうとおもっているそうです。
- 2 山本さんは、毎日遅くまで練習しています。今度の試合で優勝しようと思っているかもしれません。
- 3 山本さんは、夏休みにペンフレンドに会いに行こうと思っているみたいです。

#### 【関連項目】

- 活 07 意向形  
文 38 とおもいます

#### 【「れんしゅう編」の練習】

- 17-2 人気がある仕事  
17-3 何のためですか  
17-4 高いかもしれません  
17-5 何になろうと思っていますか  
17-6 仲間さがし  
17-7 将来の夢

S

かもしれません

じょうたいけい  
S: 常体形。ただし、「Nだ N」「ANだ AN」

基 本

例 文

- ① A: この財布、だれのですか。  
B: もしかすると、田中さんのかもしれません。さっき何かさがしていましたから。
- ② 山の上は、朝、寒いかもしれないから、セーターを持っていったほうがいいですよ。
- ③ 一人で外国へ行くのは、ちょっと不安かもしれませんが、いい経験になりますよ。
- ④ A: 子供のころから医者になりたかったんですが、なれないかもしれません。  
B: どうしてですか。  
A: 医学部に合格する自信がないんです。それに、血を見るのがこわいんです。
- ⑤ A: 卒業したら、歌手になりたいと思っています。  
B: ご両親には、相談しましたか。  
A: いいえ、まだです。両親は反対するかもしれませんが、決心は変わりません。
- ⑥ だれも来ませんね。もしかしたら、時間をまちがえたかもしれません。

解 説

- A. 話し手が、ある状況や出来事が起こる可能性がある」と推量したことを述べるときに使う。  
(例文①～⑥)
- B. 「もしかしたら」「もしかすると」といっしょに使うことがある。(例文①⑥)

## 先生へ

「かもしれません」は、疑問文ではふつう使わない。

「かもしれません」の過去形はここでは扱わない。

### 【関連項目】

活-05 常体形  
文-42 でしょう

### 【「れんしゅう編」の練習】

17-4 高いかもしれません

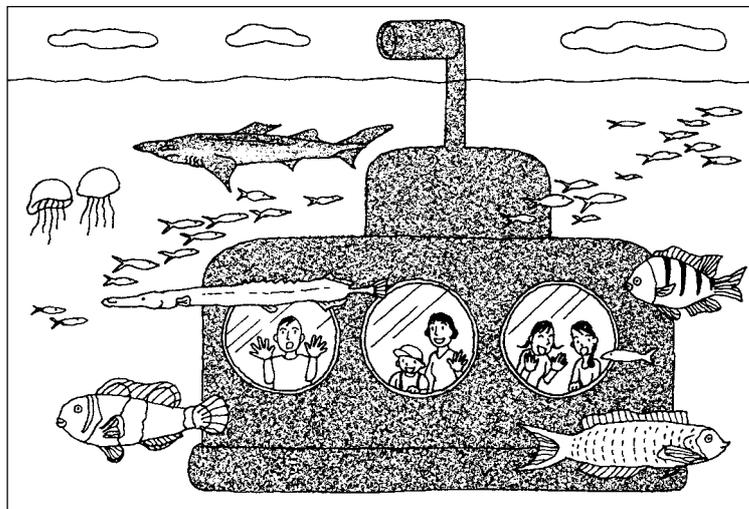


じょうたいけい  
V: 常体形

基 本

例 文

- ① <sup>ふね</sup> <sup>なか</sup> 船の中<sup>から</sup>、<sup>さかな</sup> <sup>およ</sup> 魚が泳いでいる<sup>の</sup>が<sup>み</sup>見えます。
- ② <sup>たなか</sup> 田中<sup>さん</sup>が、<sup>ふろ</sup> <sup>うた</sup> お風呂で歌っている<sup>の</sup>が<sup>き</sup>聞こえます。
- ③ コンピュータで<sup>じぶん</sup> <sup>しょうらい</sup> 自分の将来<sup>を</sup> <sup>うらな</sup> 占う<sup>こと</sup>ができる<sup>の</sup>を<sup>し</sup>知っていますか。
- ④ <sup>あさ</sup> 朝<sup>から</sup>ずっと、<sup>てがみ</sup> <sup>く</sup> 手紙が来る<sup>の</sup>を<sup>ま</sup>待っています。
- ⑤ <sup>りょこう</sup> <sup>けいかく</sup> 旅行の計画<sup>を</sup> <sup>た</sup> 立てる<sup>の</sup>は<sup>たの</sup>楽しいです。
- ⑥ A: <sup>りょうり</sup> <sup>とくい</sup> 料理は得意<sup>ですか</sup>。
- B: <sup>いいえ</sup>、<sup>あまり</sup> <sup>とくい</sup> 得意<sup>では</sup>ありません。でも、<sup>た</sup> <sup>す</sup> 食べる<sup>の</sup>は<sup>好き</sup>です。
- ⑦ <sup>わたし</sup>が<sup>しょうらい</sup> 将来<sup>なり</sup>たい<sup>のは</sup>、<sup>べんごし</sup> 弁護士<sup>です</sup>。
- ⑧ <sup>まいつき</sup> 毎月<sup>おこづかい</sup> <sup>ちよきん</sup> おこづかいを貯金<sup>している</sup>のは、<sup>あたら</sup> <sup>か</sup> 新しいスケートボード<sup>を</sup> <sup>か</sup> 買いたい<sup>から</sup>です。



例文①

- A. 「の」はVを名詞化する。(例文①～⑧)  
 B. 「Vの」は、名詞と同じように文の構成要素となる。(例文①～⑧)  
 C. 「VのはXです」で、Xを強調して言いたいときに使うことがある。(例文⑦⑧)

### 先生へ

Sの名詞化には、「Vの」と「Vこと」がある。相互に置き換えることができるものも多いが、そうでないものもある。置き換えられないものは以下の通りである。

S+の	S+こと	後ろにくる動詞
	×	知覚を表す動詞：見える、聞こえる、におう、感じる、聞く、見る など
	×	名詞節の主格への働きかけを表す動詞：手伝う、じゃまする、待つ など
	×	と 止める、やめる など
	×	強調構文
×		話す、伝える、決める、考える、思う、約束する、祈る など 例 試験に受かったことを先生に伝えました。
×		だ、です、である 例 わたしの趣味は、星を見ることです。

#### 【関連項目】

活-05 常体形  
 文-25 Vこと

#### 【「れんしゅう編」の練習】

17-5 何になろうと思っていますか  
 17-7 将来の夢

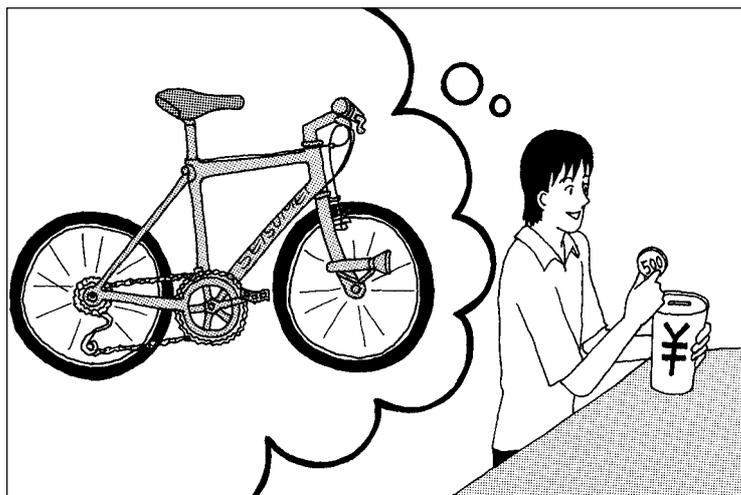


じしよけい  
V1: 辞書形

基 本

例 文

- ① <sup>けんこう</sup>健康<sup>の</sup>ために<sup>まいあさ</sup>毎朝<sup>ジョギング</sup>をしています。
- ② <sup>やまもとせんせい</sup>山本先生<sup>は、</sup><sup>ゆきおとこ</sup>雪男<sup>の</sup>調査<sup>の</sup>ために<sup>い</sup>、ヒマラヤへ行きました。
- ③ <sup>あとうと</sup>弟<sup>は、</sup><sup>じてんしゃ</sup>自転車<sup>を</sup>買う<sup>か</sup>ために<sup>ちよきん</sup>、貯金<sup>して</sup>います。
- ④ わたしは、<sup>めんきよ</sup>バイク<sup>の</sup>免許<sup>をと</sup>るために<sup>まいしゅうどようび</sup>、毎週土曜日<sup>きょうしゅうじょ</sup>に教習所<sup>かよ</sup>に通っています。
- ⑤ わたしたちは<sup>らいげつ</sup>来月<sup>きこく</sup>帰国<sup>する</sup>先生<sup>せんせい</sup>のために<sup>そうべつかい</sup>、送別会<sup>ひら</sup>を開きました。
- ⑥ <sup>たなか</sup>田中さん<sup>は、</sup><sup>しょうらい</sup>将来<sup>こま</sup>、困<sup>ひと</sup>っている人<sup>はたら</sup>のために<sup>おも</sup>働きたい<sup>おも</sup>と思っています。
- ⑦ A: <sup>べんきょう</sup>だれのために勉強<sup>して</sup>いるんですか。  
B: <sup>じぶん</sup>自分<sup>じしん</sup>自身<sup>の</sup>ため<sup>です</sup>。



例文 ③

- A. 「ために」は、N、V1がV2で表される行為の目的であることを示す。(例文①～④)
- B. Nが人や団体(グループ)の場合は、Nが利益の受け手であることを示す。(例文⑤～⑦)
- C. V2の行為が明らか場合は、「～ためです。」とすることができる。(例文⑦)

### 先生へ

V1は意志動詞。(p.278 参照)

行為の目的を表すNには、以下のような名詞が使われる。

目的として価値があるもの：将来、健康、平和など

「Nする」動詞のN：調査、研究、勉強など

「ために」は、N、V1がV2で表される行為の原因・理由であることを示すことがある。

例1 父が転勤するために来月転校しなければなりません。

2 事故のために電車がおくれました。

#### 【関連項目】

- 活-03 辞書形  
助-15 に(目的)

#### 【「れんしゅう編」の練習】

- 17-3 何のためですか  
17-5 何になろうと思っていますか  
17-7 将来の夢

### <グループ1>

う	おう	かう	かおう
く	こう	かく	かこう
ぐ	ごう	およぐ	およごう
す	そう	はなす	はなそう
つ	とう	まつ	まとう
ぬ	のう	しぬ	しのう
ぶ	ぼう	あそぶ	あそぼう
む	もう	よむ	よもう
る	ろう	かえる	かえろう

### <グループ2>

る	よう	おきる	おきよう
		たべる	たべよう

### <グループ3>

する	しよう
くる	こよう

## 先生へ

意向形は動詞の活用形の一つ。

意向形は「Vましょう」の常体形としても使われる。

例 一生懸命が**ん**ばりま**し**よう。

一生懸命が**ん**ばろ**う**。

無意志動詞は意向形では使われない。(p.279 参照)

意向形には、否定形、過去形はない。

意向形は次のように使われる。

例1 来年は必ず**う**優勝**し**よう。

例2 日本へ行くまでに、もっと漢字を**わ**覚えよう**と**おも**い**ます。

### 【関連項目】

- 活-03 V辞書形
- 文-67 V(よ)うとおもいます

### 【「れんしゅう編」の練習】

- 17-1 「意向形」カードゲーム
- 17-2 人気がある仕事
- 17-3 何のためですか
- 17-4 高いかもしれません
- 17-5 何になろうと思っていますか
- 17-6 仲間さがし
- 17-7 将来の夢



A		
AN	そう	です
V		

A : A 辞

V : V ます

## 基 本

### 例 文

① <sup>そつぎょうしき</sup>卒業式の日<sup>ひ</sup>に<sup>せんせい</sup>先生に<sup>はな</sup>バラの花<sup>を</sup>をあげました。先生<sup>せんせい</sup>はとてもうれし<sup>そう</sup>そうでした。

② (ケーキ<sup>み</sup>を見て)

わあ、おいし<sup>そう</sup>ようなケーキ<sup>です</sup>ですね！

③ (盆踊り<sup>み</sup>を見て)

A : みんな<sup>たの</sup>楽し<sup>おど</sup>そうに踊<sup>っ</sup>ていますね。

B : ええ。わたし<sup>おど</sup>たちも踊<sup>り</sup>ましょう。

④ A : ポケット<sup>さいふ</sup>からお財布<sup>お</sup>が落ち<sup>そう</sup>そうですよ。

B : あ、ありが<sup>とう</sup>。

⑤ A : あ！自転車<sup>じてんしゃ</sup>がたおれ<sup>そう</sup>そうです。

B : ああ、たおれ<sup>て</sup>てしまいました。

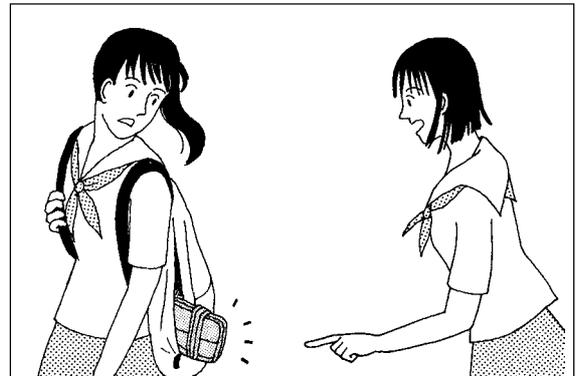
⑥ (テニス<sup>れんじゅう</sup>の練習<sup>そら</sup>のあと、空<sup>み</sup>を見<sup>あ</sup>上げて)

<sup>あめ</sup>雨が<sup>ふ</sup>降り<sup>そう</sup>そうだから、<sup>はや</sup>早く<sup>かた</sup>ボール<sup>を</sup>を片づ<sup>け</sup>てしま<sup>い</sup>ましょ<sup>う</sup>。

⑦ <sup>ことし</sup>今年<sup>ぶん</sup>の文化祭<sup>かさい</sup>は、<sup>がっこう</sup>となりの学校<sup>と</sup>といっしょ<sup>に</sup>にするので、<sup>ひと</sup>おおぜい<sup>き</sup>人が来<sup>そ</sup>うです。

⑧ A : 来年<sup>らいねん</sup>から × 大学<sup>だいがく</sup>の入学試験<sup>にゅうがくしけん</sup>の科目<sup>かもく</sup>が<sup>へ</sup>減<sup>る</sup>ると先生<sup>せんせい</sup>が<sup>い</sup>言<sup>っ</sup>ていま<sup>し</sup>た。

B : じゃ、受験生<sup>じゅけんせい</sup>が<sup>ふ</sup>増<sup>え</sup>え<sup>そ</sup>う<sup>で</sup>すね。



例文 ④

# 解説

- A. 見た目で、ものの様子・性質を推量して述べるときに使う。(例文①～③)
- B. Vで表される状況が起こる直前の状況を述べるときに使う。(例文④⑤)
- C. 話し手が現状から判断した、これからVのようになるだろうという予想や、そうなる可能性を述べるときに使う。(例文⑥～⑧)
- D. 「そうです」文が名詞や動詞を修飾するときは、「そんなN」「それにV」となる。(例文②③)

## 先生へ

- B. の場合、話し手の意志的な行為は表せない。  
「そうです」の否定形は、以下のようになる。否定文は、A / AN / Vとなる見込みがない状態であることを述べるときに使う。

A	A くなさそうです
AN	AN ではなさそうです
V	V そうもありません

例1 (電車が遅れて)

A: 一時間目に間に合いそうもないですね。

B: 遅刻ですね。

2 先生は許してくれそうもありません。どうでしょう。

「Nそうです」という形はないが、「Nじゃなさそうです」の形で使われることがある。

例 あの人は学生じゃなさそうです。

形容詞「いい」は、「よさそうです」となるので、注意すること。

A. の場合、見てすぐわかることには使えないので、「きれい、かわいい、背が高い、太っている」などを練習で使わないように注意すること。

「そうです」(伝聞)(p.238)とは、A、AN、Vの接続形が違うので注意すること。

例 雨が降るそうです。(伝聞)

雨が降りそうです。(様態)

### 【関連項目】

文-78 そうです(伝聞)

### 【「れんしゅう編」の練習】

- 18-4 ジェスチャー・ゲーム
- 18-6 クラブ紹介
- 18-7 忙しい2学期

N

を

Vて

おきます

基 本

例 文

- ① 試験しけんのまえに、もう一度教科書いちどきょうかしょをよ読んでおきます。
- ② 来週らいしゅうのミーティングまでに、先生せんせいの予定よていを聞いておいてください。
- ③ 授業じゅぎょうが終わおったら、次つぎの授業じゅぎょうのために黒板こくばんをきれいにしておきましょう。
- ④ A: 授業じゅぎょうで配くばる資料しりょうのコピーは？  
 B: 山本やまもとさんに頼たのんでおきました。たぶん教室きょうしつの机つくえの上うえにおいてあると思いますおも。
- ⑤ ホールのいすは片づけかたなくてもいいですよ。文化祭ぶんかさいが終わおるまでそのままにしておきましょう。
- ⑥ A: この机つくえはどこはこに運びはこびましょうか。  
 B: ああ、それはそこおに置いておいてください。あとでわたしはこが運びはこびますから。
- ⑦ ここあにある空あきカンあや空あき箱ばこは、あとで使つかうかもしれないので、捨すてないで置いてください。

解 説

- A. ある目的もくてきのために前まえもって何なにかを準備じゅんびすることを述のべるときに使う。(例文①~④)
- B. 一時的いちじてきにVの状態じょうたいのまま放ほう置ちすることを述のべるときに使う。(例文⑤~⑦)

## 先生へ

Vは意志動詞。(p.278 参照)

「Vておきます」は、話しことばでは「Vときます/Vとく」になることがある。

例 このポスター、はっといてくださいね。

「Vておきます」と「Vてあります」の違い。

	よう ほう 用 法	ぶん けい 文 型
Vておきます	じゅんび 準備する という 行為 を 述べる	NをVておきます
Vてあります	じゅんび 準備が できている 状態 を 述べる	NがVてあります

例 A: パーティー会場はもう予約してありますか。

B: いいえ、まだです。

A: じゃ、明日までに必ず予約しておいてくださいね。

Vが自動詞の場合もあるが、他動詞で練習したほうが理解しやすい。

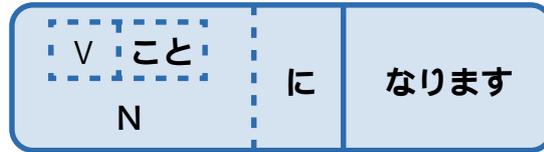
例 もうすぐ忙しくなりますから、いまのうちに休んでおいたほうがいいですよ。

### 【関連項目】

活-01 Vて形  
文-41 Vてあります

### 【「れんしゅう編」の練習】

18-2 準備をしておきます  
18-7 忙しい2学期



V: 辞書形またはVない形

基 本

例 文

- ① この学校では、<sup>がっこう</sup> 小学校<sup>しょうがっこう</sup> 3年生<sup>ねんせい</sup>から<sup>えいご</sup> 英語<sup>べんご</sup>を勉強<sup>べんきょう</sup>することになりました。
- ② 中山<sup>なかやま</sup>さんは、お父<sup>とう</sup>さんの転勤<sup>てんきん</sup>で、来月<sup>らいげつ</sup>転校<sup>てんこう</sup>することになりました。みんな<sup>みな</sup>で送別会<sup>そうべつかい</sup>を開<sup>ひら</sup>きましょう。
- ③ 今年<sup>ことし</sup>の生徒会<sup>せいとかい</sup>長<sup>ちやう</sup>は、投票<sup>とうひょう</sup>の結果<sup>けつ かつ</sup>、山本<sup>やまもと</sup>さんになりました。
- ④ 体育<sup>たいいく</sup>の日<sup>ひ</sup>は、2000年<sup>ねん</sup>から、10月<sup>がつ</sup> 10日<sup>か</sup>ではなく<sup>な</sup>って、10月<sup>がつ</sup>の第2月曜日<sup>だい げつようび</sup>になりました。
- ⑤ 今年<sup>ことし</sup>から、試験<sup>しけん</sup>の結果<sup>けつ かつ</sup>は発表<sup>はつひやう</sup>しないことになりました。
- ⑥ A: 田中<sup>たなか</sup>さんのクラスは、文化祭<sup>ぶんかさい</sup>に何<sup>なに</sup>をするんですか。  
B: わたしは、お化け屋敷<sup>ばやしき</sup>をや<sup>や</sup>りた<sup>た</sup>かった<sup>つが</sup>んですが、多数決<sup>たすうけつ</sup>で環境問題<sup>かんきやうもんだい</sup>について発表<sup>はつひやう</sup>をすることになってしまいました。

解 説

A. 「Vこと」または「N」に決<sup>き</sup>ま<sup>の</sup>ったと述<sup>つが</sup>べるときに使う。(例文①～⑥)

## 先生へ

「Vこと / Nになっています」は、<sup>き</sup>決まりなどを<sup>の</sup>述べるときに使う。

例 1 <sup>がっこう</sup>学校へ<sup>く</sup>来るときは、<sup>せいふく</sup>制服を<sup>き</sup>着ることに<sup>な</sup>なっています。

2 <sup>びじゅつかん</sup>美術館<sup>なか</sup>の中では、<sup>しゃしん</sup>写真を<sup>と</sup>撮ってはいけ<sup>な</sup>ないことに<sup>な</sup>なっています。

「Nになります」には<sup>へんか</sup>変化を表す用法 (p.140) もあるので、<sup>れんしゅう</sup>練習をするとき<sup>ちゅうい</sup>注意すること。

例 <sup>おとな</sup>大人にな<sup>ら</sup>ったら、<sup>やきゅうせんしゅ</sup>野球選手にな<sup>り</sup>たいです。( <sup>へんか</sup>変化 )

<sup>よせん</sup>予選で<sup>か</sup>勝<sup>っ</sup>て、<sup>だいいょうせんしゅ</sup>代表選手にな<sup>り</sup>ました。( <sup>き</sup>決まったこと )

### 【関連項目】

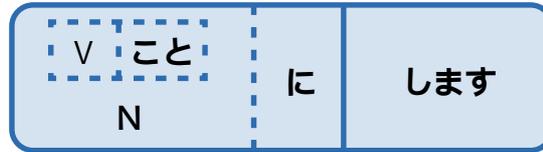
- 活-03 V辞書形
- 活-04 Vない形
- 文-39 Aく / ANに / Nになります
- 文-74 Vこと / Nにします

### 【「れんしゅう編」の練習】

- 18-3 ボランティア
- 18-7 忙しい2学期
- 18-8 日本の学校行事

# 文-74

## V こと / N にします



じしょけい  
V : 辞書形またはVない形

### 基 本

#### 例 文

- ① わたしは、<sup>だいがく</sup>大学へ<sup>しんがく</sup>進学しないで、<sup>ちち</sup>父の<sup>しごと</sup>仕事を<sup>てつだ</sup>手伝うことにしました。
- ② <sup>なつやす</sup>夏休みの<sup>あいだ</sup>間に、わたしたちの<sup>ぐるーぷ</sup>グループは、<sup>むかしばなし</sup>昔話について<sup>しら</sup>調べることにします。
- ③ <sup>あした</sup>明日<sup>しけん</sup>試験がありますから、<sup>きょう</sup>今日は<sup>よ</sup>寄り道しないことにします。
- ④ (ホームルームで)
- A : <sup>いけん</sup>いろいろな意見が<sup>で</sup>出て、<sup>き</sup>なかなか決まりませんね。
- B : <sup>らいしゅう</sup>じゃ、来週もう<sup>いちど</sup>一度<sup>はな</sup>話し合うことにしましょう。
- ⑤ A : <sup>だい</sup>第2<sup>がいこくご</sup>外国語は何に<sup>なに</sup>しましたか。
- B : わたしは、<sup>にほんご</sup>日本語にしました。
- ⑥ (食堂でメニューを見ながら)
- A : <sup>なに</sup>何にしますか。
- B : わたしは、ラーメンにします。
- A : じゃ、わたしはカレー。

#### 解 説

A. <sup>はな</sup>話し手が「Vこと」または「N」に<sup>き</sup>決めたとき<sup>の</sup>と<sup>つか</sup>述べるときに使う。(例文①～⑥)

## 先生へ

「Vこと/Nにしています」は、そう決めて習慣的に行っていることを述べるときに使う。

例 毎朝、ジョギングをすることにしています。

「Nにします」には、変化を表す用法 (p.188) もあるので、練習をするとき注意すること。

例 1 野菜をジュースにして、飲みます。(変化)

2 A: 何にしますか。

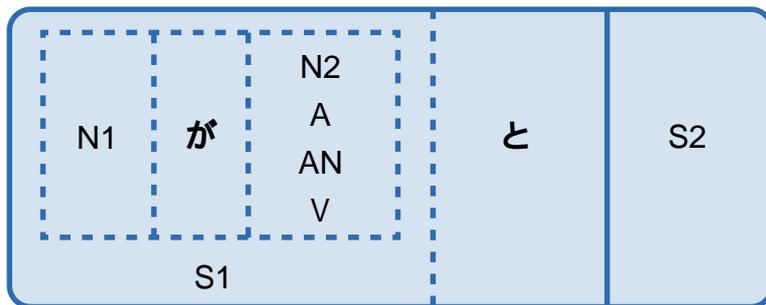
B: わたしは、ジュースにします。(決めたこと)

### 【関連項目】

- 活-03 V辞書形
- 活-04 Vない形
- 文-59 Aく/A Nに/Nにします
- 文-73 Vこと/Nになります

### 【「れんしゅう編」の練習】

- 18-3 ボランティア
- 18-5 劇をすることにします
- 18-6 クラブ紹介
- 18-7 忙しい2学期

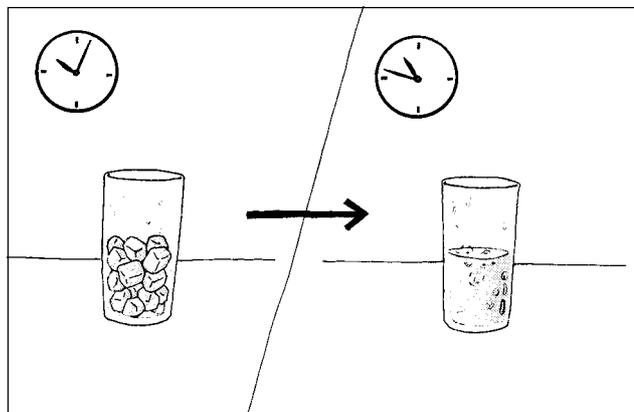


N2 / A / AN / V : 常体形非過去 じょうたいけいひかこ

## 基 本

### 例 文

- ① かね い お金を入れてボタンをお押しと、きつぷ で切符が出てきます。
- ② A : しょくいんしつ 職員室はどこですか。  
B : ろうかを まっすぐ行って、つきあたりを 左にひだり曲がると、みぎがわ 右側にありますよ。
- ③ でんしゃ 電車だと ぶん 40分ですが、じかん バスだと1時間かかります。
- ④ しあい 試合に勝つとうれしいですが、ま 負けるとくやしいです。
- ⑤ せいせき 成績がよくないと、しょうがくきん 奨学金がもらえません。
- ⑥ やす 休みが長いと、なら 習ったことをわす忘れてしまいます。
- ⑦ こうちやうせんせい 校長先生は毎朝学校にまいあさがっこう来ると、く 花だんの花にか水をはなやりみずます。
- ⑧ こおり 氷がとけると、みず 水になります。
- ⑨ はる 春になると、テニスコートのそばのさくら桜の  
はな花がさ咲きます。
- ⑩ 1 から 10 までのかず数を全部たすと、55 に  
なります。



例文 ⑧

- A. 「S1とS2」で、S1が成立する場合必ずS2が成立することを表す。S2は非過去形。(例文①～⑩)
- B. やり方、行き方などを説明するときに使う。(例文①②)
- C. 一般的事実、習慣的事実を説明するときに使う。(例文③～⑦)
- D. 自然現象について述べるときに使う。(例文⑧⑨)
- E. 論理的なことを述べるときに使う。(例文⑩)

## 先生へ

S2に、以下のような意志的な表現は使えない。

依頼：Vてください/Vてくださいませんか など

意志：Vよう/Vようと思います など

願望：Vたいです など

誘い：Vましょう/Vませんか など

禁止：Vてはいけません など

一回限りの出来事、行動について述べるときには使えない。

「と(条件)」と「たら」の違い。

S1	S2 (非過去形)	と	たら	例文
話し手が仮定したこと		×		大学生になったら、ラグビーをしたいと思います。
実際にある、または あった行動や状況	無意志的表現			春になると、桜の花が咲きます。 春になったら、桜の花が咲きます。
	意志的表現	×		駅についたら、電話してください。

S2が過去形の場合にはS1とS2は以下のような関係にある。この場合は、「たら」で置き換えることができる。

S1とS2の関係	例文
S1がS2のきっかけ	田中さんは、先生に呼ばれると、すぐ立ち上がりました。
S1によってS2を発見	教室へ行くと、もう授業が始まっていました。
S1をしているときS2がおこる	図書館で本を読んでいると、先生がきました。

### 【関連項目】

活-05 常体形  
文-57 たら

### 【「れんしゅう編」の練習】

18-1 春になると...  
18-6 クラブ紹介  
18-8 日本の学校行事

# 文-75

## V(ら)れます(受身)

N1	は/が	N2	に	V(ら)れます
----	-----	----	---	---------

N1: Vの行為の受け手

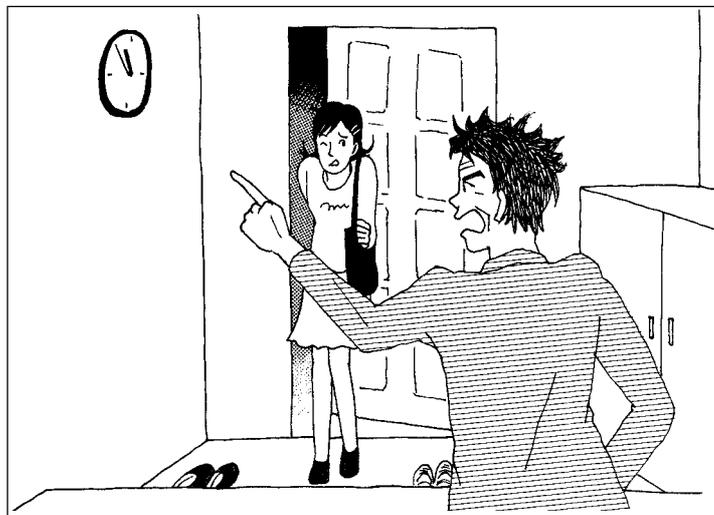
N2: Vの動作主

V(ら)れます: 受身形

### 基 本

#### 例 文

- ① わたしはおばあさんに道を聞かれました。
- ② 姉は、夜遅く帰って、父にしかられました。



例文②

- ③ 財布を落としたので交番へ行ったら、おまわりさんにいろいろ質問されました。
- ④ 子供のとき、犬にかまれたことがあります。
- ⑤ A: どうしたんですか。うれしそうですね。  
B: スピーチがじょうずにできて、日本語の先生にほめられたんです。

## 解説

- A. Vの動作を、その動作の受け手(N1)の立場で述べるときに使う。(例文①～⑤)
- B. N1が話し手、またはだれかわかっている場合は、「N1は/が」が省略されることがある。  
(例文③～⑤)

## 発 展

### 例 文

- ⑥ 2000年に沖縄でサミットが開かれました。
- ⑦ この歌は、カラオケでよく歌われています。

### 解説

- C. 社会的事実を述べるときに使う。その場合、動作主(N2)は特定されない。(例文⑥⑦)

### 先生へ

Vは他動詞。(p.280参照)

話し手の意志に関係なく起こったことで、迷惑と感じる動作、行為を述べるときに使う用法はここでは扱わない。

- 例1 突然雨に降られて、ぬれてしまいました。
- 2 友達に0点のテストを見られて、はずかしかったです。

#### 【関連項目】

活-08 受身形

#### 【「れんしゅう編」の練習】

- 19-3 十二支の中にねこがない理由
- 19-6 山田さんへの手紙
- 19-7 ホームステイの報告
- 20-6 いろいろな未来

# 文-76

# Vてもらいます

N1	は/が	N2	に	Vて	もらいます
----	-----	----	---	----	-------

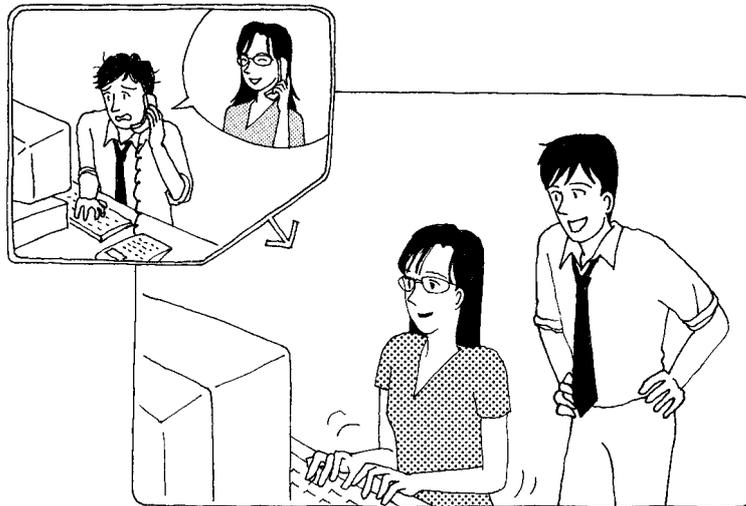
N1: Vの行為の受け手

N2: Vの動作主

## 基 本

### 例 文

- ① 昨日、わたしは、中田さんに年賀状の書き方を教えてもらいました。
- ② 山本さんに日本の写真を見せてもらいました。
- ③ 雨が降っているので、山田さんに車で送ってもらいましょう。
- ④ 明日は忙しくなりそうなので、中田さんにも手伝ってもらうことにしました。
- ⑤ コンピュータが動かなくなったので、中山さんに直してもらいました。



例文 ⑤

- ⑥ A: 「 × 」はどんな食べ物かわかりましたか。  
 B: 田中さんに聞いて、説明してもらったんですが、よくわかりませんでした。
- ⑦ 山中さんに日本から送ってもらったTOKIOのポスターは、わたしの宝ものです。

- A. N1の要望に応じて、N2がVの行為、動作をすることを表す。(例文①～⑦)
- B. N2は話し手にならない。
- C. N1が話し手、または話し手を含む人たちの場合は、「N1は/が」は省略されることがある。  
(例文②～⑦)

## 先生へ

Vは意志動詞。(p.278 参照)

「Vてもらいますか」は、だれかにVの行為を依頼するかどうかたずねるときに使う。

例 A: だれかに手伝ってもらいますか。

B: そうですね。中田さんをお願いしましょう。

Vが「教える、貸す、送る」などの物や知識が移動することを表す動詞の場合、「に」が「から」になることがあるが、学習者が混乱するのでここでは「から」を扱わないほうがよい。

例 田中さんから本を貸してもらいました。

話し手の利益となる行為について述べる時、「Vてもらいます」を使わず、客観的な事実を述べる「Vます」を使ってしまう誤用が多い。「Vます」では、行為をした人に対して失礼になることがあるので、注意させること。

例 中田さんがわたしの宿題を手伝いました。(客観的な事実)

中田さんに宿題を手伝ってもらいました。(感謝の気持ちが含まれる)

「Vてもらいます」を正確に使えるようにするためには、「ウチ・ソト」の関係の理解が必要である。

(p.276 参照)

「Vてもらいます」と逆の方向性の行為を述べる表現「Vてあげます」は、p.277 参照。

### 【関連項目】

- 活-01 て形
- 文-51 もらいます
- 文-77 Vてくれます

### 【「れんしゅう編」の練習】

- 19-6 山田さんへの手紙
- 19-7 ホームステイの報告

# 文-77

# Vてくれます

N1	は/が	N2	に	Vて	くれます
----	-----	----	---	----	------

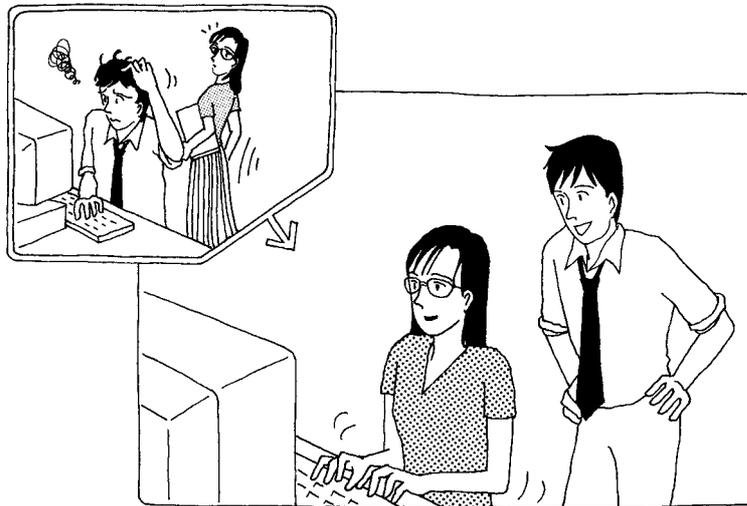
N1 : Vの動作主

N2 : Vの動作の受け手

## 基本

### 例文

- ① 山本さんは、よく、わたしたちに料理を作ってくれます。
- ② 風邪で学校を休んだら、次の日、中田さんがノートを見せてくれました。
- ③ 傘がなくて困っていたとき、中山さんが貸してくれました。
- ④ 中田さんは、わたしの財布をひろって届けてくれました。
- ⑤ コンピュータが動かなくなって困っていたら、中山さんが直してくれました。



例文⑤

- ⑥ A : 山本さん、この間送ったわたしのメール、読んでくれましたか。  
B : えっ、いつ送ったんですか。届いていませんよ。
- ⑦ 荷物を持ってきて、ありがとう。
- ⑧ 先週、中山さんはわたしを食事に招待してくれました。

⑨ A : 電車でんしゃに間まに合あいましたか。

B : はい。山田やまださんが駅えきまで車くるまで送おくってくれましたから。

## 解説

A. N1がN2の利益りえきになる行為こうい、動作どうさをするあらわことを表す。(例文①～⑨)

B. N1は話し手はなてにならない。

C. N2はたいてい話し手はなて、または話し手はなてを含む人ひとたちなので、「N2に」は省略しょうりゃくされることが多い。  
(例文②③⑤⑦⑨)

D. 「N2に」が「N2を」「N2の」になることがある。

「N1は/が N2のN3を Vてくれます」(例文④⑥⑦)

(N3はN2の持ち物もちものや体からだの部分ぶぶん)

「N1は/が N2を Vてくれます」(例文⑧)

(N2はVの動作どうさの対象たいしょう)

## 先生へ

「N2を」となる場合、Vは「案内あんないする、選ぶえらぶ、起こすお、送るおく、しかるしょうたい、招待そだする、育てるたす、助けるて、手て伝つたう、ほめるみ、見つけるむか、迎えるよ、呼ぶどうし」などの動詞。

N2が話し手はなてのウチかんけいの関係ひとの人さんしやう(p.276参照)になることがあるが、ここでは話し手はなてまたは話し手はなてを含むグループかぎに限れんしゅうって練習こんらんしたほうが混乱こんらんしない。

例 山田やまださんは、妹いもうとに日本語にほんごを教おしえてくれました。

Vには無意志動詞むいしどうしを使うつかこともあるが、ここでは意志動詞いしどうしだけで練習れんしゅうしたほうがわかりやすい。

例 ずっと雨あめで、なかなか晴はれてくれませんか。

話し手はなての利益りえきとなる行為こういについて述つかべるとき、「Vてくれます」を使きゃっかんてきわず、客観じじつ的な事実のを述つかべる

「Vます」を使つかってしまごようう誤用おおが多い。「Vます」では、行為こういをした人ひとに対して失礼たいな表現しつれいになるので、注意ちゅういさせること。

例 山田やまださんはいろいろな料理りやうりを作つくりました。(客観きゃっかんてき的な事実じじつ)

山田やまださんはいろいろな料理りやうりを作つくってくれました。(感謝かんしゃの気持ちきもを含ふくんでいる)

「Vてくれますか」は命令めいれいに近い依頼ちがを述いらいべるときに使つかわれるので、いっしょに練習れんしゅうしないほうがよい。

「Vてくれます」を正確せいかくに使つかえるようにするためには、「ウチ・ソト」の関係かんけいの理解りかいが必要ひつようである。

(p.276参照さんしやう)

### 【関連項目】

活-01 Vて形

文-76 Vてもらいます

### 【「れんしゅう編」の練習】

19-5 お礼のカード

19-6 山田さんへの手紙

19-7 ホームステイの報告

S      そう      です

じょうたいけい  
S：常体形

基 本

例 文

- ① 田中<sup>たなか</sup>さんのお母<sup>かあ</sup>さんは医者<sup>いしゃ</sup>だそうです。
- ② 山田<sup>やまだ</sup>さんの手紙<sup>てがみ</sup>によると、今年<sup>ことし</sup>の日本<sup>にほん</sup>の夏<sup>なつ</sup>はいつもより暑<sup>あつ</sup>いそうです。
- ③ A：三社<sup>さんじゃまつ</sup>祭り<sup>み</sup>を見<sup>み</sup>に行<sup>い</sup>ったこと<sup>い</sup>がありますか。
- B：いいえ。でも、山本<sup>やまもと</sup>さん<sup>はなし</sup>の話<sup>はなし</sup>では、その祭り<sup>まつ</sup>はとて<sup>ま</sup>もにぎやか<sup>ま</sup>だそうですよ。
- ④ 天気<sup>てんき</sup>予報<sup>よほう</sup>によると、あした<sup>あ</sup>は晴<sup>は</sup>れるそうです。
- ⑤ 新聞<sup>しんぶん</sup>によると、日本<sup>にほん</sup>で地震<sup>じしん</sup>が起<sup>お</sup>こったそうです。



例文⑤

- ⑥ A：知<sup>し</sup>っていますか。中田<sup>なかた</sup>さん、手話<sup>しゅわ</sup>がで<sup>で</sup>きるそうですよ。
- B：本<sup>ほん</sup>当<sup>とう</sup>ですか。じゃ、今<sup>こん</sup>度<sup>ど</sup>教<sup>おし</sup>えてもら<sup>もら</sup>いませう。
- ⑦ A：中田<sup>なかた</sup>さん<sup>しゅうまつ</sup>は週末<sup>い</sup>のスキー<sup>い</sup>に行<sup>い</sup>けな<sup>い</sup>いそうです。
- B：どう<sup>どう</sup>して<sup>して</sup>で<sup>で</sup>すか。
- A：手<sup>て</sup>を<sup>を</sup>け<sup>け</sup>が<sup>が</sup>して<sup>して</sup>しま<sup>ま</sup>った<sup>た</sup>ん<sup>ん</sup>だ<sup>だ</sup>さう<sup>さう</sup>です。

## 解説

- A. 話し手が聞いたり読んだりして得た情報をだれかに伝えるときに使う。(例文①～⑦)
- B. 情報源がはっきりしている場合に使う。情報源は「～によると」「～の話では」で示すことができる。(例文②～⑤)
- C. 「そうです」は過去形、否定形、疑問形では使わない。

### 先生へ

「そうです」は「だろう、みたいだ、ようだ」の後には使えない。

「そうです」(様態)(p.222)とは、A、AN、Vの接続形が違うので、注意すること。

例 この料理、おいしいそうですね。(様態)

山田さんのお父さんの料理はおいしいそうですね。(伝聞)

#### 【関連項目】

活-05 常体形  
文-71 そうです(様態)

#### 【「れんしゅう編」の練習】

19-1 伝言ゲーム  
19-2 新聞を読んで  
19-3 十二支の中にねこがない理由

### <グループ1>

う	われる	つかう	つかわれる
く	かれる	かく	かかれる
ぐ	がれる	さわぐ	さわがれる
す	される	はなす	はなされる
つ	たれる	うつ	うたれる
ぬ	なれる	しぬ	しなれる
ぶ	ばれる	はこぶ	はこばれる
む	まれる	たのむ	たのまれる
る	られる	とる	とられる

### <グループ2>

る	られる	みる	みられる
		おしえる	おしえられる

### <グループ3>

する	される
くる	こられる

## 先生へ

受身形は動詞の活用形の一つ。

受身形の「ます形、ない形、て形、た形」などは、グループ2の動詞活用と同じ。

例 よばれる よばれます  
 よばれない  
 よばれて  
 よばれた

受身形を持たない動詞がある。

すでに受身的な意味を持つ動詞：見つかる など

無意志動詞の中の状態動詞：ある、要る、かかる など (p.279 参照)

可能、自発の意味を持つ動詞：見える、聞こえる など

### 【関連項目】

活-03 V辞書形  
 文-75 V(ら)れます(受身)

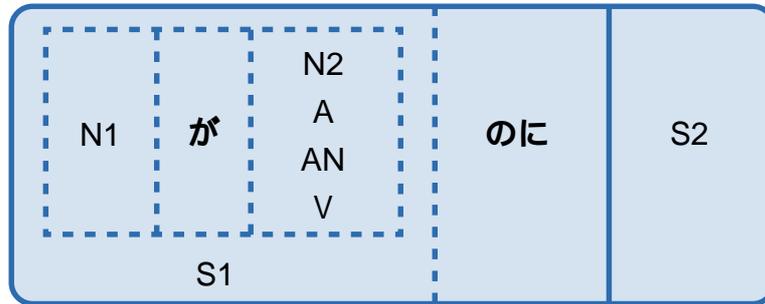
### 【「れんしゅう編」の練習】

19-3 十二支の中にねこがない理由  
 19-6 山田さんへの手紙  
 19-7 ホームステイの報告  
 20-6 いろいろな未来



# 助 - 32

# のに

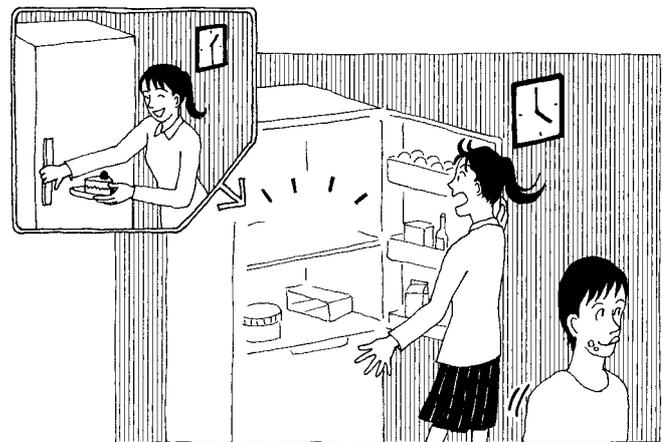


N2 / A / AN / V : 常体形。ただし、「Nだ Nな」「ANだ ANな」

## 基 本

### 例 文

- ① 梅雨<sup>つゆ</sup>なのに、雨<sup>あめ</sup>がぜんぜん降<sup>ふ</sup>りません。
- ② 田中<sup>たなか</sup>さんは家<sup>いえ</sup>が近<sup>ちか</sup>いのに、よく遅<sup>ち</sup>刻<sup>こく</sup>します。
- ③ 波<sup>なみ</sup>が高<sup>たか</sup>くて危<sup>き</sup>険<sup>けん</sup>なのに、サーフィン<sup>サーフィン</sup>をしてい<sup>して</sup>る人<sup>ひと</sup>がいます。
- ④ 風邪<sup>かぜ</sup>で熱<sup>ねつ</sup>があるのに、中山<sup>なかやま</sup>さんは授<sup>じゆ</sup>業<sup>ぎよう</sup>を休<sup>やす</sup>みません。
- ⑤ 一<sup>いっ</sup>生<sup>しょう</sup>懸<sup>けん</sup>命<sup>めい</sup>勉<sup>べん</sup>強<sup>きやう</sup>したのに、試<sup>し</sup>験<sup>けん</sup>に落<sup>お</sup>ちてしま<sup>しま</sup>いました。
- ⑥ A : 田中<sup>たなか</sup>さんは？  
B : もう帰<sup>かえ</sup>りました。  
A : いっしょに帰<sup>かえ</sup>ろうと思<sup>おも</sup>ったのに。
- ⑦ A : き<sup>ま</sup>のう、ず<sup>ま</sup>っと待<sup>まち</sup>っていたのに、  
どうして来<sup>こ</sup>なかつたんですか。  
B : ごめ<sup>き</sup>んなさい。急<sup>きゆう</sup>にお腹<sup>なか</sup>が  
痛<sup>いた</sup>くなつてしま<sup>しま</sup>ったんです。
- ⑧ あ<sup>た</sup>とで食<sup>お</sup>べようと思<sup>おも</sup>って冷<sup>れい</sup>蔵<sup>ぞう</sup>庫<sup>こ</sup>に  
入<sup>い</sup>れてお<sup>お</sup>いたのに、だ<sup>た</sup>れが食<sup>た</sup>べた  
んですか。



例文 ⑧

- A. 「S1 のに S2」で、S2 が S1 から当然予測される状態、結果とは食い違っていることを表す。  
とうぜん よそく じょうたい けつ か く ちが あらわ
- (例文①～⑧)
- B. N1 が話し手の場合、不満、残念だという気持ちを表す。(例文⑤～⑧)  
はな て ばあい ふまん ざんねん き も あらわ
- C. S2 で表されることがわかっている場合には、省略されることがある。(例文⑥)  
あらわ ばあい しょうりやく
- D. 質問文は、「S1 のに、S2 んですか」の形になる。(例文⑦⑧)  
しつもんぶん かたち

## 先生へ

S1 と S2 は、事実(すでに起こったことや現在の状態)、または話し手の判断でなければならない。  
じじつ お げんざい じょうたい はな て はんだん

S2 に、以下のような意志的な表現は使えない。  
い か い し て き ひょうげん つか

依頼：Vてください/Vてくださいませんか など  
いらい

意志：Vよう/Vようとおもいます など  
いし

願望：Vたいです など  
がんぼう

誘い：Vましょう/Vませんか など  
さそ

禁止：Vてはいけません など  
きんし

「のに」と「ても」「が(接続)」との違い。  
せつぞく ちが

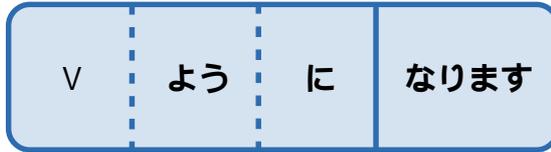
	S1 のに S2	S1 ても S2	S1 が S2
S1 が話し手の仮定したこと <small>はな て かてい</small>	×		×
S1 が実際にあったこと、したこと <small>じっさい</small>			
話し手の気持ち <small>はな て き も</small>	ざんねん ふまん 残念、不満、 きたい 期待はずれ	-	-
依頼、意志、願望、誘いなどの文末表現 <small>いらい いし がんぼう さそ ぶんまつひょうげん</small>	×		

### 【関連項目】

- 活-05 常体形  
 文-58 ても  
 助-16 が(接続)

### 【「れんしゅう編」の練習】

- 19-4 手紙を出したのに  
 19-7 ホームステイの報告

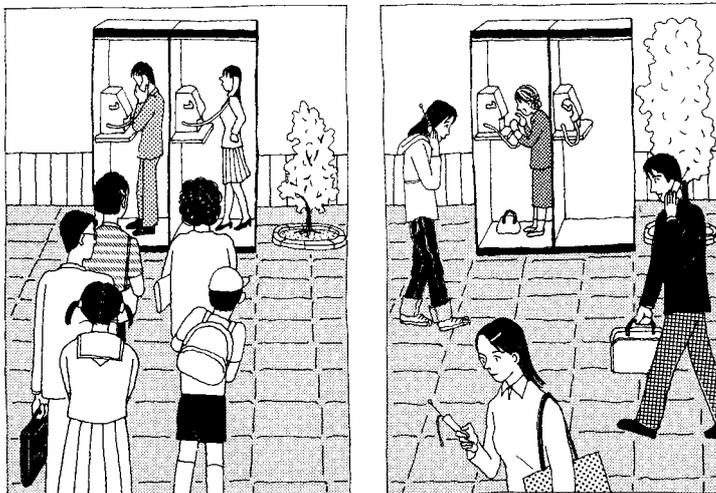


V: 辞書形、または可能形

基 本

例 文

- ① Eメールを始めてから、電話の代わりにEメールで連絡をとるようになりました。
- ② 母が病気になってから、弟は洗濯や掃除を手伝うようになりました。
- ③ 衛星放送が始まって、世界のニュースがいつでも見られるようになりました。
- ④ 21世紀になったら、だれでも宇宙旅行に行けるようになると言われていました。
- ⑤ 楽器が弾けなくても、コンピュータを使って作曲をしたり、演奏をしたりできるようになりました。
- ⑥ 外国語を勉強して、いろいろな国の人と話せるようになりたいです。
- ⑦ 携帯電話を使う人が多くなって、公衆電話があまり使われなくなりました。
- ⑧ A: パソコンの新しいモデルが発売されるそうですよ。  
B: じゃ、今のモデルは売れなくなりますね。



例文⑦

## 解説

- A. Vで表される習慣に変わる、または変わったことを述べるときに使う。(例文①②)
- B. Vで表される状況、能力に変わる、または変わったことを述べるときに使う。(例文③～⑥)
- C. 以前の状況や習慣がそうでなくなった場合は、「Vなくなります」を使う。(例文⑦⑧)

### 先生へ

「<sup>ふと</sup>太る、<sup>か</sup>やせる、<sup>の</sup>変わる、<sup>の</sup>伸びる、<sup>ふ</sup>増える、<sup>へ</sup>減る」などの変化を表す動詞といっしょに使うことはできない。

「Vなくなります」と言うとき、「Vないようにになります」とならないように注意すること。

#### 【関連項目】

- 活-03 V辞書形  
 活-04 Vない形  
 活-06 可能形  
 文-39 Aく / ANに / Nになります  
 文-60 Vようにします  
 文-81 Vできます / Vていきます

#### 【「れんしゅう編」の練習】

- 20-1 Eメールを始めてから  
 20-6 いろいろな未来  
 20-7 未来のニュース  
 20-8 調査「未来はどうなる？」  
 20-9 わたしたちの未来

# 文-80

## みたいです / ようです

N1	は	N2	みたい	です
		A		
		AN		
		V		

N2 / A / AN / V : 常体形

ただし、「N2だ N2」「ANだ AN」

N1	は	N2	よう	です
		A		
		AN		
		V		

N2 / A / AN / V : 常体形

ただし、「N2だ N2の」「ANだ ANな」

### 基 本

#### 例 文

- ① 電気がついていません。留守みたいですね。
- ② A : 犬がすごくほえていますよ。散歩に行きたいみたいですよ。  
B : いいえ、あれは、おなかがすいているんですよ。
- ③ とも子さん、中田さんが好きみたいですね。中田さんがいないとつまらなそうです。
- ④ 足音がします。だれか来たみたいです。
- ⑤ 中山さん、今日パーティーがあることを知らないみたいですよ。さっき、帰るしたくをしていましたから。
- ⑥ 熱があるみたいなんです。早退してもいいですか。
- ⑦ 最近ちょっと太ったみたいです。去年買ったズボンがきついんです。

#### 解 説

- A. その場の状況やすでに知っていることなど客観的な事実をもとにした話し手の推量を述べるときに使う。(例文①～⑤)
- B. 話し手自身の印象や感じ、症状などをもとにした話し手の推量を述べるときに使う。  
(例文⑥⑦)
- C. 否定形では使われない。
- D. N1 が何であるかわかっている場合は、「N1 は」が省略されることがある。(例文①②⑥⑦)

例 文

- ⑧ 先月行った調査を見ると、物価は去年より下がっているようです
- ⑨ (テレビでニュースキャスターが)  
ただいま、臨時ニュースが入りました。 ×島の近くで飛行機事故があったようです。  
詳しいことがわかりましたら、すぐにお知らせします。
- ⑩ (マラソンのテレビ中継で)  
あっ、選手が来ました。どうやら彼が一位の選手のようです。

解 説

E. 「ようです」は、「みたいです」と同じように使われるが、書きことばや改まった話しことばで使われることが多い。(例文⑧～⑩)

先生へ

話し手の意志的な行為の推量には使わない。

「みたいです」と「ようです」は、おおよそ話しことばと書きことばで使い分けされているが、あらたまった会話、手紙やEメールなどでは、その使い分けがあいまいになる。

「みたいです/ようです」と「そうです」(様態)(p.222)との違い。

みたいです/ようです	<ul style="list-style-type: none"> <li>その場の状況など客観的な事実からの話し手の推量。</li> <li>過去のできごとについても推量できる。</li> </ul>
そうです(様態)	<ul style="list-style-type: none"> <li>直接そのものを見ての話し手の印象や推量。</li> <li>現状から判断した話し手の予想。</li> </ul>

例1 (ある料理を食べている人がたくさんいるのを見て) おいしいみたいですね。

(その料理を見て) おいしそうですね。

2 (部屋の電気が消えているのを見て) もう寝たいですよ。

(赤ちゃんがあくびしているのを見て) もうすぐ眠りそうですよ。

ほかのものに例えて何かを説明するときに使う比況の「みたいです/ようです」は、ここでは扱わない。

例1 今日は暑くて、まるで夏みたいです。

2 まるで日本人のように日本語を話す。

最初に「みたいです」だけを使って、用法を理解させるとよい。

**【関連項目】**

活-05 常体形  
文-71 そうです(様態)  
文-79 Vようになります

**【「れんしゅう編」の練習】**

20-2 お化けアパート  
20-3 留学生が見た日本  
20-6 いろいろな未来  
20-7 未来のニュース  
20-9 わたしたちの未来



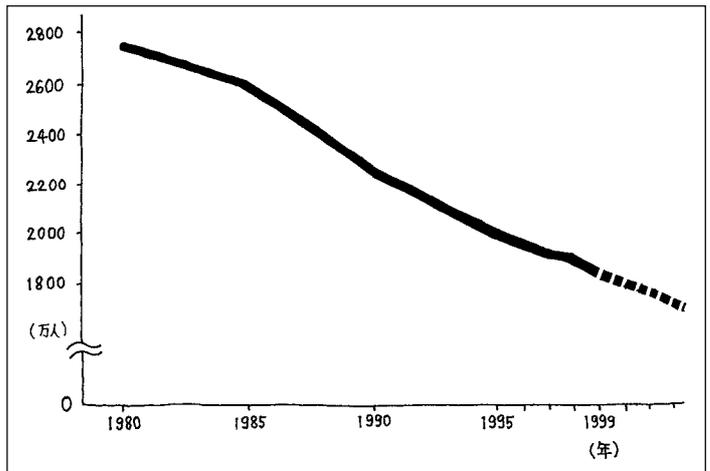
Vて      きました

Vて      いきます

基 本

例 文

- ① 最近<sup>さいきん</sup>は自分<sup>じぶん</sup>で本<sup>ほん</sup>を買<sup>か</sup>わないで、図書館<sup>としょかん</sup>で本<sup>ほん</sup>を借<sup>か</sup>りる人<sup>ひと</sup>が増<sup>ふ</sup>えてきました。
- ② A: 日本語<sup>にほんご</sup>は、少<sup>すこ</sup>しづつ変<sup>か</sup>わってききましたね。  
B: そうですね。アクセント<sup>か</sup>も変<sup>か</sup>わってききましたね。
- ③ 新<sup>あたら</sup>しい駅<sup>えき</sup>ができて、町<sup>まち</sup>がにぎやか<sup>か</sup>になってきました。
- ④ 日本<sup>にほん</sup>では、1980年<sup>ねん</sup>から約<sup>やく</sup>20年間<sup>ねんかん</sup>、15歳<sup>さい</sup>以下<sup>いか</sup>の人口<sup>じんこう</sup>は毎年<sup>まいとし</sup>減<sup>へ</sup>ってききました。今<sup>こん</sup>後<sup>ご</sup>も減<sup>へ</sup>っていくでしょう。
- ⑤ このま<sup>に</sup>ま二酸化炭素<sup>にさんかたんそ</sup>(CO<sub>2</sub>)が、増<sup>ふ</sup>えていくと、地球<sup>ちきゅう</sup>の温度<sup>おんど</sup>はますます上<sup>あ</sup>がっていくでしょう。



例文④

解 説

- A. 「Vてきました」は、Vの変化<sup>へんか</sup>が過去<sup>かこ</sup>から現在<sup>げんざい</sup>、または話し手<sup>はなて</sup>が考えている時点<sup>かんが</sup>まで続<sup>じてん</sup>いていることを述<sup>つづ</sup>べるときに使う。(例文①~④)
- B. 「Vていきます」は、現在<sup>げんざい</sup>または話し手<sup>はなて</sup>が考えている時点<sup>かんが</sup>のVで表<sup>じてん</sup>される状態<sup>あらわ</sup>が今後<sup>じょうたい</sup>どうなるかを述<sup>こんご</sup>べるときに使う。(例文④⑤)

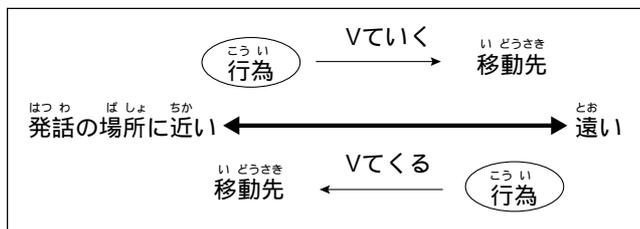


例 文

- ⑥ コンサートのま<sup>な</sup>えに、何<sup>た</sup>か食<sup>た</sup>べてい<sup>ま</sup>し<sup>ま</sup>し<sup>よ</sup>う。  
 ⑦ 出張<sup>しゅっちょう</sup>で九州<sup>きゅうしゅう</sup>に行<sup>い</sup>った父<sup>ちち</sup>は、わたしたちにおみ<sup>か</sup>やげを買<sup>か</sup>って<sup>き</sup>て<sup>く</sup>れ<sup>ま</sup>し<sup>た</sup>。

解 説

C. Vの行<sup>こう</sup>為<sup>い</sup>をしてから、移<sup>い</sup>動<sup>どう</sup>する<sup>あ</sup>ら<sup>わ</sup>ることを表<sup>あらわ</sup>す。(例文⑥⑦)



先生へ

A、Bの用法では、Vは「太<sup>ふと</sup>る、やせる、変<sup>か</sup>わる、伸<sup>の</sup>びる、増<sup>ふ</sup>える、減<sup>へ</sup>る、Aく / ANになる」など変化<sup>へんか</sup>を表<sup>あらわ</sup>す動<sup>どう</sup>詞<sup>し</sup>。

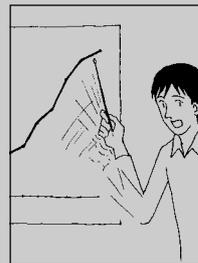
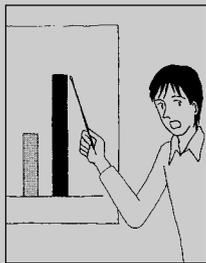
Cの用法では、Vは意志動<sup>いしどうし</sup>詞<sup>し</sup>。(p.278 参<sup>さん</sup>照<sup>しょう</sup>)

「Vて<sup>ちが</sup>きました」と「V<sup>ちが</sup>ました」の違い。

例 (グラフを使った説<sup>せつ</sup>明<sup>めい</sup>で)

携<sup>け</sup>帯<sup>たい</sup>電<sup>でん</sup>話<sup>わ</sup>の利<sup>り</sup>用<sup>りやう</sup>者<sup>しゃ</sup>が<sup>ふ</sup>増<sup>あ</sup>え<sup>ま</sup>し<sup>た</sup>。

携<sup>け</sup>帯<sup>たい</sup>電<sup>でん</sup>話<sup>わ</sup>の利<sup>り</sup>用<sup>りやう</sup>者<sup>しゃ</sup>が<sup>ふ</sup>増<sup>あ</sup>え<sup>て</sup>き<sup>ま</sup>し<sup>た</sup>。



「連<sup>つ</sup>れて<sup>つ</sup>い<sup>く</sup> / 連<sup>つ</sup>れて<sup>つ</sup>こ<sup>う</sup>る」「持<sup>も</sup>って<sup>も</sup>い<sup>く</sup> / 持<sup>も</sup>って<sup>も</sup>こ<sup>う</sup>る」などは、移<sup>い</sup>動<sup>どう</sup>の<sup>じやう</sup>た<sup>い</sup>の<sup>あ</sup>ら<sup>わ</sup>い<sup>やう</sup>ほう<sup>ご</sup>を表<sup>あらわ</sup>す用<sup>りやう</sup>法<sup>ぽう</sup>だ<sup>が</sup>、語<sup>ご</sup>彙<sup>い</sup>と<sup>あ</sup>つ<sup>か</sup>して扱<sup>あ</sup>つ<sup>た</sup>ほう<sup>が</sup>わ<sup>か</sup>り<sup>や</sup>す<sup>い</sup>。

基<sup>き</sup>準<sup>じゆん</sup>時<sup>じ</sup>を<sup>げん</sup>在<sup>ざい</sup>の<sup>ばあい</sup>場<sup>れんしゅう</sup>合<sup>りかい</sup>で<sup>り</sup>練<sup>れん</sup>習<sup>しゅう</sup>した<sup>り</sup>ほう<sup>が</sup>理<sup>り</sup>解<sup>かい</sup>し<sup>や</sup>す<sup>い</sup>。

【関連項目】

活-01 Vて形

【「れんしゅう編」の練習】

- 20-5 コンピュータの教育
- 20-7 未来のニュース

V	やすい	です
---	-----	----

V: V ます

## 基 本

## 例 文

- ① このペンは、とても書きやすいですね。どこで買ったんですか。
- ② A: 部屋の番号は何番ですか。  
B: 1234 です。  
A: え、1234 ですか。覚えやすい番号ですね。
- ③ 検索サイトがたくさんできて、以前よりインターネットで情報が探しやすくなりました。
- ④ この本に、宇宙の誕生のことがわかりやすく書いてあります。
- ⑤ この研究所では、お年寄りや障害者が使いやすい製品を開発しています。
- ⑥ 夏は食べ物がくさりやすいから、食中毒に気をつけましょう。
- ⑦ この交差点で事故が起こりやすいのは、信号がないからだだと思います。

## 解 説

- A. 動作、行為をスムーズに行うことができる状態であることを表す。(例文①～⑤)
- B. そうなる可能性、または頻度が高いことを表す。(例文⑥⑦)
- C. 「やすい」は、形容詞と同じように活用する。

## 先生へ

A. の用法では、Vは意志動詞。(p.278 参照)

B. の用法では、Vは無意志動詞。(p.279 参照)

反対の意味を表す表現は「Vにくいです」。

### 【関連項目】

文-83 Vにくいです

### 【「れんしゅう編」の練習】

- 20-4 書きやすいペン
- 20-6 いろいろな未来
- 20-7 未来のニュース
- 20-9 わたしたちの未来

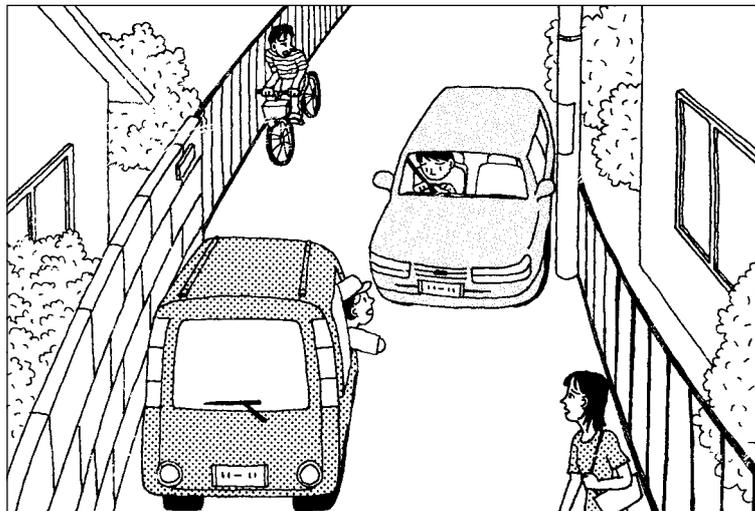
V にくい です

V: Vます

基 本

例 文

- ① この道は、狭くて、通りにくいです。
- ② 1年生のとき使っていた辞書は、字が小さくて読みにくかったです。
- ③ A: アンケート、山田さんにたのんでみたらどうですか。  
B: 山田さん、最近忙しそうですから、たのみにくいんです。
- ④ 衛星放送のおかげで、電波が届きにくいところでもテレビが見られるようになりました。
- ⑤ 梅雨の季節は、洗濯物が乾きにくくて、困ります。
- ⑥ 新しく開発されたガラスは、軽くて割れにくいそうです。
- ⑦ この建物には、燃えにくい材料が使われています。



例文①

## 解説

- A. 動作、行為をスムーズに行うのがむずかしい状態であることを表す。(例文①～④)
- B. 簡単にそうならないということを表す。(例文⑤～⑦)
- C. 「にくい」は、形容詞と同じように活用する。

### 先生へ

- A. の用法では、Vは意志動詞。(p.278 参照)
- B. の用法では、Vは無意志動詞。(p.279 参照)
- 反対の意味を表す表現は「Vやすいです」。

#### 【関連項目】

文-82 Vやすいです

#### 【「れんしゅう編」の練習】

20-4 書きやすいペン

20-6 いろいろな未来



か ん  
卷

ま つ  
末

# 1. 人称 (せつめい編 1)

にんしょう 1人称	にんしょう 2人称	にんしょう 3人称
わたし、わたくし わたしたち、わたくしたち	あなた あなたたち、あなたがた	かれ*、かのじょ* かれら*、かのじょたち*

## 先生へ

「たち」は直前ちやくぜんにくる名詞めいし (人) に代表だいひようされるグループを表わすときに使う。

「わたくし」は「わたし」より丁寧ていねいなことば。

2人称、3人称の場合ばあいは「田中たなかさん」のように名前なまえのあとに「さん」をつける言い方い かたを使うことができる。

「\*」のことばは『日本語能力試験出題基準にほんごのうりよくしけんしゅつだい きじゆん』4級きゆうに入っていないことば。

## 2. 指示詞 (せつめい編<sup>へん</sup>1)

	コ	ソ	ア	ド
ば しょ 場 所	ここ	そこ	あそこ	どこ
も の	これ	それ	あれ	どれ
ほう こう 方 向	こちら	そちら	あちら	どちら
めいし しゅうじやく かたち 名詞を修飾する形	このN	そのN	あのN	どのN

### 先生へ

「こちら、そちら、あちら、どちら」は、以下のように使われることもある。

- ・「ここ、そこ、あそこ、どこ」「これ、それ、あれ、どれ」の丁寧な言い方。
- ・「こちらは さんです。」のように、人を紹介するときなどに使われる人を示す言い方。

### 3. 動詞の活用 どうし かつよう

#### (1) (せつめい編 1) へん

		敬体 <small>けい たい</small>			
		非過去 <small>ひ か こ</small>		過去 <small>か こ</small>	
		肯定形 <small>こうていけい</small>	否定形 <small>ひていけい</small>	肯定形 <small>こうていけい</small>	否定形 <small>ひていけい</small>
グループ1	買う <small>かう</small>	かいます	かいません	かいました	かいませんでした
	待つ <small>まち</small>	まちます	まちません	まちました	まちませんでした
	帰る <small>かえ</small>	かえります	かえりません	かえりました	かえりませんでした
	ある	あります	ありません	ありました	ありませんでした
	遊ぶ <small>あそ</small>	あそびます	あそびません	あそびました	あそびませんでした
	読む <small>よ</small>	よみます	よみません	よみました	よみませんでした
	死ぬ <small>し</small>	しにます	しにません	しにました	しにませんでした
	書く <small>か</small>	かきます	かきません	かきました	かきませんでした
	行く <small>い</small>	いきます	いきません	いきました	いきませんでした
	泳ぐ <small>およ</small>	およぎます	およぎません	およぎました	およぎませんでした
	話す <small>はな</small>	はなします	はなしません	はなしました	はなしませんでした
グループ2	起きる <small>お</small>	おきます	おきません	おきました	おきませんでした
	食べる <small>た</small>	たべます	たべません	たべました	たべませんでした
グループ3	する	します	しません	しました	しませんでした
	来る <small>く</small>	きます	きません	きました	きませんでした

#### 先生へ

「ある」の常体の活用は、ほかのグループ1の動詞の活用と違うので注意すること。 じょうたい かつよう どうし かつよう ちが ちゅうい

じょうたい 常体			
ひかこ 非過去		かこ 過去	
こうていけい 肯定形	ひていけい 否定形	こうていけい 肯定形	ひていけい 否定形
かう	かわない	かった	かわなかった
まつ	またない	まった	またなかった
かえる	かえらない	かえった	かえらなかった
ある	ない	あった	なかった
あそぶ	あそばない	あそんだ	あそばなかった
よむ	よまない	よんだ	よまなかった
しぬ	しなない	しんだ	しななかった
かく	かかない	かいた	かかなかった
いく	いかない	いった	いかなかった
およぐ	およがない	およいだ	およがなかった
はなす	はなさない	はなした	はなさなかった
おきる	おきない	おきた	おきなかった
たべる	たべない	たべた	たべなかった
する	しない	した	しなかった
くる	こない	きた	こなかった

(2)(せつめい編<sup>へん</sup>1)

		けい ます形	じしょけい 辞書形	けい ます形から 「ます」をとった形 <sup>かたち</sup>	けい て形
グループ1	か 買う	かいます	かう	かい	かって
	ま 待つ	まちます	まつ	まち	まって
	かえ 帰る	かえります	かえる	かえり	かえって
	ある	あります	ある	あり	あって
	あそ 遊ぶ	あそびます	あそぶ	あそび	あそんで
	よ 読む	よみます	よむ	よみ	よんで
	し 死ぬ	しにます	しぬ	しに	しんで
	か 書く	かきます	かく	かき	かいて
	い 行く	いきます	いく	いき	いって
	およ 泳ぐ	およぎます	およぐ	およぎ	およいで
はな 話す	はなします	はなす	はなし	はなして	
グループ2	お 起きる	おきます	おきる	おき	おきて
	た 食べる	たべます	たべる	たべ	たべて
グループ3	する	します	する	し	して
	く 来る	きます	くる	き	きて

かつようけい つか 活用形が使われている文型	ぶんけい Vこと Vことができます Vまえに V + N Vとおもいます Vとき Vでしょう	けい Vましょう Vませんか VにVます Vたいです Vながら	けい Vてください Vでもいいです Vています Vて Vてから Vてあります
---------------------------	---	--	--

先生へ

「ある」の「ない形」、<sup>けい</sup>「行く」の「て形」と「た形」の活用はほかの動詞の活用と違うので注意すること。

	た <small>けい</small> 形	ない形 <small>けい</small>
	かった	かわない
	まった	またない
	かえた	かえらない
	あった	ない
	あそんだ	あそばない
	よんだ	よまない
	しんだ	しなない
	かいた	かかない
	いった	いかない
	およいだ	およがない
	はなした	はなさない
	おきた	おきない
	たべた	たべない
	した	しない
	きた	こない
	Vたことがあります VたりVたりします Vたあとで V + N Vとおもいます Vとき Vでしょう	Vないでください Vないで V + N Vとおもいます Vとき Vでしょう

(3)(せつめい編<sup>へん</sup>2)

		けい ます形	じしよけい 辞書形	けい ます形から 「ます」をとった形 <sup>かたち</sup>	けい て形
グループ1	つか 使う	つかいます	つかう	つかい	つかって
	か 書く	かきます	かく	かき	かいて
	い 行く	いきます	いく	いき	いって
	さわ 騒ぐ	さわぎます	さわぐ	さわぎ	さわいで
	はな 話す	はなします	はなす	はなし	はなして
	う 打つ	うちます	うつ	うち	うって
	し 死ぬ	しにます	しぬ	しに	しんで
	はこ 運ぶ	はこびます	はこぶ	はこび	はこんで
	たの 頼む	たのみます	たのむ	たのみ	たのんで
	と 撮る	とります	とる	とり	とって
	ある	あります	ある	あり	あって
グループ2	み 見る	みます	みる	み	みて
	い 居る	います	いる	い	いて
	おし 教える	おしえます	おしえる	おしえ	おしえて
グループ3	する	します	する	し	して
	く 来る	きます	くる	き	きて

かつようけい つか 活用形が使われている文型 <sup>ぶんけい</sup>	<p>Vようにします 疑問詞V...か</p> <p>Vので</p> <p>Vかもしれません</p> <p>Vの(名詞化)</p> <p>Vために</p> <p>Vことになります</p> <p>Vことにします</p> <p>Vと</p> <p>Vそうです(伝聞)</p> <p>Vのに</p> <p>Vようになります</p> <p>Vみたいです/ようです</p>	<p>Vかた</p> <p>Vすぎます</p> <p>Vそうです(様態)</p> <p>Vやすいです</p> <p>Vにくいです</p>	<p>Vてはいけません</p> <p>Vてみます</p> <p>Vてしまいます</p> <p>Vても</p> <p>Vておきます</p> <p>Vてもらいます</p> <p>Vてくれます</p> <p>Vてきます/いきます</p>
---	---	--	---

	けい た形	けい ない形	かのうけい 可能形	いこうけい 意向形	うけみけい 受身形
	つかった	つかわない	つかえる	つかおう	つかわれる
	かいた	かかない	かける	かこう	かかれる
	いった	いかない	いける	いこう	いかれる
	さわいだ	さわがない	さわげる	さわごう	さわがれる
	はなした	はなさない	はなせる	はなそう	はなされる
	うった	うたない	うてる	うとう	うたれる
	しんだ	しなない	しねる	しのう	しなれる
	はこんだ	はこばない	はこべる	はこぼう	はこばれる
	たのんだ	たのまない	たのめる	たのもう	たのまれる
	とった	とらない	とれる	とろう	とられる
	あった	ない			
	みた	みない	みられる	みよう	みられる
	いた	いない	いられる	いよう	いられる
	おしえた	おしえない	おしえられる	おしえよう	おしえられる
	した	しない	できる	しよう	される
	きた	こない	こられる	こよう	こられる

V たほうがいいです V たら 疑問詞 V...か V ので V かもしれません V の(名詞化) V そうです(伝聞) V のに V みたいです/ようです	V ようにします 疑問詞 V...か V ので V かもしれません V の(名詞化) V ために V ことになります V ことにします V と V そうです(伝聞) V のに V ようになります V みたいです/ようです	V ようになります	V ようとおもいます
--	--	-----------	------------

### 先生へ

「ある」には、かのうけい可能形、いこうけい意向形、うけみけい受身形はない。  
「ある」の「けいない形」、「い行く」の「けいて形」「けいた形」の  
かつよう活用はほかの動詞の活用と違うので注意すること。

## 4. 形容詞の活用 (せつめい編 1)

### < イ形容詞の活用 >

	敬体			
	非過去		過去	
	肯定形	否定形	肯定形	否定形
暑い	あついです	あつくないです	あつかったです	あつくなかったです
おいしい	おいしいです	おいしくないです	おいしかったです	おいしくなかったです
痛い	いたいです	いたくないです	いたかったです	いたくなかったです
いい	いいです	よくないです	よかったです	よくなかったです

活用形が使われている文型

### < ナ形容詞の活用 >

	敬体			
	非過去		過去	
	肯定形	否定形	肯定形	否定形
好き	好きです	好きではありません	好きでした	好きではありませんでした
きれい	きれいです	きれいではありません	きれいでした	きれいではありませんでした
べんり便利	べんりです	べんりではありません	べんりでした	べんりではありませんでした
しず静か	しずかです	しずかではありません	しずかでした	しずかではありませんでした

活用形が使われている文型

先生へ

イ形容詞「いい」の活用は、ほかのイ形容詞の活用と違うので注意すること。

じょう たい 常 体 / Aい + N (名詞修飾)				て 形	ふくし ようほう かたち 副詞用法の形
ひ か こ 非過去		か こ 過 去			
こうていけい 肯定形	ひていけい 否定形	こうていけい 肯定形	ひていけい 否定形		
あつい	あつくない	あつかった	あつくなかった	あつくて	あつく
おいしい	おいしくない	おいしかった	おいしくなかった	おいしくて	おいしく
いたい	いたくない	いたかった	いたくなかった	いたくて	いたく
いい	よくない	よかった	よくなかった	よくて	よく

AいN Aい + N Aとおもいます Aとき Aでしょう	Aくて	A < Vます A < くなります
--	-----	----------------------

じょう たい 常 体 / AN + N (名詞修飾)				て 形	ふくし ようほう かたち 副詞用法の形
ひ か こ 非過去		か こ 過 去			
こうていけい 肯定形	ひていけい 否定形	こうていけい 肯定形	ひていけい 否定形		
すきだ / すきな	すきではない	すきだった	すきではなかった	すきで	すきに
きれいだ / きれいな	きれいではない	きれいだった	きれいではなかった	きれいで	きれいに
べんりだ / べんりな	べんりではない	べんりだった	べんりではなかった	べんりで	べんりに
しずかだ / しずかな	しずかではない	しずかだった	しずかではなかった	しずかで	しずかに

ANなN AN + N (非過去肯定形は「ANな」を使う) ANとおもいます (非過去肯定形は「ANだ」を使う) ANでしょう (非過去肯定形は「ANだ」の「だ」をとった形) ANなとき	ANで	ANにVます ANになります
---	-----	-------------------

# 5. 助数詞 (せつめい編 1)

<ものを数える>

	こ ずう 個 数		まい ずう 枚 数	ほん ずう 本 数	さつ ずう 冊 数	だい ずう 台 数	うつわ はい 器に入った もの数
	ちい さいもの(りんご、たまご、 コップ、時計など)		うす 薄いもの (紙、ハンカ チ、シャツ、 CD、皿など)	ほそなが 細長いもの (えんぴつ、傘、 バナナなど) カ セットテープ、 ビデオテープ	ほん 本、ノート、 辞書など	の 乗りもの(自 転車、自動車 など)、電気 製品(テレビ、 電話など)	うつわ はい 器(コップや ちawanな ど)に入った 水や飲み物 など
	~つ	~個(こ)	~枚(まい)	~本(ほん、 ぼん、ぼん)	~冊(さつ)	~台(だい)	~杯(はい、 ばい、ばい)
1	ひとつ	いっこ	いちまい	いっぽん	いっさつ	いちだい	いっばい
2	ふたつ	にこ	にまい	にほん	にさつ	にだい	にはい
3	みっつ	さんこ	さんまい	さんぼん	さんさつ	さんだい	さんばい
4	よっつ	よんこ	よんまい	よんほん	よんさつ	よんだい	よんはい
5	いっつ	ごこ	ごまい	ごほん	ごさつ	ごだい	ごはい
6	むっつ	ろっこ	ろくまい	ろっぽん	ろくさつ	ろくだい	ろっばい
7	ななつ	ななこ	ななまい	ななほん	ななさつ	ななだい	ななはい
8	やっつ	はっこ	はちまい	はっぽん	はっさつ	はちだい	はっばい
9	ここのつ	きゅうこ	きゅうまい	きゅうほん	きゅうさつ	きゅうだい	きゅうはい
10	とお	じゅっこ	じゅうまい	じゅっぽん	じゅっさつ	じゅうだい	じゅっばい
?	いくつ	なんこ	なんまい	なんぼん	なんさつ	なんだい	なんばい

<そのほか>

	にん ずう 人 数	どうぶつ かず 動物の数	かい ずう 階 数	かい ずう 回 数	きん がく 金 額	ねん れい 年 齢	ばん ごう 番 号
		いぬ さかな 犬、ねこ、魚、 こんちゅう 昆虫など					
	~人(り、に ん)	~匹(ひき、 びき、びき)	~階(かい、 がい)	~回(かい)	~円(えん)	~歳(さい)	~番(ばん)
1	ひとり	いっびき	いっかい	いっかい	いちえん	いっさい	いちばん
2	ふたり	にひき	にかい	にかい	にえん	にさい	にばん
3	さんにん	さんびき	さんかい/さんがい	さんかい	さんえん	さんさい	さんばん
4	よにん	よんひき	よんかい	よんかい	よえん	よんさい	よんばん
5	ごにん	ごひき	ごかい	ごかい	ごえん	ごさい	ごばん
6	ろくにん	ろっびき	ろっかい	ろっかい	ろくえん	ろくさい	ろくばん
7	ななにん	ななひき	ななかい	ななかい	ななえん	ななさい	ななばん
8	はちにん	はっびき	はちかい/はっがい	はっかい	はちえん	はっさい	はちばん
9	きゅうにん	きゅうひき	きゅうかい	きゅうかい	きゅうえん	きゅうさい	きゅうばん
10	じゅうにん	じゅっびき	じゅっかい	じゅっかい	じゅうえん	じゅっさい	じゅうばん
?	なんにん	なんびき	なんがい	なんかい	いくら/なんえん	なんさい/いくつ	なんばん

## 先生へ

数が「10」の場合「じゅっこ」が「じっこ」のように「じゅっ~」を「じっ~」と言うこともある。  
「/」で区切られているものは、二通りの言い方があることを示す。  
青字のことは、言い方に注意すること。

## 6. 時の長さの数え方 (せつめい編 1)

	ぶん 分	じ かん 時間	にち 日	しゅう 週	つき 月	ねん 年
1	いっぶん	いちじかん	いちにち	いっしゅうかん	いっかげつ	いちねん
2	にぶん	にじかん	ふつか	にしゅうかん	にかげつ	にねん
3	さんぶん	さんじかん	みっか	さんしゅうかん	さんかげつ	さんねん
4	よんぶん	よじかん	よっか	よんしゅうかん	よんかげつ	よねん
5	ごぶん	ごじかん	いつか	ごしゅうかん	ごかげつ	ごねん
6	ろっぶん	ろくじかん	むいか	ろくしゅうかん	ろっかげつ	ろくねん
7	ななぶん	しちじかん	ななか	ななしゅうかん	ななかげつ	しちねん
8	はちぶん / はっぶん	はちじかん	ようか	はっしゅうかん	はちかげつ / はっかげつ	はちねん
9	きゅうぶん	くじかん	このか	きゅうしゅうかん	きゅうかげつ	きゅうねん
10	じゅっぶん	じゅうじかん	とおか	じゅっしゅうかん	じゅっかげつ	じゅうねん
?	なんぶん	なんじかん	なんにち	なんしゅうかん	なんかげつ	なんねん

### 先生へ

数が「10」の場合、「じゅっこ」が「じっこ」のように、「じゅっ～」を「じっ～」と言うこともある。

「/」で区切られているものは、二通りの言い方があることを示す。

日数を数えるときは、「1日」が「ついたち」ではなく「いちにち」となるので、注意すること。

青字のことは言い方に注意すること。

## 7. 日付と曜日 (せつめい編 1)

にち 日 にちようび	げつ 月 げつようび	か 火 かようび	すい 水 すいようび	もく 木 もくようび	きん 金 きんようび	ど 土 どようび
1 ついたち	2 ふつか	3 みっか	4 よっか	5 いつか	6 むいか	7 なのか
8 ようか	9 このか	10 とおか	11 じゅういちにち	12 じゅうににち	13 じゅうさんにち	14 じゅうよっか
15 じゅうごにち	16 じゅうろくにち	17 じゅうしちにち	18 じゅうはちにち	19 じゅうくにち	20 はつか	21 にじゅういちにち
22 にじゅうににち	23 にじゅうさんにち	24 にじゅうよっか	25 にじゅうごにち	26 にじゅうろくにち	27 にじゅうしちにち	28 にじゅうはちにち
29 にじゅうくにち	30 さんじゅうにち	31 さんじゅういちにち				

1月	いちがつ
2月	にがつ
3月	さんがつ
4月	しがつ
5月	ごがつ
6月	ろくがつ
7月	しちがつ
8月	はちがつ
9月	くがつ
10月	じゅうがつ
11月	じゅういちがつ
12月	じゅうにがつ

### 先生へ

ひつけ か かた よ かた  
日付の書き方・読み方

1998年10月2日 (せんきゅうひゃくきゅうじゅうはちねん じゅうがつ ふつか)

平成11年3月31日 (へいせいじゅういちねん さんがつ さんじゅういちにち)

ねんごう せいれきねん  
年号と西暦年

めいじがねん ねん 明治元年(1年)	1868年
たいしょうがねん ねん 大正元年(1年)	1912年
しょうわがねん ねん 昭和元年(1年)	1926年
へいせいがねん ねん 平成元年(1年)	1989年

あおじ い かた ちゅうい  
青字のことばは、言い方に注意すること。

8. 家族名称 (せつめい編 1)

じぶん かぞく 自分の家族	ひと かぞく ほかの人の家族
ちち	おとうさん
はは	おかあさん
あに	おにいさん
あね	おねえさん
おとうと	おとうとさん
いもうと	いもうとさん
そふ	おじいさん
そぼ	おばあさん
おじ	おじさん
おば	おばさん
かぞく	ごかぞく
りょうしん	ごりょうしん
きょうだい	ごきょうだい

先生へ

「おとうさん」「おかあさん」「おにいさん」「おねえさん」「おじいさん」「おばあさん」「おじさん」「おばさん」は、自分の家族の中で、1人称、2人称、3人称にも使われる。

9. 疑問詞のまとめ (せつめい編 1)

	ぎもんし 疑問詞
ひと 人	だれ、どなた、どのN、どんなN
もの	なに / なん、どれ、どのN、どんなN
とき 時	いつ
とき <small>なが</small> 時の長さ	どのくらい / どのぐらい
ばしょ 場所	どこ、どのN
ほうこう 方向	どちら
りゆう 理由	どうして
ほうほう <small>しゅだん</small> 方法 / 手段	どうやって、なんで / なにで
かず 数	いくつ、いくら

先生へ

なに かたち ぎもんし つぎ  
「何～」の形の疑問詞には、次のようなものがある。

	ぎもんし 疑問詞
とき 時	<small>なんねん</small> <small>なんがつ</small> <small>なんにち</small> <small>なんようび</small> <small>なんじ</small> <small>なんぶん</small> 何年、何月、何日、何曜日、何時、何分
とき <small>なが</small> 時の長さ	<small>なんねん</small> <small>なん</small> <small>げつ</small> <small>なんしゅうかん</small> <small>なんにち</small> <small>なんじかん</small> <small>なんぶん</small> 何年、何カ月、何週間、何日、何時間、何分
かず 数	<small>なんまい</small> <small>なんぼん</small> <small>なんだい</small> <small>なんばい</small> <small>なんこ</small> 何枚、何本、何台、何杯、何個 <small>なんにん</small> <small>なんびき</small> <small>なんがい</small> <small>なんかい</small> <small>なんえん</small> <small>なんさい</small> <small>なんぼん</small> 何人、何匹、何階、何回、何円、何歳、何番
<small>た</small> その他	<small>なにご</small> <small>なにいろ</small> 何語、何色

# 10. 助詞のまとめ

## (1) せつめい編 1

助詞	項目番号	例文	「4級」動詞
か (疑問)	助-04	木村さんは高校生ですか。	
が (接続)	助-16	木村さんは来ましたが、田中さんは来ませんでした。	
が (主語)	助-22	今晚雨が降るでしょう。	
から (始まり)	助-12	試験は1時から始まります。 駅からうちまで5分かかります。	
から (理由)	助-25	雨ですから、試合がありません。	
だけ	助-24	ひらがなだけで書いてください。	
で (基準/範囲)	助-09	四つで500円です。 試験はあしたで終わります。	
で (場所)	助-11	学校の食堂で昼ごはんを食べます。 北海道で大きい地震がありました。	寝る、見る、する* ある**
で (手段/材料)	助-17	電車で学校へ来ます。 りんごでジュースを作ります。	
で (原因/理由)	助-27	かぜで学校を休みました。	
と (並列)	助-01	机の上に本とノートがあります。	
と (相手)	助-14	田中さんとテニスをします。	
に (時)	助-02	私は7時に起きます。	
に (場所)	助-07	電話はドアのそばにあります 木村さんは体育館にいます。	ある、いる
に (目的)	助-15	新しいCDを買いに行きました。	行く、来る、帰る、出かける
に (基準)	助-18	1週間に3回授業があります。	
に (帰着点)	助-21	あした公園に行きます。 そこに荷物を置いてください。	行く、来る、帰る、つける、入る、着く、 乗る、登る、置く、入れる、貼る
に (対象)	助-26	田中さんに電話をかけました。	頼む、教える、話す、貸す、返す、 渡す、見せる、電話をかける、会う

\* : この三つの動詞以外の動作を表す動詞も含まれる。「行く」「来る」「帰る」などの移動を表す動詞は含まれない。

\*\* : 「ある」は「で(場所)」と一緒に使う場合、できごとの有無を表す。

じょし 助詞	こうもくばんごう 項目番号	れいぶん 例文	つか おも きゅう どうし いっしょに使う主な「4級」動詞
ね	助-10	A: 木村さんをお願いします。 B: 木村さんですね。	
の	助-05	それは田中さんのかばんです。 × 高校の山田です。 これは日本語の教科書です。	
は	助-23	鈴木さんは高校3年生です。 紅茶は飲みますが、コーヒーは飲みません。	
へ	助-06	4時にうちへ帰ります。	行く、来る、帰る、出かける、曲がる、 はいる、出る
まで	助-12	授業は1時から2時までです。 学校まで自転車でいきます。	
も	助-03	私はサッカーが大好きです。テニスも 大好きです。	
や	助-13	朝パンやくだものを食べます。	
よ	助-10	A: きょうは水曜日ですね。 B: いいえ、木曜日ですよ。	
を (対象)	助-08	きのう映画を見ました。	食べる、見る、する***
を (起点)	助-19	6時にうちを出ました。	で 出る、降りる
を (経路)	助-20	あの橋を渡ってまっすぐ行ってくだ さい。 このバスは学校のまえを通ります。	とお ある はし と はい わた 通る、歩く、走る、飛ぶ、入る、渡る、 ま さん ぼ のぼ お 曲がる、散歩する、登る、降りる、 い く かえ 行く、来る、帰る

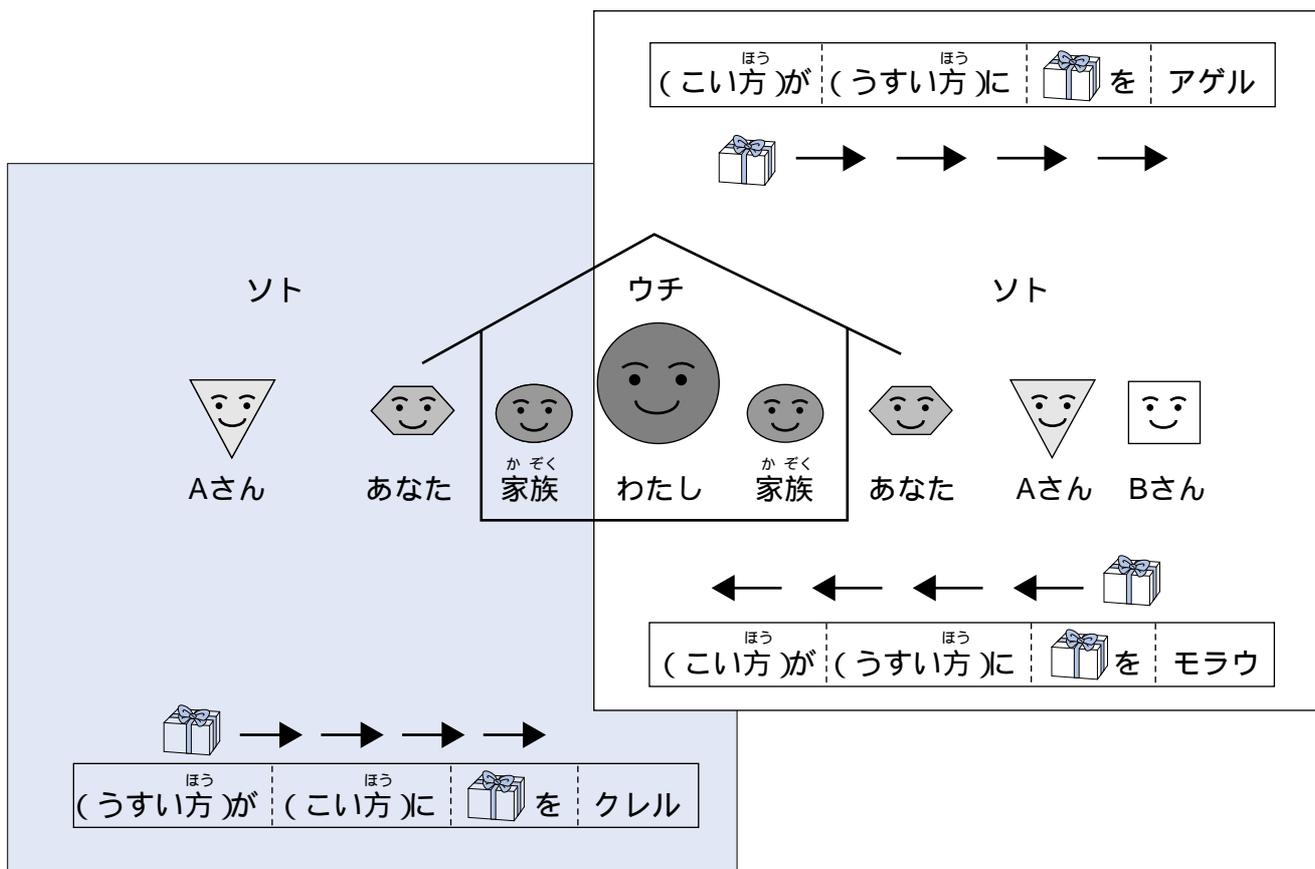
\*\*\* : この三つの動詞以外の他動詞も含まれる。

へん  
(2) せつめい編2

じょし 助詞	こうもくばんごう 項目番号	れいぶん 例文	つか おも きゅう どうし いっしょに使う主な「3級」動詞
までに	助-28	さい たんじょう び 18歳の誕生日までに、バイクの めんきょ 免許をとりたいです。	お 終わる、やる、帰る、Vておく  Vしてしまう
ので	助-29	きょう げつよう び 今日は月曜日なので、美術館は あ 開いていません。	
いんよう と(引用)	助-30	ガイドが、「これは有名な祭り で す。」と言いました。 ガイドが、これは有名な祭りだ と 言いました。	い うた か おし き 言う、歌う、書く、教える、聞く、 こた せつめい 答える、説明する、たずねる、 つた な はな よ よ 伝える、鳴く、話す、読む、呼ぶ
じょうけん と(条件)	助-31	かね い お金を入れてボタンを押すと きっぷ で 切符が出てきます。	
のに	助-32	つ ゆ 梅雨なのに、雨がぜんぜん ふ 降り ません。	

# 11. 授受表現 (せつめい編 2)

<ウチ・ソト>



## 先生へ

ものは、物の流れの方向。

「Vてあげる、Vてもらう、Vてくれる」の行為の場合も、「ウチ・ソト」の関係は同じ。

「ウチ」と「ソト」の関係は、話し手との心理的、社会的距離によって決まる。

例 「ウチ」が話し手の家族で、「ソト」がそれ以外の人

「ウチ」が同じクラスの人で、「ソト」がそれ以外の人

上図では、「話し手の家族とそれ以外の人」を例としている。

「くれる」には、「ソト」の人同士のやりとりがないので、注意すること。

もの こうい なが  
 <物、行為の流れ>

ぶん けい 文 型		もの こうい なが 物、行為の流れ	しゅたい Vの主体
もの 物	が に を	あげる	—
		もらう	—
		くれる	—
こうい 行為	が に	Vてあげる	
		Vてもらう	
		Vてくれる	

先生へ

「あげる」「もらう」「くれる」の持つ方向性は、もの場合も行為の場合も同じ。

「Vてあげる」では、話し手がVをN2にとって有益、親切な行為だと受け取っている。

N1が話し手で、N2が目上の人の場合、直接使うと失礼な表現になるので注意すること。

例 (Aが目上の人の場合)

A: 田中さんの電話番号を知っていたら、教えてください。

B: いいですよ。教えてあげます。(×)

(客観的な事実として述べる場合)

わたしは、おばあさんの荷物を持ってあげました。( )

12. 意志動詞と無意志動詞 (せつめい編 2)

意志動詞 (意志的な行為を表すことができる動詞)						
あ 会 う	うつ 写 す	お 終 わ る	けいかく 計画する	じゅんび 準備する	たず 訪 ね る	と 取 る
あ 開 け る	うつ 移 る	か 買 う	けいけん 経験する	しょうかい 紹介する	た 立 つ	と 撮 る
あ 上 げ る	う 売 る	かえ 返 す	げしゆく 下宿する	しょうたい 招待する	た 立 て る	な お 直 す
あ げ る	うんどう 運動する	かえ 帰 る	け 消 す	しょくじ 食事する	た 建 て る	な な 泣 く
あそ 遊 ぶ	うんてん 運転する	か 変 え る	けっこん 結婚する	し 知 ら せ る	た の 頼 む	な く す
あつ 集 ま る	えら 選 ぶ	か 書 く	けんきゅう 研究する	し 調 べ る	た 食 べ る	な 投 げ る
あつ 集 め る	えんりょ 遠慮する	か け る	けんぶつ 見物する	し 知 る	ちゅうい 注意する	な ら 習 う
あ 浴 び る	お 起 き る	かざ 飾 る	こた 答 え る	す 吸 う	ちゅうしゃ 注射する	な ら 並 ぶ
あやま 誤 る	お 置 く	か 貸 す	こわ 壊 す	す 捨 て る	つか 使 う	な ら 並 べ る
あら 洗 う	おく 贈 る	かた 片づける	さが 探 す	すべ 滑 る	つか 捕まえる	にゅういん 入院する
ある 歩 く	おく 送 る	か 勝 つ	さ 下 が る	す 住 む	つく 着 く	にゅうがく 入学する
あんない 案内する	お 起 こ す	か ぶ る	さ 下 げ る	す る	つく 作 る	ぬ 脱 ぐ
い 言 う	おこな 行 う	か む	さ す	す わ る	つた 伝 え る	ぬす 盗 む
い 生 き る	おこ 怒 る	かよ 通 う	さわ 騒 ぐ	せいかつ 生活する	つづ 続 け る	ぬ 塗 る
い 行 く	おし 教 え る	か 借 り る	さわ 触 る	せ わ 世 話 する	つと 包 む	ねむ 眠 る
い じ め る	お 押 す	か 変 わ る	さんぽ 散歩する	せんそう 戦争する	つと 勤 め る	ね 寝 る
いそ 急 ぐ	お 落 と す	かんが 考 え る	しか 叱 る	せんたく 洗濯する	つ 釣 る	のこ 残 る
いの 祈 る	おど 踊 る	が ん ば る	したく 支度する	そうじ 掃除する	で 出 け る	のぼ 登 る
い 居 る	おぼ 覚 え る	き 消 え る	しつもん 質問する	そだ 育 て る	で 出 る	の 飲 む
い 入 れ る	おも 思 い 出 す	き 決 め る	しつれい 失礼する	そつぎょう 卒業する	と お 通 る	の か 乗 り 換 え る
う 植 え る	おも 思 う	きょうそう 競争する	し 死 む	たいいん 退院する	とど 届 け る	の 乗 る
う 受 け る	およ 泳 ぐ	き 着 る	し 閉 め る	たお 倒 れ る	と 飛 ぶ	はい 入 る
うご 動 く	お 降 り る	き 切 る	し 締 め る	た 足 す	と 泊 ま る	は く
うた 歌 う	お 下 り る	くら 比 べ る	しゅっせき 出席する	だ 出 す	と 止 め る	は こ 運 ぶ
う 打 つ	お 折 る	く 来 る	しゅっぱつ 出発する	たず 尋 ね る	と か 取 り 替 え る	はじ 始 め る

先生へ

無意志動詞は、意向形、命令形にできない。

意志動詞の中には、無意志性の動詞として使われるものもある。

例 部屋に入ります。(意志性あり)

スイッチが冷蔵庫に入りません。(意志性なし)

意志動詞でも可能形、受身形、過去形になると、意志性が消える。

上表の動詞は、日本語能力試験3級相当。

はし 走	る	もど 戻	る
はたら 働	く	もら う	
はな 話	す	や 焼	く
はら 払	う	やくそく 約束	する
は 貼	る	やす 休	む
はんたい 反対	する	や せ	る
ひ 引	く	や め	る
ひ 弾	く	や る	
ひこ 引越	す	ゆしゅつ 輸出	する
ひら 開	く	ようい 用意	する
ふと 太	る	よ 呼	ぶ
べんきょう 勉強	する	よ 読	む
へんじ 返事	する	よ 寄	る
ほ め	る	りよう 利用	する
ほんやく 翻訳	する	りょこう 旅行	する
ま 曲	がる	れんしゅう 練習	する
ま 負	ける	れんらく 連絡	する
ま 待	つ	わ 沸	かす
まわ 回	る	わ わ	かる
み み	がく	わか 別	れる
み 見	せる	わす 忘	れる
み 見	つける	わた 渡	す
み 見	る	わた 渡	る
むか 迎	える	わら 笑	う
も 持	つ		

むいしどうし 無意志動詞			
いしてき こうい あらわ どうし (意志的な行為を表すことができない動詞)			
ひと しゅご どうし 人が主語にならない動詞			
あ 合	う	さ 咲	く
あ 開	く	し 閉	まる
あ 空	く	す す	く
あ あ	る	す 濟	む
い 要	る	た 足	りる
お 折	れる	ち が	う
か か	る	つ 点	く
かわ 乾	く	つづ 続	く
き 決	まる	と 止	まる
く 暮	れる	なお 治	る
こしょう 故障	する	なお 直	る
こ 混	む	な く	なる
こわ 壊	れる	な 鳴	る
に 似	る	は 始	まる
は 始	まる	は 晴	れる
は 晴	れる	ひ 冷	える
ひ 冷	える	ふ 増	える
ふ 増	える	かぜ (風が)	吹く
かぜ (風が)	吹く	や 焼	ける
や 焼	ける	ゆ 揺	れる
ゆ 揺	れる	よご 汚	れる
よご 汚	れる	わ 沸	く
わ 沸	く	わ 割	れる
わ 割	れる		
ひと きも せいりげんしょう あらわ どうし 人の気持ちや生理現象を表す動詞			
あんしん 安心	する	しんぱい 心配	する
おどろ 驚	く	なか (お腹が)	すく
こま 困	る	つか 疲	れる
な 慣	れる	な び	っくりする
な び	っくりする	よるこ 喜	ぶ
かのうてき うけみ てき いみ も どうし 可能的、受身的な意味を持つ動詞			
き 聞	こ	える	
み 見	つ	かる	
み 見	え	る	

13. 自動詞と他動詞 (せつめい編 2)

自動詞				他動詞		
あいさつする	帰る	出席する	泊まる	増える	開ける	買う
あ合う	かかる	出発する	直る	ふ吹く	あ上げる	かえ返す
あ会う	か勝つ	じゅんび準備する	なお治る	ふと太る	あつ集める	か変える
あ上がる	かよ通う	しょくじ食事する	な泣く	ふ降る	あ浴びる	か書く
あ開く	かわ乾く	しんぱい心配する	な鳴く	へんじ返事する	あやま誤る	かける
あ空く	かわる	すぎる	なくなる	ま曲がる	あら洗う	かざ飾る
あそ遊ぶ	がんばる	(なか(お腹が)すく)	な亡くなる	ま負ける	あんない案内する	か貸す
あつ集まる	き消える	すべ滑る	な並ぶ	ま間に合う	い言う	かた片づける
あある	き聞こえる	す住む	な鳴る	まわ回る	いじめる	かぶる
あある歩く	き決まる	す済む	ななる	み見える	いの祈る	かむ
あんしん安心する	きょうそう競争する	すわる	な慣れる	みみつかる	い入れる	か借りる
いききる	くも曇る	せいかつ生活する	に逃げる	もど戻る	う植える	かんが考える
い行く	く来る	せんそう戦争する	にゅういん入院する	や焼ける	う受ける	き聞く
いそ急ぐ	く暮れる	そつぎょう卒業する	にゅうがく入学する	やす休む	うた歌う	き決める
い要る	たいいん下宿する	たいいん退院する	に似る	やせる	う打つ	き着る
い居る	けっこん結婚する	たお倒れる	ぬれる	ゆ揺れる	うつ写す	き切る
うご動く	けんかする	た立つ	ね眠る	よ汚れる	うんてん運転する	くら比べる
うつ移る	こしょう故障する	た足りる	ね寝る	よ寄る	う売る	くれる
うまれる	こた答える	ちがう	のこ残る	りょうろ旅行する	えら選ぶ	けいかく計画する
うんどう運動する	こま困る	ちゅうい注意する	のぼ登る	れんらく連絡する	えんりょ遠慮する	けいけん経験する
えんりょ遠慮する	こ混む	つか疲れる	のりか乗り換える	わかる	お置く	け消す
おきる	こわ壊れる	つ着く	の乗る	わかれる	おく送る	けんきゅう研究する
おく遅れる	さ下がる	つ点く	はい入る	わ沸く	お起こす	けんぶつ見物する
おこ怒る	さ咲く	つづ続く	はじ始まる	わた渡る	おこな行う	こわ壊す
お落ちる	さわ騒ぐ	つと勤める	はし走る	わら笑う	おし教える	さが探す
おどる驚く	さんぽ散歩する	で出かける	はたら働く	わ割れる	お押す	さ下げ
およ泳ぐ	しだく支度する	でできる	は晴れる		お落とす	さす
おりる	しっぱい失敗する	で出る	はんたい反対する		おど踊る	さわ触る
お降りる	しつれい失礼する	とお通る	ひ冷える		おぼ覚える	しか叱る
お折れる	し死ぬ	と飛ぶ	びっくりする		おも思い出す	しつもん質問する
お終わる	し閉まる	と止まる	ひこ引越す		おも思	し締める

先生へ

「遠慮する、準備する、心配する、連絡する」などは、自動詞、他動詞の両方で使われる動詞。

\*のついている動詞以外は、日本語能力試験3級相当。

じ どう し た どう し  
<ペアの自動詞と他動詞>

し 閉める	つた 伝える	ほうそう 放送する
じゅんび 準備する	つづ 続ける	ほめる
しょうかい 紹介する	つつ 包む	ほんやく 翻訳する
しょうたい 招待する	つ 釣る	まちが 間違える
しょうち 承知する	つ つれる	まつ 待つ
し 知らせる	て て手伝う	みがく
しらべ 調べる	とど とど届ける	みせる
し 知る	と と止める	みつける
しんぱい 心配する	とりか 取り替える	みる
す 吸う	と と取る	むか 迎える
す 捨てる	と と撮る	まつ 持つ
す する	なお なお直す	もらう
せわ 世話する	なく なくす	やく 焼く
せんたく 洗濯する	な な投げる	やくそく 約束する
そうじ 掃除する	なら なら習う	やめる
そうだん 相談する	なら なら並べる	やる
そだ 育てる	ぬ ぬ脱ぐ	ゆしゅつ 輸出する
た 足す	ぬす ぬす盗む	ようい 用意する
だ 出す	ぬ ぬ塗る	よ よ呼ぶ
たず 訪ねる	の の飲む	よ よ読む
たず 尋ねる	はこ はこ運ぶ	よろこ 喜ぶ
た 建てる	はじ はじめ	り り利用する
た 立てる	はな はな話す	れんしゅう 練習する
たの 頼む	はら はら払う	れんらく 連絡する
た 食べる	は は貼る	わか わか沸かす
ちゅうしゃ 注射する	ひ ひ弾く	わす わす忘れる
つか 使う	ひ ひ引く	わた わた渡す
つか 捕まえる	ひら ひら開く	
つく 作る	ひら ひら拾う	
つ 点ける	ふ ふ踏む	
つ 付ける	べんきょう べんきょう勉強する	

じ どう し 自動詞	た どう し 他動詞	じ どう し 自動詞	た どう し 他動詞
[-aru]	[-eru]	[-eru]	[-u]
あ 上がる	あ 上げる	み 見える	み 見る
さ 下がる	さ 下げる	や 焼ける	や 焼く
し 閉まる	し 閉める	[-iru]      [-osu]	
あつ 集まる	あつ 集める	お おきる	お 起こす
か かわる	か かえる	お お落ちる	お お落とす
き 決まる	き 決めめる	お おりる	お おろす*
と 止まる	と 止める	[-ru]      [-su]	
はじ 始まる	はじ 始める	うつ うつ移る	うつ うつ移す*
か かかる	か かける	うつ うつ写る*	うつ うつ写す
み みつける	み みつける	かえ かえ返る	かえ かえ返す
お 終わる	お おえる*	なお なお直る	なお なお直す
つた つたわる*	つた つたえる	なお なお治る	なお なお治す*
[-u]		わた わた渡る	わた わた渡す
[-eru]		のこ のこ残る	のこ のこ残す*
ひら ひら開く	あ あ開ける	[-eru]      [-asu]	
た た立つ	た た立てる	で で出る	だ だ出す
た た建つ*	た た建てる	ひ ひ冷える	ひ ひ冷やす*
つづ つづ続ける	つづ つづ続ける	ふ ふ増える	ふ ふ増やす*
つ つ点く	つ つ点ける	[その他]	
なら なら並ぶ	なら なら並べる	はい はい入る	い い入れる
かた かた片づ*	かた かた片づける	き き消える	け け消す
とど とど届く*	とど とど届ける	な ななくなる	な ななくす
[-reru]		わ わ沸く	わ わ沸かす
[-ru]		かわ かわ乾く	かわ かわ乾かす*
き き切れる	き きる	つか つかまる*	つか つかまえる
お お折れる	お お折る*	き き聞こえる	き き聞く
わ わ割れる	わ わ割る*		

14. <sup>べつ ころ もく</sup>ブロック別項目 <sup>へん</sup>せつめい編 1

ブロック	1	2
わ だ 話 題	わたし	きょう しつ 教 室
ぶん けい 文 型	文-01 Nです 文-02 Nがすきです	文-03 Vます 文-04 NはNにあります/います 文-05 NにNがあります/います
かつ よう けい 活 用 形	Nです / Nではありません (文-01)	Vます / ません (文-03)
じょ し 助 詞	助-01 と (並列) 助-02 に (時) 助-03 も 助-04 か (疑問)	助-05 の 助-06 へ 助-07 に (場所)
ご かい 語 彙	語-01 時刻	語-02 これ/それ/あれ 語-03 この/その/あの 語-04 ここ/そこ/あそこ
かんまつ 巻末リスト	1. 人称	2. 指示詞 3. 動詞の活用 (1)

ブロック	5	6
わ だ 話 題	やす ひ 休みの日	じゅ ぎょう 授 業
ぶん けい 文 型	文-11 Vました 文-12 Aかったです / ANでした 文-13 Nでした 文-14 Vましょう 文-15 Vませんか	文-16 Vてください 文-17 Vてもいいです 文-18 Aく / ANにVます 文-19 もう / まだ
かつ よう けい 活 用 形	Vました / Vませんでした (文-11) Aかったです / Aくなかったです (文-12) ANでした / ANではありませんでした (文-12) Nでした / Nではありませんでした (文-13)	活-01 Vて形
じょ し 助 詞	助-14 と (相手) 助-15 に (目的) 助-16 が (接続)	助-17 で (手段 / 材料) 助-18 に (基準)
ご かい 語 彙		

かんまつ 巻末リスト	7. 日付と曜日 3. 動詞の活用 (1) 4. 形容詞の活用	
---------------	---------------------------------------	--

	3	4
	がい しゅつ 外出	せい かつ 生活
	文-06 Aいです / ANです 文-07 Aい / ANなN 文-08 Nをください 文-09 Nがほしいです	文-10 あまり...否定
	Aいです / Aくないです (文-06) ANです / ANではありません (文-06)	
	助-08 を (対象) 助-09 で (基準 / 範囲) 助-10 よ / ね	助-11 で (場所) 助-12 から / まで 助-13 や (並列)
	語-05 数 語-06 助数詞	語-07 時間 語-08 ぐらい / ごろ
	4. 形容詞の活用 5. 助数詞	6. 時の長さの数え方 7. 日付と曜日 8. 家族名称

	7	8
	りょ こう 旅行	こうこうせい 高校生
	文-20 Vたことがあります 文-21 VたりVたりします 文-22 疑問詞 + か...肯定 文-23 疑問詞 + も...否定	文-24 Vています 文-25 Vこと
	活-02 Vた形	活-03 V辞書形
	助-19 を (起点) 助-20 を (経路) 助-21 に (帰着点)	助-22 が (主語) 助-23 は 助-24 だけ 助-25 から (理由)

ブロック	9	10
話題	健康	友だち
ぶん文 けい型	文-26 Vこと / Nができます 文-27 NがA / ANです 文-28 NがA / AN + N 文-29 Vないでください	文-30 Aくて / ANで / Nで 文-31 VてV 文-32 Vないで 文-33 Vてから 文-34 Vたいです
かつようけい活用形	活-04 Vない形	Aくて / ANで (文-30)
じょ助 し詞		助-26 に (対象)
ご語 い彙		
かんまつ 巻末リスト		

## 先生へ

がついている項目は、『日本語能力試験出題基準』3級の項目。  
こうもく がついている項目は、『にほんごのうりよくしけんしゅつだい きじゅん』3級の項目。  
こうもくばんごう 項目番号のない活用形は、かつようけい 独立した項目としては扱っていない。その活用形が扱われている  
こうもくばんごう 項目番号を ( ) の中に示す。

	11	12
	むかし いま 昔と今	にほん 日本
	文-35 まえに 文-36 あとで 文-37 V + N 文-38 とおもいます 文-39 Aく / ANに / Nになります	文-40 とき 文-41 Vてあります 文-42 でしょう 文-43 しか... <small>ひてい</small> 否定 文-44 Vながら
	活-05 <small>じょうたいけい</small> 常体形	
		助-27 <small>げんいん りゆう</small> で(原因/理由)
		ぎもんし 9. 疑問詞のまとめ じょし 10. 助詞のまとめ

せつめい編<sup>へん</sup>2

ブロック	13	14
わ だい 話 題	ホームステイ	がっこうせいかつ 学校生活
ぶん けい 文 型	文 -45 んです 文 -46 Vたほうがいいです 文 -47 Vてはいけません 文 -48 Vてみます 文 -49 Vかた 文 -50 あげます 文 -51 もらいます	文 -52 V(られ)ます (可能) 文 -53 Vなければなりません 文 -54 Vなくてもいいです 文 -55 Vてしまいます 文 -56 A / AN / Vすぎます
かつ よう けい 活 用 形		活 -06 可能形
じょ し 助 詞		助 -28 までに
ご い 語 彙		

ブロック	17	18
わ だい 話 題	わたしの将来 <sup>しょうらい</sup>	がっこうぎょうじ 学校行事
ぶん けい 文 型	文 -67 V(よ)うとおもいます 文 -68 かもしれませぬ 文 -69 の (名詞化) <sup>めいし か</sup> 文 -70 ために	文 -71 そうです (様態) <sup>ようたい</sup> 文 -72 Vておきます 文 -73 Vこと / Nになります 文 -74 Vこと / Nにします
かつ よう けい 活 用 形	活 -07 意向形 <sup>いこうけい</sup>	
じょ し 助 詞		助 -31 と (条件) <sup>じょうけん</sup>
ご い 語 彙		

15		16	
	わたしの町 <sup>まち</sup>		歴史と観光 <sup>れきし かんこう</sup>
文-57	たら	文-63	NはNより
文-58	ても	文-64	かどうか / 疑問詞...か <sup>ぎもんし</sup>
文-59	Aく / ANに / Nにします	文-65	NというN
文-60	Vようにします	文-66	疑問詞+でも...肯定 <sup>ぎもんし こうてい</sup>
文-61	より...ほう		
文-62	NとNとどちら		
		助-29	ので
		助-30	と(引用) <sup>いんよう</sup>
		語-09	こそあど

19		20	
	コミュニケーション		現在と未来 <sup>げんざい みらい</sup>
文-75	V(ら)れます(受身) <sup>うけみ</sup>	文-79	Vようになります
文-76	Vてもらいます	文-80	みたいです / ようです
文-77	Vてくれます	文-81	Vてきます / Vていきます
文-78	そうです(伝聞) <sup>でんぶん</sup>	文-82	Vやすいです
		文-83	Vにくいです
	活-08 受身形 <sup>うけみけい</sup>		
	助-32 のに		

# 15. 「れんしゅう編」との対応表

## せつめい編 1

ごうもくばんごう 項目番号	ごうもくめい 項目名	「れんしゅう編 1」の練習番号							ページ
文 - 01	N です	1-4	1-5	1-6					2
文 - 02	N が好きです	1-3	1-5	1-6					4
文 - 03	V ます	2-2	2-4	2-7	2-8	2-9	2-10	2-11	14
文 - 04	N は N にあります / います	2-7	2-8	2-10					16
文 - 05	N に N があります / います	2-2	2-4	2-9					18
文 - 06	A いです / AN です	3-5	3-7	3-8					30
文 - 07	A い / AN な N	3-5	3-6	3-9					32
文 - 08	N をください	3-2	3-4						34
文 - 09	N がほしいです	3-9							36
文 - 10	あまり...否定	4-4	4-9						48
文 - 11	V ました	5-2	5-4	5-5	5-6				60
文 - 12	A かったです / AN でした	5-3	5-4	5-5	5-6				62
文 - 13	N でした	5-4	5-6						64
文 - 14	V ましょう	5-7	5-8						65
文 - 15	V ませんか	5-7	5-8	5-9					66
文 - 16	V てください	6-2	6-3	6-4	9-2	9-5			74
文 - 17	V てもいいです	6-5							76
文 - 18	A く / AN に V ます	6-2	6-4						78
文 - 19	もう / まだ	6-2							80
文 - 20	V たことがあります	7-2	7-4						88
文 - 21	V たり V たりします	7-3	7-4						90
文 - 22	疑問詞 + か...肯定	7-3							92
文 - 23	疑問詞 + も...否定	7-3							93
文 - 24	V ています	8-4	8-5						100
文 - 25	V こと	8-2	8-3						102
文 - 26	V こと / N ができます	9-6	9-7						112
文 - 27	N が A い / AN です	9-4	9-5	10-2					114
文 - 28	N が A / AN + N	9-7	10-2						116
文 - 29	V ないてください	9-2	9-5						117
文 - 30	A くて / AN で / N で	10-1	10-2	10-5					120

こうもくばんごう 項目番号	こうもくめい 項目名	へん れんしゅうばんごう 「れんしゅう編1」の練習番号							ページ
文 - 31	VてV	10-4	10-7						122
文 - 32	Vないで	10-7							124
文 - 33	Vてから	10-3	10-4	10-5	10-6				126
文 - 34	Vたいです	10-5	10-8						128
文 - 35	まえに	11-1							132
文 - 36	あとで	11-1							134
文 - 37	V + N	11-2	11-3						136
文 - 38	とおもいます	11-4	11-5	11-6					138
文 - 39	Aく/ANに/Nになります	11-5	11-7						140
文 - 40	とき	12-2	12-3	12-4	12-6	12-9			142
文 - 41	Vてあります	12-8							144
文 - 42	でしょう	12-1							146
文 - 43	しか...否定	12-10							148
文 - 44	Vながら	12-7	12-9						150
活 - 01	Vて形	6-1	6-2	6-3	6-4	6-5			82
活 - 02	Vた形	7-1	7-2	7-3	7-4				94
活 - 03	V辞書形	8-1	8-2	8-3					103
活 - 04	Vない形	9-1	9-5						118
活 - 05	常体形	11-4	11-5	11-6					141
助 - 01	と(並列)	1-3	1-5	1-6					5
助 - 02	に(時)	1-7							6
助 - 03	も	1-6							8
助 - 04	か(疑問)	1-4	1-5	1-7					10
助 - 05	の	2-4	2-6	2-7	2-8	2-9	2-10		20
助 - 06	へ	2-11							22
助 - 07	に(場所)	2-4	2-7	2-8	2-9	2-10	4-5		23
助 - 08	を(対象)	3-2	3-3	3-4					38
助 - 09	で(基準/範囲)	3-4							40
助 - 10	よ/ね	3-3	3-4	3-8	5-4				42
助 - 11	で(場所)	4-5	4-6	4-7	4-9	7-5			50

こうもくばんごう 項目番号	こうもくめい 項目名	へん れんしゅうばんごう 「れんしゅう編 1」の練習番号							ページ
助 - 12	から / まで	4-7	7-5	7-6	7-8				52
助 - 13	や (並列)	4-6							54
助 - 14	と (相手)	5-5	5-6	5-7	5-9				68
助 - 15	に (目的)	5-5	5-6	5-7	5-8	5-9			70
助 - 16	が (接続)	5-6	8-6	11-3					72
助 - 17	で (手段 / 材料)	6-2	6-3	6-4	7-5	7-6	7-8	9-8	84
助 - 18	に (基準)	6-7							86
助 - 19	を (起点)	7-5	7-6						96
助 - 20	を (経路)	7-5	7-6	7-7	7-8				97
助 - 21	に (帰着点)	7-2	7-5	7-6	7-8				98
助 - 22	が (主語)	8-5	8-6	8-7					104
助 - 23	は	8-5	8-7						106
助 - 24	だけ	8-5							108
助 - 25	から (理由)	8-5							110
助 - 26	に (対象)	10-5							130
助 - 27	で (原因 / 理由)	12-6							152
語 - 01	時刻	1-2	1-4	1-7					12
語 - 02	これ / それ / あれ	2-5							24
語 - 03	この / その / あの	2-6							26
語 - 04	ここ / そこ / あそこ	2-10							28
語 - 05	数	3-1	3-2	3-3	3-4				44
語 - 06	助数詞	3-2	3-3	3-4					46
語 - 07	時間	4-3	4-6	4-7					56
語 - 08	ぐらい / ごろ	4-2	4-3	4-6	4-7				58

## 先生へ

あおじ しめ れんしゅう こうもく しょうてん あ れんしゅう  
青字で示した練習はその項目に焦点を当てた練習。

(「れんしゅう編」では、あおじ れんしゅう へん こうもく  
青字の練習の「せつめい編」項目に がついている。)

## せつめい編<sup>へん</sup>2

こうもくばんごう 項目番号	こうもくめい 項目名	へん れんしゅうばんごう 「れんしゅう編2」の練習番号							ページ
文-45	んです	13-1	16-4	16-7					154
文-46	V たほうがいいです	13-1	13-6						156
文-47	V てはいけません	13-2	13-6	14-5					158
文-48	V てみます	13-1	13-6	13-7					160
文-49	V かた	13-6	13-7	16-3	16-7				162
文-50	あげます	13-3	13-5	16-5					164
文-51	もらいます	13-3	13-4	13-5	16-5				166
文-52	V (られ) ます (可能)	14-2	14-3	14-5	14-8	15-3			168
文-53	V なければなりません	14-4	14-5	14-6	18-6				170
文-54	V なくてもいいです	14-4							172
文-55	V てしまいます	14-7	14-8	16-4					174
文-56	A / AN / V すぎます	14-8							176
文-57	たら	15-1	15-2	15-3	15-4	15-5			182
文-58	ても	15-3							186
文-59	A く / AN に / N にします	15-4	15-5						188
文-60	V ようにします	15-4							190
文-61	より...ほう	15-6	15-7	15-8					192
文-62	N と N とどちら	15-6	15-8						194
文-63	N は N より	16-1	16-7						198
文-64	かどうか / 疑問詞...か	16-2	16-4	17-2					200
文-65	N という N	16-3	16-5	16-6	16-7				202
文-66	疑問詞 + でも...肯定	16-6							204
文-67	V (よ) うとおもいます	17-2	17-3	17-4	17-5	17-6	17-7		212
文-68	かもしれません	17-4							214
文-69	の (名詞化)	17-5	17-7						216
文-70	ために	17-3	17-5	17-7					218
文-71	そうです (様態)	18-4	18-6	18-7					222
文-72	V ておきます	18-2	18-7						224
文-73	V こと / N になります	18-3	18-7	18-8					226
文-74	V こと / N にします	18-3	18-5	18-6	18-7				228
文-75	V (ら) れます (受身)	19-3	19-6	19-7	20-6				232

ごうもくばんごう 項目番号	ごうもくめい 項目名	へん れんしゅうばんごう 「れんしゅう編2」の練習番号							ページ
文-76	Vてもらいます	19-6	19-7						234
文-77	Vてくれます	19-5	19-6	19-7					236
文-78	そうです(伝聞)	19-1	19-2	19-3					238
文-79	Vようになります	20-1	20-6	20-7	20-8	20-9			244
文-80	みたいです/ようです	20-2	20-3	20-6	20-7	20-9			246
文-81	Vできます/Vていきます	20-5	20-7						250
文-82	Vやすいです	20-4	20-6	20-7	20-9				252
文-83	Vにくいです	20-4	20-6						254
活-06	可能形	14-1	14-2	14-3					178
活-07	意向形	17-1	17-2	17-3	17-4	17-5	17-6	17-7	220
活-08	受身形	19-3	19-6	19-7	20-6				240
助-28	までに	14-5	14-6						180
助-29	ので	16-5	16-6						206
助-30	と(引用)	16-4	16-5	19-6					208
助-31	と(条件)	18-1	18-6	18-8					230
助-32	のに	19-4	19-7						242
語-09	こそあど	16-5							210

## 先生へ

あおじ しめ れんしゅう ごうもく しょうてん あ れんしゅう  
青字で示した練習はその項目に焦点を当てた練習。

あおじ れんしゅう へん ごうもく へん  
(青字の練習の「せつめい編」項目には、「れんしゅう編」で がついている。)

## 16. 参考文献

### せつめい編<sup>へん</sup>1

- 芦川明子、伊藤郁子、岡崎英子 (1997) 『すぐに使える実践日本語シリーズ11 名詞(初・中級)』  
専門教育出版
- 市川保子 (1996) 『日本語誤用例文小辞典』 凡人社
- 小山恵美子、吉田則子、渡辺撰 (1993) 『すぐに使える実践日本語シリーズ3 副詞(初・中級)』  
専門教育出版
- グループ・ジャマシイ (編著) (1998) 『日本語文型辞典』 くろしお出版
- 国際交流基金 (1978) 『教師用日本語教育ハンドブック③ 文法 I 助詞の諸問題1』 凡人社  
—— (1978) 『教師用日本語教育ハンドブック④ 文法 II 助動詞を中心にして』 凡人社  
—— (1981) 『教師用日本語教育ハンドブック⑤ 語彙』 凡人社  
—— (1986) 『基礎日本語学習辞典』 凡人社
- 国際交流基金、財団法人日本国際教育協会 (1994) 『日本語能力試験出題基準』 凡人社
- 名柄 迪 (監) (1987) 『外国人のための日本語 例文・問題シリーズ1 副詞』 荒竹出版  
—— (1987) 『外国人のための日本語 例文・問題シリーズ2 形式名詞』 荒竹出版  
—— (1987) 『外国人のための日本語 例文・問題シリーズ3 動詞』 荒竹出版  
—— (1987) 『外国人のための日本語 例文・問題シリーズ4 複合動詞』 荒竹出版  
—— (1987) 『外国人のための日本語 例文・問題シリーズ5 形容詞』 荒竹出版  
—— (1988) 『外国人のための日本語 例文・問題シリーズ6 接続の表現』 荒竹出版  
—— (1988) 『外国人のための日本語 例文・問題シリーズ7 助詞』 荒竹出版  
—— (1988) 『外国人のための日本語 例文・問題シリーズ8 助動詞』 荒竹出版  
—— (1987) 『外国人のための日本語 例文・問題シリーズ17 修飾』 荒竹出版  
—— (1994) 『トレーニングマニュアル2 日本語文法整理読本』 バベル・プレス
- 深谷久美子、野間多摩江、小林公巳子 (1993) 『すぐに使える実践日本語シリーズ5 動詞(初・中級)』  
専門教育出版
- 三吉礼子、吉木徹、米澤文彦 (1997) 『すぐに使える実践日本語シリーズ9 助詞(初・中級)』 専門教育出版
- Makino, Seiichi; Tsutsui, Michio (1986) 『A DICTIONARY OF BASIC JAPANESE GRAMMAR  
(日本語基本文法辞典)』 The Japan Times

### せつめい編<sup>へん</sup>2

- 井口厚夫、井口裕子 (1994) 『日本語教師トレーニングマニュアル2 日本語文法整理読本 解説と演習』  
バベル・プレス
- 市川保子 (1997) 『日本語誤用例文小辞典』 凡人社
- グループ・ジャマシイ (編著) (1998) 『日本語文型辞典』 くろしお出版
- 国際交流基金日本語国際センター (1993) 『日本語教授法実践の手引き』
- 国際交流基金、(財)日本国際教育協会 (1994) 『日本語能力試験出題基準』 凡人社
- 東京 YMCA 日本語学校編 (1992) 『入門 日本語教授法』 創拓社
- 富田隆行 (1995) 『基礎表現50とその教え方』 凡人社  
—— (1997) 『続・基礎表現50とその教え方』 凡人社
- 友松悦子、宮本淳、和栗雅子 (2000) 『どんなときどう使う日本語表現文型200 初・中級』 アルク
- 名柄迪 (監) 加藤泰彦、福地務 (1989) 『外国人のための日本語例文・問題シリーズ15  
テンス・アスペクト・ムード』 荒竹出版
- 広瀬万里子、大森瑳子、岩崎理都子 (1996) 『日本語のぶんぼう』 凡人社
- 松岡弘 (監) 庵功雄、高梨信乃、中西久実子、山田敏弘 (2000)  
『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』 スリーエーネットワーク
- Makino, Seiichi; Tsutsui, Michio (1986) 『A DICTIONARY OF BASIC JAPANESE GRAMMAR  
(日本語基本文法辞典)』 The Japan Times

監修者 佐久間勝彦 聖心女子大学教授  
執筆者 せつめい編 1  
木山登茂子 国際交流基金日本語国際センター専任講師  
坪山由美子 国際交流基金日本語国際センター専任講師  
八田直美 国際交流基金日本語国際センター専任講師  
向井園子 国際交流基金日本語国際センター専任講師

せつめい編 2

坪山由美子 国際交流基金日本語国際センター専任講師  
古川嘉子 国際交流基金日本語国際センター専任講師  
向井園子 国際交流基金日本語国際センター専任講師  
小松知子 国際交流基金派遣専門家

イラスト制作者 四釜陽子

**教科書を作ろう（改訂版） せつめい編**

2002年3月20日発行

教科書を作ろう せつめい編

1999年3月12日初版第1刷発行

2001年6月10日初版第3刷発行

続 教科書を作ろう せつめい編

2001年5月30日発行

---

企画・編集・発行：国際交流基金日本語国際センター

〒336-0002 埼玉県さいたま市北浦和5丁目6番36号

電話 048-834-1183

FAX 048-831-7846

印刷：アサヒ印刷株式会社

---

©2002 The Japan Foundation Printed in Japan

ISBN 4-87540-047-0